

# 里前遺跡（第2次）発掘調査報告

～ 三重県津市野田所在 ～

2005（平成17）年3月

三重県埋蔵文化財センター



SZ55出土绘画土器



SE68出土漆碗



墨書土器

# 序

三重県の県都、津市は西に布引山系、東に伊勢湾を臨み、安濃川・岩田川をはじめとする河川がつくりあげた豊かな場所にあります。古くは安濃津という東日本にひらく良港としての悠久の歴史をもっています。

現在の私たちの生活は、これら先人たちの苦労や工夫の上に成り立っています。今では人知れず大地の下に埋もれている埋蔵文化財は、人々がその時代を生き証であり、その一つ一つが私たちに地域の歴史像を伝えてくれる貴重な文化遺産であります。

さて、里前遺跡では、中勢道路建設事業に伴ない発掘調査が行われ、鎌倉時代の多数の墨書土器が出土した著名な遺跡です。今回報告いたします第2次調査では古くは弥生時代からこの地で人々の生活が行われていたことや、鎌倉時代や室町時代の集落の跡がみつき多数の遺物が出土しました。これまでの発掘調査により得られた情報をつなぎ合わせることによって、かつてこの地にあった集落の様子が克明にわかってまいりました。この報告書が後世に地域の歴史を伝えるとともに、地域の文化的環境育成のため、より多くの方面で活用されることを切望いたします。

最後になりますが、この発掘調査や報告書作成に多大なご尽力をたまわりました地元の方々をはじめとする関係各位の皆様には厚くお礼を申し上げます。

平成17年3月

三重県埋蔵文化財センター

所 長 吉 水 康 夫



# 例 言

- 1 本書は、三重県津市野田字里前に所在する里前（さとまえ）遺跡の第2次発掘調査報告書である。
- 2 調査は下記の体制で実施した。  
調査主体 三重県教育委員会  
調査担当 三重県埋蔵文化財センター  
調査第一課 技 師 水谷豊（A・B・C地区）  
主 事 宮田勝功（D地区）  
研修員 萩良樹 川合圭子 清水実華  
発掘作業委託 （財）三重県農業開発公社
- 3 本書の編集は竹田憲治が、執筆は水谷豊と酒井巳紀子が、遺物の写真撮影は田中久生が担当した。  
なお、文責は目次と文末にも表記した。
- 4 本書が対象とした調査面積は1,300㎡（内下層140㎡）である。
- 5 本書が対象とした現地調査期間は、平成12年6月12日から平成12年12月28日である。
- 6 本書に用いた地図・遺構図の方位は、国土調査法第VI系座標の座標北を用いた。磁北は6度40分西偏している（平成7年、国土地理院）。
- 7 本書では、下記の遺構表示略記号を用いた。  
SD：溝・流路 SE：井戸 SK：土坑 SX：墓 SZ：不明遺構
- 8 本書で表記する色調は、小山・竹原編『新版標準土色帖』（9版、1989年）に準拠した。
- 9 発掘調査及び本書の作成に際しては、地元津市教育委員会のほか下記の方々にご指導・ご協力をいただいた（敬称略）。  
青木哲哉（立命館大学）、亀山隆（亀山市教育委員会）、濱辺一機（四日市市教育委員会）、藤澤良祐（愛知学院大学）、松井一明（袋井市教育委員会）
- 10 本書が扱う発掘調査の原因事業は、県営ほ場整備事業（津中部地区）である。
- 11 発掘調査の経費は三重県農林水産商工部と三重県教育委員会が負担した。
- 12 本書が扱う発掘調査の資料並びに出土遺物等は、三重県埋蔵文化財センターが保管している。

# 本文目次

I	前言	(水谷)	1
1	調査の契機		1
2	調査の経過		1
3	文化財保護法等にかかる諸通知		1
II	位置と歴史的環境	(水谷)	5
1	位置		5
2	歴史的環境		5
3	過去の調査成果		6
III	A地区の調査成果		7
1	調査区の地形と基本層序	(水谷)	7
2	検出した遺構	(水谷)	7
3	出土した遺物	(酒井)	7
IV	B地区の調査成果		16
1	調査区の地形と基本層序	(水谷)	16
2	検出した遺構	(水谷)	17
3	出土した遺物	(酒井)	20
V	C地区の調査成果		27
1	調査区の地形と基本層序	(水谷)	27
2	検出した遺構	(水谷)	27
3	出土した遺物	(酒井)	32
VI	D地区の調査成果	(酒井)	40
1	調査区の地形と基本層序		40
2	検出した遺構		40
3	出土した遺物		43
VII	範囲確認調査出土遺物	(酒井)	52
VIII	結語	(酒井)	72
1	遺構の変遷について		72
2	絵画土器について		75
3	鉄製煮沸具について		77
4	中世前期の墨書土器について		78

# 插图目次

第1图	里前遺跡調査区位置図 ・範圍確認坑配置図	2	第27图	SK111・115・91・70・109・113・72 ・106・98、SX84・73、SE71①・116 出土遺物実測図	34
第2图	遺跡位置図	5	第28图	SE71出土遺物実測図②	35
第3图	A地区遺構平面図	8	第29图	下層遺構出土遺物実測図	36
第4图	A地区土層断面図	9	第30图	Pit、包含層①出土遺物実測図	37
第5图	SE54平面図・断面図①	10	第31图	包含層出土遺物実測図②	38
第6图	SE54平面図・断面図②	11	第32图	D地区遺構平面図	39
第7图	SE54出土遺物実測図	12	第33图	D地区土層断面図	40
第8图	SD51出土遺物実測図	13	第34图	SD129平面図・断面図	41
第9图	SZ55出土遺物実測図①	14	第35图	SK128平面図・断面図	42
第10图	SZ55出土遺物実測図②	15	第36图	SX154・125・152平面図・断面図	42
第11图	SZ55③、包含層出土遺物実測図	16	第37图	SE126平面図・断面図	43
第12图	B地区遺構平面図	17	第38图	SD121出土遺物実測図①	44
第13图	B地区土層断面図	18	第39图	SD121出土遺物実測図②	45
第14图	SK65平面図・断面図	19	第40图	SD129出土遺物実測図①	46
第15图	SE68平面図・断面図	20	第41图	SD129出土遺物実測図②	47
第16图	SD62・66・57・60①出土遺物実測図	22	第42图	SK128出土遺物実測図	48
第17图	SD60出土遺物実測図②	23	第43图	SD148・136・134・137・127、 SK139・135・150、SX125・152・154、 SE126、Pit出土遺物実測図	50
第18图	SD60③、SK56・65、SE68① 出土遺物実測図	24	第44图	包含層出土遺物実測図	51
第19图	SE68出土遺物実測図②	25	第45图	範圍確認調査出土遺物実測図	52
第20图	SZ58、Pit、包含層出土遺物実測図	26	第46图	第I期遺構変遷図	73
第21图	C地区遺構平面図・土層断面図	28	第47图	第II期遺構変遷図 (範圍確認調査結果含む)	73
第22图	SK91平面図・断面図	29	第48图	第III期遺構変遷図	74
第23图	SD74・119平面図・断面図	29	第49图	第IV期遺構変遷図	74
第24图	SX73・84平面図・断面図	30	第50图	絵画土器実測図・位置図・一覧表	76
第25图	SE71・104・116平面図・断面図	31	第51图	鉄製煮沸具実測図 ・位置図・一覧表	78
第26图	SD74・107・110・88・92・95・86 ・76・78・75・114出土遺物実測図	33			

# 表目次

第1表	範圍確認調査結果一覧表①	3	第5表	出土遺物観察表①	55
第2表	範圍確認調査結果一覧表②	4	第6表	出土遺物観察表②	56
第3表	遺構一覧表①	53	第7表	出土遺物観察表③	57
第4表	遺構一覧表②	54	第8表	出土遺物観察表④	58

第9表	出土遺物觀察表⑤	59	第17表	出土遺物觀察表⑬	67
第10表	出土遺物觀察表⑥	60	第18表	出土遺物觀察表⑭	68
第11表	出土遺物觀察表⑦	61	第19表	出土遺物觀察表⑮	69
第12表	出土遺物觀察表⑧	62	第20表	出土遺物觀察表⑯	70
第13表	出土遺物觀察表⑨	63	第21表	出土木製品・石製品・鉄製品 觀察表	71
第14表	出土遺物觀察表⑩	64	第22表	里前遺跡墨書分類表	79
第15表	出土遺物觀察表⑪	65	第23表	墨書分類表	79
第16表	出土遺物觀察表⑫	66			

## 写真図版目次

卷頭	SZ55出土絵画土器・SE68出土漆椀 墨書土器		図版8	A・B地区出土遺物	92
図版1	A地区調査区全景	85	図版9	B地区出土遺物	93
	B地区調査区全景	85	図版10	B地区出土遺物	94
図版2	C地区下層調査区全景	86	図版11	B地区出土遺物	95
	SE71遺物出土状況	86	図版12	B・C地区出土遺物	96
図版3	D地区調査区全景	87	図版13	C地区出土遺物	97
	SX152遺物出土状況	87	図版14	C地区出土遺物	98
図版4	SE126遺物出土状況	88	図版15	D地区出土遺物	99
	SE126断面	88	図版16	D地区出土遺物	100
図版5	A地区出土遺物	89	図版17	D地区出土遺物	101
図版6	A地区出土遺物	90	図版18	D地区出土遺物	102
図版7	A地区出土遺物	91	図版19	D地区出土遺物	103
			図版20	D地区・範囲確認調査出土遺物	104

# I 前 言

## 1 調査の契機

平成9年度以降行われている津中部地区県営ほ場整備事業に伴い、三重県埋蔵文化財センターでは随時範囲確認調査を行い、保護協議の上、現状保存困難な場所において発掘調査を実施している。平成11年度には277,350㎡を対象に、替田遺跡・式ノ坪遺跡・惣作遺跡・里前遺跡の所在する地域において遺跡の範囲確認調査を実施した。

このうち里前遺跡では、51ヶ所の範囲確認坑のう

ち17カ所で遺構を確認した（第1図、第2表）。その結果、中世を中心とした集落の存在と、弥生時代後期～古墳時代前期の遺物が出土することから、周辺にその当時の遺構の広がる可能性も考えられた。

そこで三重県埋蔵文化財センターでは、事業者と埋蔵文化財保護のための協議を行い、平成12年度には現状保存が困難な1,300㎡について、記録保存のための発掘調査を行うことになった。

## 2 調査の経過

### (1) 調査経過概要

第2次調査は、里前遺跡の4地区（A～D地区）について行った。里前遺跡の調査は9月7日よりA地区から重機による表土掘削を行い、以下B～D地区の順に作業を行った。調査は12月28日に終了した。

詳細及び作業日誌（抄）については『惣作遺跡発掘調査報告』<sup>(1)</sup>に述べたため、それを参照されたい。

### (2) 発掘調査の方法

#### ①小地区の設定

今回の調査では、各調査区内を4m四方の柵目で切ることによって小地区を設定した。西からアルファベット、北から数字をつけ、柵目の北西隅の交点をその地区の符号とした。なお、この小地区設定は各調査区ごとに行い、国土座標軸や第1次調査とは無関係である。

#### ②掘削と遺構番号の付与

表土掘削は重機（バックホー）を用い、包含層お

よび遺構の掘削は人力で行った。

遺構番号は、溝や土坑などの遺構は全体の通し番号（第1次調査からの通し番号）を、ピットについては各グリッドごとに通し番号を付与した。なお、第1次調査からの遺構番号は第3・4表に掲載した。

#### ③記録保存の方法

**遺構図** 発掘調査では、遺構検出時に1/40にて遺構検出状況などを記録した。その後、遺構掘削後に、平面図をA地区は平板測量により1/100で、B～D地区は手描きにより1/20で平面図を作成した。また、遺物出土状況図については個別に1/10の実測図を作成した。

**遺構写真** 遺構写真はモノクロとカラーリバーサルフィルムを用い、35mm、ブローニー判を作成した。なお、遺構写真の一部は現場プレハブに保管中盗難にあったため、本書に掲載することができなかった。

## 3 文化財保護法等にかかる諸通知

文化財保護法（以下、「法」）にかかる諸通知は、「里前遺跡（第2次）他」として、以下により行っている。

- 法に基づく三重県文化財保護条例第48条第1項（県教育長あて）  
平成12年5月29日付け農基第320号

- 法58条の2第1項（県教育長あて）  
平成12年6月19日付け教理第86号
- 遺失物法による文化財発見・届出通知（津警察署長あて）
- 平成13年3月5日付け教生229-17号（県教育長通知）  
（水谷）



第1図 里前遺跡調査区位置図・範囲確認坑配置図 (1:4,000) (■は範囲確認坑)

替田遺跡範囲確認調査結果一覧表

範囲確認調査坑No.	遺物包含層上面の深さ(cm)	遺構上面の深さ(cm)	遺構	遺物	備考
1					
2					欠番
3					欠番
4					
5				土師器	
6					
7		77	ピット		
8					欠番
9				土師器	
10	55		ピット	土師器	
11	46		ピット	土師器	
12					欠番
13					

式ノ坪遺跡範囲確認調査結果一覧表

範囲確認調査坑No.	遺物包含層上面の深さ(cm)	遺構上面の深さ(cm)	遺構	遺物	備考
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					自然流路
25					
26	40	90	溝(下層)	弥生土器、土師器	
27		30	溝	土師器、須恵器	
28	30			土師器、須恵器	
29		30	溝		自然流路上
30	40			弥生土器、土師器、須恵器	
31					自然流路
32					
33					
34					
35					
36					
37					自然流路
38					
39					
40		40	流路		
41					
42					
43					
44					
45					
46~51欠番					
52					
53					
54					欠番
55					
56					欠番
57					自然流路
58		20	溝		
59					
60					
61					自然流路
62					
63					
64					
65					
66		30	溝		
67					
68		50	溝、ピット		
69		45	溝、ピット		
70					
71					欠番
72		50	溝		
73					欠番
74					
75		30	溝		
76					自然流路
77					

第1表 範囲確認調査結果一覧表①

78					
79	35	65	溝	土師器	
80					
81					
82					
83					
84					欠番
85					欠番
86					欠番

惣作遺跡範囲確認調査結果一覧表

範囲確認調査坑No.	遺物包含層上面の深さ(cm)	遺構上面の深さ(cm)	遺構	遺物	備考
87	35	45	土坑	土師器	自然流路上
88		30	溝	土師器	自然流路上
89					自然流路
90					
91					
92					
93					
94					欠番
95		30	溝	土師器	
96					
97	25	45		弥生土器	
98					欠番
99					欠番
100	30	45	土坑	土師器	
101	20	30	ピット、土坑		
102	35	50	ピット	弥生土器壺、土師器	
103					
104	20	40	ピット、溝	土師器	
105		55	溝	土師器	
106					自然流路
107					
108					自然流路
109		40	溝	須恵器、土師器	
110					
111					
112	25			須恵器壺、土師器	
113	20	40	溝	弥生土器壺	
114	20	40	ピット、溝	土師器杯	
115	20	30	ピット	土師器	
116	25	40	ピット		
117					欠番
118					欠番
119	15	45	流路	弥生土器壺	
120					
121					
122		30	ピット		
123					欠番
124		40	溝	陶器	
125					欠番
126					自然流路
127					
128		40	流路		
129					自然流路
130	25	45	溝	須恵器、土師器	
131					
132					欠番

上坪地区範囲確認調査結果一覧表

範囲確認調査坑No.	遺物包含層上面の深さ(cm)	遺構上面の深さ(cm)	遺構	遺物	備考
133					
134					
135		80	溝		
136					
137		20	溝	土師器	
138					
139					
140					
141					欠番
142					欠番
143					
144					
145					
146					
147					
148					
149				山茶椀	

150					
151					欠番
152					欠番
153					
154					欠番
155					
156					
157					欠番
158					欠番
159					
160					欠番
161					
162					
163					
164					
165					
166					欠番
167					
168					欠番
169					欠番
170					
171					
172					
173					
174					
175					
176					

浜垣内地区範囲確認調査結果一覧表

範囲確認調査坑No.	遺物包含層上面の深さ(cm)	遺構上面の深さ(cm)	遺構	遺物	備考
177				山茶碗	
178					欠番
179					
180					
181					欠番
182					
183					
184					
185					
186					欠番
187					
188					欠番
189					
190					欠番
191					欠番
192					
193					
194					欠番
195					欠番
196					欠番
197					
198					欠番
199					
200					
201					
202~212欠番					
213				陶器	
214					
215					
216					欠番
217					欠番
218					
219					
220					
221					
222					
223					
224					欠番
225					
226					欠番
227					欠番
228					
229					

替田遺跡・式ノ坪遺跡・惣作遺跡・里前遺跡のうち、表土直下で自然流路と思われる砂層を確認したものについては備考に「自然流路」とした。

里前遺跡範囲確認調査結果一覧表

範囲確認調査坑No.	遺物包含層上面の深さ(cm)	遺構上面の深さ(cm)	遺構	遺物	備考
230					自然流路
231					欠番
232					欠番
233					
234					欠番
235					欠番
236					
237					欠番
238					欠番
239					自然流路
240					自然流路
241					欠番
242					欠番
243		20	溝		
244					欠番
245					欠番
246					
247					自然流路
248					欠番
249					欠番
250					欠番
251		30	ピット		
252		30	ピット、土坑	土師器皿、山茶碗	
253	30	40	ピット		
254					
255					欠番
256		35	溝	土師器	自然流路上
257	20	50	ピット	弥生土器壺	
258	30			須恵器	
259					
260					
261		30	溝	土師器	
262		20	ピット、溝	土師器	自然流路上
263					欠番
264					
265					自然流路
266	20	50	井戸	山茶碗、土師器	
267					
268					欠番
269					欠番
270					自然流路
271					欠番
272					欠番
273	25	45	溝	山茶碗、土師器	
274					自然流路
275					自然流路
276					
277					自然流路
278					自然流路
279					欠番
280					
281					欠番
282					欠番
283					欠番
284					欠番
285					欠番
286					欠番
287	20	40	ピット、溝	山茶碗、土師器	
288					
289					
290					欠番
291					自然流路
292					欠番
293		30	溝	土師器、陶器	
294	30	60	溝	陶器	
295					自然流路
296					
297	30	50	ピット、流路	弥生土器、土師器	
298					自然流路
299					欠番
300	35	50	溝	須恵器杯、山茶碗、土師器	
301					自然流路
302	40	50	溝	陶器	
304					
305		30	ピット、土坑		

第2表 範囲確認調査結果一覧表②

## Ⅱ 位置と歴史的環境

### 1 位置

伊勢平野の西に連なる鈴鹿山脈の南部に位置する錫丈ヶ岳に源を発する安濃川は、下流域に南北約3 km程の肥沃な沖積平野を形成し、津市島崎町付近で伊勢湾に注ぐ。その支流である三泗川は、殿村で安濃川と分流し、野田で岩田川と合流する。三泗川は、近世において津城と城下町の水害を防ぐために改修

が行われたと言う伝承があり、大雨時に安濃川から岩田川へ分流する事で被害を最小限に抑えようとしたと言う。

里前遺跡①は、岩田川と三泗川の合流する地点にあり、今回の調査区は、三泗川西岸に位置する。

### 2 歴史的環境

里前遺跡の近隣の遺跡について発掘調査例を中心に弥生時代以降の遺跡について概観する。

安濃川流域の弥生時代を語る上でまずあげられるのは納所遺跡②であろう。安濃川下流域左岸の自然堤防上に所在し、前期から後期に至る遺物が出土しており、この辺りの拠点的な集落として位置付けら

れている。安濃川右岸では納所遺跡にやや遅れて半田丘陵上に上村遺跡③が出現する。上村遺跡では後期までの遺物が見られ、丘陵上の中心的な集落である。この他、殿村遺跡④や森山東遺跡⑤・松ノ木遺跡⑥などでも前期の土器が出土している。森山東遺跡では遠賀川系の土器が出土した水田跡が検出され、



第2図 遺跡位置図 (1 : 50,000) [国土地理院「津西部」「津東部」1 : 25,000より]

松ノ木遺跡では前期末に遡る可能性のある方形周溝墓が検出されている。

中期になると、安濃川流域の遺跡数は増加する。前半には、右岸では替田遺跡<sup>⑦</sup>・式ノ坪遺跡<sup>⑧</sup>、左岸には蔵田遺跡<sup>⑨</sup>等があげられる。替田遺跡・式ノ坪遺跡では竪穴住居が検出され、蔵田遺跡では掘立柱建物が検出されている。また蔵田遺跡では灌漑用の溝と井堰が確認されており、生産遺跡として注目される。替田遺跡・式ノ坪遺跡では、墓の可能性のある土坑が多数検出されており、同様のものが納所遺跡や亀井遺跡<sup>⑩</sup>でも見られる。同時期の墓制では納所遺跡や蔵田遺跡で方形周溝墓が確認されている。

これら沖積地に出現した遺跡は、中期後半になると遺構・遺物ともはっきりしなくなる。それと同時期に長岡丘陵上に200棟以上の竪穴住居が確認された長遺跡<sup>⑪</sup>や山籠遺跡<sup>⑫</sup>等が出現することは非常に興味深い。これらの遺跡は後期まで存続せずに短期間に姿を消すという特徴がある。

後期には丘陵上や裾部に遺跡が多く見られる。また、大城遺跡<sup>⑬</sup>・前田遺跡<sup>⑭</sup>、大ヶ瀬弥生墳丘墓<sup>⑮</sup>・高松弥生墳丘墓<sup>⑯</sup>・鎌切遺跡<sup>⑰</sup>など丘陵上に集団墓から脱却した墓が築かれるようになり、古墳時代に入ると安濃川流域では最古と考えられる坂本山古墳群<sup>⑰</sup>が出現する。低地部では弥生時代末～古墳時代初頭の方形周溝墓が位田遺跡<sup>⑱</sup>で見ついている。

5世紀になると首長墓と考えられる安濃川中流域には明合古墳、下流域には伊勢湾を見下ろすように全長85mの池ヶ谷古墳が築かれる。後期には殿村1号墳<sup>⑲</sup>・おこし古墳<sup>⑳</sup>・鎌切3号墳<sup>㉑</sup>・御屋敷跡13号墳<sup>㉒</sup>のような全長30m程度の前方後円墳が分散して見られる。また長谷山東麓には総数500基を超え

る長谷山古墳群があり、その一支群である平田古墳群<sup>㉓</sup>が調査されている。替田遺跡では石劔が出土しており、注目される。

奈良・平安時代には、安濃川流域は安濃郡に含まれる。官道は、東海道が鈴鹿関で分岐し、伊勢・志摩国府を指向する伊勢道が通過していることが文献から確認できるが、そのルートや安濃郡に設置された「市村駅」については確認されていないものの、津市殿村・野田付近が有力な説としてあげられている<sup>㉔</sup>。当時の遺跡としては、安濃町浄土寺南遺跡<sup>㉕</sup>や浄土寺米買遺跡<sup>㉖</sup>で奈良・平安時代の竪穴住居・掘立柱建物・井戸などの遺構や円面硯・緑釉陶器などが出土し、拠点的な集落と考えられている。替田遺跡や里前遺跡では石帯が出土し、官人層の存在が指摘されている。

安濃川流域は近年まで条里制の方画地割が良好に残っていた地域で、N30° Eの条里プランの復元が提示され<sup>㉗</sup>、発掘調査でもその方向に沿った遺構が確認されている。式ノ坪遺跡では平安時代前期と考えられる掘立柱建物が条里方向に沿って整然と並んで見つかっていることから、公的な施設の可能性が考えられている。神戸遺跡<sup>㉘</sup>では平安時代中期の掘立柱建物が検出されているが、古墳時代以前からの地形に沿ったものと条里地割に沿ったものが確認され、過渡期と考えられる<sup>㉙</sup>。安濃川左岸の位田遺跡では平安時代中期～後期の屋敷地や道路遺構が確認され、緑釉陶器や基石などが出土し、公的な性格を有した在地富豪層の居館と考えられている。

平安時代末～鎌倉時代にかけて替田遺跡や蔵田遺跡など安濃川沿いでも遺構は検出されるが、やがて姿を消し、耕地化していったものと考えられる。

### 3 過去の調査成果

里前遺跡<sup>①</sup>では、平成10年に一般国道23号中勢道路建設事業に伴って発掘調査が行われている<sup>㉚</sup>。発掘調査では、鎌倉時代から江戸時代の井戸・溝・土坑・柱穴が多数見つかり、多量の陶器や様々な種類の字や記号等を書いた墨書土器（山皿、山茶椀）が多量に出土している。

遺跡の性格は、墨書土器の分析から、年貢に関わる作業が行われていた事、多量の陶器から物資集配作業に関わる作業が行われていたと報告されている。

また、当時津の海岸線沿いに栄えた安濃津との関連が注目されている。（水谷）

### Ⅲ A地区の調査成果

#### 1 調査区の地形と基本層序

調査区は調査前の標高約6.0mで、現況は水田である。浜垣内集落が西接する。基本層序は耕作土直下で、第4図C-D土層断面図の大半が、流路(SD51)の埋土である灰白～褐色の粗砂であり、弥生時代末～古墳時代前期及び中世前期～近世までの遺物が出土している。SD51上には明確な遺構は検出されず、検出した遺構は近世以降までで存続していたものと考えられる。

調査区北半部東側(第4図E-F土層断面図)では、粗砂の堆積が見られず、第39層黒色粘土・第47層黄灰色粘土が見られ、これが基盤層である。この

基盤層は調査区東側に広がっており、範囲確認調査の際に井戸(266)、溝、ピットなどを確認しているため、中世前期の集落がA地区東側で営まれていたと思われる。

今回の調査区で確認した弥生時代末～古墳時代前期の遺構については、範囲確認調査の際にも確認できていない。浜垣内集落北側に当たる範囲確認坑213～216や219～222において地表面から約2.0m掘削を行ったが、遺構・遺物とも確認できなかった。おそらく、浜垣内集落の下に当時の集落が展開しているものと思われる。(水谷)

#### 2 検出した遺構

**SE54**(第5～6図) 調査区の北東で確認した遺構である。径約3.2mの円形を呈し、残存する深さは約2.2mで、第29層浅黄橙色粘質シルト上に作られている。検出面から1.4m(標高約4.2m)で板材が確認でき、上から結桶+曲物+結桶で作られている。上段の結桶はすでに崩壊していたが、内側に薄い板材や楔が見つかったことから結桶と判断した。それぞれの間には石が置かれ、下段の結桶の底には拳大の石が入られていた。浄水を得るためのものと思われる。下段の結桶は10枚の板材で作られている。出土遺物は少ないが、埋土中の最新の遺物は藤澤氏の編年<sup>⑧</sup>第7型式の山茶碗である。

**SD51** 調査区のほぼ全体を流れる流路である。長さ34m以上、幅3m以上で、残存する深さは約23～50cmである。時期的には弥生時代末～古墳時代前期及び中世前期～近世までの遺物が散在しており、周辺にその時代の遺構が存在するものと思われる。堆積も一様ではないことから、数度の洪水によって形成された流路と考えられる。埋土中の最新の遺物

は、藤澤氏の編年<sup>⑧</sup>登窯第4小期の天目茶碗である。  
**SZ55** 調査区の南端で検出した遺構である。当初一部が調査区外であったため若干の拡張を行った。幅3.2m以上×2.8m以上で、残存する深さは約40～70cmで、断面形は上部がU字形状を呈し、最下層で箱状になる。断面から掘り直しが確認できる。調査区に直行するため一部しか確認できておらず、一応性格不明の遺構とした。第4図A-B土層断面図の第9～12層黒色粘質土から弥生時代末～古墳時代前期の遺物(絵画土器、S字状口縁台付甕、高杯等)が多量に出土している。環濠的となる可能性が考えられるが、調査区幅でしか確認されておらず、断定はできない。また、調査区南端以南ですでに排水溝の埋設が終了していたが、南側において溝状の落ち込みとそれに伴うSZ55とほぼ同時期の土器を確認しており、2重の環濠であった可能性も考えられる。

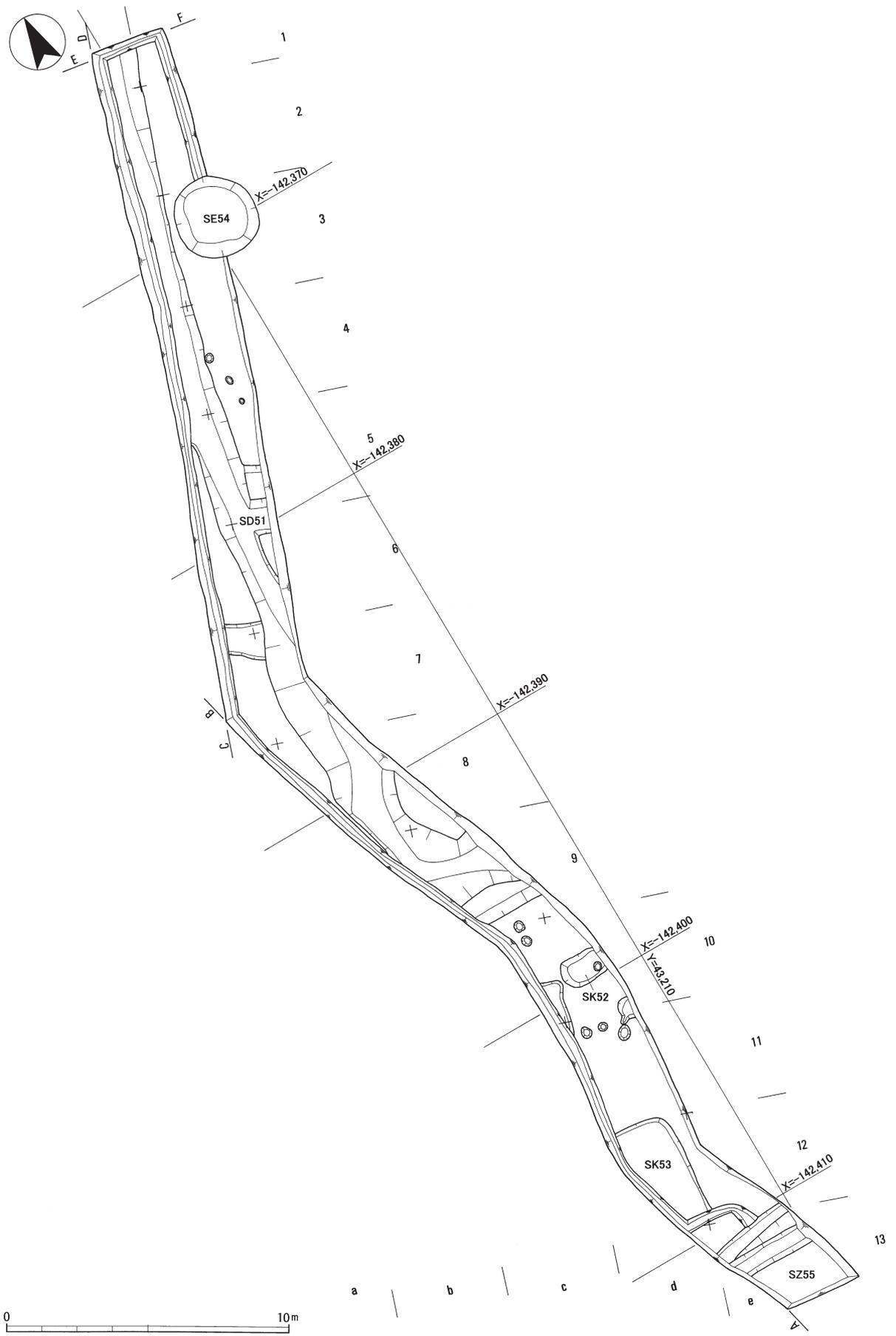
埋土中の最新の遺物は、川崎氏の編年<sup>⑧</sup>島抜Ⅲ期新相の高杯である。(水谷)

#### 3 出土した遺物

##### SE54出土遺物(第7図)

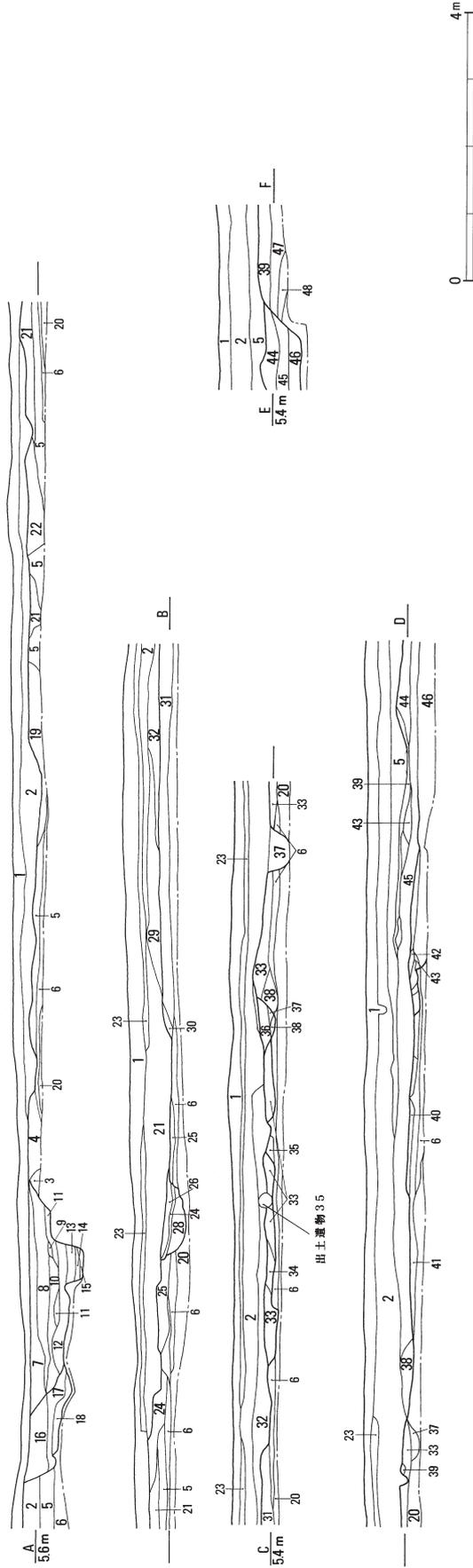
出土遺物は中世前期～後期のものがある。

1は南伊勢系の土師器皿で川崎氏の分類<sup>⑧</sup>皿a、2は山茶碗で、藤澤編年の第7型式である。底部外面

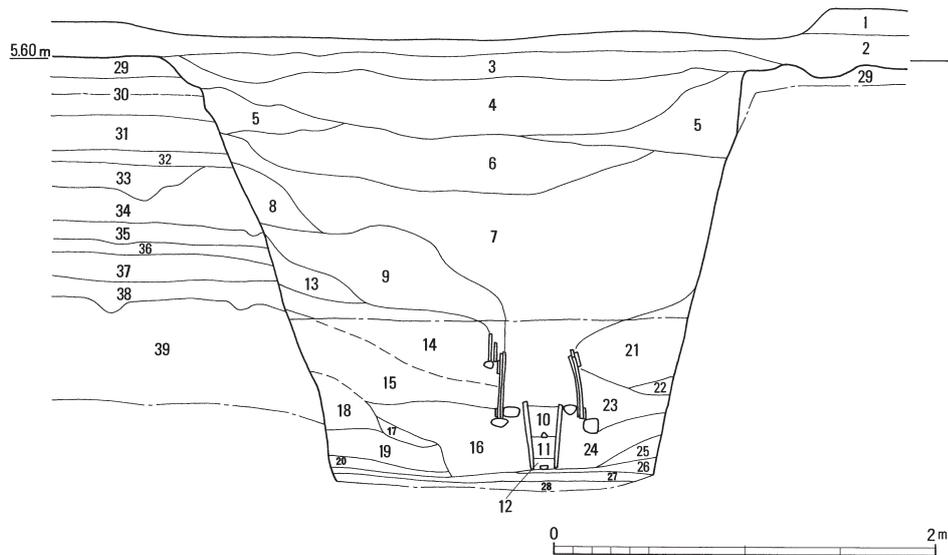
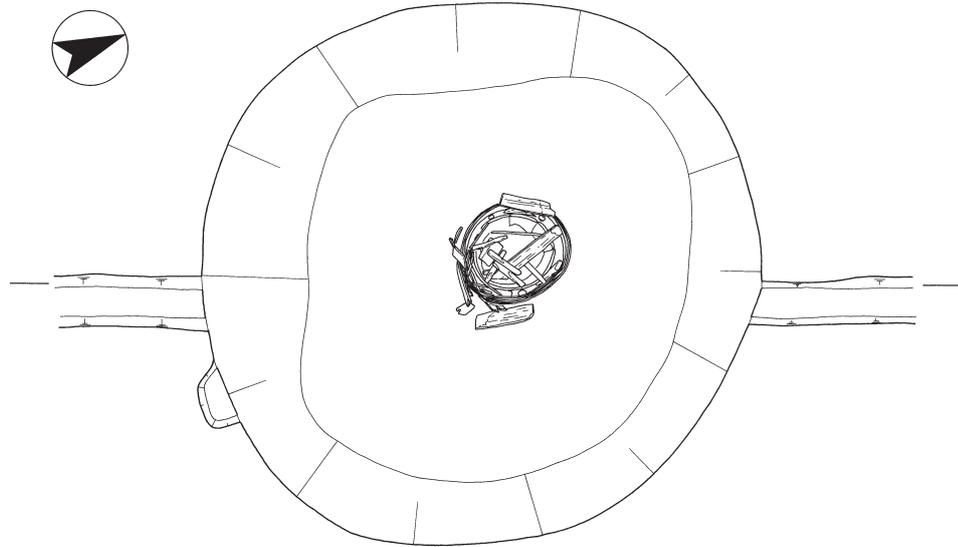


第3図 A地区遺構平面図 (1 : 200)

第4図 A地区土層断面図 (1:100)

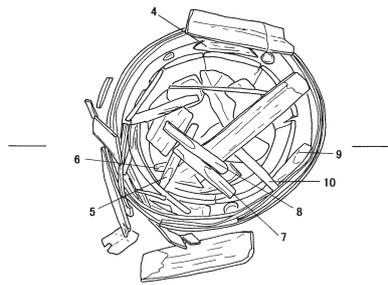


- |    |                                            |    |                                                   |    |                        |
|----|--------------------------------------------|----|---------------------------------------------------|----|------------------------|
| 1  | 表土                                         | 17 | 10YR3/1 黒褐色粗砂混砂+2.5Y5/2 暗灰黄色シルト <sup>ア</sup> ノック合 | 33 | 2.5Y5/2 暗灰黄色粗砂混砂       |
| 2  | 10YR3/2 黒褐色粘土                              | 18 | 10YR3/1 黒褐色粗砂混砂+10YR3/1 黒褐色シルト <sup>ア</sup> ノック合  | 34 | 2.5Y4/1 黄灰色シルト 粗砂多含    |
| 3  | 2.5Y4/3 赤 <sup>ア</sup> 褐色粗砂                | 19 | 2.5Y5/2 暗灰黄色砂 粗砂混                                 | 35 | 粗砂                     |
| 4  | 2.5Y5/2 暗灰黄色粗砂                             | 20 | 2.5Y2/1 黒色粘土                                      | 36 | 2.5Y4/1 黄灰色粗砂とシルトの互層   |
| 5  | 10YR4/1 褐灰色シルト                             | 21 | 2.5Y4/2 暗灰黄色粗砂混シルト                                | 37 | 2.5Y4/2 暗灰黄色砂混シルト      |
| 6  | 2.5Y5/2 暗灰黄色細砂                             | 22 | 10YR4/2 灰黄褐色砂質土                                   | 38 | 黒色粗砂混粘土                |
| 7  | 10YR2/1 黒色砂質シルト                            | 23 | 床土                                                | 39 | 黒色粘土                   |
| 8  | 10YR3/1 黒褐色シルト混砂                           | 24 | 10YR7/2 にぶい黄褐色粗砂                                  | 40 | 灰色粗砂混シルト               |
| 9  | 10YR2/1 黒色粘土                               | 25 | 2.5Y4/1 褐灰色シルト質砂                                  | 41 | 粗砂                     |
| 10 | 10YR2/1 黒色砂混シルト                            | 26 | 2.5Y5/2 灰黄褐色粗砂                                    | 42 | 白色粗砂                   |
| 11 | 10YR3/2 黒褐色粗砂                              | 27 | 2.5Y4/1 褐灰色粗砂混シルト                                 | 43 | 黄褐色粗砂                  |
| 12 | 10YR2/1 黒色粗砂混砂 黒色粘土〜シルト <sup>ア</sup> ノック多含 | 28 | 2.5Y5/2 暗灰黄色細砂と粗砂の互層                              | 44 | 2.5Y4/1 黄灰色砂混シルト       |
| 13 | 10と15の互層(粗砂〜砂)                             | 29 | 2.5Y5/2 暗灰黄色砂                                     | 45 | 5Y4/1 灰色シルト            |
| 14 | 10と15の互層                                   | 30 | 2.5Y4/2 暗灰黄色砂 黒色粘土 <sup>ア</sup> ノック合              | 46 | 5Y4/1 灰色シルト 粗砂がレンズ状に入る |
| 15 | 小礫混粗砂                                      | 31 | 2.5Y7/2 灰黄色粗砂礫混(部分的に鉄分層・マンガン層との互層)                | 47 | 黄灰色粘土                  |
| 16 | 10YR3/2 黒褐色粗砂混砂                            | 32 | 2.5Y4/1 黄灰色粗砂混砂質土                                 | 48 | 黒色砂                    |

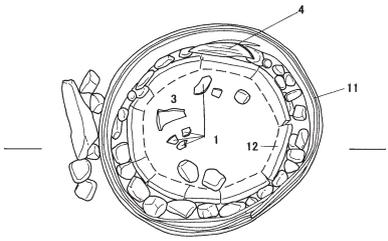


- |                                                                                          |                                 |                                   |
|------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|-----------------------------------|
| 1 表土 5Y5/3 灰利-ブ <sup>レ</sup> 色砂質土                                                        | 10 10YR6/2 灰黄褐色粗砂+10YR7/1 灰白色粘土 | 25 10Y8/1 灰白色細砂                   |
| 2 5Y6/3 利-ブ <sup>レ</sup> 黄色粗砂                                                            | 11 5Y8/4 淡黄色粗砂(礫含む 2.0~5.0mm)   | 26 10Y8/1 灰白色細砂                   |
| 3 7.5YR6/4 にぶい橙色粗砂<br>+7.5YR8/4 浅黄橙色粘土 <sup>フ</sup> ロツク                                  | 12 N 4 / 灰色細砂+礫敷                | 27 10Y8/1 灰白色細砂                   |
| 4 7.5YR5/2 灰褐色粗砂<br>+7.5YR8/4 浅黄橙色粘土 <sup>フ</sup> ロツク状<br>+2.5Y2/1 黒色粘土 <sup>フ</sup> ロツク | 13 10YR6/2 灰黄褐色粗砂               | 28 7.5Y6/1 灰色粗砂                   |
| 5 7.5YR5/2 4に黒色粘土が多く混じる                                                                  | 14 N 5 / 灰色粘土                   | 29 10YR8/4 浅黄橙色粘質シルト              |
| 6 5YR5/2 灰褐色粗砂<br>+10YR7/3 にぶい黄橙色粘土 <sup>フ</sup> ロツク                                     | 15 5YR6/1 褐灰色粗砂                 | 30 2.5Y2/1 黒色粘土                   |
| 7 10Y5/1 灰色粘質土+10GY7/1 明緑灰色粘土 <sup>フ</sup> ロツク<br>+2.5Y2/1 黒色粘土 <sup>フ</sup> ロツク         | 16 10YR5/1 褐灰色粘質シルト             | 31 10YR8/6 黄橙色粘土                  |
| 8 10YR6/6 明黄褐色粗砂                                                                         | 17 5YR6/1 褐灰色粗砂                 | 32 10YR3/1 黒褐色粘土                  |
| 9 10Y6/1 灰色粗砂+10GY7/1 明緑灰色粘土 <sup>フ</sup> ロツク<br>+2.5Y2/1 黒色粘土 <sup>フ</sup> ロツク          | 18 5Y4/1 灰色砂質シルト                | 33 2.5Y7/6 明黄褐色砂質シルト              |
|                                                                                          | 19 7.5YR5/1 褐灰色砂質シルト            | 34 5B6/1 青灰色砂質シルト                 |
|                                                                                          | 20 5YR8/1 灰白色粗砂                 | 35 2.5Y6/1 黄灰色粘土                  |
|                                                                                          | 21 7.5YR4/1 褐灰色粘質シルト            | 36 2.5Y3/3 暗利-ブ <sup>レ</sup> 褐色粘土 |
|                                                                                          | 22 2.5Y3/1 黒褐色粘質土               | 37 2.5Y5/1 黄灰色粘土                  |
|                                                                                          | 23 5YR6/1 褐灰色粗砂                 | 38 10YR3/1 黒褐色粘土                  |
|                                                                                          | 24 5Y4/1 灰色砂質土                  | 39 5Y6/1 灰色粗砂                     |

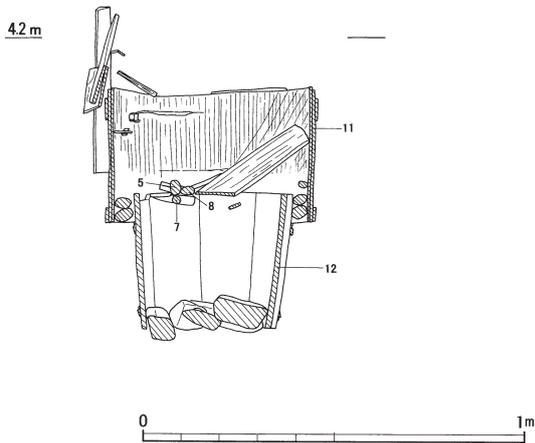
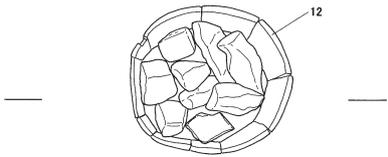
第5図 SE54平面図・断面図① (1:40)



上段桶崩落除去後



曲物除去後



第6図 SE54平面図・断面図② (1:20)

に墨書があり、記号を書いたのであろうか。3は青磁椀である。

4は曲物の底板で側面に径0.08~0.18cmの木釘孔が7ヶ所残る。5~10は楔、11は曲物、12は結桶である。曲物は箍が三段で、内面には縦方向と斜め方向にケビキが入れられている。結桶は3段の箍の痕跡を持ち、底部付近に径1.1~2.3cmの穿孔が6ヶ所残る。

#### SD51出土遺物 (第8図)

出土遺物は弥生時代末~中世後期までのものがあるが、中世前期のものが最も多い。

##### ①弥生時代末~古墳時代前期

13は有段口縁壺で、円形浮文と竹管文は同一工具で施文されている。14は甕である。15は有孔鉢、16は高杯脚部、17は器台脚部である。

##### ②中世

18は土師器皿で、器壁が厚く、中北勢系である。19は山皿で第6型式、20~24は山茶椀で、20は第5~6型式、21は第7型式、22~24は第6型式である。24は底部に墨書があり、「上」であろうか。25~26は片口鉢で、25は藤澤編年第6型式、26は第5~6型式である。27は常滑製品の甕で中野氏の編年6型式に比定される。28~29は青磁で、28は盤で底部に釉が付着していない部分がある。30は瀬戸美濃産筒形香炉で藤澤氏の編年古瀬戸後Ⅲ期、31は藤澤編年登窯第4小期の天目茶椀であろう。32~34は軒丸瓦で、35~36は五輪塔の水輪、35は花崗岩、36は砂岩である。

#### SZ55出土遺物 (第9~11図)

SZ55から出土した遺物は、概ね川崎編年の島貫Ⅱ~Ⅲ期の時期に入る。

##### ①壺

38~44は広口壺である。41は、加飾広口壺で内外面に赤色顔料が塗布され、頸部貼付け凸帯にクシによる刺突が施されている。47~49は、複合口縁壺である。48は口縁部・頸部内面に赤色顔料が塗布され、口縁端部外面に棒状浮文、内彎しつつ端部に拡張口縁を持つパレス壺である。49も口縁端部外面に棒状浮文、内面に刺突があり、同じくパレス壺であろう。50~51は直口壺、52は内彎口縁壺の口縁部、53は小型壺、54~55は壺の底部、56~60は小型埴である。

②甕

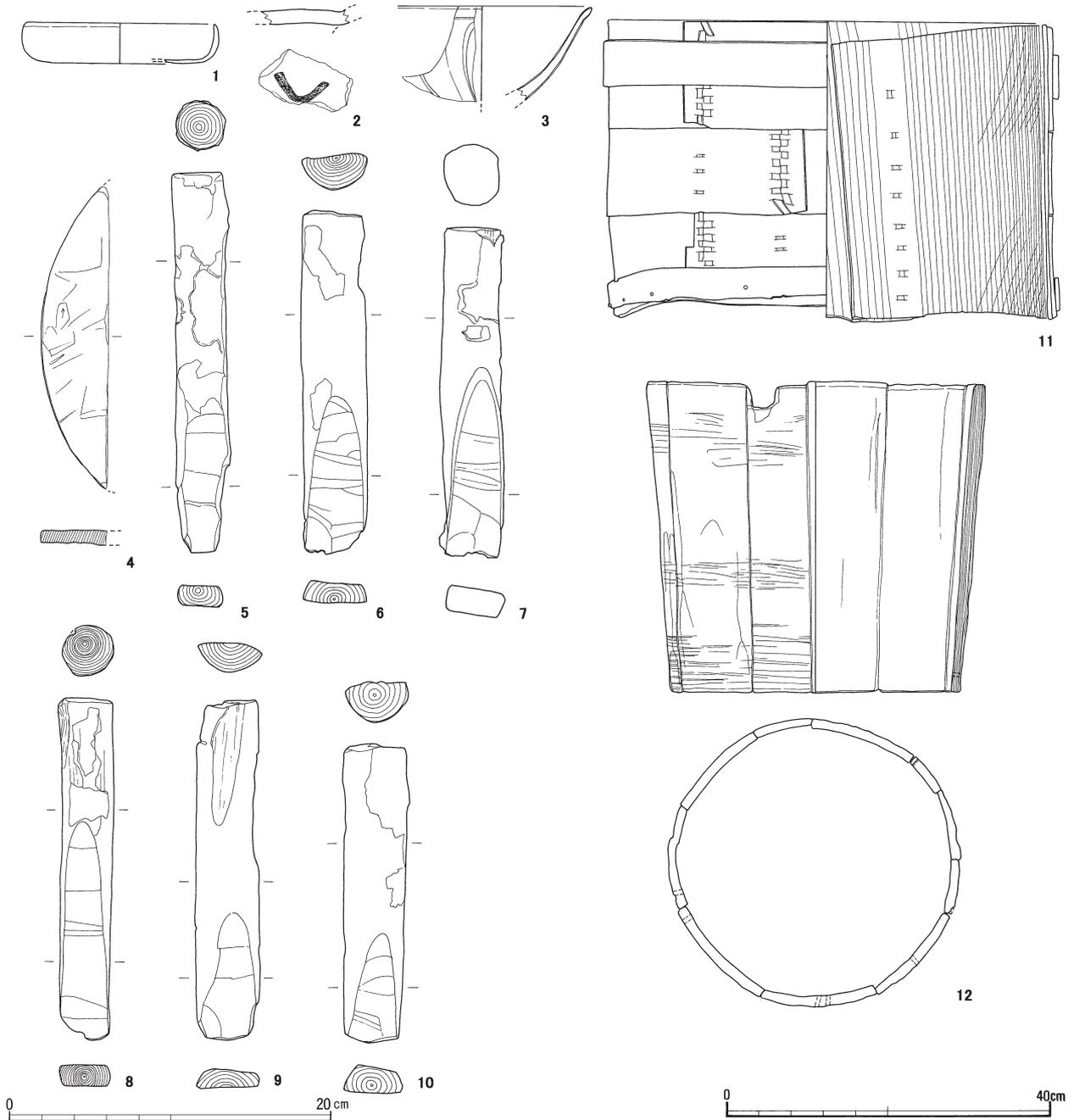
61～103は甕で、61～63はく字形、64～67は受口状、68～86はS字状の口縁をもつものである。S字状は、口縁部に刺突を残し受口状のような古い様相を示すものから口縁端部が上を向き外に向かって広がるような新しい様相を示すものまでである。87～103は台付甕の脚台部で、脚裾内面に折り返しを持つもの(94・99・100・103)と持たないものがある。92・99は底部内外面に砂粒充填が観察できる。

③高杯

105～106は有稜高杯、107～109は椀状高杯、110～127は脚部である。112は器台の脚部か。119は外面に櫛描直線文を施し、赤色顔料塗布、スス附着し、内面も赤色顔料が塗布されている。123は底部の裾が広がり、脚付土器か。126～127は屈折脚高杯である。

④その他

37は絵画土器で、器種・天地は不明である。表面



第7図 SE54出土遺物実測図(1～10=1:4、11～12=1:8)

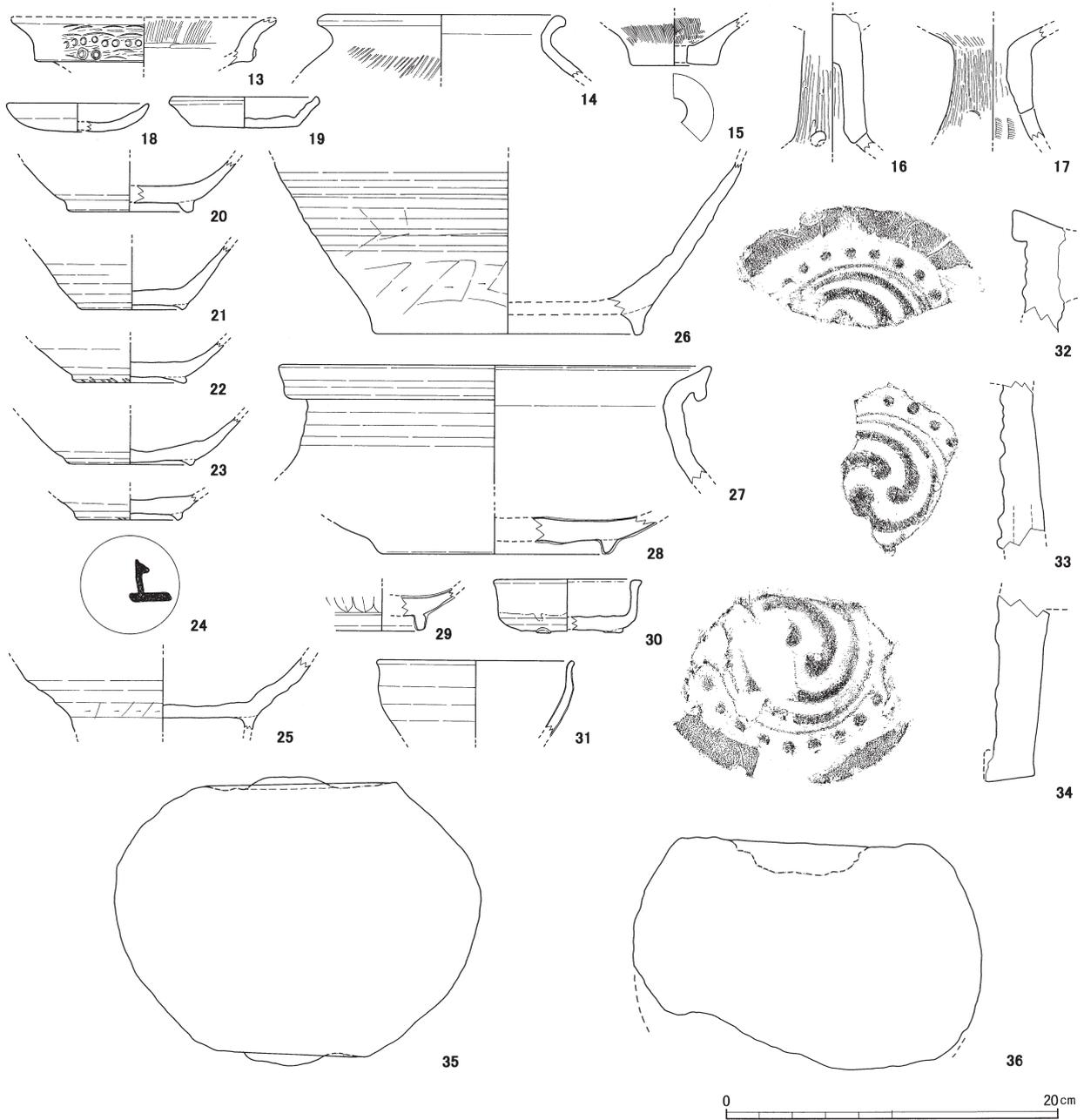
は「龍」を描き、裏面にも線刻があるように見えるが明瞭ではない。

104は手焙形土器である。128～129は器台である。128は透かし孔が6方向で3段、櫛描横線5条が2段、下段は斜め方向にいれられている。130は有孔鉢の底部である。

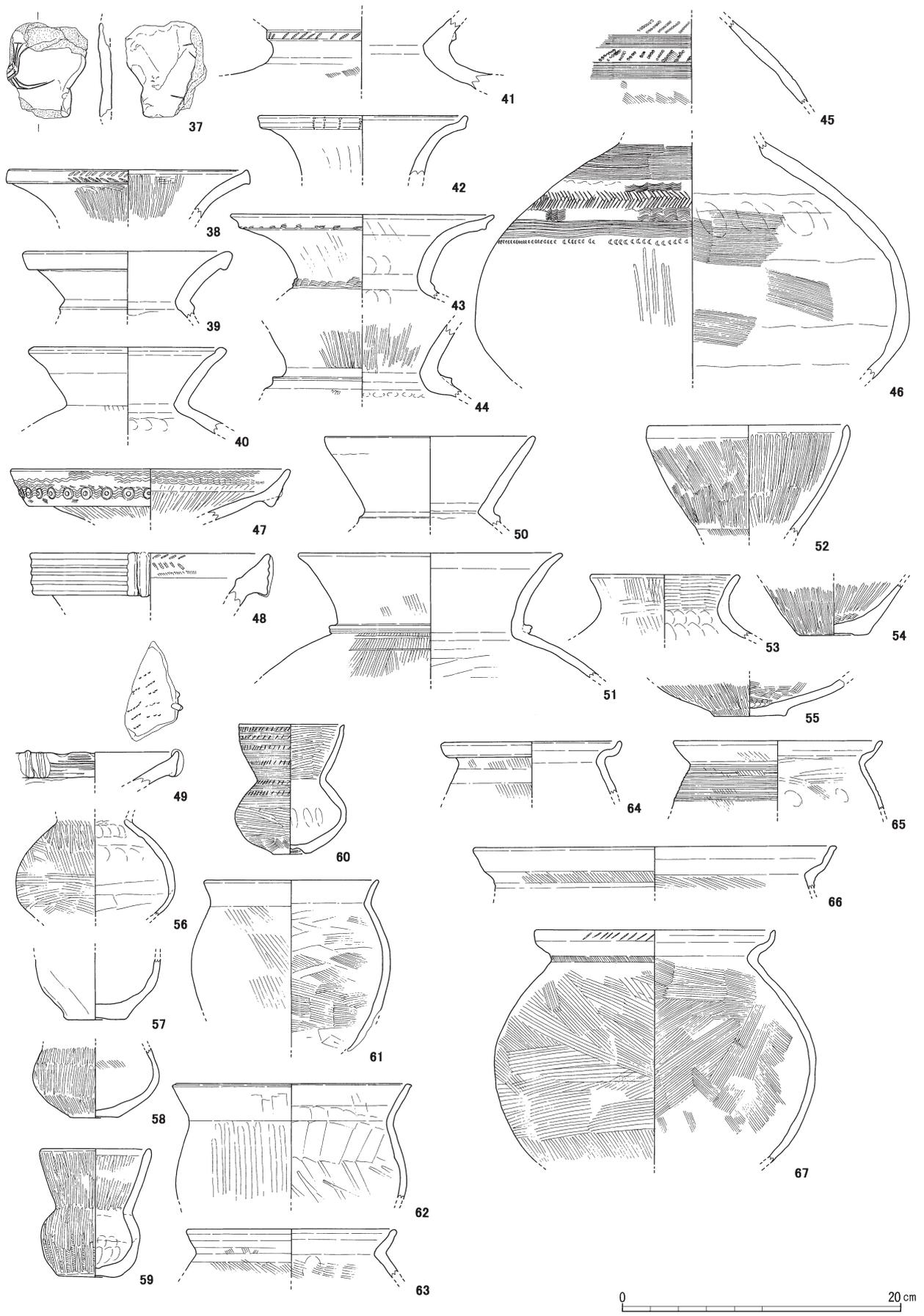
131～134はミニチュア土器である。131～132は壺、133は鉢であろうか。134は高杯である。

### 包含層出土遺物（第11図）

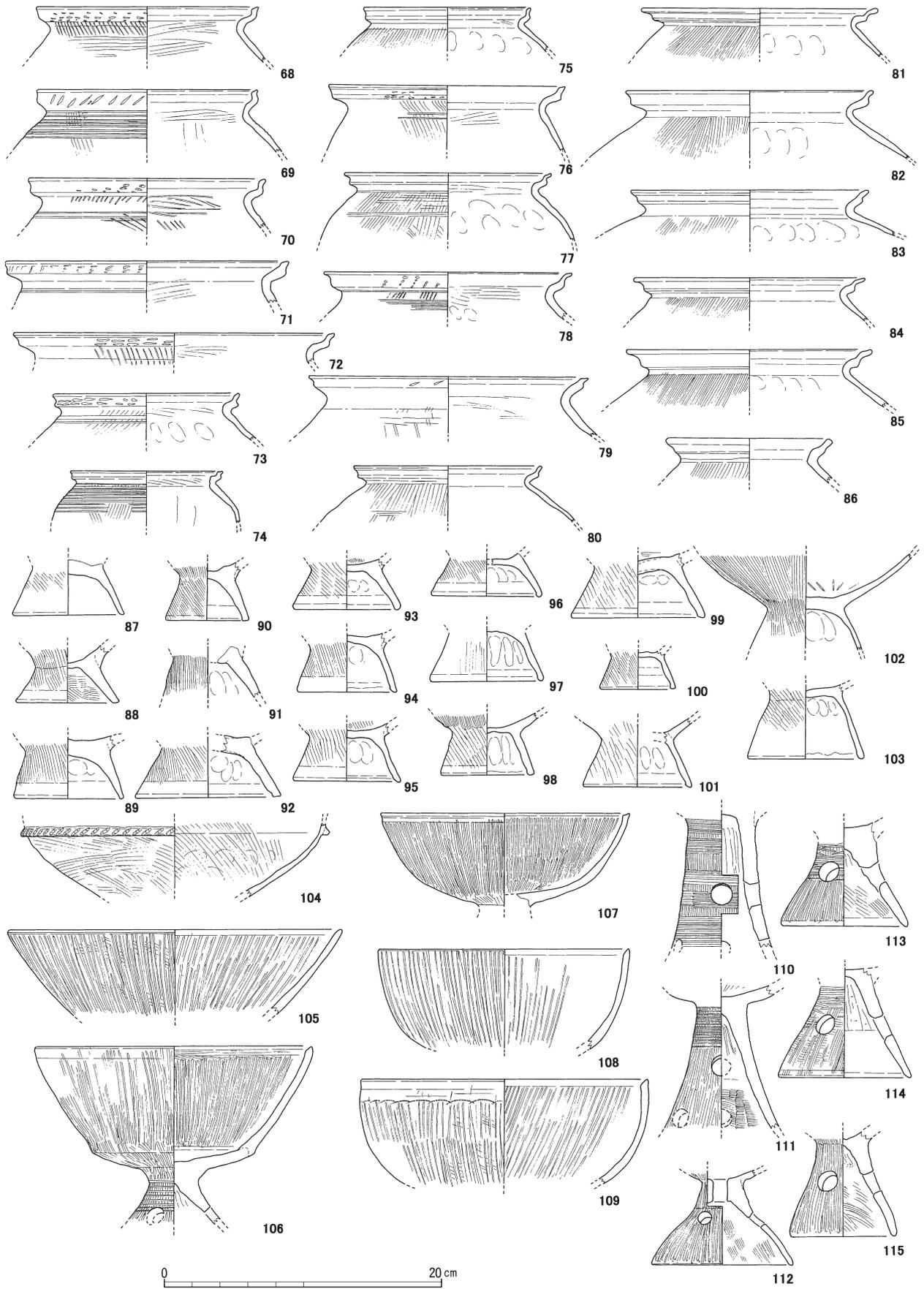
135は弥生時代中期の壺の底部、136は広口壺である。137は有段口縁壺で、内外面に赤色顔料が塗布され、口縁端部に板状工具による刺突がされている。138は小型壺、139～144はS字状口縁台付甕、145～148は高杯脚部である。149は甕蓋、150は第9型式の山皿、151は丸皿であろうか、削出高台で底部内面にススが付着している。（酒井）



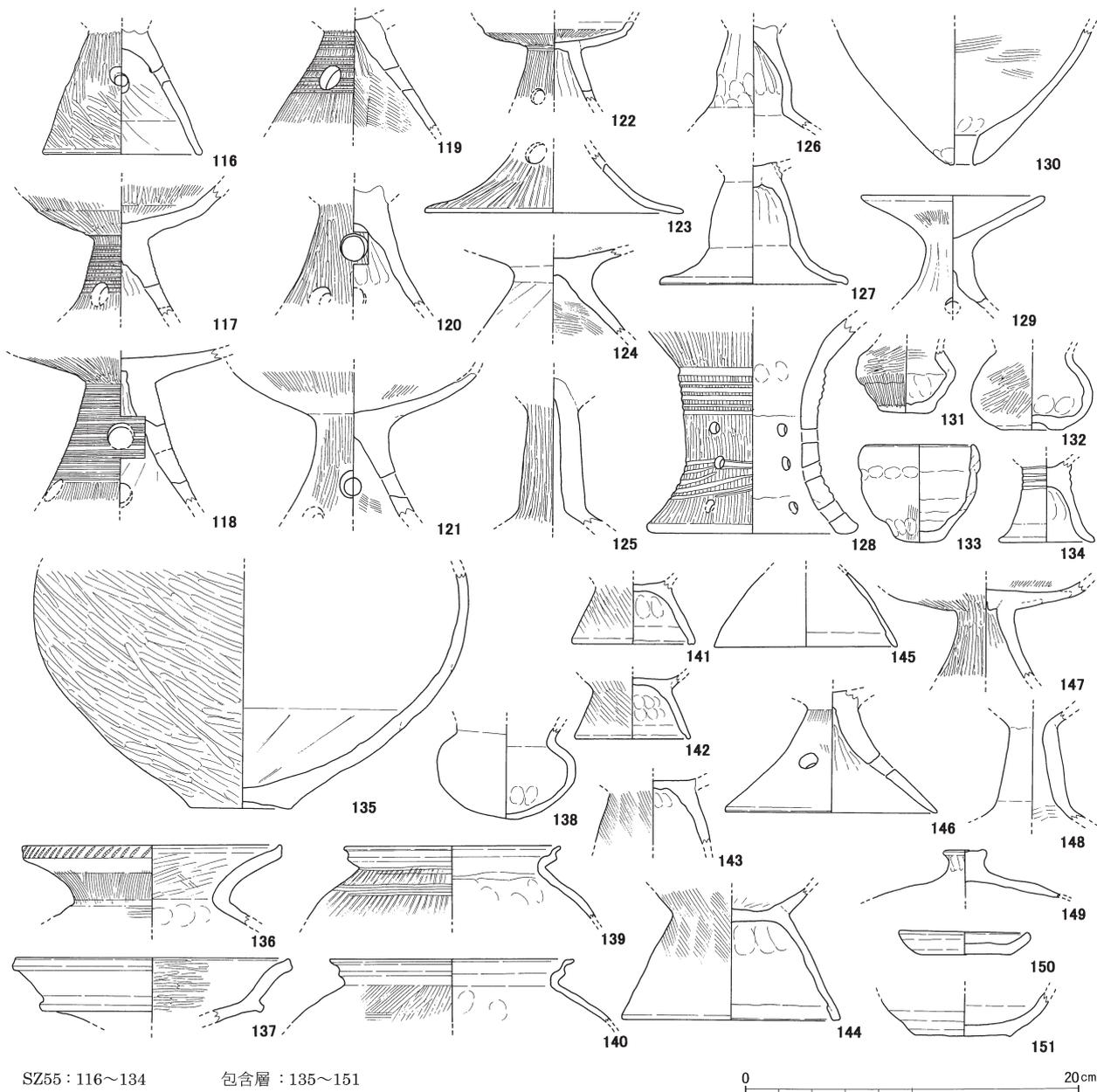
第8図 S D51出土遺物実測図（1：4）



第9图 S Z 55出土遗物实测图① (1:4)



第10图 S Z55出土遗物实测图② (1:4)



第11図 S Z 55③、包含層出土遺物実測図 (1 : 4)

## IV B地区の調査成果

### 1 調査区の地形と基本層序

第1次調査の西側に位置する調査区である。調査区の標高は約5.0mで、現況は水田である。基本層序は、安定している調査区中央部で、第13図東壁第1層表土・耕作土、第2層灰黄色シルト質細砂となり、中世以降の遺構検出面となる。

調査区南部では、このシルトは見られず砂が堆積

し、若干のピット状の遺構が見られる程度である。調査区北部、第13図北壁では何度も氾濫があったのか入り乱れた土層堆積が見られる。流路に切られて深いところで遺構 (SD66・67) が確認できることから、氾濫により消滅した遺構も存在するものと考えられる。

調査終了後、調査区北部から中央部にかけて重機による断ち割りを行い、試料2点について放射性炭素年代測定を行った。測定については、名古屋大学年代測定資料研究センタータンデトロン加速器年代測定実験室中村俊夫教授に協力していただいた。測定は、標高約3.3mに位置する第38層では4149年±41BP、標高約2.6mに位置する第40層では5411年±44BPという結果を得ている。(水谷)

## 2 検出した遺構

B地区は、第1次調査の結果から多量の墨書山茶碗が出土することが予想されたが、ほとんど出土せず、中世後期～近世の陶器が多量に出土した。

B地区で確認した遺構には、中世後期に属するものと近世に属するものがある。

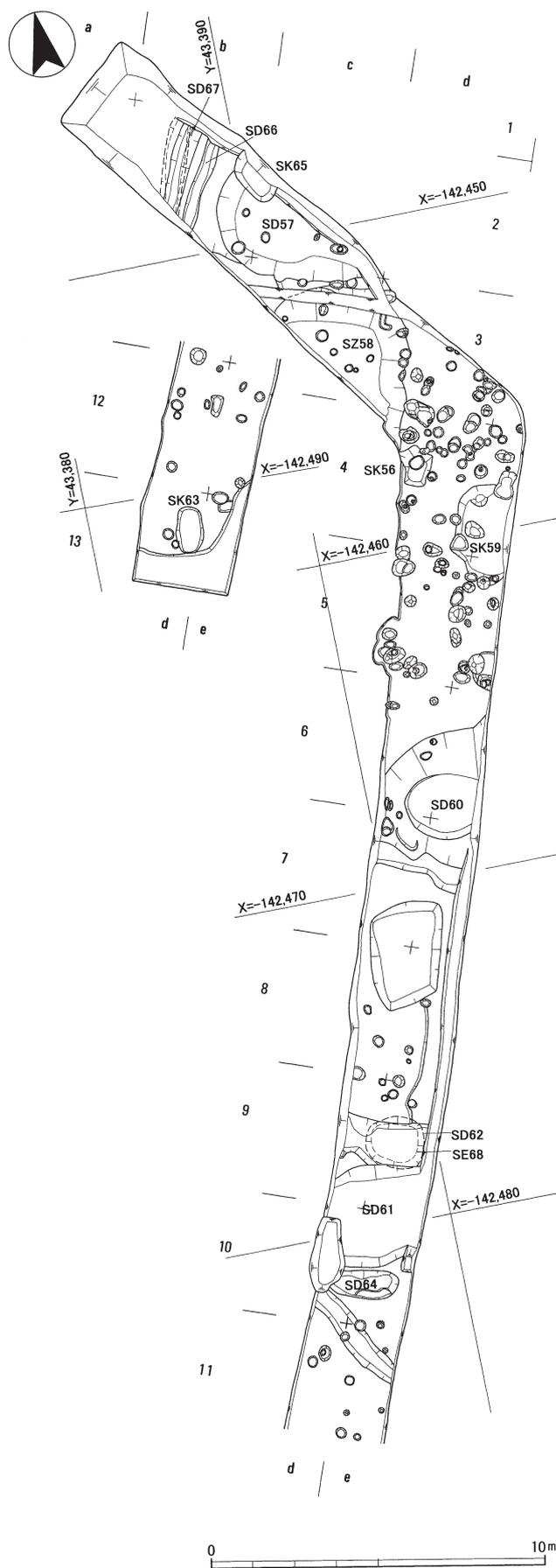
**SD62** 調査区南部で確認した遺構で、長さ2.4m以上、幅約1.1m以上、深さ約40cmである。SD61に切れ、SE68を切る。埋土中の遺物は、土師器皿1点のみである。

**SD66** 調査区北部で確認した遺構である。上部は自然流路と思われる氾濫に切られている。SD67と平行しており、同時期の遺構と考えられる。埋土中の最新の遺物は、伊藤氏の編年第4段階f型式の土師器鍋である。

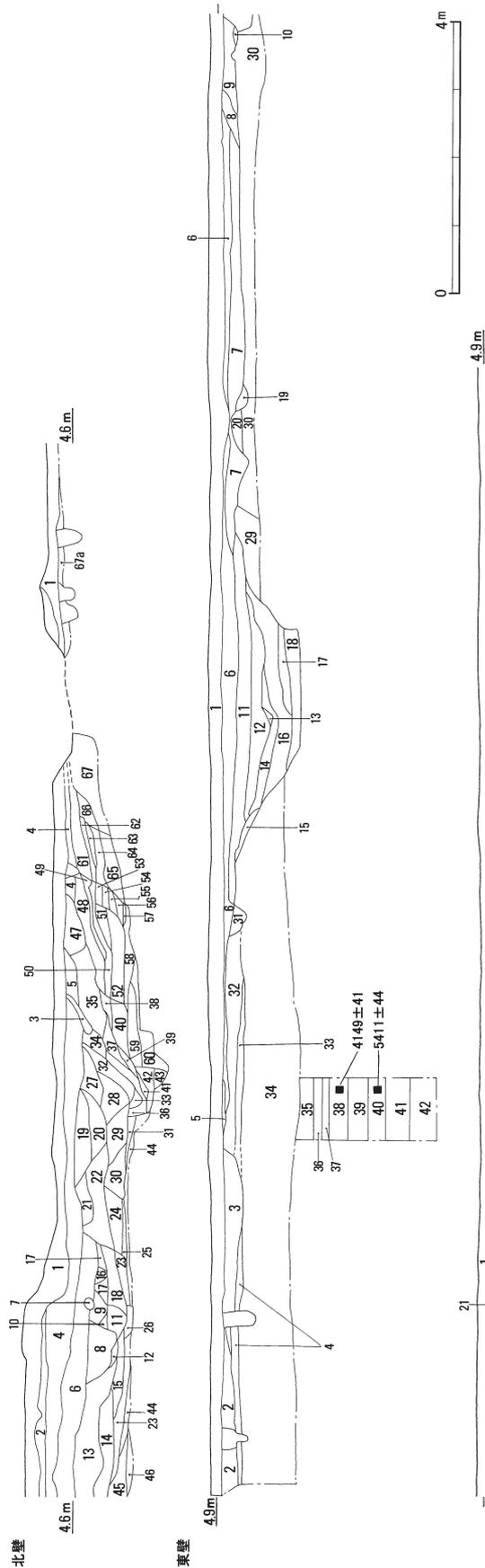
SD62とSD66は、ほぼ直行する溝であり、当時の地割に関連があると思われる。

**SD57** 調査区北側で確認した落ち込みである。南接するSZ58と同様のものであると思われるが、接続はしない。長さ約5m以上、幅約1.1m以上で、北側に向かって落ち込み、最も深いところでは検出面より約90cmである。自然に形成された落ち込みと思われるが、底で杭が打たれていたと考えられるピット状の落ち込みが数ヶ所確認でき、何かに利用されていた可能性も考えられる。埋土中の最新の遺物は、藤澤編年登窯第3～4小期の丸碗（加工円板）である。

**SD60** 調査区のほぼ中央に位置する落ち込みである。長さ約2.3m以上、幅は最大で4.4m、深さ約1.0mである。東に向かって落ち込んでおり、1次調査区の落ち込み(L11・12落ち込み)に接続すると思われる。中世後期～近世の遺物が多量に廃棄さ



第12図 B地区遺構平面図(1:200)



第13図 B地区土層断面図(1:100)

- 【北壁】**
- 1 表土
  - 2 2.5Y5/2 暗灰黄色砂
  - 3 10YR3/1 黒褐色粘土<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含(粘土)
  - 4 10YR4/3 にふい黄褐色砂・小礫混
  - 5 10YR4/3 にふい黄褐色砂・小礫混
  - 6 10YR4/2 灰黄色砂
  - 7 10YR7/6 明黄褐色粘土
  - 8 10YR4/3 にふい黄褐色砂質土
  - 9 2.5Y4/1 黄灰色粘質土
  - 10 2.5Y4/1 黄灰色粘質土(2.5Y5/3 黄褐色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含)
  - 11 2.5Y4/1 黄灰色粘質土+10YR5/3 にふい黄褐色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含
  - 12 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土
  - 13 10YR4/2 灰黄色粘質土
  - 14 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土(2.5Y5/3 黄褐色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含)
  - 15 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土
  - 16 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土
  - 17 10YR4/2 灰黄色粘質土
  - 18 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土
  - 19 10YR5/3 にふい黄褐色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含
  - 20 10YR4/3 にふい黄褐色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含
  - 21 10YR4/3 にふい黄褐色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含
  - 22 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土
  - 23 N 4
  - 24 10YR4/2 灰黄色粘質土
  - 25 10YR3/2 黒褐色粘土
  - 26 10YR3/2 黒褐色粘土
  - 27 10YR4/3 にふい黄褐色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含
  - 28 10YR4/3 にふい黄褐色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含
  - 29 2.5Y4/1 黄灰色粘質土
  - 30 2.5Y4/1 黄灰色粘質土
  - 31 10YR4/3 にふい黄褐色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含
  - 32 10YR4/3 にふい黄褐色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含
  - 33 10YR6/1 褐色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含
- 【東壁】**
- 1 表土
  - 2 2.5Y6/2 灰黄色粘質土
  - 3 2.5Y5/2 暗灰黄色砂
  - 4 10YR5/3 にふい黄褐色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含
  - 5 2.5Y6/2 灰黄色粘質土(粘土)
  - 6 2.5Y4/2 暗灰黄色砂
  - 7 10YR6/4 にふい黄褐色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含
  - 8 10YR4/3 にふい黄褐色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含
  - 9 10YR4/3 にふい黄褐色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含
  - 10 10YR4/3 にふい黄褐色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含
  - 11 10YR4/2 灰黄色粘質土(粘土)
  - 12 2.5Y4/1 黄灰色粘質土
  - 13 10YR2/1 黒色粘土
  - 14 10YR5/2 灰黄色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含
  - 15 2.5Y5/2 暗灰黄色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含
  - 16 2.5Y4/1 粘質土
  - 17 2.5Y5/1 黄灰色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含
  - 18 N 4
  - 19 不明
  - 20 不明
  - 21 2.5Y4/2 暗灰黄色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含
  - 22 2.5Y7/3 黄褐色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含
  - 23 10YR3/1 黒褐色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含
  - 24 2.5Y5/2 暗灰黄色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含
  - 25 2.5Y5/2 暗灰黄色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含
  - 26 10YR5/4 にふい黄褐色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含
  - 27 10YR5/4 にふい黄褐色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含
  - 28 2.5Y4/3 粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含
  - 29 2.5Y6/2 灰黄色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含
  - 30 10YR5/4 にふい黄褐色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含
  - 31 10YR4/2 灰黄色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含
  - 32 2.5Y6/2 灰黄色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含
  - 33 灰黄色粘<sup>7</sup> <sup>7</sup>多量含

れている状態で出土し、埋土中の最新の遺物は、藤澤編年登窯第3～4小期の反皿・丸椀である。

**SK56** 調査区北部で一部を検出した遺構である。検出できた1辺は約1.2mで、深さ約20cmで緩やかに落ち込む。中央近くで犬形土製品(218)が出土し、最新の遺物は土師器皿である。

**SK65** (第14図) 調査区北部で南側の一部を確認した遺構である。長さ0.5m以上、幅は最大1.5m、深さは約40cmである。SD57を切っており、江戸時代中期と考えられる遺物が出土していることから、SD57がこの頃には埋没していたと考えられる。遺構の南側では、石が集中して見られ、石に混じって遺物が出土している。遺物は、意図的に入れたものではないと思われる。埋土中の最新の遺物は藤澤編年登窯第3小期の輪弁皿である。

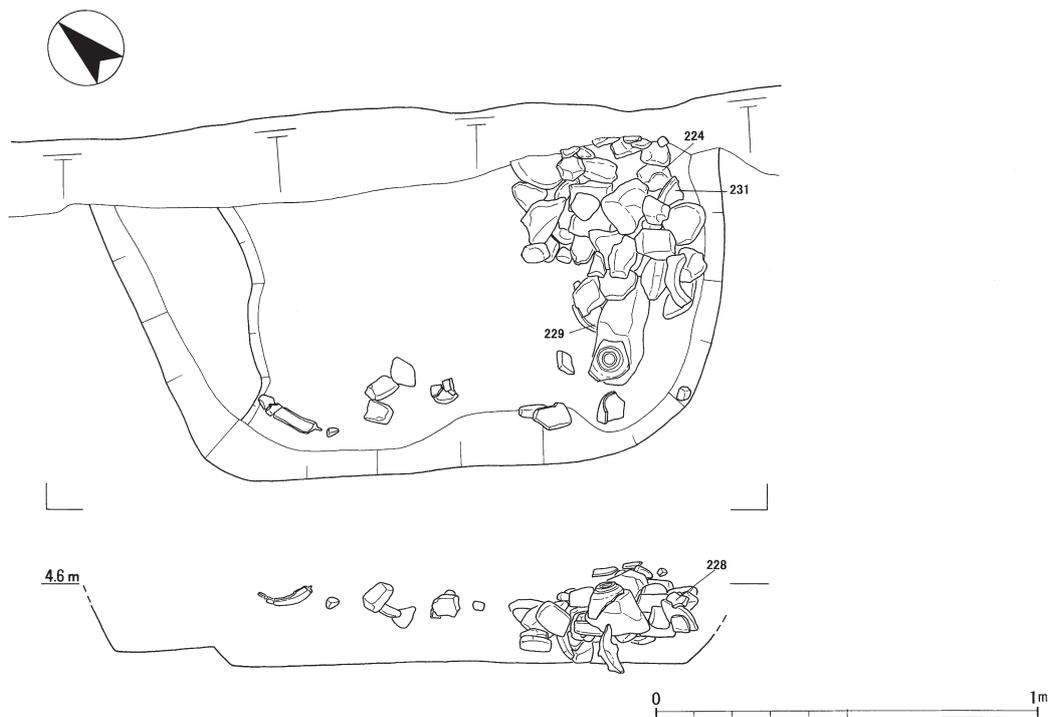
**SE68** (第15図) 調査区南部で検出した遺構である。約1.6m×1.5mの隅丸方形の遺構で、曲物の底は深さ標高約2.9mである。SD62に切られ、古い自然流路を切って掘削されているため井戸枠横の砂層からの湧水が激しく、詳細な土層観察は行えなかった。

井戸枠は1辺約0.9mの方形を呈するものである。

四隅に隅柱を持ち、横棧を2段渡した後、縦板で補強している。木枠の東側・西側は、更に横棧と縦板の間に径1～2cm程度の細い竹を約1cm間隔で打って補強している。そして東側は、横棧の外側に縦板を入れて二重にして補強しており、西側も杭が2本ずつ打たれており補強の役目をしていたと考えられる。曲物は1段で、内側から土師器皿6枚(232～237)、漆椀(257)、曲物底板(258)がまとまって出土し、最新の遺物は伊藤編年第4段階併行期の羽釜である。

**SZ58** 調査区北側で確認した落ち込みである。SD57に南接し、南に向って落ち込む。長さ3.3m以上、幅4m以上、最も深いところで約50cmである。SD57と同様自然の落ち込みと思われ、杭が打たれていたと思われるピット状の落ち込みが確認できる。埋土中の最新の遺物は播鉢である。

**柱穴** 調査区中央部を中心に検出した多数のピットは、遺構の切り合いなどから中世後期から近世にかけての遺構と考えられる。ほとんどが径0.4～0.6m、深さも50cmを越すようなものであり、掘立柱建物に伴うピットと考えられる。また、切り合いのあるものが多く見られることから、数回の建物の建替



第14図 SK65平面図・断面図(1:20)

が行われていたものと思われる。しかし、調査区は幅が狭く、SZ58やSD60などの近世の落ち込みによりピットなどの遺構が削平されていると考えられるため、掘立柱建物として確認できるものはなかった。

中世前期の遺構が明らかにならなかったことにより、中世前期にはB地区より西側に集落が展開し、中世後期以降になって川に近いB地区周辺に集落が移動してきたと考えられる。(水谷)

### 3 出土した遺物

#### SD62出土遺物 (第16図)

152は土師器皿で、川崎分類の皿cである。

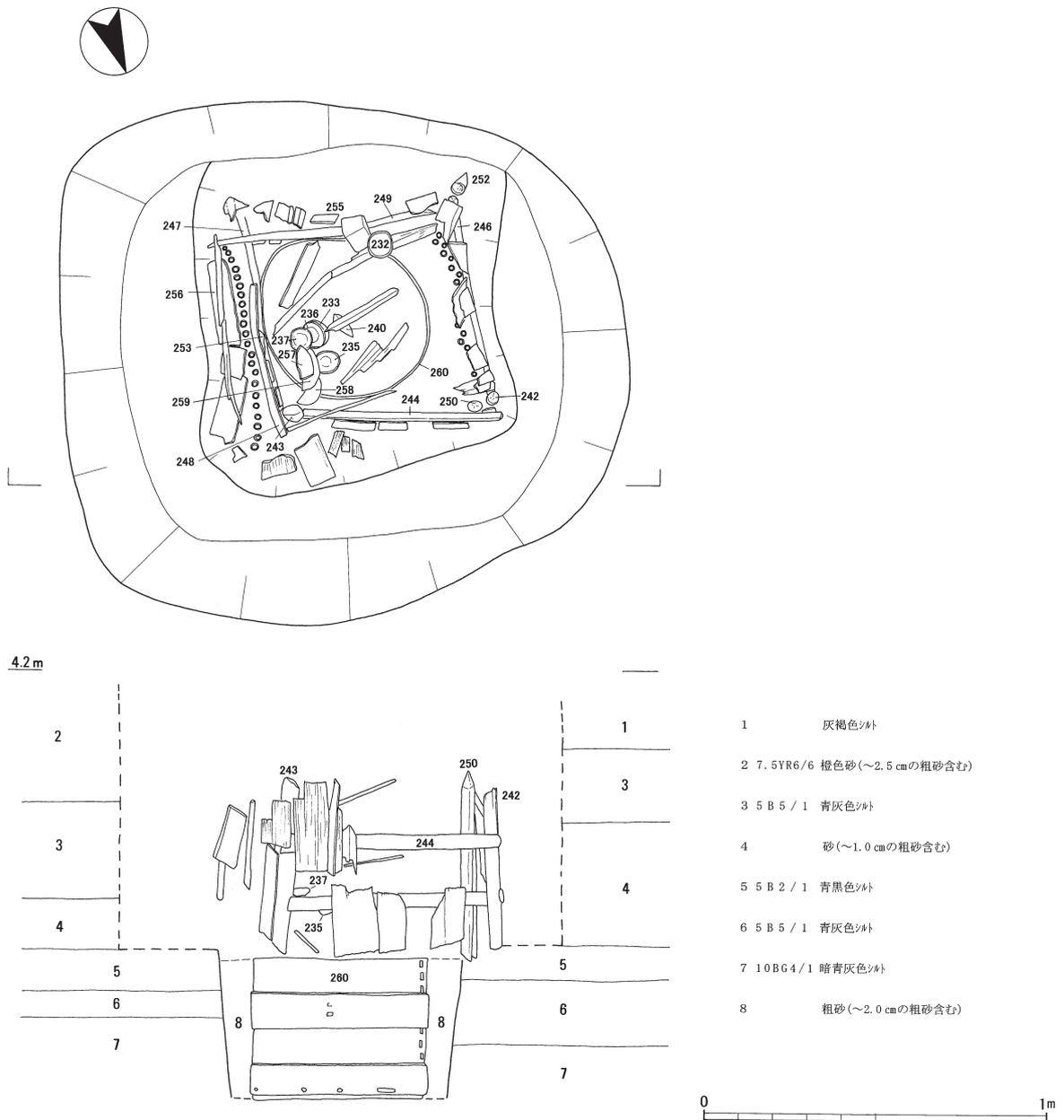
#### SD66出土遺物 (第16図)

153は南伊勢系鍋で伊藤編年第4段階f型式、154は中北勢系羽釜で伊藤氏の編年II a段階である。

#### SD57出土遺物 (第16図)

遺物は大きく分けて、土師器鍋第4段階の時期と近世の二時期のものがある。

155~162は土師器皿で、155~161は皿c、162は皿eである。163~164は南伊勢系鍋で、163は第4



第15図 SE68平面図・断面図 (1:20)

段階b型式、164は第4段階c型式のものか。165は南伊勢系羽釜で第3段階併行期、166～171は中北勢系羽釜でⅡ段階であろうか。170は体部下半が丸味を帯びずすぼまり、ケズリ調整され、他の羽釜とは形状が異なっている。

172は山茶椀で藤澤編年第5型式、173～175は瀬戸美濃産志野丸皿で173は登窯第3小期、174～175は登窯第2小期、174は底部外面に墨書がある。176は白磁、177は瀬戸美濃産天目茶椀で藤澤氏の編年大窯第4段階前半、178は常滑製品の鉢、179は登窯第3～4小期の丸椀を加工円板に転用している。

#### SD60出土遺物（第16～18図）

遺物は大きく分けて、土師器鍋第4段階の時期を中心とする中世後期と陶器に見られる近世の二時期に分かれる。

##### ①土師器

図示したものはすべて南伊勢系のものである。180は土師器皿で、181は鍋で第4段階c型式、182は羽釜で第4段階併行期である。

##### ②陶器

183は瀬戸美濃産輪禿皿で登窯第2小期、184は瀬戸美濃産反皿で登窯第3～4小期である。185～189は瀬戸美濃産志野丸皿で、185～187・189は登窯第2小期、188は登窯第3小期である。190は瀬戸美濃産盤で登窯第2～3小期、191は瀬戸美濃産輪禿皿で登窯第3小期である。192は肥前系染付皿であろう。193は天目茶椀で大窯第2段階、194は瀬戸美濃産丸椀で登窯第3～4小期、195は鉄釉笠原鉢で登窯第3～4小期、196は小壺で藤澤編年古瀬戸後期Ⅲ～Ⅳ期古、197は壺で、198は瀬戸美濃産徳利で登窯第2小期、内面にススが付着している。199は常滑製品壺の底部であろう。

200～201は片口鉢で第6型式、202～212は常滑製品である。202・203・206・209は外面にススが付着している。205・207は内面が磨耗している。

213は加工円板で、常滑製品の甕の体部を転用している。214は軒丸瓦、215は丸瓦、216は磨製石斧である。

#### SK56出土遺物（第18図）

217は土師器皿で皿c、218は犬形土製品で前足を欠いている。

#### SK65出土遺物（第18図）

219～221は中北勢系羽釜で、219はⅡ段階、220はⅡa段階、221はⅡb段階であろう。222～223は山茶椀第5型式、224は瀬戸美濃産輪禿皿で登窯第3小期、225は瀬戸美濃産丸皿で登窯第2小期、226～228は天目茶椀で、226は登窯第1～2小期、227は登窯第4小期、228は登窯第2小期のものである。

229は瀬戸美濃産筒形香炉で登窯第2～3小期、外面に重ね焼き痕が残る。230は常滑製品甕で中野編年6型式、231は常滑製品の鉢であろう。

#### SE68出土遺物（第18～19図）

##### ①土師器・陶器

232～237は土師器皿で皿a、232は内面から外面へ焼成後穿孔を施し、237は外面にススが付着している。238は南伊勢系羽釜で第4段階併行期、239は山茶椀で第8～9型式、底部外面に墨書があり「大」であろうか。240は東濃産大畑大洞窯の山茶椀で第8～9型式、241は瓦質土器の脚部である。

##### ②木製品

242～243は井戸杵杭で、横棧と重なる箇所を242は1ヶ所、243は3ヶ所を平らに削っている。244～249は井戸杵横棧で、244～246は両端に穿孔があるが、247は片側だけの穿孔である。250～252は杭である。253～256は井戸杵縦板で、257は漆椀である。258～259は曲物底板で、259は3ヶ所穿孔されている。260は曲物である。箍が2段で下段に10ヶ所穿孔があり、内面には斜め方向にケビキが入れられている。

#### SZ58出土遺物（第20図）

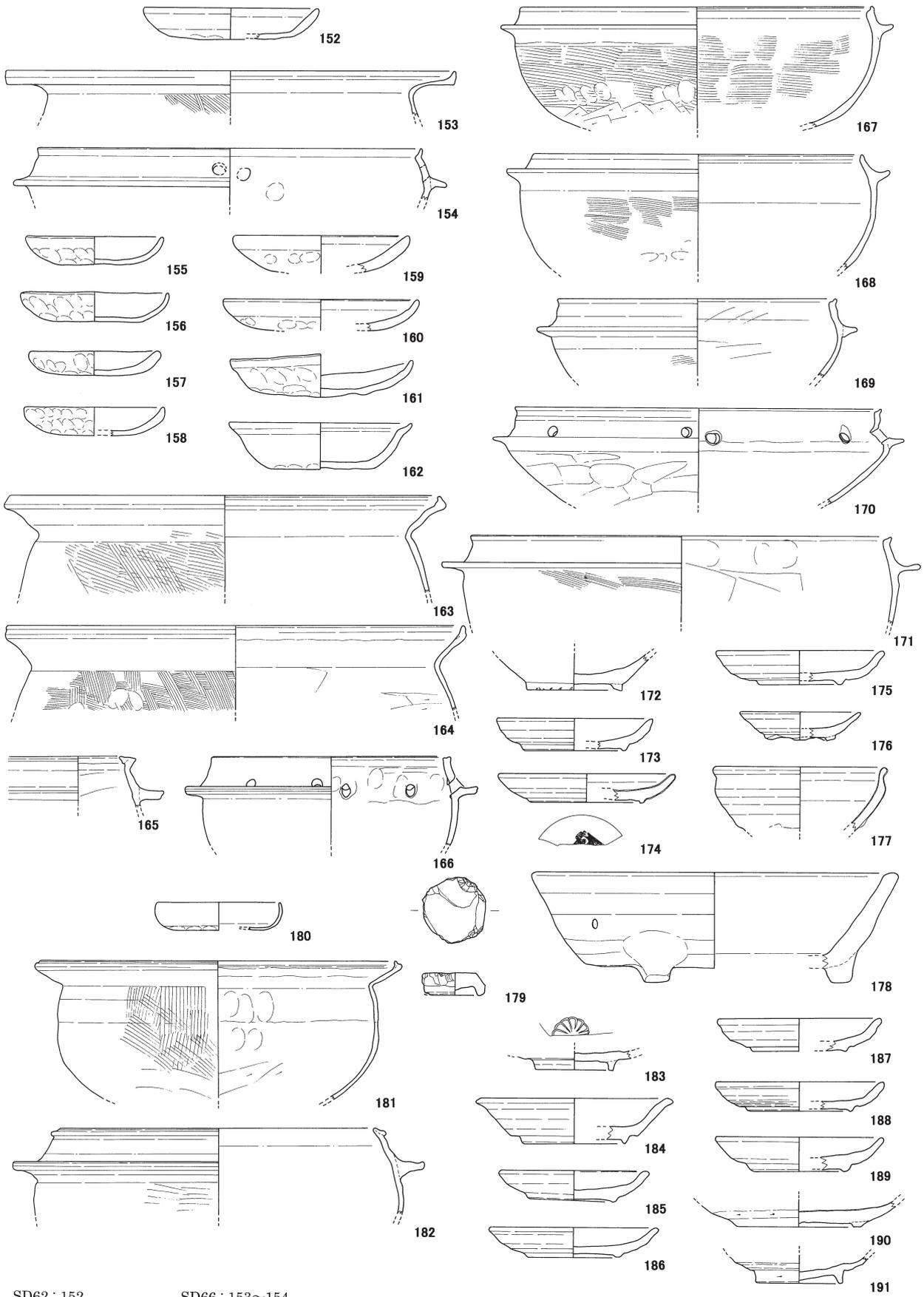
261は土師器皿で小皿c、262は口縁部が外反し、鉄鍋を模倣したものであろうか。263は中北勢系羽釜でⅡa段階のものであろうか。264は山茶椀で第6型式、底部外面に墨書があり、265は挿鉢である。

#### Pit出土遺物（第20図）

266は須恵器高杯、267～272は土師器皿で皿a、267・271・272は器壁が厚く中北勢系であろう。273～274は中北勢系羽釜でⅢ段階であろうか。

#### 包含層出土遺物（第20図）

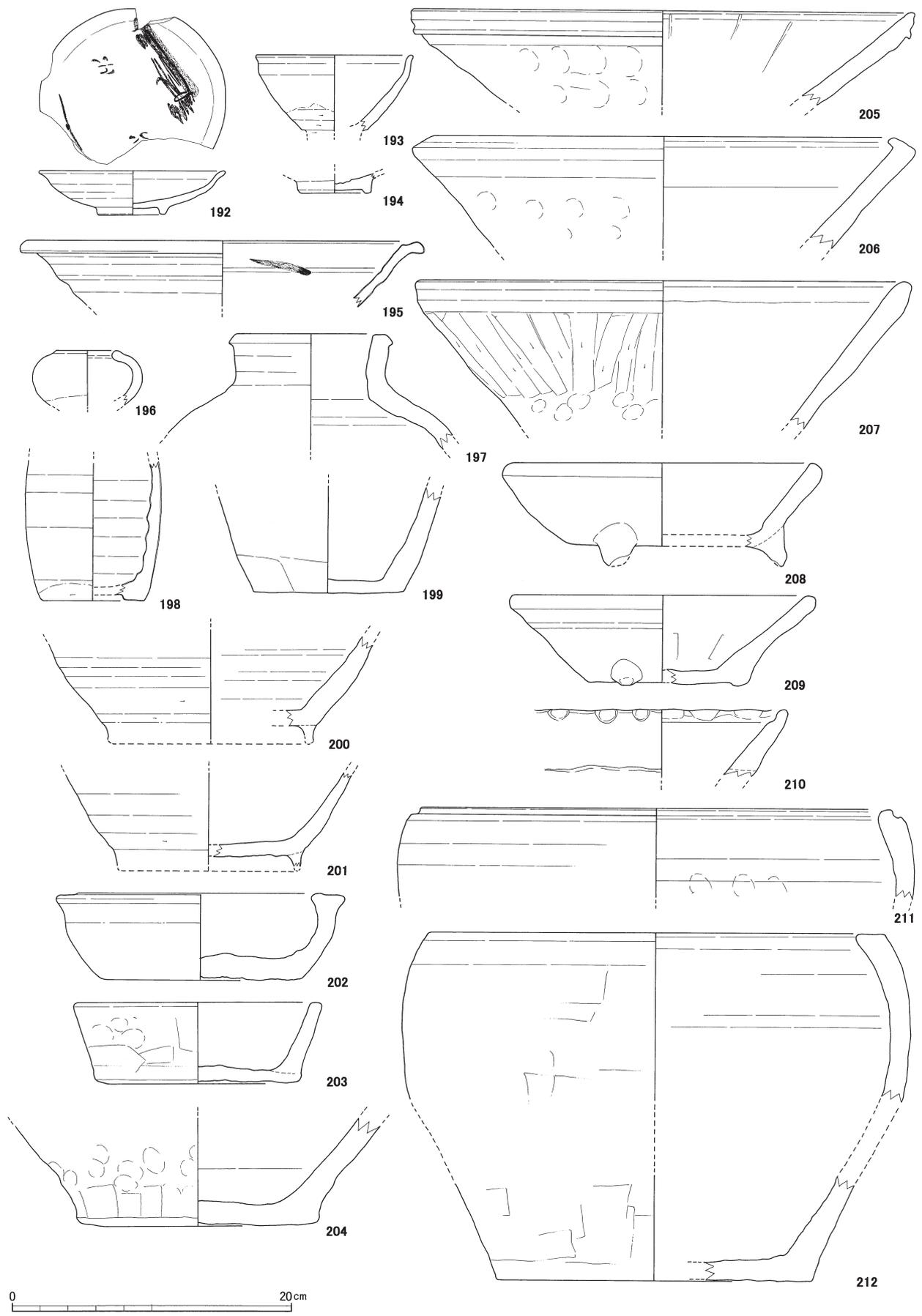
275は広口壺、276は直口壺で島貫Ⅱ期、277は高杯で内外面に赤色顔料が塗布され4ヶ所の穿孔が残る。278はⅠ-17併行期の須恵器杯身であろう。



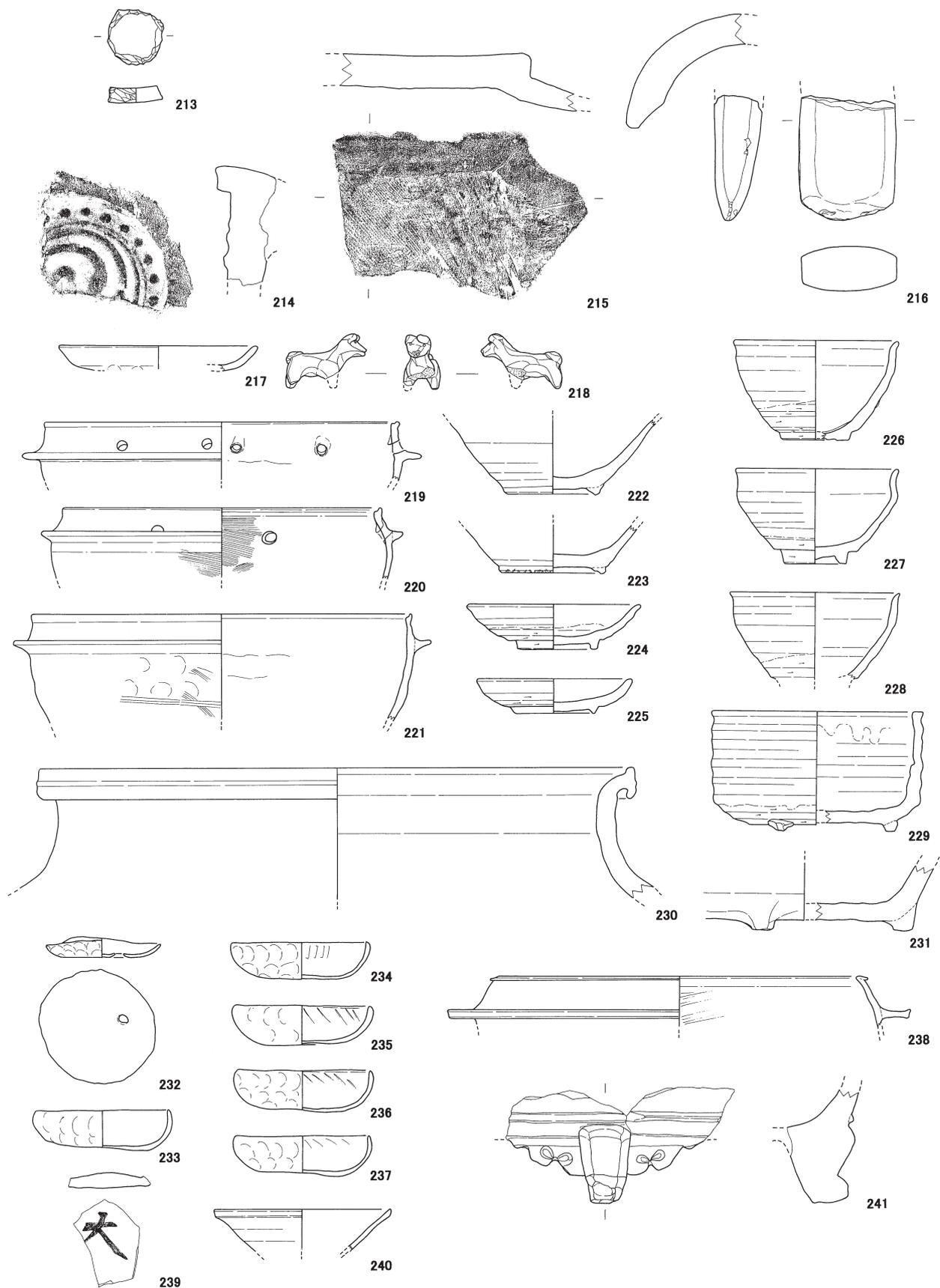
SD62 : 152                      SD66 : 153~154  
 SD57 : 155~179                SD60 : 180~191

0 20cm

第16図 S D62・66・57・60①出土遺物実測図(1:4)



第17图 S D60出土遺物実測図② (1 : 4)



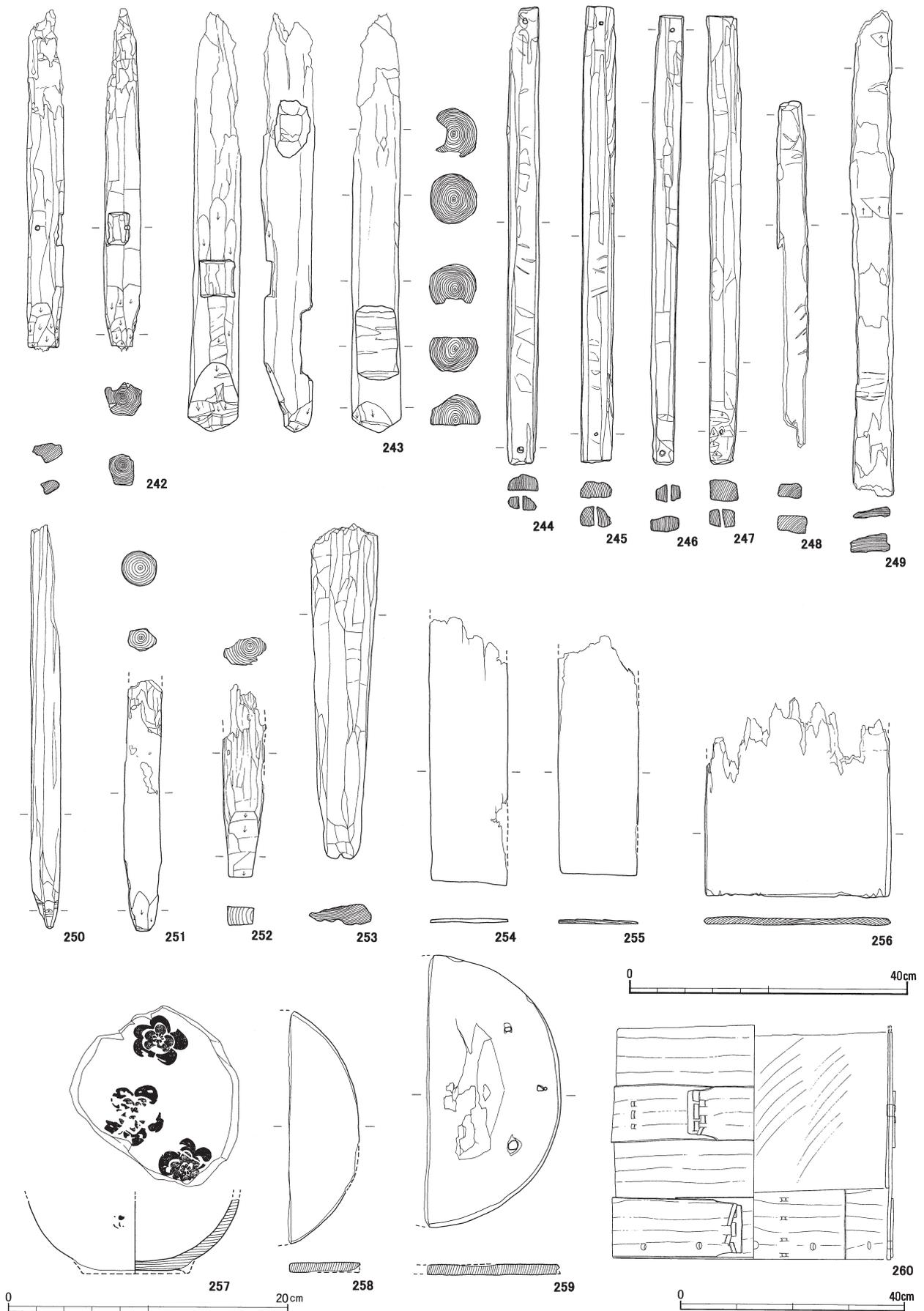
SD60 : 213~216

SK56 : 217~218

SK65 : 219~231

SE68 : 232~241

第18图 S D 60③、S K 56・65、S E 68①出土遺物実測図 (1 : 4)

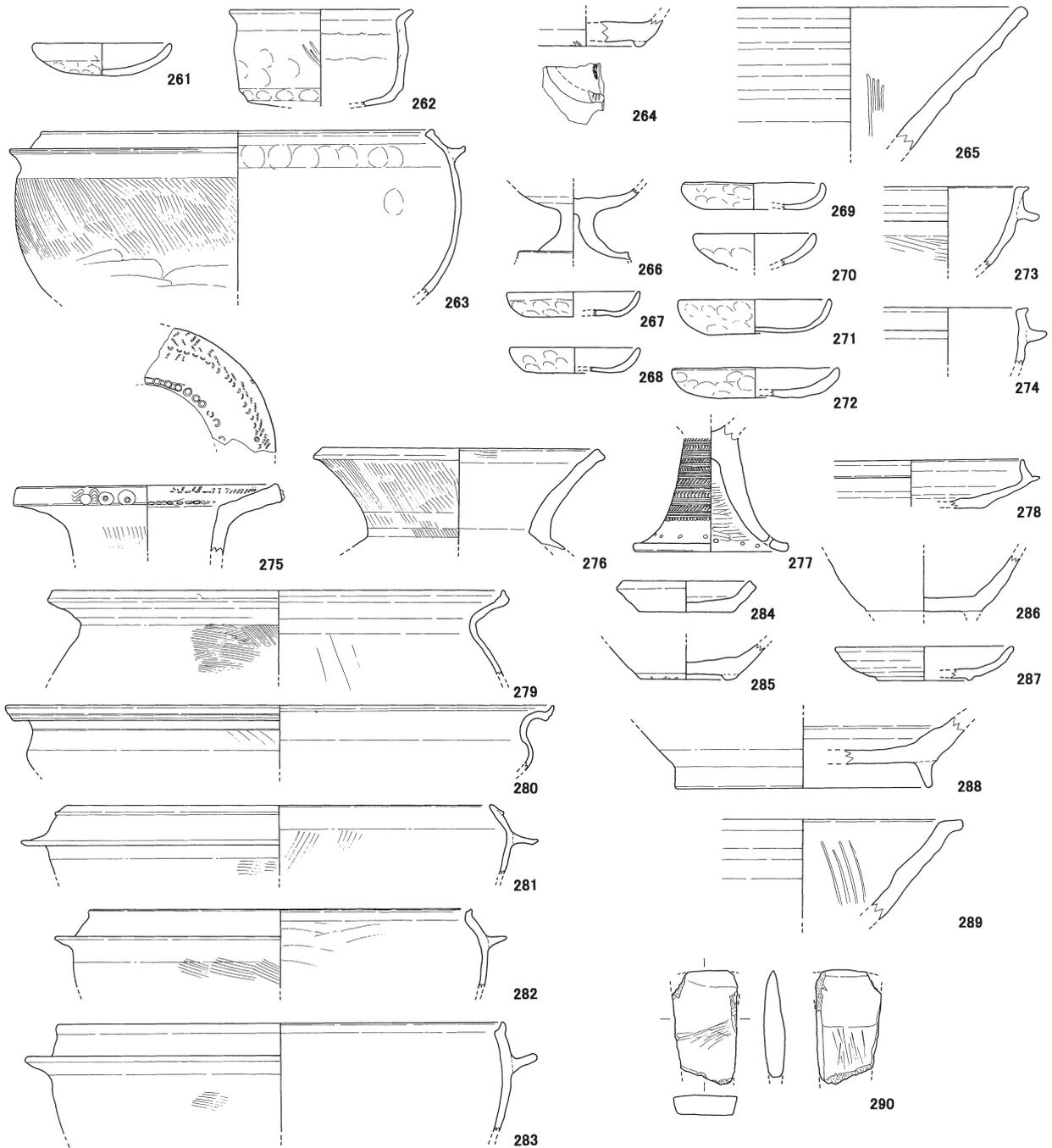


第19図 S E 68出土遺物実測図② (257~259=1:4、260=1:10、他は1:8)

279～280は南伊勢系鍋で、279は第4段階d型式、280は第5段階である。281は南伊勢系羽釜で第4段階併行期、282～283は中北勢系羽釜で、282はⅡa段階、283はⅡb段階である。

284は山皿で第8型式、285～286は山茶碗で、285

は第6型式、286は第7型式である。287は瀬戸美濃産志野丸皿で登窯第2小期、288は鉢で第5型式、289は信楽産搦鉢で山田編年Ⅱb型式、290は砥石である。  
(酒井)



SZ58 : 261～265

Pit : 266～274

包含層 : 275～290

0 20cm

第20図 S Z 58、Pit、包含層出土遺物実測図 (1 : 4)

# V C地区の調査成果

## 1 調査区の地形と基本層序

C地区は周辺より1mほど小高く、北端では標高6.0m、中央に向かって緩やかに上がり中央付近では約6.4m、中央付近から南に向かって傾斜し調査区南端では約5.6mとなる。現況は畑地である。表土・耕作土下で調査区北部では黄褐色～褐色の粗砂混砂となり、遺構検出面となる。

調査区北部では、第21図で上層・下層と表記したが、本来、弥生時代末～古墳時代前期と中世以降の検出面とが同一面で確認できたと思われる。しかし、

はっきりと捉えることができなかったため再度重機により20cm程掘削を行い、(下層)弥生時代末～古墳時代前期の溝及び上層で確認できなかったピットを検出した。

調査区南部では耕作土下で黄褐色粘質土となり、これが遺構検出面である。耕作による削平のためか南に向かって低くなり、徐々に灰白色の粘質土となる。この層は周辺の低いところでも確認でき、範囲確認坑294では、溝を検出している。(水谷)

## 2 検出した遺構

C地区は弥生時代末～古墳時代前期の遺構、中世前期～近世の遺構を検出している。弥生時代末～古墳時代前期の遺構及び中世の遺構は井戸などの深いものを除き調査区北部に集中して見られ、南部には見られない。南部は緩やかに低くなっていく地形であり、本来は遺構が存在したものの、削平されている可能性が考えられる。

**SD74・119** (第23図) SD74は上層で確認した遺構で、長さ4.5m以上、幅約0.9m、深さ約20cm(標高約6.2m)である。南端がやや屈曲して丸く収まるように検出した。壺(291)がほぼ完形で出土している。

SD119は、下層で検出した遺構である。長さ8.5m、幅約0.7m、深さ約20cm(標高約5.8m)である。溝の南東端が途切れ、北西端が屈曲するように検出した。遺物は多く出土し、最新の遺物は島抜Ⅲ期併行の高杯である。

SD119を北東周溝、SD74を南東周溝とする1辺約7.0m程度の方形周溝墓となる可能性がある。

**下層検出の溝** SD117・118・120・165は下層で検出した溝である。このうち、SD118は南端が屈曲しており、SD74・119同様削平された方形周溝墓の周溝の可能性があり、SD118は南北方向の溝が幅約1.0m、深さ約25cmで、東西方向は東端で長さ約3.0m、深さ15cmとなる。

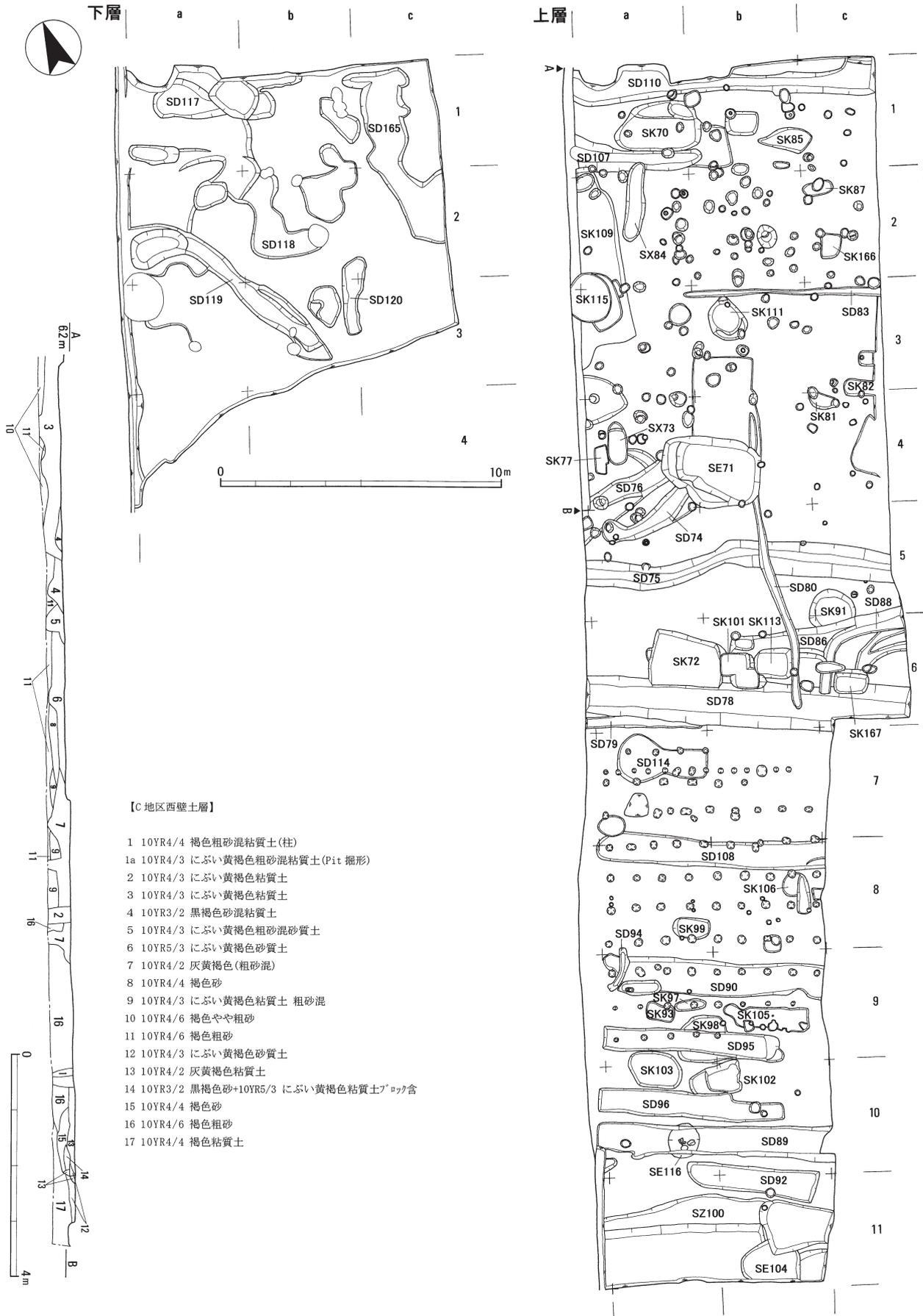
**SD78** 調査区中央で検出した遺構である。長さ11.5m以上、幅約1.4m、深さ約50～80cmで東に向かって緩やかに低くなっている。土取りの土坑かと思われるSK72やSK101・167に切られる。現況の畦畔と一致しており、地割に関連する溝と考えられる。埋土中の最新の遺物は、藤澤編年登窯第3～4小期の皿である。

**SD75** 調査区中央部で検出した遺構である。中央から西側はやや蛇行するように検出され、長さ11.5m以上、幅約0.7m、深さ約30cmである。SD80より東側は直線的で底部が一段低く掘削されており、幅約1.0m、深さ約50cmとなる。いずれも東に向かって徐々に低くなっている。埋土中の最新の遺物は、常滑製品の甕である。

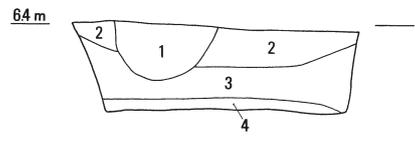
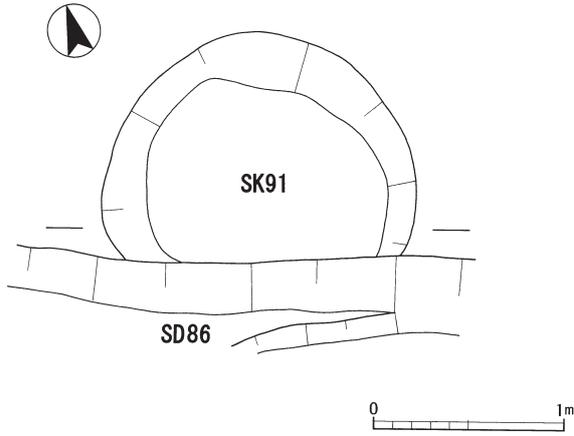
SD75以南ではピットを検出しておらず、集落の南限を画する溝である可能性がある。

**その他の溝** SD78より南で検出した溝状の遺構はいずれも近世と考えられる遺構である。このうちSD108は深さ約20cm、SD95は深さ約60cm、SD89は深さ約20cmであり、その他のSD114・90・96は5～10cmの窪み程度のものである。SD78～108は約3.3m、SD108～95は約4.8m、SD95～89は約2.0mの距離を開けて平行に並んでいる。

**SK91** (第22図) 調査区中央部で検出した遺構である。SD86に南側を切られる約1.7×1.3mの楕円

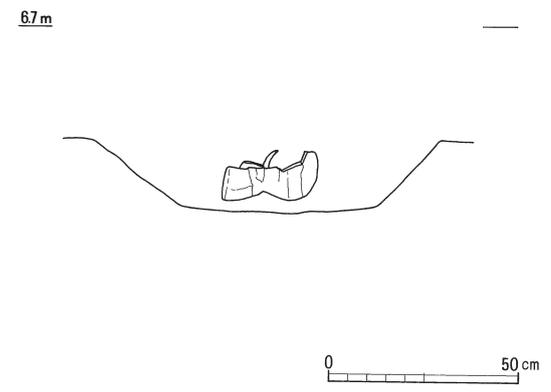
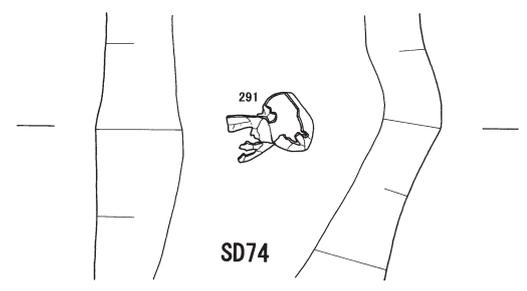
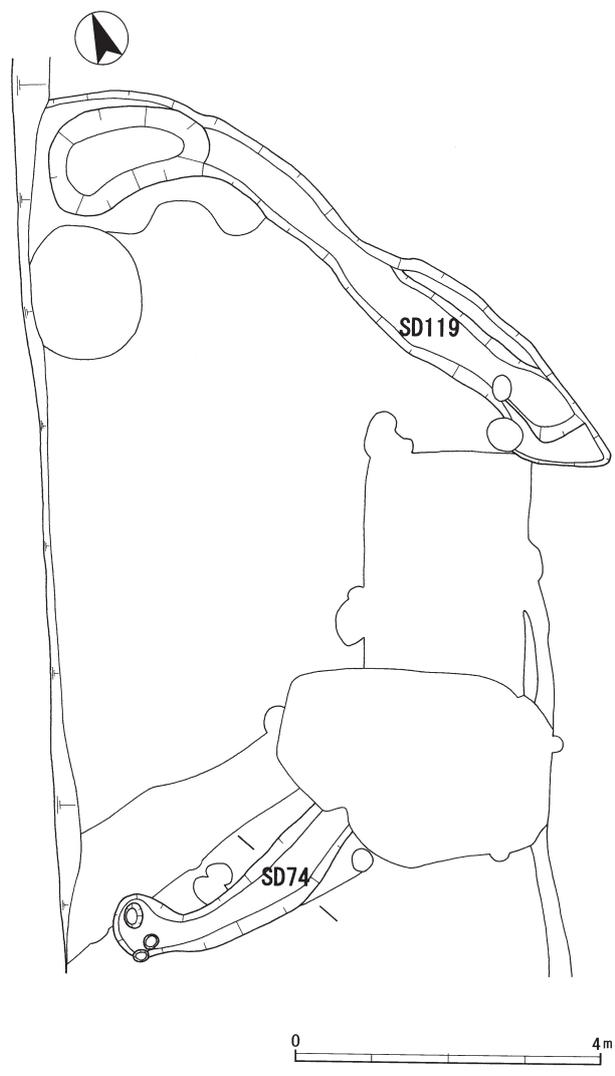


第21図 C地区遺構平面図(1:200)・土層断面図(1:100)

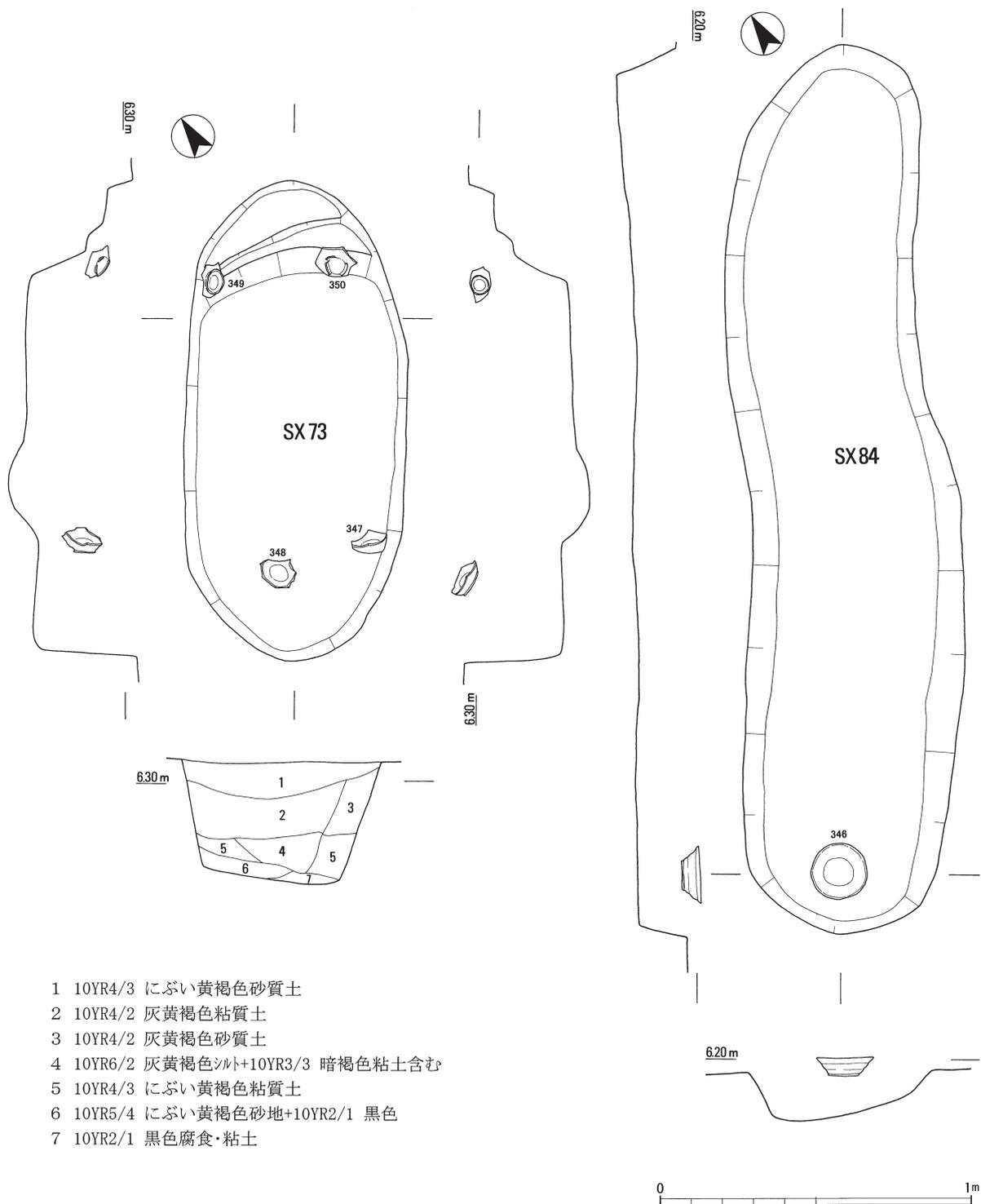


- 1 2.5Y5/3 黄褐色砂+
- 2.5Y7/2 灰黄色砂質土ﾌﾞｯｸｸ+
- 10YR4/3 にぶい、黄褐色砂質土ﾌﾞｯｸｸ多混
- 2 2.5Y5/3 黄褐色砂+
- 2.5Y7/2 灰黄色砂質土ﾌﾞｯｸｸ混
- 3 2.5Y5/4 黄褐色粘質土+
- 2.5Y7/4 浅黄色粘質土ﾌﾞｯｸｸ多混
- 10YR7/6 明黄褐色粘質土+
- 2.5Y7/4 浅黄色粘質土ﾌﾞｯｸｸ多混

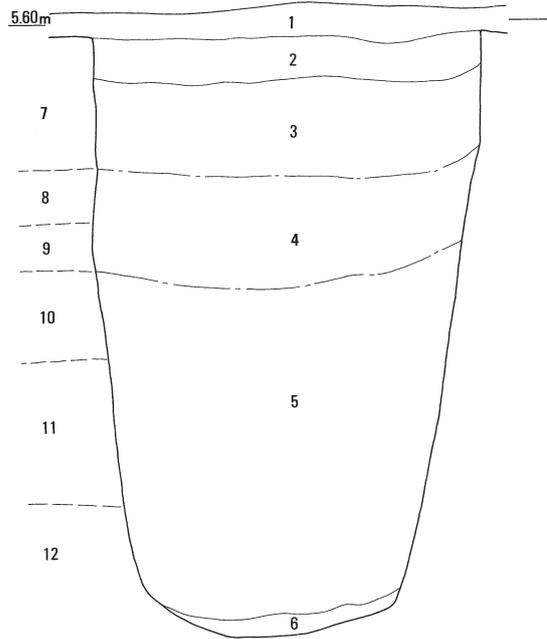
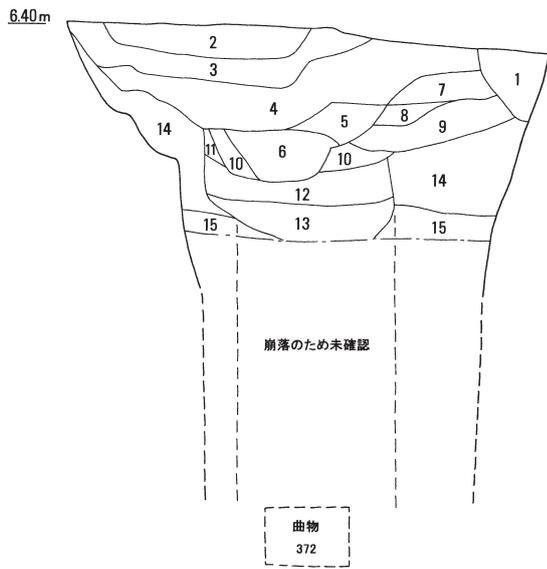
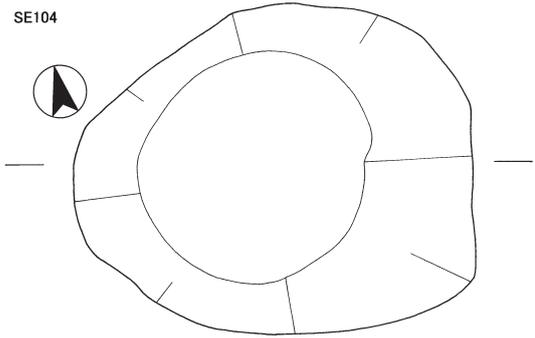
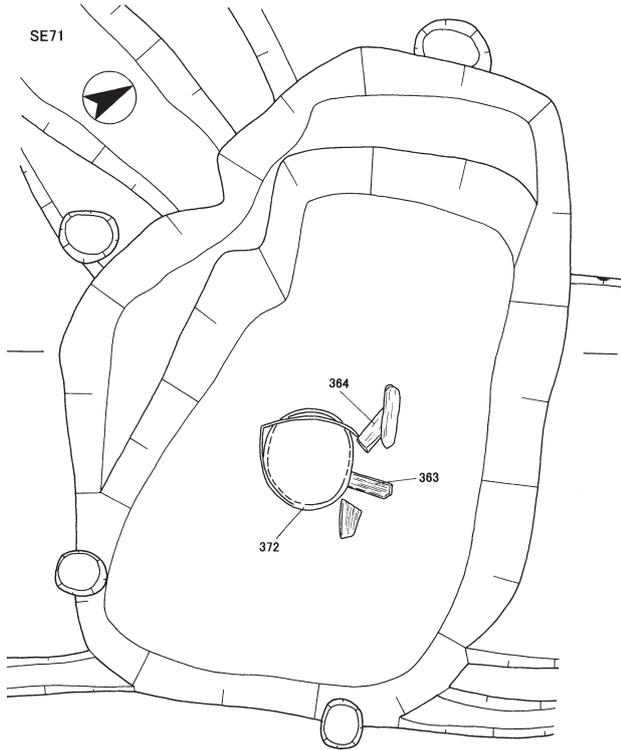
第22図 S K91平面図・断面図 (1 : 40)



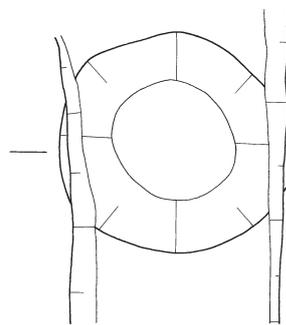
第23図 S D74・119平面図・断面図 (1 : 100、1 : 20)



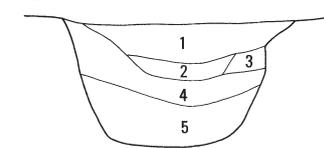
第24図 SX73・84平面図・断面図 (1:20)



SE116



6.20m



【SE104】

- 1 表土
- 2 10YR4/2灰黄褐色土  
+2.5Y7/6明黄褐色土
- 3 暗褐色粘質土  
+ 黄灰粘土
- 4 青灰色鉄分沈着粗砂混
- 5 10G6/1緑灰色粘土  
+10G4/1暗緑灰色粗砂混
- 6 7.5Y4/3暗グレー色粘質土  
+10G4/1暗緑灰色粘土ブロック混
- 7 2.5Y7/6明黄褐色土粘質土
- 8 2.5Y6/2灰黄色土ブロック
- 9 2.5Y6/2灰黄色土鉄分多
- 10 10G4/1暗緑灰色土ブロック
- 11 10G4/1暗緑灰色土粘質土
- 12 5B6/4暗青灰色土粘質土

【SE116】

- 1 5YR5/6明赤褐色粘質土  
+2.5YR4/3赤褐色粘質土  
ブロック混(鉄分多)
- 2 5YR5/8明赤褐色粘質土  
+5YR4/1暗赤褐色粘質土ブロック混(鉄分多)
- 3 7.5YR7/3赤褐色粘質土
- 4 7.5YR6/6暗赤褐色粘質土(鉄分多)
- 5 7.5Y5/1暗赤褐色粘質土  
+10YR7/6明黄褐色粘質土混(鉄分多)

- |                                              |                                              |
|----------------------------------------------|----------------------------------------------|
| 1 2.5Y5/3黄褐色砂<br>+10YR5/6黄褐色粘土(以下地山ブロック多く含む) | 8 10YR4/2灰黄褐色砂質土                             |
| 2 10YR5/3にぶい黄褐色砂<br>+地山ブロック多く含む              | 9 2.5Y5/1黄灰色砂質土<br>+上部に2cm程の地山ブロック多く含む       |
| 3 10YR4/3にぶい黄褐色砂質土<br>+地山ブロック多く含む            | 10 2.5Y5/1黄灰色砂質土<br>+地山ブロック多く含む              |
| 4 10YR5/2灰黄褐色砂<br>+地山ブロック多く含む                | 11 10YR4/2灰黄褐色粘質土                            |
| 5 2.5Y5/1黄灰色砂<br>+10YR3/3暗褐色粘質土(以下ブロック多く含む)  | 12 2.5Y5/1黄灰色砂質土<br>+上部に2.5Y4/1黄灰色粘土ブロック多く含む |
| 6 10YR3/2暗褐色粘質土<br>+地山ブロック多く含む               | 13 2.5Y5/1黄灰色砂質土<br>+地山ブロック多く含む              |
| 7 2.5Y5/3黄褐色砂質土                              | 14 2.5Y5/1黄灰色砂質土<br>+地山ブロック多く含む              |
|                                              | 15 2.5Y5/1黄灰色砂<br>+地山ブロック少し含む                |

第25図 SE71・104・116平面図・断面図 (1:40)

形を呈する遺構である。井戸の可能性も考えられたが、深さは約50cmで他の井戸よりも浅く、底が平らで井戸枠などの出土も痕跡の確認もできないことから、井戸ではないと考えた。埋土中の最新の遺物は、藤澤編年第6型式の山茶椀である。

**SX73** (第24図) 調査区中央西寄りで確認した遺構である。約1.6m×約0.7mの楕円形で深さは40cmである。北側が2段のテラス状になっており、四隅に山茶椀が1点ずつ、計4点出土している。土層観察では箱状のものが埋設されていた可能性が考えられ、中世墓と思われる。埋土中の最新の遺物は、藤澤編年第6型式の山茶椀である。

**SX84** (第24図) 長さ約2.9m、幅約0.7mの溝状の土坑で、深さは約20cmである。完形の山茶椀が正位に据えられたような状態で出土していることから中世墓と思われる。埋土中の遺物は、藤澤編年第5型式の山茶椀1点のみである。

**SE71** (第25図) 調査区中央で検出した3.5m×2.5mの隅丸方形の井戸である。西側と北側にテラスを持つことから当初2基の井戸が切り合っているものと考えたが、最終的には1基の井戸と判断した。埋土崩落のため詳細な土層観察はできなかったが、底部(標高約3.8m)で井戸枠と曲物1段と支柱と思われる杭や横棧と思われる板材が出土しており、本来は隅柱横棧式の井戸枠であったと思われる。埋土は多量のブロック土を含むことから人為的に埋められたものと考えられる。埋土からは藤澤編年第5

～6型式の山茶椀片が多く含まれており、中世前半に埋められたものと考えられる。

**SE116** (第25図) 調査区南部で検出した井戸である。径約1.0mの円形を呈し、深さ約70cmで、SD89に切られる。井戸枠などは出土しなかったが、井戸の可能性のある遺構である。

**SE104** (第25図) 調査区南端で検出した井戸である。約2.2m×1.8mの楕円形を呈する。埋土が粘土質の斑土で非常に掘削しにくいことから、重機により断ち割りを行った。検出面から約3.2m下(標高2.4m)で底を確認したが、埋土の崩落により詳細な観察を行うことができなかった。底まで大きなブロックを含む斑土となっており、人為的に短期間に埋められたものと考えられる。遺物は常滑製品甕片が1点出土したのみで、時期は不明である。井戸枠などは確認できなかったが、素掘りの井戸と考えられる。

**柱穴** 調査区北部では多くのピットを確認したが掘立柱建物としてまとめられるものはなかった。しかし他の遺構の状況や出土遺物などから、検出したピットは中世に属すると思われる。

**小穴群** 調査区南部で確認した。南北約1.0m、東西約0.8m間隔で並ぶ。作物の痕跡と考えられるが建物の可能性も否定できないため攪乱として図示した。いずれも近世の溝を切っており、近世以降のものである。(水谷)

### 3 出土した遺物

#### 溝出土遺物 (第26図)

291～293はSD74から出土した。291は内彎口縁壺で川崎編年の島貫Ⅱ期頃、292は壺の底部で弥生時代中期、293は高杯の脚部である。

294～295はSD107から出土した。294は壺の底部、295は手焙形土器で突帯上にキザミが施される。

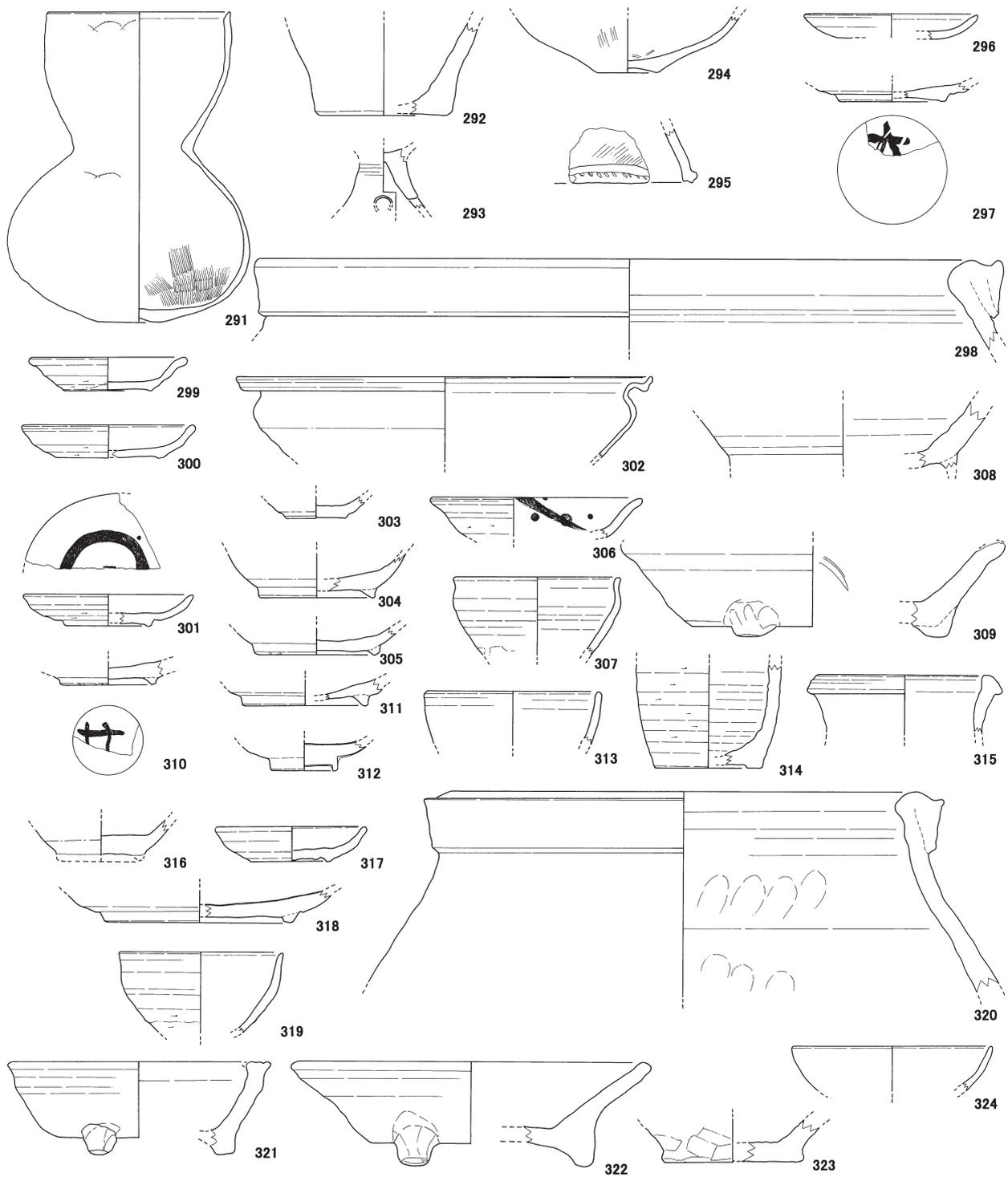
296はSD110から出土した。296は土師器皿で川崎分類皿cである。

297～298はSD88から出土した。297は瀬戸美濃産志野丸皿で藤澤編年登窯第2～3小期、底部に墨書があり、「大□」と書いたのであろうか。298は常滑製品の甕で中野編年10型式である。

299はSD92から出土した。299は鉄釉の稜皿で藤澤編年大窯第3段階前半である。

300～301はSD95から出土した。300は瀬戸美濃産灰釉丸皿で登窯第1～2小期、301は瀬戸美濃産鉄絵志野皿で登窯第2小期、鉄絵は「○」と描いたようである。

302～309はSD86から出土した。302は土師器鍋で、伊藤編年第4段階f型式、303は山皿で藤澤編年第5型式、304～305は山茶椀で、第6型式である。305は内面に墨が付着し転用硯であろうか。306は瀬戸美濃産反皿で登窯第1～2小期、307は天目茶椀で登窯第5～6小期、308は片口鉢で第6～7型式、



SD74 : 291~293

SD107 : 294~295

SD110 : 296

SD88 : 297~298

SD92 : 299

SD95 : 300~301

SD86 : 302~309

SD76 : 310~315

SD78 : 316~322

SD75 : 323

SD114 : 324

0 20cm

第26図 S D 74・107・110・88・92・95・86・76・78・75・114出土遺物実測図 (1 : 4)

309は常滑製品の浅鉢である。

310～315はSD76から出土した。310は山茶椀で第6型式、底部外面に墨書があり、ドーマンを書いたのであろうか。311は山茶椀第5型式、312は青磁椀で底部外面に付着物がある。313は瀬戸美濃産志野丸椀で登窯第1～2小期、314は瀬戸美濃産無釉の徳利で大窯第2～3段階、315は壺であり、近世のものであろう。

316～322はSD78から出土した。316は山茶椀で第7型式である。317は瀬戸美濃産内禿皿で大窯第3段階後半、内面にトチン痕、底部外面に輪ドチ跡が

残る。318は瀬戸美濃産黄瀬戸鉢で登窯第3～4小期、319は天目茶椀で登窯第2小期、すべて近世のものである。320は常滑製品の甕で10型式、321～322は常滑製品の浅鉢である。

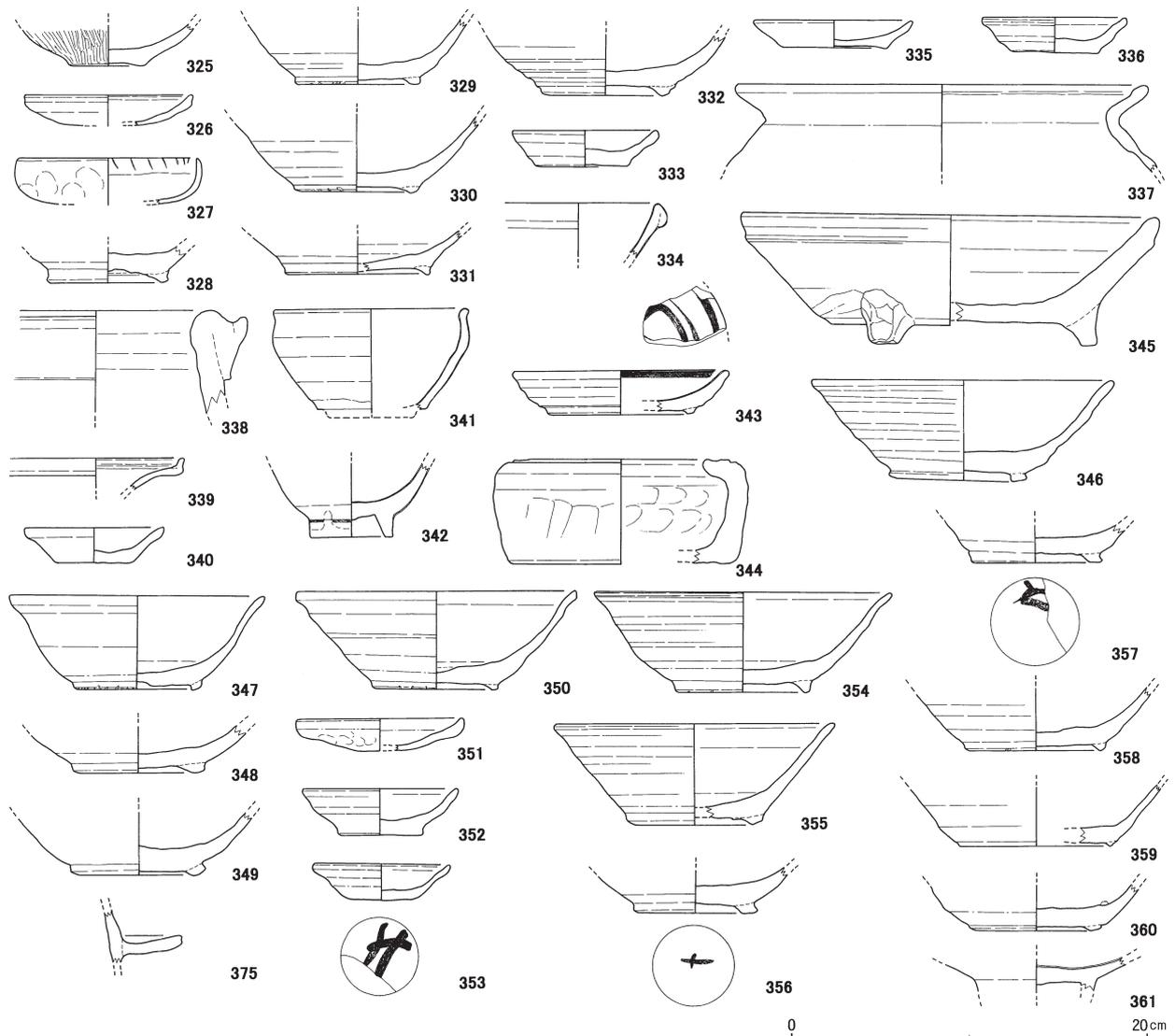
323はSD75から出土した。323は常滑製品の甕の底部である。

324はSD114から出土した。324は信楽産陶器椀で江戸後期、内面にトチン跡が残る。

土坑出土遺物（第27図）

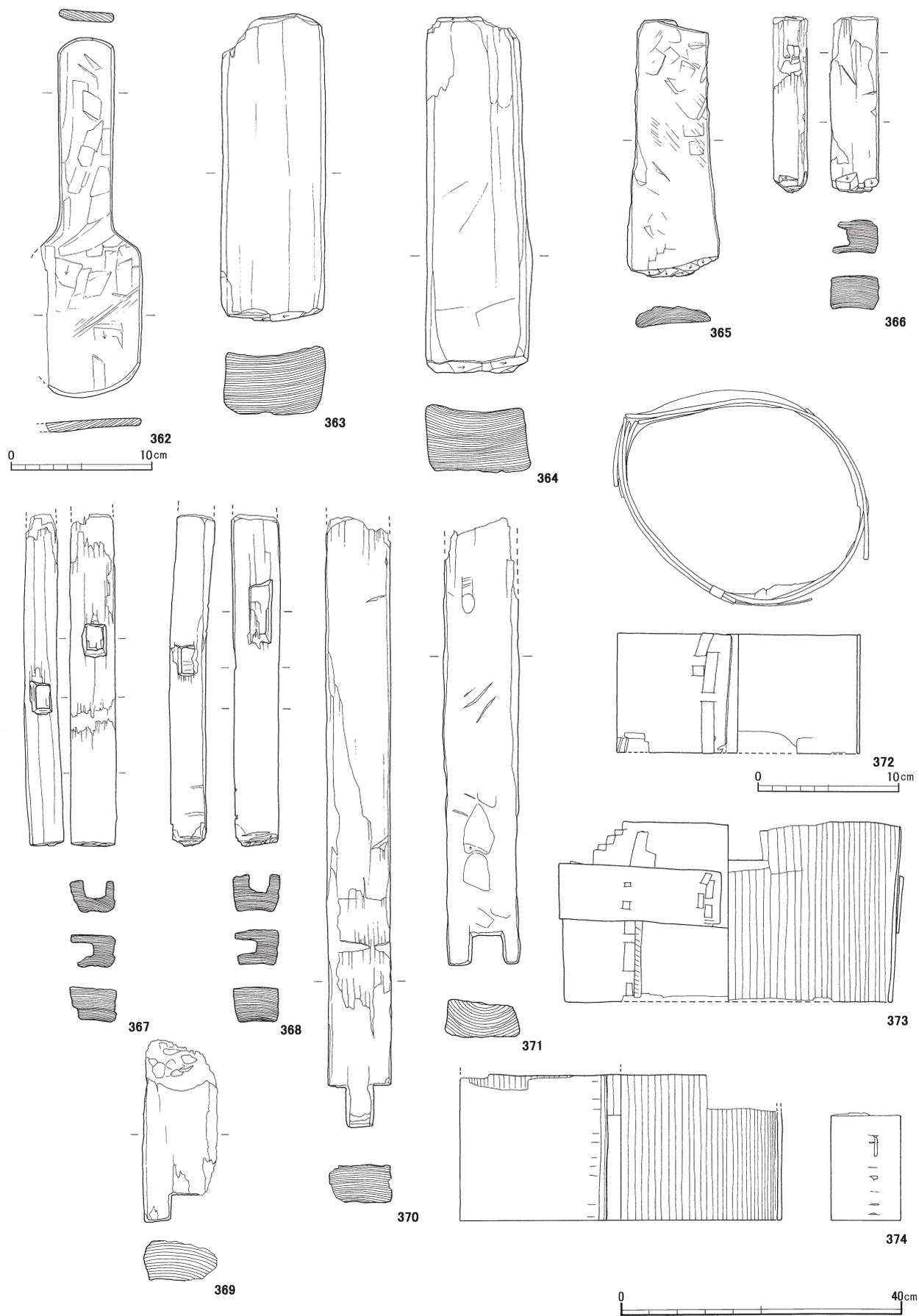
325はSK111から出土した。325は壺の底部である。

326～331はSK115から出土した。326～327は土師



SK111 : 325	SK115 : 326～331	SK91 : 332	SK70 : 333～334	SK109 : 335～337
SK113 : 338	SK72 : 339～342	SK106 : 343～344	SK98 : 345	SX84 : 346
SX73 : 347～350	SE71 : 351～361	SE116 : 375		

第27図 SK111・115・91・70・109・113・72・106・98、SX84・73、SE71①・116出土遺物実測図（1：4）



第28図 S E 71出土遺物実測図② (362~364・372= 1 : 4、他は 1 : 8)

器皿で、326は皿c、327は南伊勢系の皿で工具アタリ痕が残る。328～331は山茶椀で、328は第5型式、329～331は第6型式である。

332はSK91から出土した。332は第6型式の山茶椀である。

333～334はSK70から出土した。333は山皿で第6型式、334は白磁椀である。

335～337はSK109から出土した。335はロクロ土師器、336は山皿で第6型式、337は南伊勢系甕（仮）A段階である。

338はSK113から出土した。338は常滑製品の甕10型式である。

339～342はSK72から出土した。339は南伊勢系鍋第4段階d型式か、340は山皿第5型式である。341は天目茶椀で登窯第5小期、342は肥前産椀で近世のものである。

343～344はSK106から出土した。343は鉄絵皿で

登窯第2小期、344は常滑製品の鉢で、外面にススが付着している。

345はSK98から出土した。345は常滑製品の浅鉢である。

#### 中世墓出土遺物（第27図）

346はSX84から出土した。346は山茶椀第5型式である。

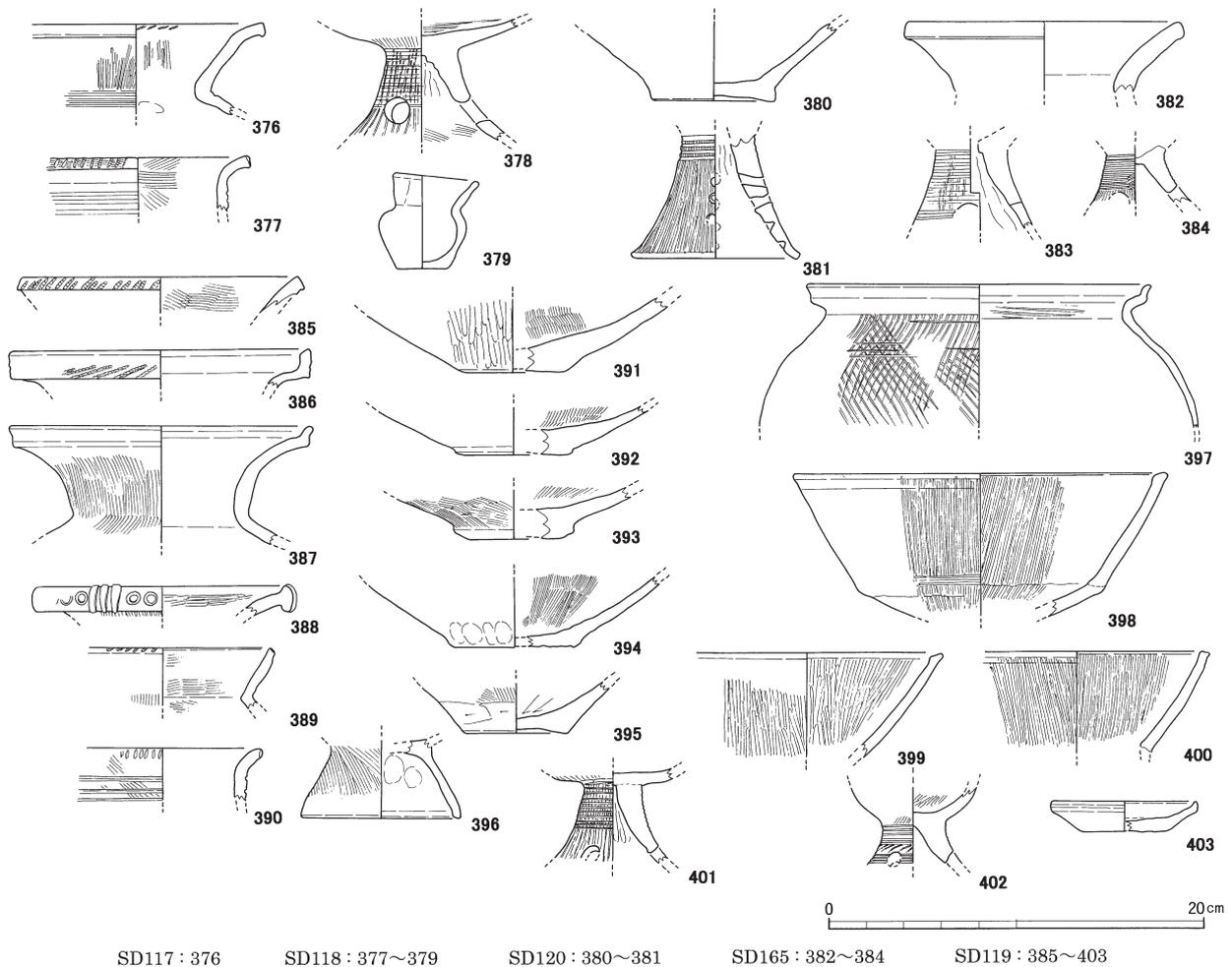
347～350はSX73から出土した。347～350は山茶椀で、347は第6型式で内面にススが付着している。348～350は第5型式である。

#### 井戸出土遺物（第27～28図）

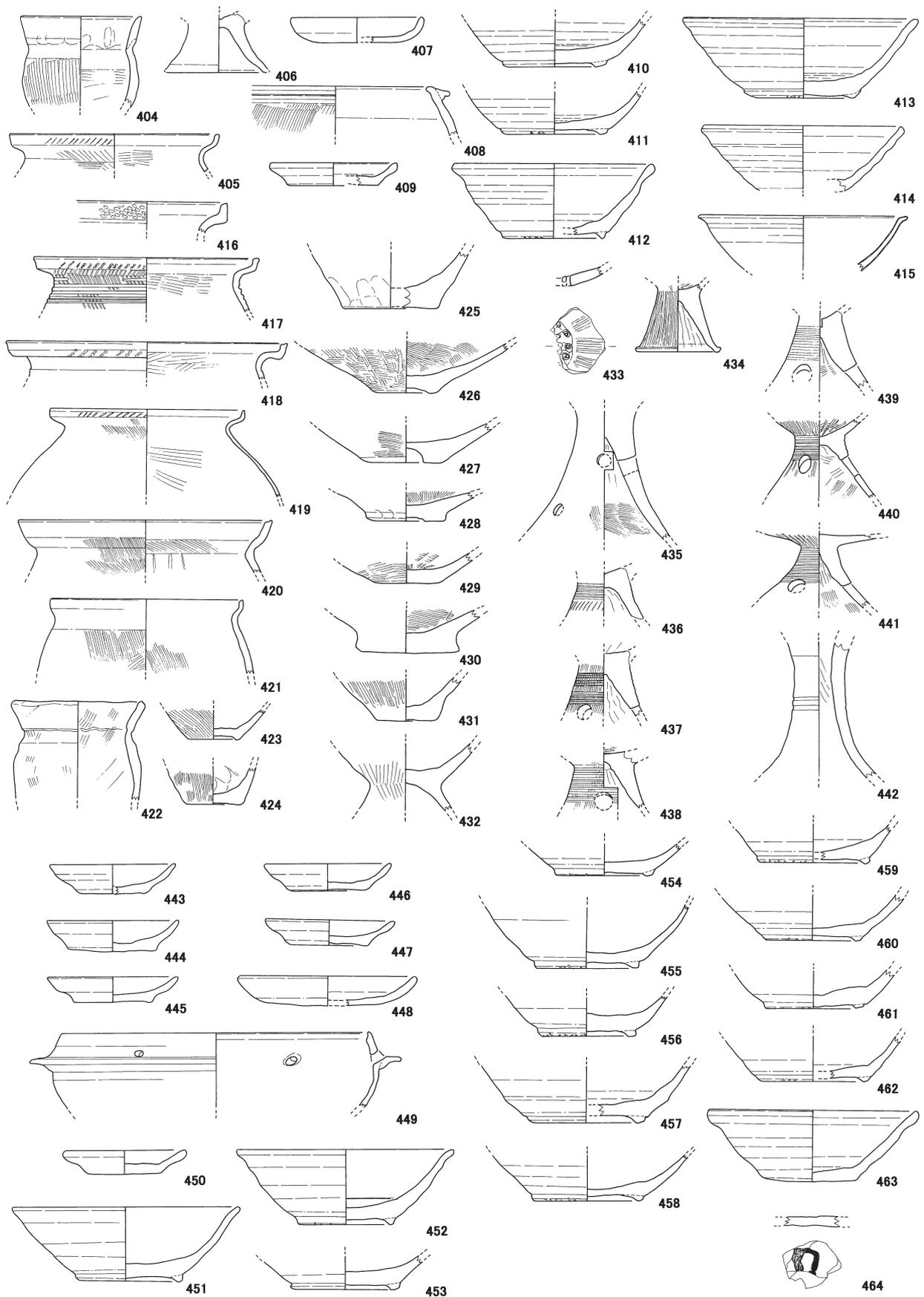
351～374はSE71から出土した。

#### ①土師器・陶器

351は土師器皿で小皿b、352～353は山皿第5型式で、353は底部外面にドーマンのような墨書が書かれている。354～360は山茶椀である。354～357は第5型式で、356～357は底部外面に墨書が書かれ、



第29図 下層遺構出土遺物実測図（1：4）



Pit : 404~415

包含層 : 416~464

0 20cm

第30図 Pit、包含層①出土遺物実測図 (1 : 4)

いずれも記号であろうか。358～360は第6型式、360は内外面にススが付着し、内面は重ね焼き痕が残る。361は青磁椀である。

②木製品

362はしゃもじ、363～365は井戸杵部材であろうか。366～368は井戸杵支柱で、横棧と重なる箇所を平らに削っている。367～368は先端が潰れているようで、打ち込んだ際に潰れたのであろうか。369～371は井戸杵横棧である。372～374は曲物で、372は小型で1枚の側板で仕上げられている。373は1段籬が残り、内面は縦方向にケビキが入れている。374は籬が外れて残存せず、内面は縦方向にケビキが入れている。

375はSE116から出土した。375は土師器羽釜である。

下層遺構出土遺物（第29図）

376はSD117から出土した。376は広口壺である。

377～379はSD118から出土した。377は弥生時代前期の甕で、378は高杯、379はミニチュア土器壺で

ある。

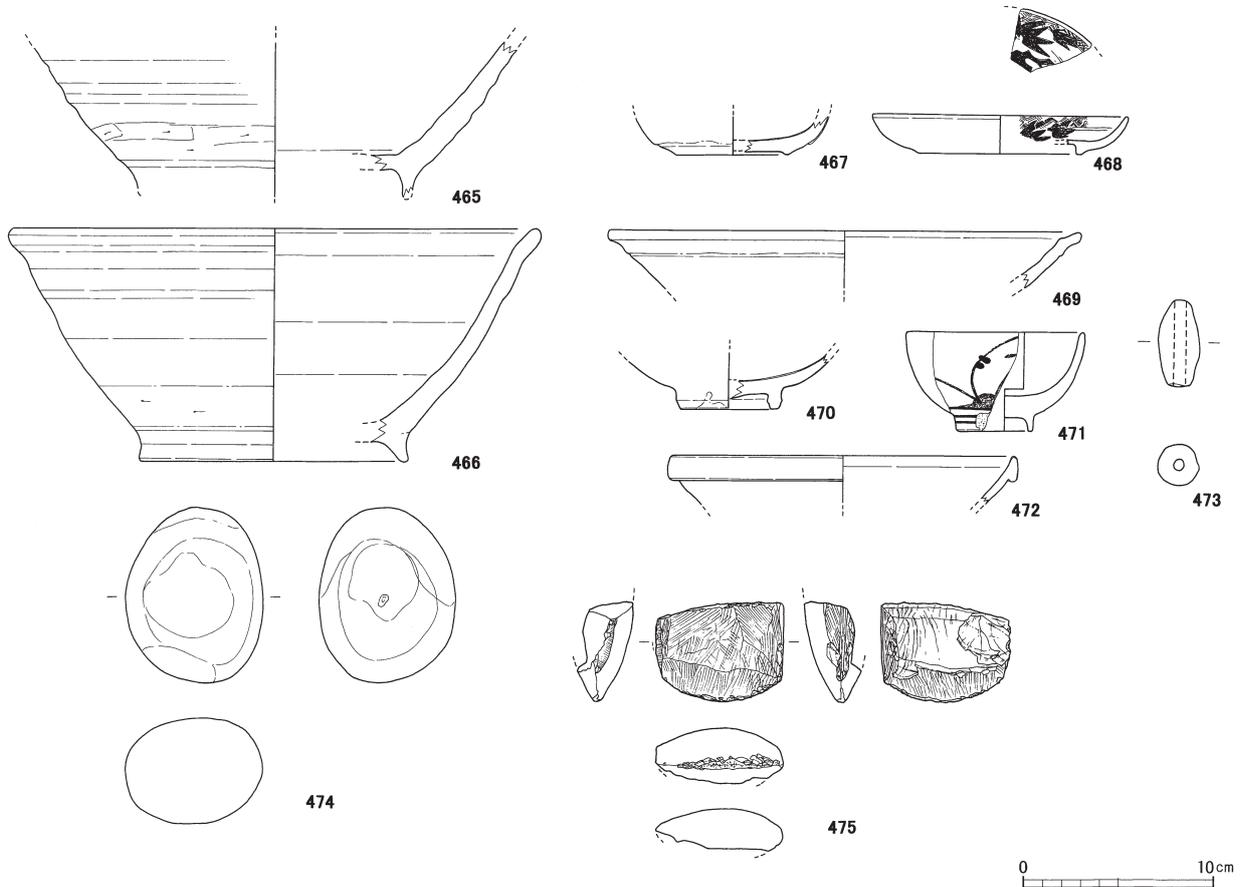
380～381はSD120から出土した。380は壺の底部で、381は高杯である。高杯は4方向スカシ、4段で構成されている。スカシは内外面貫通しているものもあれば、外側から内側へないしは内側から外側へ開けているものの貫通していないものがある。

382～384はSD165から出土した。382は広口壺、383～384は高杯である。

385～403はSD119から出土した。385～387は広口壺、388は複合口縁壺、389は短頸壺、390は弥生時代前期の甕、391～395は壺の底部である。393は底部外面に石粒・砂粒が多量に付着している。396～397は台付甕で、397はS字状の口縁である。398～402は高杯で島貫Ⅲ期併行、403は山皿第7型式である。

Pit出土遺物（第30図）

404～406は甕で、404はく字状、405は受口状、406は台付甕の脚部である。407は土師器皿で皿c、408は羽釜である。羽釜は外面をハケメで調整した



第31図 包含層出土遺物実測図②（1：4）

後、口縁端部を貼付けている。

409は山皿で第6型式、410～414は山茶椀で、410・413は第5型式、411～412・414は第6型式である。415は青磁椀である。

### 包含層出土遺物（第30～31図）

#### ①弥生時代末～古墳時代

416は広口壺、417～422は甕である。口縁部の形状は、417～421が受口状、422がく字状であろう。423～431は壺もしくは甕の底部である。432は台付甕で素地に多くの砂粒が混じっている。433は甑である。434～441は高杯である。

442は須恵器高杯で長脚二段スカシである。

#### ②中世他

443～447はロクロ土師器、448土師器皿c、449は

中北勢系羽釜で伊藤編年Ⅱ a段階併行期である。

450は山皿で第7～8型式、451～464は山茶椀である。451・453・455～458は第5型式、452・454・459～462は第6型式、463は第7型式、464は第6～7型式で、底部外面に墨書が見られる。465～466は片口鉢で465は第5～6型式、466は第6型式である。467は鉄釉の瀬戸美濃産皿で登窯第2小期であろうか。468は瀬戸美濃産絵皿で近代のもの、469は瀬戸美濃産鉄絵鉢で登窯第2～3小期である。470は青磁椀、471は瀬戸美濃産湯呑で、472は白磁椀、473は土鍾、474は磨石で平坦面と側面に広く磨り面が形成され、赤色顔料が付着している。475は磨製石斧である。（酒井）



第32図 D地区遺構平面図（1：200）

# VI D地区の調査成果

## 1 調査区の地形と基本層序

調査区は、標高約5.5～5.7mの沖積地に位置し、現況は水田である。調査区の基本層序は、第33図第1層暗褐色砂質土（耕作土）、第2層橙褐色砂質土（床土）、第3層灰褐色砂質土、第4層黒褐色粗砂、第5層黒色粘土、第6層明黄褐色粘土（検出面）である。（酒井）

## 2 検出した遺構

今回の調査で確認された遺構は、鎌倉時代から江戸時代にかけての土坑、井戸、中世墓、溝等である。ここでは主要な遺構のみを記述する。記述していない遺構に関しては第4表遺構一覧表を参照されたい。

**SD121** 調査区を東西方向に走る。幅2.5～5×16m以上で、残存する深さは約60～80cmである。埋土からは土師器皿・鍋、山茶碗等が出土している。

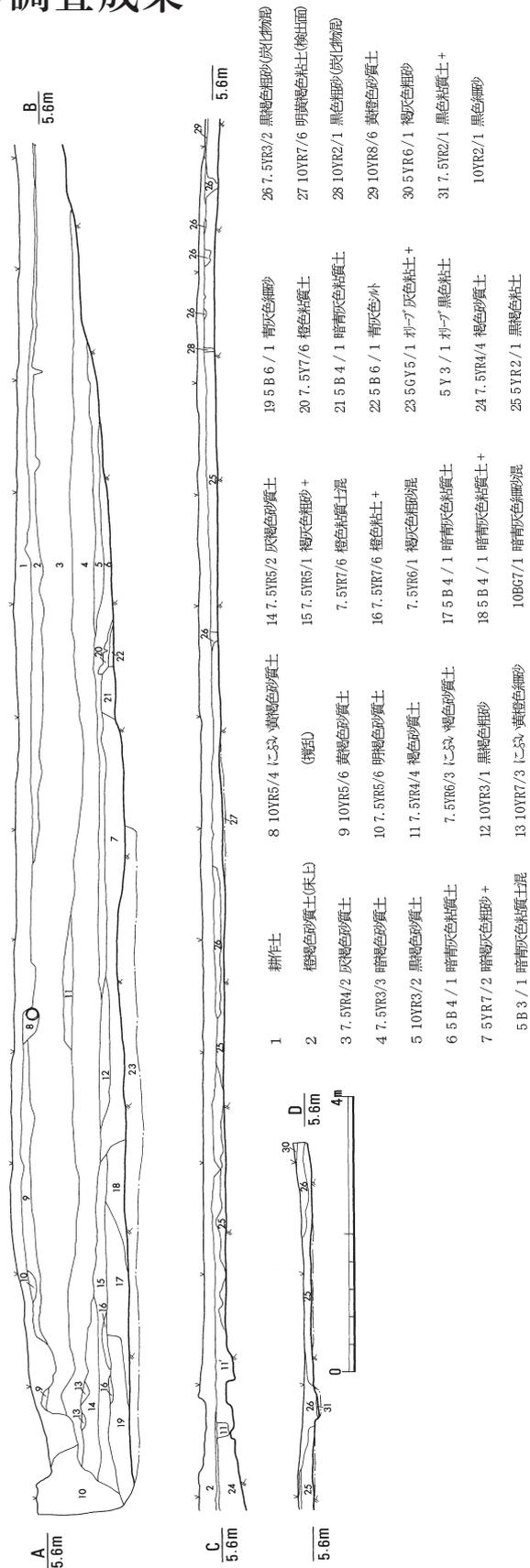
SD129と重複するが、前後関係は不明であるため、便宜的に地区杭g3とg5の遺構ラインを繋ぐ所までをSD121として取り扱った。埋土中の大半の遺物は、藤澤編年第5～8型式の山茶碗であるが、最新の遺物は、藤澤編年登窯第2小期の天目茶碗である。

**SD129**（第34図） 調査区を南北方向に走る。幅3.2×17.4m以上で、残存する深さは74～98cmである。調査区東壁土層7層の暗青灰色層から第34図の山茶碗、常滑製品甕等が出土している。埋土中の大半の遺物は、藤澤編年第5～8型式の山茶碗であるが、最新の遺物は、中野編年10型式の常滑製品甕である。

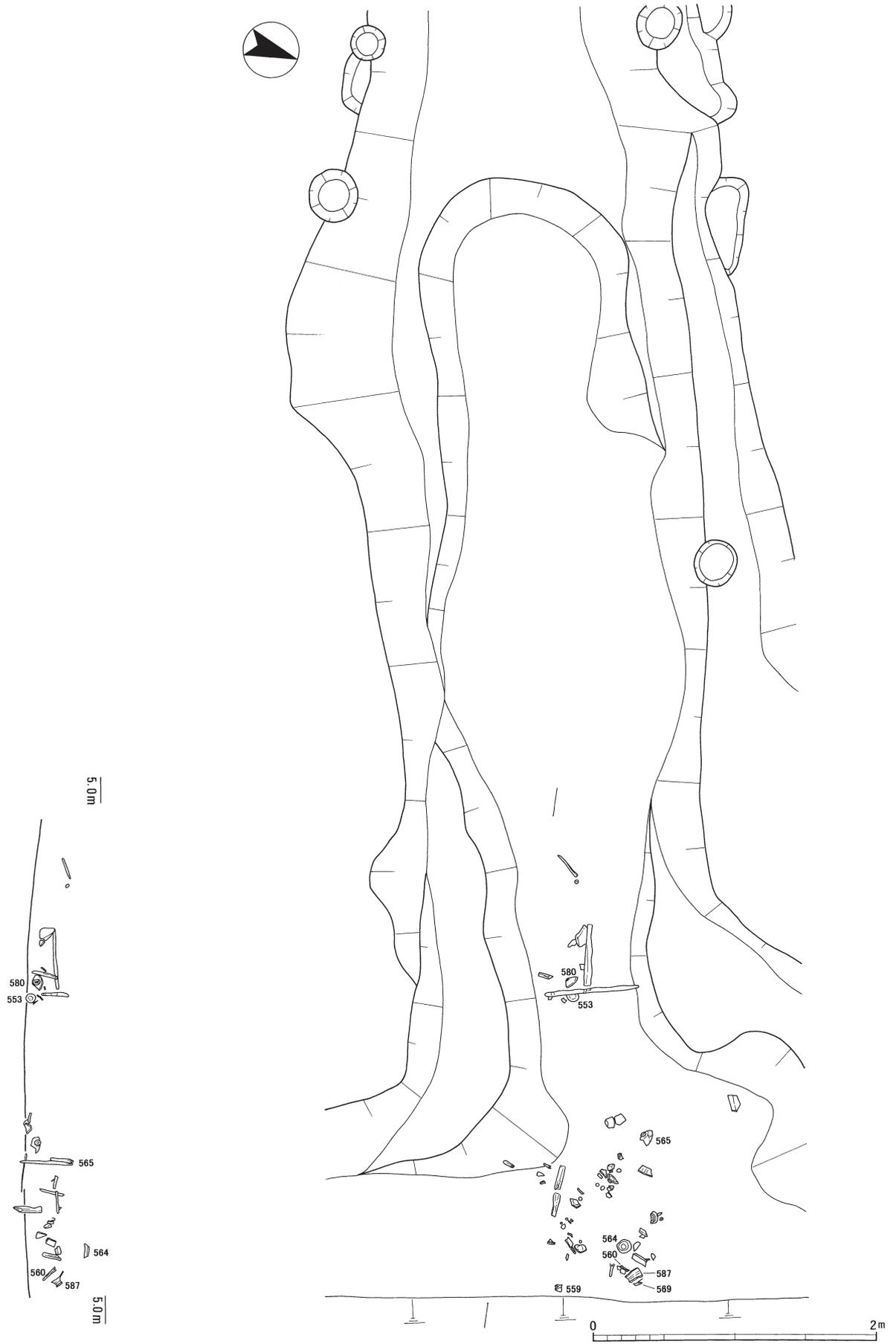
**SK135** 0.73×0.44mの楕円形を呈し、残存する深さは9cmである。埋土から土師器皿が1点のみ出土している。

**SK150** 4.0×4.2mの長方形を呈し、残存する深さは22～41cmである。埋土から土師器皿・羽釜が出土した。埋土中の最新の遺物は、伊藤編年第4段階の羽釜である。

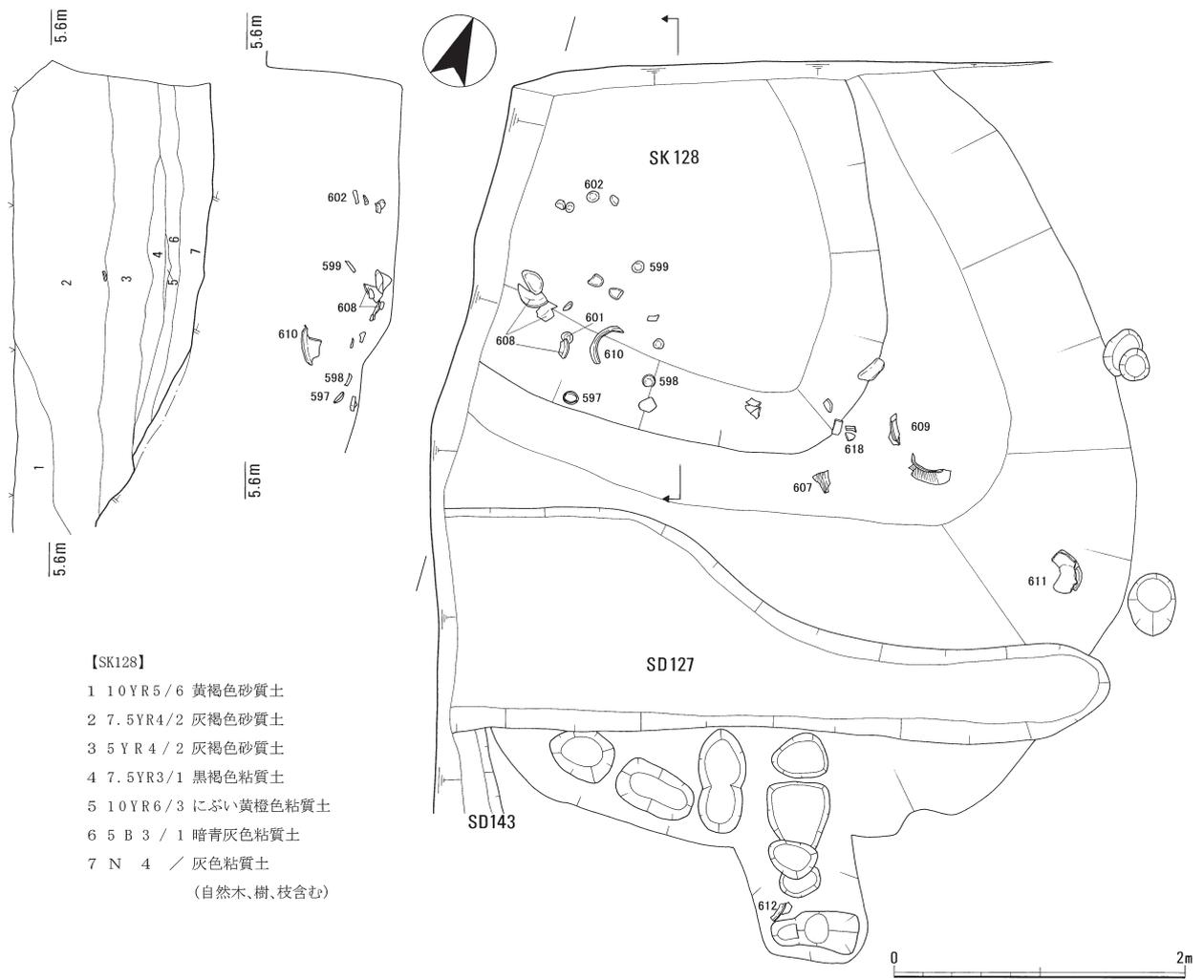
**SK128**（第35図） 5.4×4.9m以上の楕円形を呈し、残存する深さは75～100cmである。遺構の大半は調査区外へ延びていく。埋土から土師器皿・鍋・



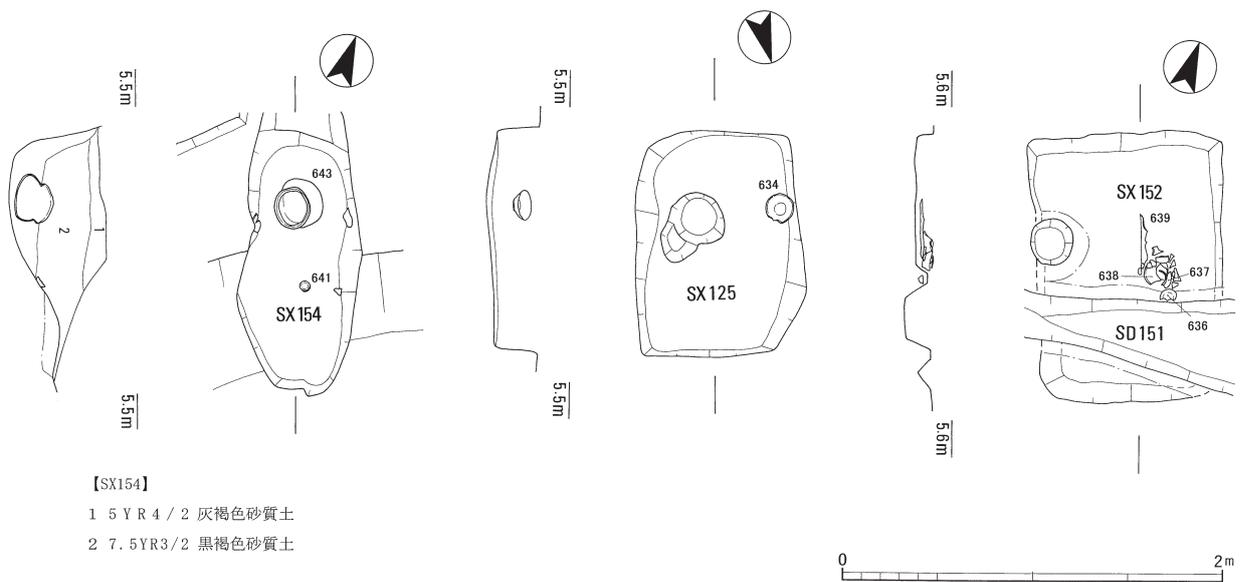
第33図 D地区土層断面図 (1 : 100)



第34图 SD129平面图·断面图 (1:40)



第35図 SK128平面図・断面図 (1:50)



第36図 SX154・125・152平面図・断面図 (1:40)

羽釜、常滑製品甕等が出土した。埋土中の最新の遺物は、藤澤編年古瀬戸後Ⅲ期の折縁小皿である。

**SX125** (第36図) 1.2×0.9mの隅丸長方形を呈し、残存する深さは12~22cmである。埋土から山茶碗(634)が正位の状態で出土している。埋土中の最新の遺物は、藤澤編年第6型式の山茶碗である。

**SX152** (第36図) 1.6×1.0mの長方形を呈し、残存する深さは6~12cmである。埋土から鉄製刀子と山茶碗(637)が(638)に蓋をするような状態で出土している。また、SX152から流出したものと思われる骨の小片がSD151から出土している。埋土中の最新の遺物は、藤澤編年第5型式の山茶碗である。

**SX154** (第36図) 1.4×0.7mの楕円形を呈し、

残存する深さは31~35cmである。SD136、SD121掘削後検出した。埋土から体部に2ヶ所、焼成後穿孔を持つ南伊勢系鍋(643)、土師器皿(641)が出土している。埋土中の最新の遺物は、伊藤編年第2段階c型式の羽釜である。

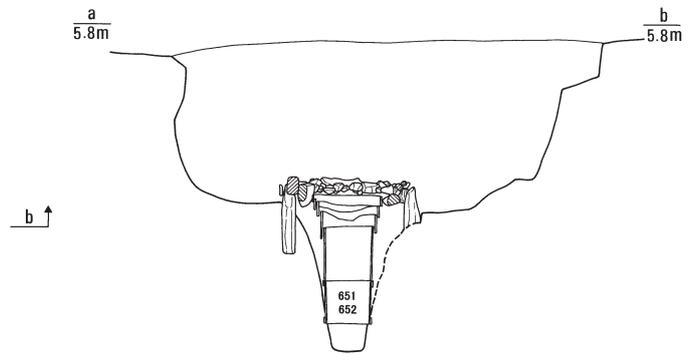
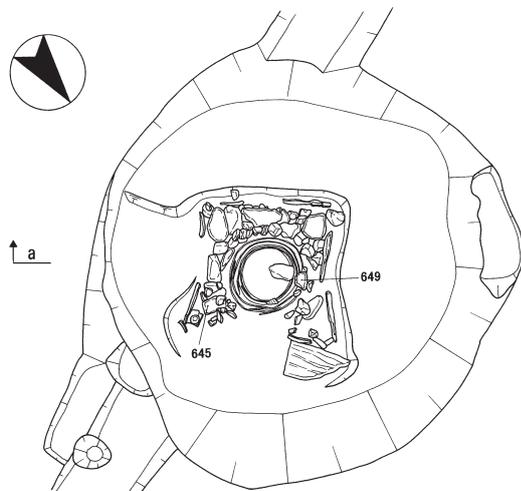
**SE126** (第37図) 径2.9mの円形の井戸で、深さは2m(標高3.2m)である。堀方は、方形で、井戸枠は一辺が80cm程の隅柱を持ち、縦板の一部が確認できる。曲物は三段積み上げで、中段の腐食が著しく、埋土に面影を留める状態であった。埋土から山皿、山茶碗等が出土している。埋土中の最新の遺物は、藤澤編年第9型式の山茶碗である。

(酒井)

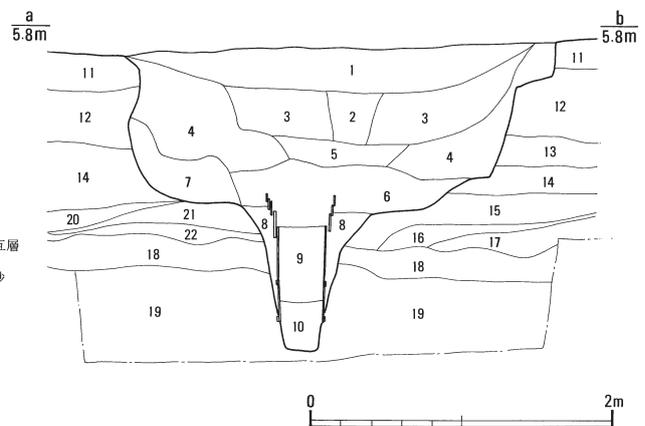
### 3 出土した遺物

今回の調査区で、SD121から最も多く遺物が出土

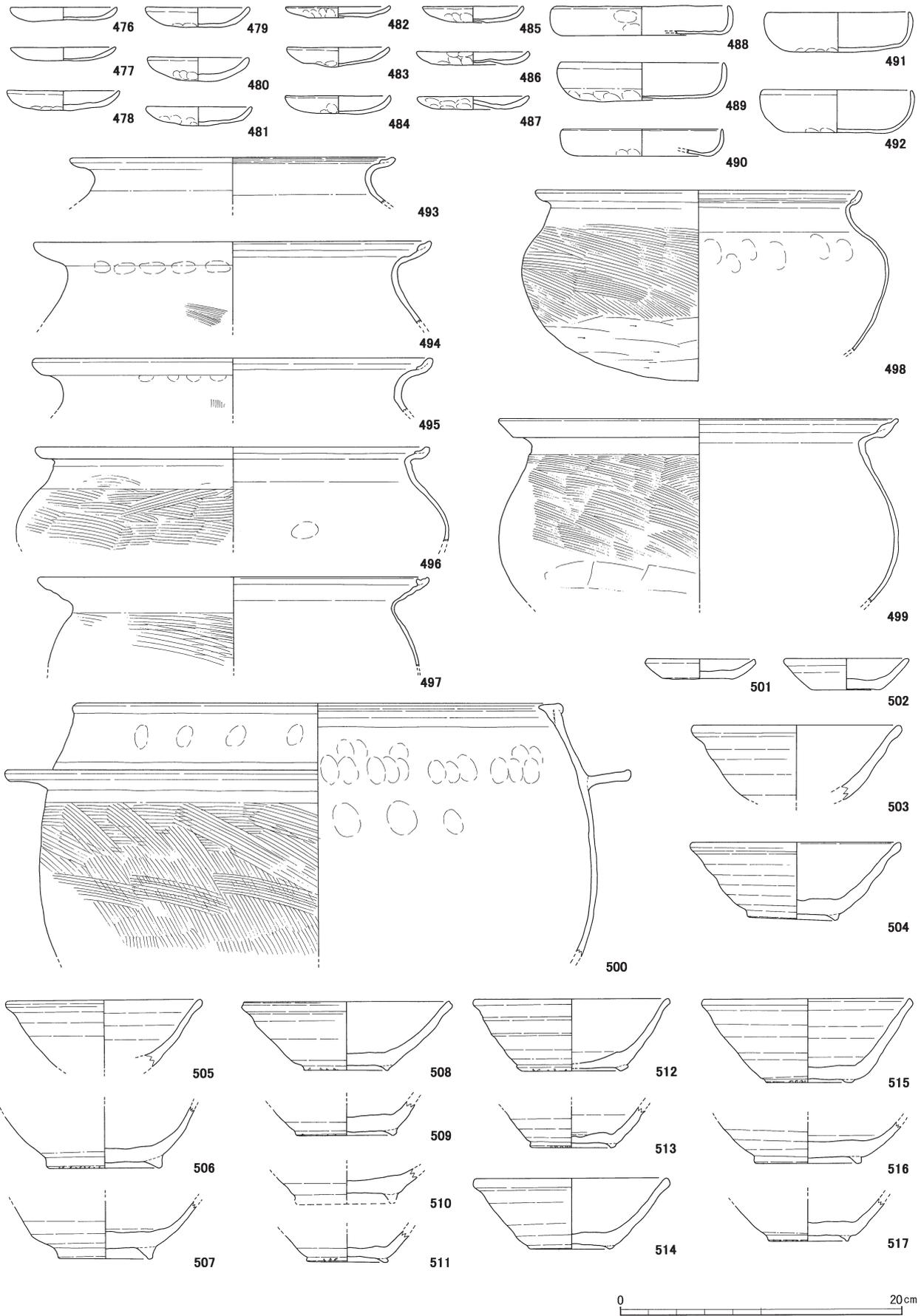
している。出土した遺物は、弥生時代から近世まで



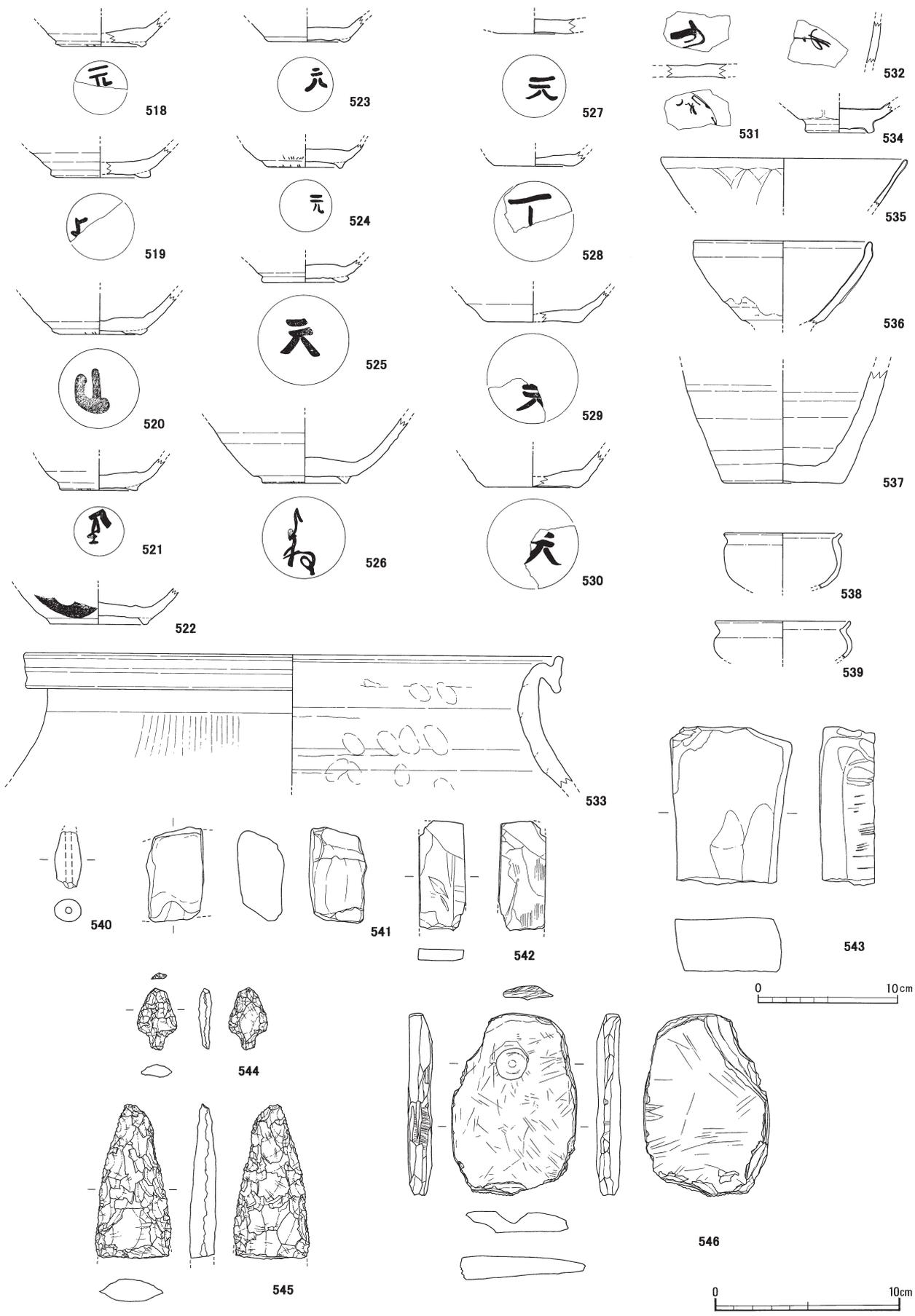
- |                     |                   |                    |
|---------------------|-------------------|--------------------|
| 1 7.5YR4/2 灰褐色砂質土   | 8 5B5/1 青灰色粗砂     | 16 7.5YR6/2 灰褐色粗砂  |
| 2 10YR6/2 灰黄褐色砂質土   | 9 5B7/1 明青灰色粗砂    | 17 5YR6/2 灰褐色粗砂    |
| (炭化物混)              | (木質多く含む)          | 18 5YR1.7/1 黒色粘土   |
| 3 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土 | 10 N 8 / 灰白色粗砂    | → N 2 /            |
| 4 10YR4/4 褐色砂質土+    | 11 10YR8/6 黄橙色シルト | 19 10BG5/1 青灰色粗砂+  |
| 7.5YR7/2 暗褐色砂質 Br 混 | 12 10YR8/4 浅黄橙色細砂 | 10BG7/1 明青灰色粗砂の互層  |
| 5 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 | 13 5YR7/4 にぶい橙色粗砂 | 20 5YR4/4 にぶい赤褐色粗砂 |
| 6 5B4/1 暗青灰色粘質土+    | (シテ状)             | 21 5YR6/2 灰褐色粗砂    |
| 5YR4/2 灰褐色細砂+       | 14 5YR7/1 灰白色粗砂   | (シテ状)              |
| 10YR7/6 明黄褐色シルト混    | (シテ状)             | 22 5YR4/6 赤褐色土粗砂   |
| (礫多く含む)             | 15 5YR7/2 明褐色粗砂   | (鉄分含む)             |
| 7 2.5Y7/6 明黄褐色細砂    | (シテ状)             |                    |



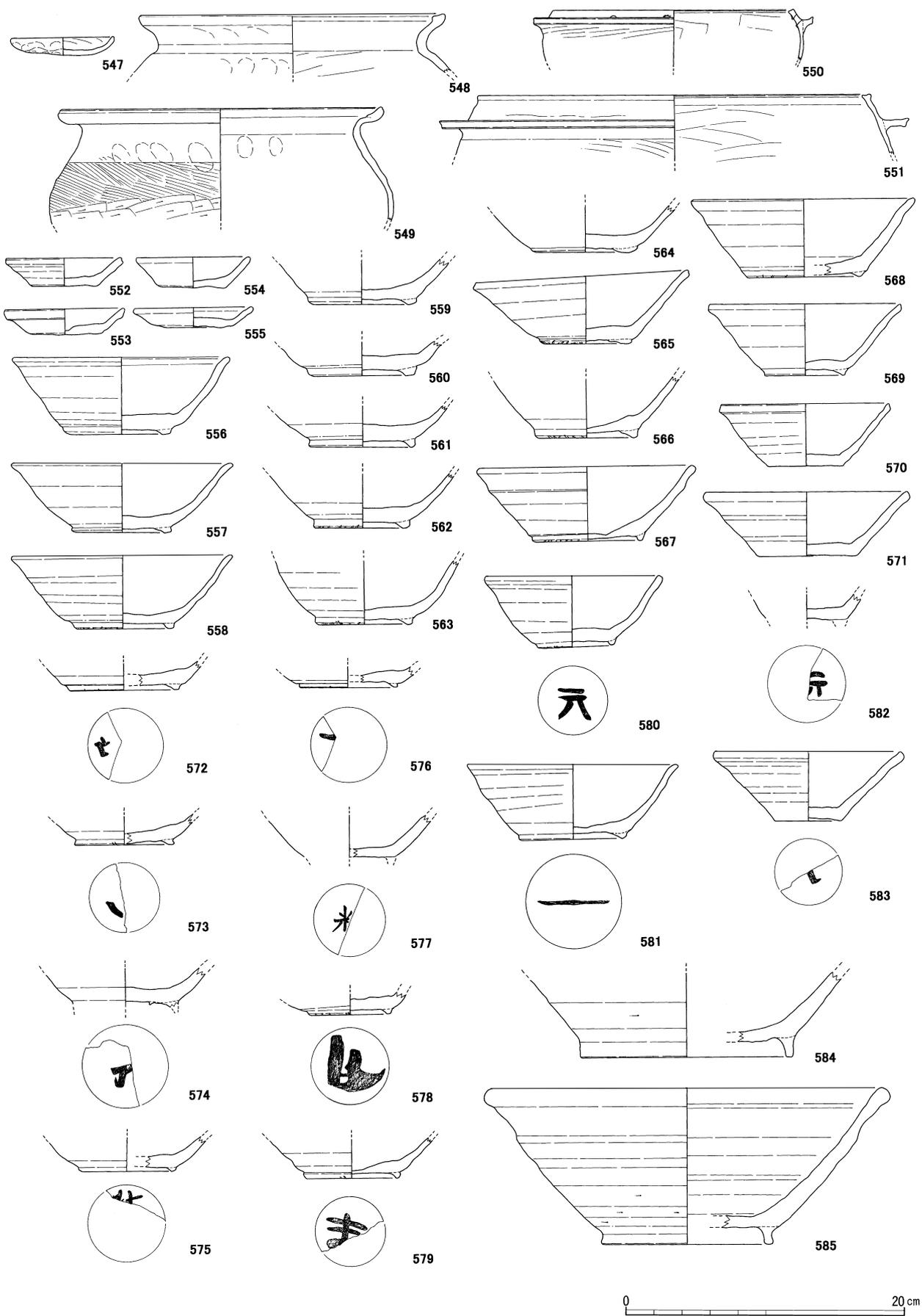
第37図 SE126平面図・断面図(1:50)



第38图 S D121出土遺物実測図① (1:4)



第39图 S D121出土遺物実測図② (518~543=1:4、544~546=1:3)



第40图 S D129出土遺物実測図① (1:4)

のものがある。以下、出土遺物の概略を記述する。  
詳細については、出土遺物観察表を参照されたい。

### SD121出土遺物（第38～39図）

遺物は大きく分けて、山茶碗第5～8型式の時期と土師器鍋第3～4段階の時期の二時期存在している。上層は両時期の遺物が出土するが、最下層（暗黄灰。488・494・502・503・508・514）のみは山茶碗の時期のもののみ出土する。最下層以外の層は二時期が混在しているため、埋土の堆積状態による遺構内での時期差は考えにくい。

#### ①土師器

**小皿・皿** 径7.5～8.5cmの小型のもの（476～487）と径10～12.5cmの大型のもの（488～492）がある。476～487は川崎分類小皿a1、488～492は皿aである。486は内面に油煙が付着し、灯明皿である。487は胎土・調整はa1であるが、底部外面の指押さえはcの手法である。

**鍋・羽釜** 口径23cm程の小型のもの（493・497・498）と28cm程の中型のもの（494～496・499）がある。493は伊藤編年第1段階a型式、494・496・498は第2段階c型式、495は第1段階b型式、497・499は第3段階b型式のものである。500は羽釜で、第3段階併行期頃のものか。

#### ②陶器

**山皿** 501は藤澤編年第7～8型式に、502は第5型式に比定される。

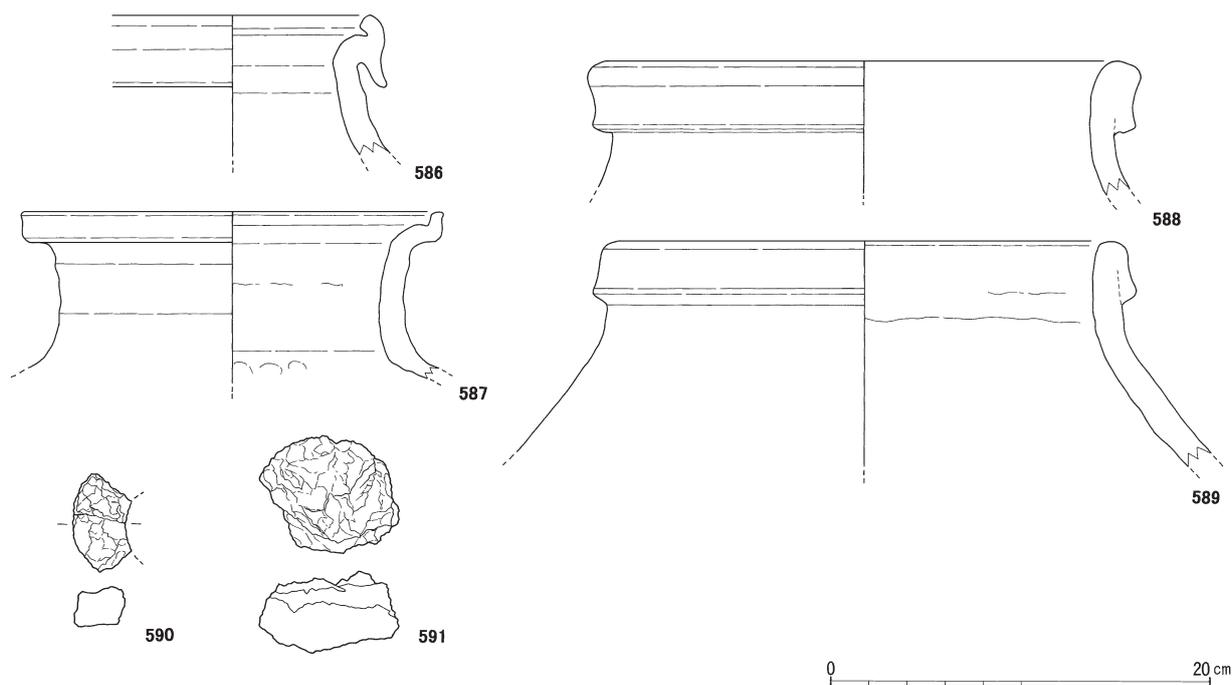
**山茶碗** 506～507・510・516は第5型式、503～505・508～509・512～515は第6型式である。511・517は第7型式である。503は内外面に、504・509は内面に煤が付着し、503・504は同一個体である。522は重ね焼き痕が残る。

518～522・526は第6型式、523～525・527は第7型式、528・530は第7～8型式、529は第8型式、531第7型式であろうか、532は第6～7型式の山茶碗で、墨書がある。518・523～524は「元」、525・527・529～530は「元」、526は「よね」と読める。522は体部に右から左方向へ記号を書いたように読め、519は「よ」と読め、その他は不明である。527は意図的に高台部を打ち欠いている。

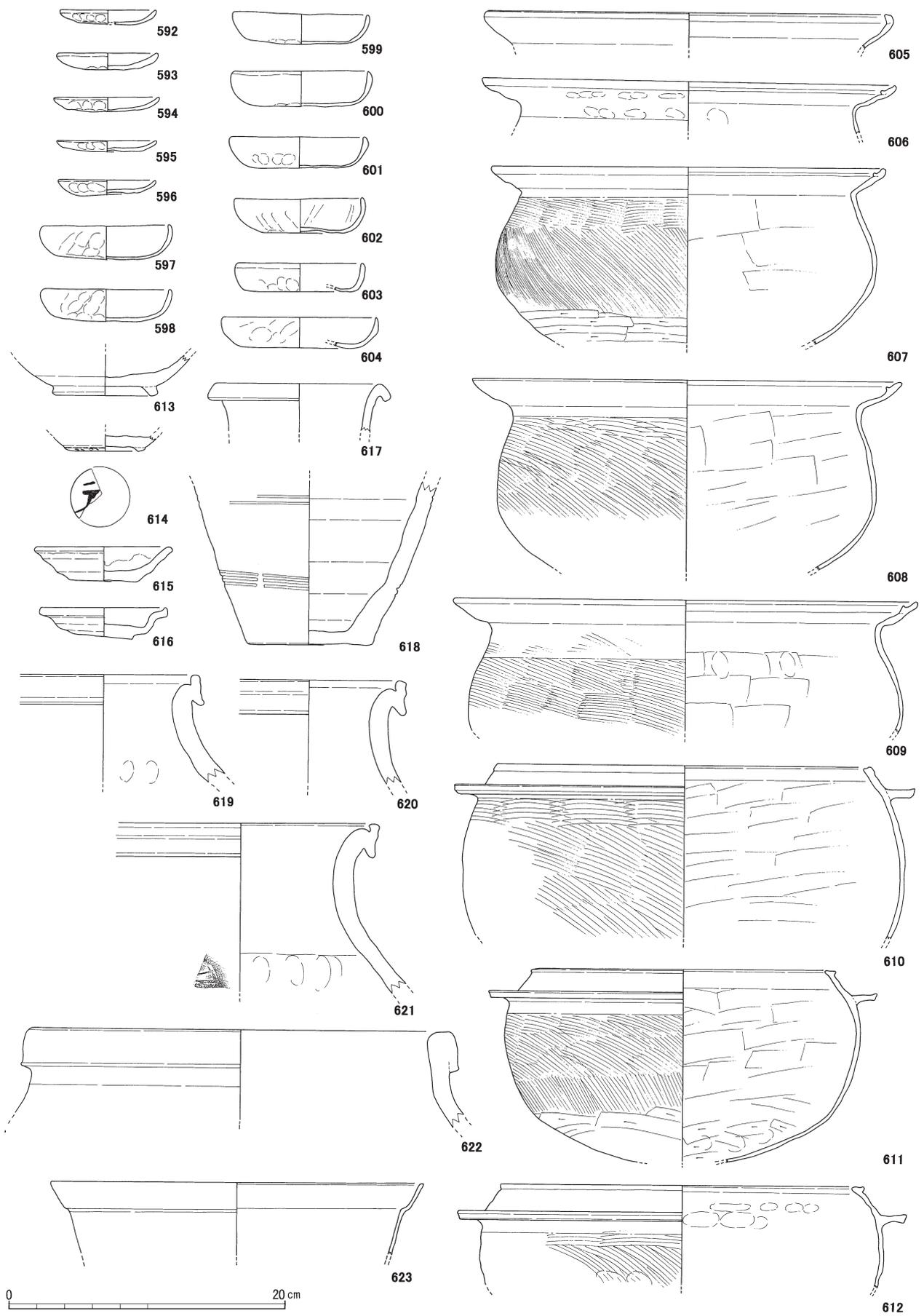
**常滑製品他** 533は6型式の常滑製品の甕である。534～535は青磁碗である。536は天目茶碗で、登窯第2小期のものである。537は壺で三筋壺であろうか。

538～539は、口縁部が屈曲して開き横ナデで調整し、外面に煤が付着し、ミニチュア土器の鍋であろうか。540は土錘、541～543は砥石である。

544は石鏝、545は下半分が欠損しているため不明



第41図 SD129出土遺物実測図②（1：4）



第42図 SK128出土遺物実測図(1:4)

であるが石槍であろうか。546は硯99と思われる。

#### SD129出土遺物（第40～41図）

遺物は大きく分けて、山茶碗第5～8型式の時期と土師器鍋第3～4段階の時期の二時期ある。

##### ①土師器

小皿 547は内面に工具ナデがある小皿a1である。

鍋・羽釜 548は甕（仮）A段階、549は2段階c型式頃の鍋である。

550は中北勢系羽釜で口縁部に外側から2孔1対の焼成前穿孔を持ちⅡa段階、551は南伊勢系羽釜で口縁部上端に面を持ち第3段階併行期の羽釜であろう。

##### ②陶器

山皿 552～555は口縁部が尖り、体部が直線的で第6型式である。

山茶碗 558・562は第5型式、556・557・559～561・563～568・571は第6型式、570は第8型式である。565は重ね焼き痕が残る。568は、内面に煤が付着している。

572～579・581は第6型式、580・582・583は第7型式の山茶碗で、墨書がある。574は「丁」、577は「米」、580・582は「六」のように読め、581は「一」、その他は不明である。580は内面と割れ口（断面）が、583は内面が焼けて煤が付着している。

常滑製品他 584～585は第6型式の片口鉢である。586～589は常滑製品の甕で、586は6型式に、587は口縁部が受け口状で5型式に、588～589は10型式に比定される。

590～591は鉄滓で、図示していないものも多数出土している。

#### SK128出土遺物（第42図）

##### ①土師器

小皿・皿 小型のもの（592～596）と大型のもの（597～604）がある。592～596は小皿a1で、597～604は皿aに相当する。598は、口縁部に接合痕が、602は内面に工具ナデが、底部に接合痕が確認できる。

鍋・羽釜 605～609は鍋で、605は第2段階a型式、606～609は第3段階b型式に比定される。

610～612は南伊勢系羽釜で、第3段階併行期に比定される。

##### ②陶器

山茶碗 613は高台に別の胎土を貼付けているため高台が黒く、第5型式である。614は、第7型式で「六」の墨書がある。

常滑製品他 615は縁釉小皿で古瀬戸後Ⅲ期、616は折縁小皿古瀬戸後Ⅲ期で重ね焼き痕が残る。

617は白磁壺、618は三筋壺で複線の沈線がある。619～622は常滑製品の甕で、619～621は6型式で、621は肩部に押印文を持ち、622は第10型式である。鉄製品 623は鉄鍋の口縁部片で、口縁端部が内傾している。1/12程しか残存していないため、多少径が大きくなる可能性がある。

#### SD148出土遺物（第43図）

624はタタキ技法の平底甕である。

#### SD136出土遺物（第43図）

625は第4型式の山皿に比定される。

#### SD134出土遺物（第43図）

626は第5型式の山皿で、重ね焼き痕がみられる。

#### SD137出土遺物（第43図）

627は第5型式の山茶碗に比定される。

#### SD127出土遺物（第43図）

628は8型式の常滑製品の甕に比定される。

#### SK139出土遺物（第43図）

629は台付甕の脚部である。

#### SK135出土遺物（第43図）

630は土師器皿aである。

#### SK150出土遺物（第43図）

631は土師器皿aで、632は口縁端部を丸く収め第4段階併行期の南伊勢系羽釜に比定される。

#### SX125出土遺物（第43図）

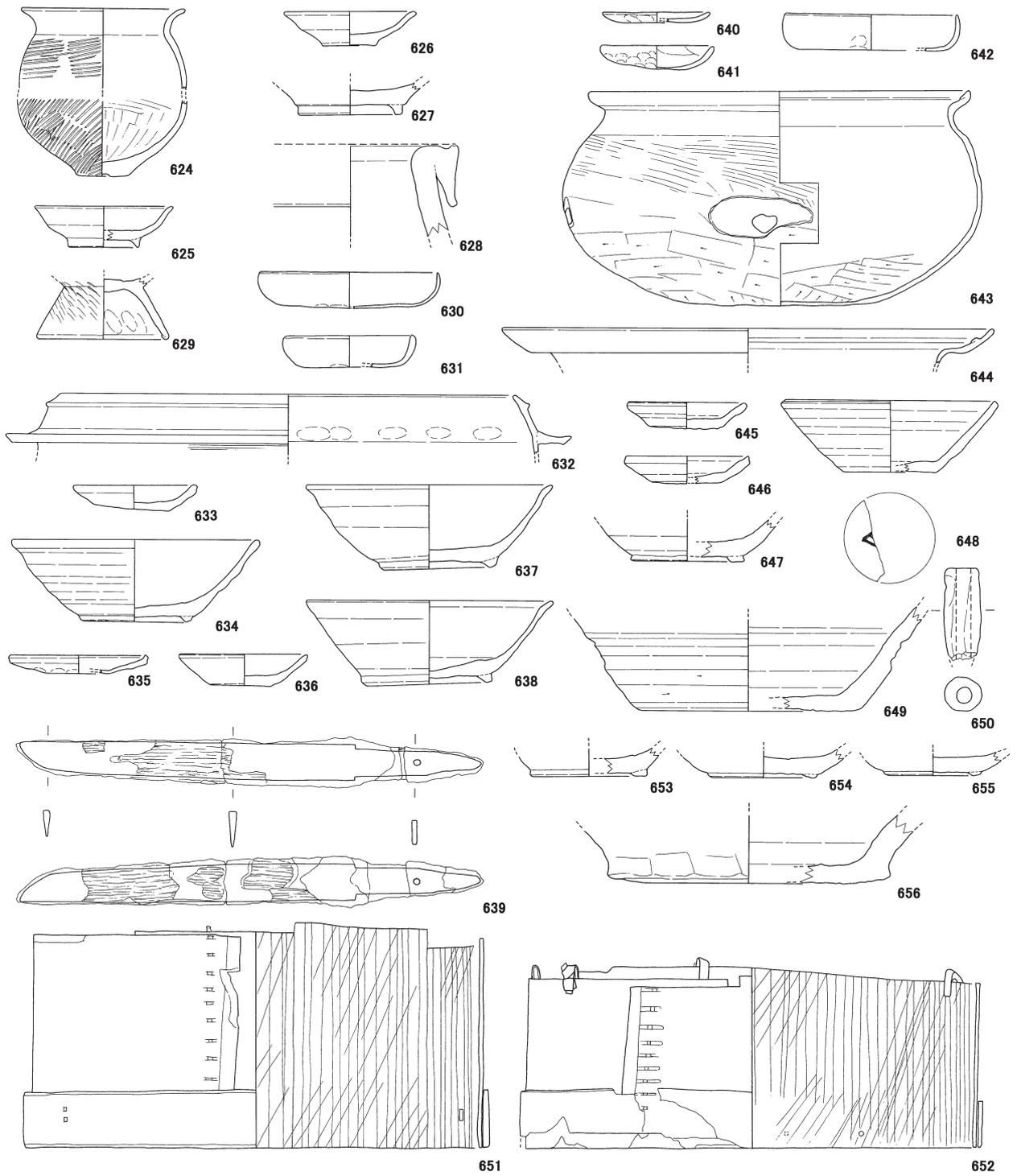
633は第6型式の山皿で、634は第6型式の山茶碗に比定される。

#### SX152出土遺物（第43図）

635は土師器小皿bで口縁部に強いナデ・面を持っている。636は山皿で、第5型式に比定される。637・638は山茶碗で、第5型式に比定される。639は鉄製刀子である。

#### SX154出土遺物（第43図）

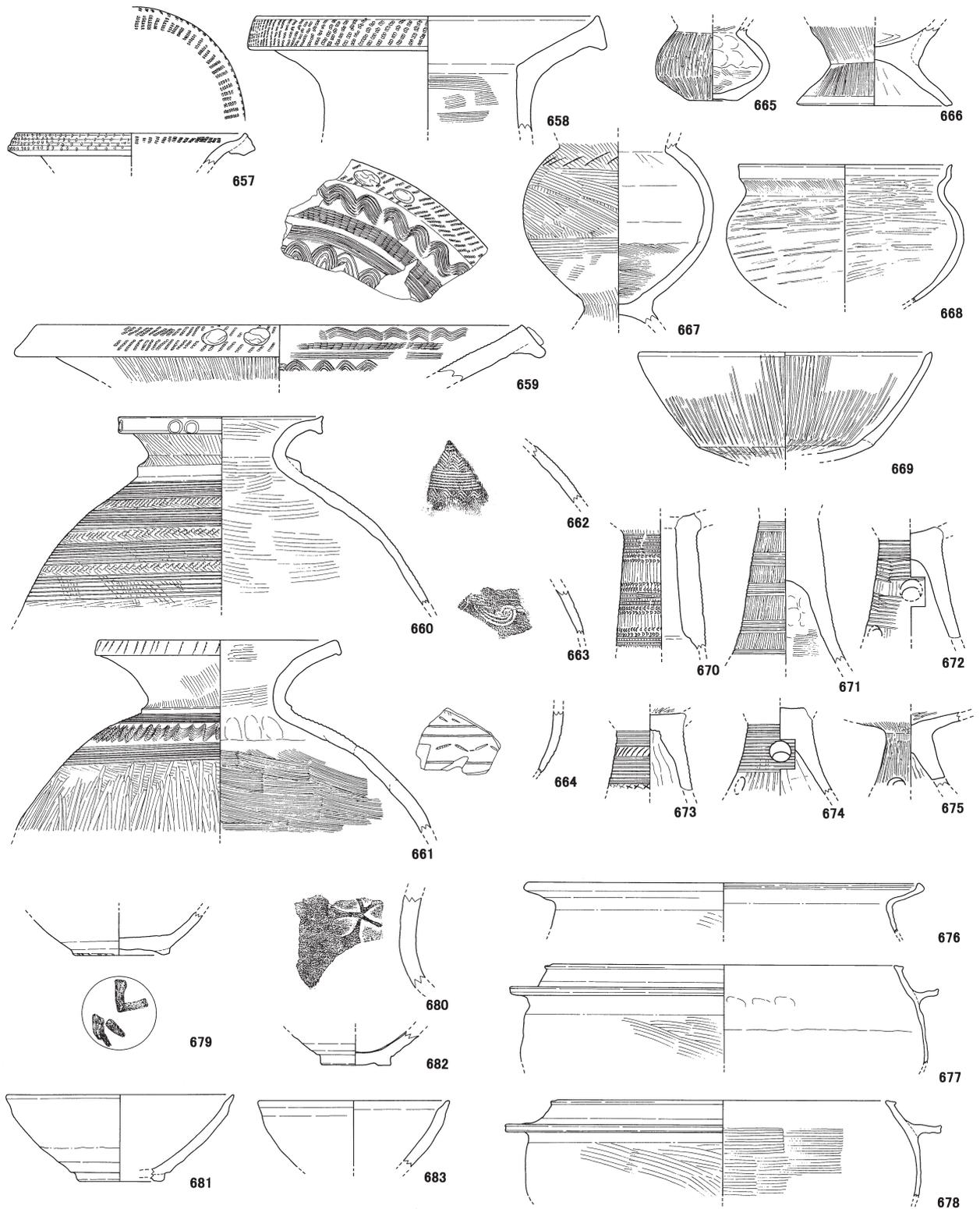
640～642は土師器皿である。640は小皿a1、641は小皿a2で工具ナデ痕が見られ、642は皿aに比定される。643は体部に2箇所焼成後穿孔を持つ南伊



SD148 : 624      SD136 : 625      SD134 : 626      SD137 : 627      SD127 : 628  
 SK139 : 629      SK135 : 630      SK150 : 631~632      SX125 : 633~634  
 SX152 : 635~639      SX154 : 640~644      SE126 : 645~652      Pit : 653~656

0 20cm

第43図 S D148・136・134・137・127、S K139・135・150、S X125・152・154、S E126、Pit出土遺物実測図(1:4)



第44图 包含层出土物实测图 (1:4)

勢系鍋で、第2段階b型式に比定される。644は南伊勢系鍋の口縁部で第3段階b型式に比定される。

#### SE126出土遺物（第43図）

645～646は山皿で、645は第6型式、646は口縁端部が尖り第7型式に比定される。647～648は山茶椀で、647は第5型式に、648は第9型式の墨書で記号を書いたようである。649は片口鉢で第5～6型式、650は土錘である。

651～652は木製曲物で、箍が一段残り、側板は一列で樹皮により両端をつなぎ合わせている。内面には縦方向と斜め方向にケビキが入れられている。652は側板の上に箍を固定する結合孔が見られる。

#### Pit出土遺物（第43図）

653～655は山茶椀で、第6型式である。656は常滑製品の甕の底部である。

#### 包含層出土遺物（第44図）

##### ①弥生時代末～古墳時代前期

概ね島貫Ⅲ期頃のものであろう。657～661は広口壺である。657は、口縁部の垂下・拡張面に刺突を施している。658は、口縁端部が上下に拡張し、外面に刺突文が施されている。659は口縁端部を下方に拡張し、内面に波状文と廉状文と櫛描直線文が施されている。外面には刺突文の後、円形浮文が施さ

れている。660は口縁端部を上下に拡張し、竹管文を施し、頸部に突帯を巡らし、体部上半に櫛描直線文の間に刺突文が施されている。661は口縁端部外面に刺突文で装飾し、体部上半には櫛描直線文の間に波状文が施されている。662～664は、壺の体部で、天地は不明である。664は赤色顔料が塗布されている。

665はミニチュア土器の壺、666は台付甕の脚部、667は台付甕の体部、668は受口状口縁鉢である。

669～675は高坏で、669は内彎口縁、670～675は脚部である。

##### ②中世

鍋・羽釜 676は、南伊勢系鍋で口縁端部が三角状に立ち上がり、第4段階c型式と思われる。677・678は、南伊勢系羽釜で第3段階併行期に比定される。

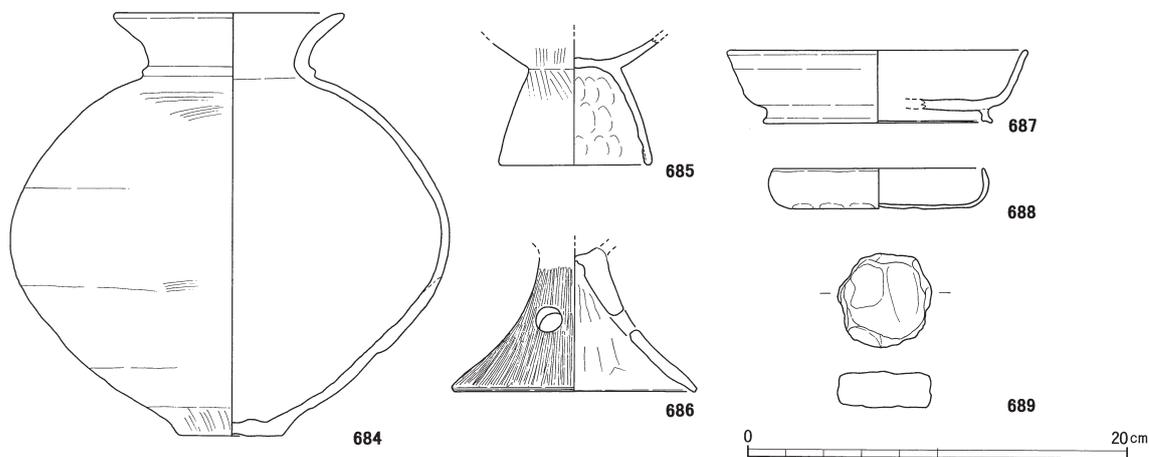
山茶椀 679は第6型式の墨書土器で記号が書かれていると思われるが、不鮮明のためはっきりしない。

常滑製品他 680は、常滑製品の甕の頸部で押印文が見られる。681は平椀でトチン痕が見られ、古瀬戸後Ⅱ期、682～683は天目茶椀で古瀬戸後Ⅱ期である。（酒井）

## VII 範囲確認調査出土遺物

684は土師器直口壺、685は台付甕、686は高杯である。概ね島貫Ⅲ期頃であらう。687は須恵器杯B

である。688は土師器皿で中世のもの、689は加工円板であらう。（酒井）



第45図 範囲確認調査出土遺物実測図（1：4）

遺構番号	性格	時期	調査回数	小地区	備考
SK1	土坑	Ⅳ期	1次	K12~13	
SE2	井戸	Ⅲ期	1次	K14~15	
SE3	井戸	Ⅱ期	1次	K13	遺物碎片のみ
SK4	土坑	Ⅱ期	1次	K15~16	
SE5	井戸	Ⅱ期	1次	K22	
SE6	井戸	Ⅱ期	1次	L25~M26	SK23を切る
SD7	溝	Ⅱ期	1次	L~M28	SD18と一連
SE8	井戸	Ⅱ期?	1次	L19	前身遺構あり
SE9	井戸	Ⅳ期	1次	K21	
SK10	土坑	Ⅱ期	1次	K20~21	遺物碎片のみ
SE11	井戸	Ⅲ期	1次	M24	
SK12	土坑	Ⅲ期	1次	K25	
SK14	井戸	Ⅲ期	1次	L28	SD7を切る
SD15	溝		1次	K28	SD7・18と一連か?
SE16	井戸	Ⅱ期	1次	L29	
SE17	井戸	Ⅱ期	1次	M26	
SD18	溝	Ⅱ期	1次	L~M27	SD7と一連
SE19	井戸	Ⅲ期	1次	K30	
SK20	土坑		1次	K29	
SK21	土坑		1次	K28~29	
SD22	溝		1次	L26~27	SD7・18と一連か?
SK23	土坑	Ⅱ期	1次	L25	SE6に切られる
SE24	井戸	Ⅱ期	1次	N25~26	SE25の掘り方?
SE25	井戸	Ⅱ期	1次	N25~26	SE24の井筒
SD26	溝		1次	L22~23	
SK27	土坑		1次	L23	
SK29	土坑		1次	L23	
SK30	土坑		1次	L23	
SD51	流路		2次A地区	b1~8, c8・9, d9	調査区のほぼ全体にかかる流路
SK52	落ち込み		2次A地区	d10	自然の落ち込み
SK53	落ち込み		2次A地区	d12	自然の落ち込み
SE54	井戸	Ⅱ期	2次A地区	b3	
SZ55	溝		2次A地区	d・e13	環濠か
SK56	土坑	Ⅲ期~Ⅳ期	2次B地区	d4	犬形土製品
SD57	溝		2次B地区	c3	
SZ58	落ち込み	Ⅲ期	2次B地区	c・d3・4	
SK59	土坑		2次B地区	d・e4・5	
SD60	落ち込み		2次B地区	d・e6・7	1次調査区の流路に繋がる
SD61	溝	Ⅱ期	2次B地区	d・e9・10	
SD62	溝	Ⅲ期~Ⅳ期	2次B地区	d・e9	
SK63	土坑		2次B地区	d13	
SD64	溝		2次B地区	d・e10	
SK65	土坑	Ⅳ期	2次B地区	b2	陶器・石がまとまって出土
SD66	溝		2次B地区	b2	
SD67	溝		2次B地区	b2	
SE68	井戸	Ⅳ期	2次B地区	e9	
SK70	土坑		2次C地区	a・b1	
SE71	井戸		2次C地区	a・b4	西・南にテラスを持つ方形の井戸
SK72	土坑		2次C地区	a・b6	
SX73	中世墓		2次C地区	a4	
SD74	溝		2次C地区	a5	
SD75	溝		2次C地区	a5~c5	
SD76	溝	Ⅳ期	2次C地区	a4	
SK77	土坑	Ⅰ期	2次C地区	a4	
SD78	溝		2次C地区	a6~c6	
SD79	溝	Ⅱ期	2次C地区	a6~c6	SD78より新しい
SD80	溝	Ⅲ期	2次C地区	b4~6	新しい耕作溝か
SK81	土坑	Ⅰ期	2次C地区	c4	
SK82	土坑		2次C地区	c4	
SD83	溝	Ⅲ期	2次C地区	b・c3	新しい耕作溝か
SX84	中世墓	Ⅳ期	2次C地区	a1・2	
SK85	土坑	Ⅱ期	2次C地区	b・c1	
SD86	溝	Ⅲ期	2次C地区	b・c6	SD78の東側
SK87	土坑	Ⅰ期	2次C地区	c2	
SD88	溝	Ⅰ期	2次C地区	c6	SD86下層
SD89	溝	Ⅰ期	2次C地区	a~c10	

第3表 遺構一覧表① (表記のない数字は欠番)

遺構番号	性格	時期	調査回数	小地区	備考
SD90	溝	I期	2次C地区	a・b9	
SK91	土坑	II期～IV期	2次C地区	c6	SD86より古い
SD92	溝		2次C地区	a・b11	
SK93	土坑		2次C地区	a9	
SD94	溝		2次C地区	a9	耕作溝
SD95	溝	II期	2次C地区	a・b9	
SD96	溝	II期	2次C地区	a・b10	
SK97	土坑		2次C地区	a9	
SK98	土坑	III期	2次C地区	a9	SD95より新しい
SK99	土坑	II期～IV期?	2次C地区	a8	
SZ100	落ち込み		2次C地区	a11	
SK101	土坑	II期	2次C地区	b6	SK86より新しい
SK102	土坑	II期	2次C地区	a・b10	
SK103	土坑	II期	2次C地区	a9・10	
SE104	井戸	II期	2次C地区	b11	
SK105	土坑		2次C地区	b9	
SK106	土坑		2次C地区	b8	
SD107	流路		2次C地区	a・b1	
SD108	溝		2次C地区	a・b8	
SK109	土坑		2次C地区	a1～3	弥生遺物混入
SD110	流路		2次C地区	a～c1	
SK111	土坑		2次C地区	b3	
SZ112	落ち込み		2次C地区	c3	
SK113	土坑	I期	2次C地区	b6	SD86より新しい
SD114	溝		2次C地区	a7	
SK115	土坑	III期	2次C地区	a3	
SE116	井戸		2次C地区	a10	SD89より古い
SD117	溝	II期	2次C地区	a・b1	下層で検出
SD118	溝		2次C地区	b2	下層で検出
SD119	溝	II期	2次C地区	a2～b3	下層で検出
SD120	溝		2次C地区	b3	下層で検出
SD121	溝	II期～IV期	2次D地区	d～f3, c～f4	SD129との切りあい不明
SK122	土坑		2次D地区	f2	
SK123	土坑		2次D地区	f2	
SK124	土坑	I期	2次D地区	b5	
SX125	中世墓	I期	2次D地区	e5	
SE126	井戸	I期	2次D地区	e～f2・3	
SD127	溝	III期	2次D地区	c～d2・3	
SK128	土坑	III期	2次D地区	c1～3, d2・3	
SD129	溝	II期～IV期?	2次D地区	g2～g6	SD121との切りあい不明
SD133	溝		2次D地区	b6, c5～6	
SD134	溝	II期	2次D地区	c～e5	SD151と同一?
SK135	土坑	II期	2次D地区	c5	
SD136	溝	II期	2次D地区	c4・5	
SD137	溝	II期	2次D地区	e・f5	
SD138	溝		2次D地区	e5	
SK139	土坑		2次D地区	c3	
SD140	溝		2次D地区	c・d3	
SK141	土坑		2次D地区	c・d3	
SK142	土坑		2次D地区	c3	
SD143	溝		2次D地区	c3	
SK144	土坑		2次D地区	e3～4	
SD147	溝		2次D地区	e・f3	
SD148	溝	I期	2次D地区	b7	
SD149	溝		2次D地区	e・f2	
SK150	土坑	III期	2次D地区	f・g5	
SD151	溝		2次D地区	e～g6	SD134と同一?
SX152	中世墓	II期	2次D地区	f5～6	
SD153	溝		2次D地区	f・g6	
SX154	中世墓?	II期	2次D地区	c4	
SK156	土坑		2次D地区	f4	
SK161	土坑		2次D地区	c4	
SK163	土坑		2次D地区	f・g5	
SK164	土坑		2次D地区	f2	
SD165	溝	I期	2次C地区	c1	下層で検出。旧SD300
SK166	土坑	I期	2次C地区	c2	下層で検出。旧SK301
SK167	土坑	I期	2次C地区	c6	下層で検出。旧SK302

第4表 遺構一覧表② (表記のない数字は欠番)

報告番号	Rno.	器種等	小地区	遺構名	計測値 (cm)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
1	038-03	土師器 皿	A地区 b3	SE54 No.22~ 25	口径 11.6 器高 2.5	4/12	外:オサエ、ナテ、ヨコナテ 内:ナテ	密	並	灰黄	南伊勢系
2	012-07	陶器 椀	A地区 b3	SE54	—	—	外:底部系切 内:ロクナテ	粗	並	灰白、灰	底部墨書 高台剥離、尾張第7型式
3	038-05	青磁 椀	A地区 b3	SE54 No.21	—	1/12弱	外:ロクナテ、蓮弁文 内:ロクナテ	密	良	釉:明オリフ 灰 素地:灰白	龍泉窯系
13	039-04	土師器 壺	A地区 a3	SD51	稜径 13.2	2/12弱	外:シカキ、刺突(貝殻・竹管)、 円形浮文+刺突(竹管) 内:ナテ、シカキ	やや 粗	並	にぶい橙	
14	013-03	土師器 台付甕	A地区 b8	SD51	口径 14.0	2/12強	外:ハケム、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	粗	並	にぶい橙	
15	012-05	土師器 鉢	A地区 a2	SD51	底径 5.0	5/12	外:ハケム、ナテ 内:ハケム	密	並	浅黄橙	
16	032-05	土師器 高杯	A地区 a3	SD51	脚基部径 3.0	脚基部 完存	外:ナテ、シカキ 内:シホリ痕、ナテ	粗	並	灰白	透し穴3方向
17	010-02	土師器 高杯	A地区 b8	SD51	脚基部径 5.0	脚基部 完存	外:シカキ、穿孔 内:ナテ、ハケム	やや 粗	並	浅黄橙、灰	透しの痕跡3方向
18	014-03	土師器 皿	A地区 b6	SD51	口径 8.5 器高 1.7	3/12	外:ナテ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	密	並	灰白、淡黄	中北勢系
19	012-04	陶器 皿	A地区 a3	SD51	口径 8.8 器高 1.9	3/12	外:ロクナテ、底部系切 内:ロクナテ	粗	並	灰白	内:自然釉 尾張第6型式
20	039-01	陶器 椀	A地区 b6	SD51	底径 7.6	6/12	外:ロクナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロクナテ	やや 密	良	灰白	内:自然釉 渥美第5・6型式
21	039-03	陶器 椀	A地区 a3	SD51	底径 6.4	4/12	外:ロクナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロクナテ、ナテ	粗	良	灰白	内:自然釉 尾張第7型式
22	012-01	陶器 椀	A地区 a1	SD51	底径 6.9	完存	外:ロクナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロクナテ	やや 密	並	灰白	尾張第6型式
23	039-02	陶器 椀	A地区 c9	SD51	底径 7.7	6/12	外:ロクナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロクナテ	やや 密	良	灰白	内:自然釉 尾張第6型式
24	012-03	陶器 椀	A地区 a3	SD51	底径 6.4	9/12	外:ロクナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロクナテ、ナテ	やや 粗	並	黄灰	尾張第6型式 底部墨書
25	012-02	陶器 鉢	A地区 a1	SD51	(底径 10.4)	2/12	外:ロクナテ、ロクナテ、貼付高台、ナテ 内:ロクナテ	やや 密	並	灰白	内:自然釉 尾張第6型式
26	013-01	陶器 鉢	A地区 a2	SD51	底径 16.0	1/12強	外:ロクナテ、ロクナテ、貼付高台、ナテ 内:ロクナテ	粗	並	灰白	尾張第5・6型式
27	046-03	陶器 甕	A地区 b7	SD51	口径 26.0	2/12	ロクナテ	やや 密	良	灰褐	自然釉 常滑産
28	012-06	青磁 皿	A地区 b8	SD51	底径 13.6	1/12	ロクナテ	密	良	釉:オリフ 灰 素地:灰白	外:内:施釉 漆で接着、補修
29	006-06	青磁 椀	A地区 b6	SD51	—	—	外:ロクナテ、削出高台 内:ロクナテ	密	良	釉:緑灰 素地:灰白	割れ口に漆による接合痕
30	011-01	陶器 香炉	A地区 c9	SD51	口径 8.9 器高 3.3	底部4/12	外:ロクナテ、底部系切、足貼付 内:ロクナテ	やや 密	並	釉:オリフ 黄 素地:灰白	瀬戸美濃産 古瀬戸後Ⅲ期
31	013-04	陶器 天目茶椀	A地区 c9	SD51	口径 11.8	2/12弱	外:ロクナテ 内:ロクナテ	密	良	釉:青黒 素地:白	登窯第4小期
32	008-02	瓦 軒丸瓦	A地区 b8	SD51	—	—	ケスリ、ナテ	やや 粗	良	灰	巴文、珠文
33	008-01	瓦 軒丸瓦	A地区 b5	SD51	—	—	ケスリ、ナテ	やや 粗	良	灰	三巴文、珠文
34	009-01	瓦 軒丸瓦	A地区 b6	SD51	—	—	ケスリ、ナテ	やや 粗	並	灰黄	三巴文、珠文
37	039-06	土師器 壺	A地区 e13	SZ55 東	—	—	外:ナテ、線刻 内:オサエ、ナテ	やや 密	並	灰白、黄灰	線刻土器
38	039-05	土師器 壺	A地区 e13	SZ55	口径 17.4	2/12弱	外:ハケム、シカキ、ヨコナテ、刺突(板) 内:ヨコナテ、シカキ	やや 粗	並	にぶい黄橙	
39	017-04	土師器 壺	A地区 e13	SZ55	口径 15.0	1/12弱	外:ヨコナテ、頸部突帯貼付、ナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや 粗	並	にぶい黄橙	
40	017-05	土師器 壺	A地区 e13	SZ55	口径 14.2	2/12	外:ナテ、ヨコナテ 内:オサエ、ナテ、ヨコナテ	やや 粗	並	にぶい橙、 浅黄橙	
41	013-02	土師器 壺	A地区 e13	SZ55	頸部径 13.6	頸部6/12	外:ハケム、ナテ、突帯貼付、刺突 内:ナテ	粗	並	素地:灰黄 赤	外:内:赤彩
42	038-02	土師器 壺	A地区 e13	SZ55	口径 15.0	2/12弱	外:ナテ、ヨコナテ、刺突(楯) 内:ナテ、ヨコナテ	やや 粗	並	橙	
43	015-01	土師器 壺	A地区 e13	SZ55	口径 18.9	2/12強	外:工具ナテ、ヨコナテ、刺突 内:工具ナテ、ヨコナテ	やや 密	並	外:にぶい黄橙 内:褐灰	
44	018-02	土師器 壺	A地区 e13	SZ55	頸部径 12.8	頸部8/12	外:シカキ、突帯貼付、ナテ 内:オサエ、シカキ、ヨコナテ	やや 密	並	にぶい橙、 灰白	
45	013-05	土師器 壺	A地区 e13	SZ55	—	—	外:ハケム、櫛描横線、刺突 内:ナテ	粗	並	にぶい橙、 灰黄褐	
46	026-01	土師器 壺	A地区 e13	SZ55 東	最大径 31.0	4/12	外:櫛描直線文、波状文、刺突(貝殻) 内:オサエ、ナテ、ハケム	やや 密	並	橙、淡橙	黒斑有
47	017-01	土師器 壺	A地区 e13	SZ55	口径 20.0	2/12弱	外:シカキ、ヨコナテ、櫛描波状文、円形浮文貼付 内:シカキ、ヨコナテ、櫛描波状文	やや 密	並	浅黄橙、 にぶい黄橙	
48	014-01	土師器 壺	A地区 e13	SZ55	口径 17.0	1/12強	外:擬凹線4条、棒状浮文貼付 内:ナテ、ヨコナテ、刺突	粗	並	浅黄橙、 赤褐	柳ヶ坪型壺 外:内:赤彩
49	017-02	土師器 壺	A地区 e13	SZ55	—	—	外:ハケム、ヨコナテ、櫛描直線文、棒状浮文貼付、 ナテ 内:ヨコナテ、刺突	やや 密	並	にぶい橙	
50	017-03	土師器 壺	A地区 e13	SZ55	口径 15.1	6/12	外:ナテ、ヨコナテ、頸部突帯貼付 内:ナテ、ヨコナテ	やや 密	並	にぶい黄橙	
51	015-05	土師器 壺	A地区 e13	SZ55	口径 19.0	1/12弱	外:ハケム、ナテ、ヨコナテ、突帯貼付、ナテ 内:ナテ、工具ナテ、ヨコナテ	やや 密	並	灰白	

第5表 出土遺物観察表①

報告番号	Rno.	器種等	小地区	遺構名	計測値 (cm)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
52	027-01	土師器壺	A地区 e13	SZ55	口径 14.2	8/12	外:ハケミ, ミカキ, ヨコナデ 内:ミカキ, ヨコナデ	やや密	並	浅黄橙、 灰黄褐	
53	016-04	土師器壺	A地区 e13	SZ55	口径 10.8	3/12	外:ハケミ, ナデ, ヨコナデ 内:ハケミ, オサエ, ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙	
54	011-05	土師器壺	A地区 e13	SZ55	底径 5.0	底部完存	外:ハケミ, ミカキ, 底部ナデ 内:ハケミ, ミカキ	やや粗	並	橙、灰白、 浅黄橙	
55	030-03	土師器壺	A地区 e13	SZ55	底径 5.0	底部完存	外:ミカキ, ケスリ, ハケミ 内:ハケミ	やや密	並	橙、 にぶい橙	
56	030-04	土師器壺	A地区 e13	SZ55	最大径 11.4	—	外:ハケミ, ミカキ 内:オサエ, ナデ	やや密	並	浅黄橙、 にぶい橙、灰白	
57	027-03	土師器壺	A地区 e13	SZ55	底径 4.1	底部完存	外:ナデ 内:ナデ	やや密	並	にぶい橙、 褐灰	外:剥離の為調整不明
58	027-04	土師器壺	A地区 e13	SZ55	底径 3.4	底部完存	外:ミカキ, ナデ 内:ハケミ, ナデ	やや粗	並	橙、浅黄橙	
59	006-05	土師器壺	A地区 e13	SZ55	口径 8.0 器高 9.2	底部完存	外:ハケミ, ミカキ, 底部ナデ 内:オサエ, ナデ, ミカキ, ヨコナデ	やや密	並	にぶい黄橙	
60	006-04	土師器壺	A地区 e13	SZ55	口径 7.6 器高 9.3	ほぼ完存	外:ミカキ, 刺突 内:オサエ, ナデ, ミカキ	やや粗	並	にぶい黄橙	
61	016-01	土師器甕	A地区 e13	SZ55	口径 12.5	2/12	外:ハケミ, ヨコナデ 内:ハケミ, 工具ナデ, ケスリ, ヨコナデ	やや密	並	にぶい黄橙 灰黄褐	外:煤付着
62	016-02	土師器甕	A地区 e13	SZ55	口径 17.1	2/12強	外:工具ナデ, ヨコナデ 内:工具ナデ, ヨコナデ	やや密	並	灰褐、 にぶい橙	
63	018-03	土師器甕	A地区 e13	SZ55	口径 15.0	1/12	外:ハケミ, ヨコナデ 内:オサエ, ハケミ, ヨコナデ	やや粗	並	灰白	
64	028-03	土師器台付甕	A地区 e13	SZ55	口径 12.6	2/12弱	外:ハケミ, ナデ, ヨコナデ 内:ナデ, ヨコナデ	密	並	橙、 にぶい黄橙	
65	020-07	土師器台付甕	A地区 e13	SZ55	口径 15.0	1/12	外:ハケミ, ヨコナデ 内:オサエ, ハケミ, ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙	
66	026-02	土師器台付甕	A地区 e13	SZ55	口径 26.0	2/12弱	外:ハケミ, ヨコナデ 内:ハケミ, ヨコナデ	粗	並	灰白、 灰黄褐	外:煤付着
67	014-02	土師器台付甕	A地区 e13	SZ55	口径 17.0	4/12	外:ハケミ, ヨコナデ, 刺突 内:ハケミ, ヨコナデ	密	並	橙	
68	019-02	土師器台付甕	A地区 e13	SZ55	口径 16.0	2/12	外:ハケミ, ヨコナデ, 刺突 内:ハケミ, ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙、 灰黄褐	
69	010-01	土師器台付甕	A地区 e13	SZ55	口径 15.8	2/12強	外:ハケミ, ヨコナデ, 刺突 内:ハケミ, 工具ナデ, ヨコナデ	やや粗	並	褐灰、灰白	外:煤付着
70	028-01	土師器台付甕	A地区 e13	SZ55	口径 15.0	2/12弱	外:ハケミ, ヨコナデ, 刺突 内:ハケミ, ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙、 にぶい黄橙	
71	015-02	土師器台付甕	A地区 e13	SZ55	口径 20.4	3/12	外:ヨコナデ, 刺突 内:ハケミ, ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙	
72	018-04	土師器台付甕	A地区 e13	SZ55	口径 23.0	2/12弱	外:ハケミ, ヨコナデ, 刺突 内:ハケミ, ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙、 灰黄褐	
73	020-03	土師器台付甕	A地区 e13	SZ55	口径 13.4	4/12	外:ハケミ, ヨコナデ, 刺突 内:オサエ, ナデ, ヨコナデ	やや粗	並	灰白、 にぶい黄橙	
74	020-06	土師器台付甕	A地区 e13	SZ55	口径 10.9	2/12	外:ハケミ, ヨコナデ 内:工具ナデ, ヨコナデ, ハケミ	やや粗	並	灰白	
75	020-05	土師器台付甕	A地区 e13	SZ55	口径 12.0	3/12	外:ハケミ, ヨコナデ 内:オサエ, ナデ, ヨコナデ	やや粗	並	灰白、褐灰	
76	019-04	土師器台付甕	A地区 e13	SZ55	口径 17.0	2/12弱	外:ハケミ, ヨコナデ, 刺突 内:オサエ, ナデ, ハケミ, ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙、 にぶい橙	
77	019-06	土師器台付甕	A地区 e13	SZ55	口径 14.9	1/12弱	外:ハケミ, ヨコナデ 内:オサエ, ナデ, ヨコナデ	やや粗	並	灰白	
78	019-03	土師器台付甕	A地区 e13	SZ55	口径 17.8	1/12弱	外:ハケミ, ヨコナデ, 刺突 内:オサエ, ハケミ, ナデ, ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙	
79	019-01	土師器台付甕	A地区 e13	SZ55	口径 20.0	1/12強	外:ハケミ, ヨコナデ, 刺突 内:オサエ, ナデ, ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙	
80	020-02	土師器台付甕	A地区 e13	SZ55	口径 13.5	3/12	外:ハケミ, ヨコナデ 内:ナデ, ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙、 にぶい黄橙	
81	019-07	土師器台付甕	A地区 e13	SZ55	口径 17.0	1/12弱	外:ハケミ, ヨコナデ 内:オサエ, ナデ, ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙	
82	018-05	土師器台付甕	A地区 e13	SZ55	口径 17.8	3/12	外:ハケミ, ヨコナデ 内:オサエ, ナデ, ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙	外:煤付着
83	018-06	土師器台付甕	A地区 e13	SZ55	口径 17.0	2/12	外:ハケミ, ヨコナデ 内:オサエ, ナデ, ヨコナデ	やや粗	並	灰白	
84	028-02	土師器台付甕	A地区 e13	SZ55	口径 16.4	2/12弱	外:ハケミ, ヨコナデ 内:ナデ, ヨコナデ	やや密	並	淡赤橙、 灰白	
85	015-03	土師器台付甕	A地区 e13	SZ55	口径 17.6	3/12	外:ハケミ, ヨコナデ 内:オサエ, 工具ナデ, ヨコナデ	やや密	並	にぶい黄橙	
86	028-04	土師器台付甕	A地区 e13	SZ55	口径 11.6	2/12	外:ハケミ, ヨコナデ 内:ナデ, ヨコナデ	粗	並	浅黄橙	
87	021-02	土師器台付甕	A地区 e13	SZ55	底径 8.0	2/12強	外:ハケミ, ナデ 内:ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙	表面摩滅
88	022-04	土師器台付甕	A地区 e13	SZ55	底径 7.4	4/12	外:ハケミ, ヨコナデ 内:台部:ハケミ, ヨコナデ、甕部:ハケミ, ナデ	粗	並	灰黄褐	煤付着
89	023-05	土師器台付甕	A地区 e13	SZ55 No.4	底径 7.9	台部完存	外:ハケミ, ヨコナデ 内:オサエ, ナデ, ヨコナデ	粗	並	にぶい橙	
90	021-04	土師器台付甕	A地区 e13	SZ55	底径 6.0	3/12	外:ハケミ, ヨコナデ 内:台部:ナデ, ヨコナデ、甕部:工具ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙	
91	021-08	土師器台付甕	A地区 e13	SZ55	脚上部径 5.0	脚上部完存	外:ハケミ 内:オサエ, ナデ	粗	並	にぶい黄橙	
92	023-03	土師器台付甕	A地区 e13	SZ55	底径 10.5	3/12	外:ハケミ, ヨコナデ 内:オサエ, ナデ, ヨコナデ	粗	並	浅黄橙	砂粒充填

第6表 出土遺物観察表②

報告番号	Rno.	器種等	小地区	遺構名	計測値(cm)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
93	022-03	土師器 台付甕	A地区 e13	SZ55	底径 7.8	2/12	外:ハケム,ヨコナテ 内:台部:オサエ,ナテ,ヨコナテ,甕部:ハケム	粗	並	にぶい黄橙	砂粒充填
94	022-05	土師器 台付甕	A地区 e13	SZ55	底径 7.2	3/12	外:ハケム,ヨコナテ 内:台部:オサエ,ナテ,ヨコナテ,甕部:ハケム	粗	並	にぶい黄橙	砂粒充填
95	022-06	土師器 台付甕	A地区 e13	SZ55	底径 7.7	4/12	外:ハケム,ヨコナテ 内:台部:オサエ,ナテ,ヨコナテ,甕部:ハケム	粗	並	にぶい黄橙	
96	022-01	土師器 台付甕	A地区 e13	SZ55	底径 8.0	2/12強	外:ハケム,ヨコナテ 内:オサエ,ナテ,ヨコナテ	粗	並	にぶい黄橙	
97	021-05	土師器 台付甕	A地区 e13	SZ55	底径 8.2	4/12	外:ハケム,ヨコナテ 内:オサエ,ナテ,ヨコナテ	粗	並	にぶい黄橙	
98	022-07	土師器 台付甕	A地区 e13	SZ55	底径 6.7	台部完存	外:ハケム,ヨコナテ 内:台部:オサエ,ナテ,ヨコナテ,甕部:オサエ,ナテ	粗	並	にぶい橙	砂粒充填
99	023-04	土師器 台付甕	A地区 e13	SZ55	底径 9.6	6/12	外:ハケム,ヨコナテ 内:オサエ,ナテ,ヨコナテ	粗	並	にぶい黄橙	砂粒充填
100	021-01	土師器 台付甕	A地区 e13	SZ55	底径 5.5	4/12	外:ハケム,ヨコナテ 内:台部:ナテ,ヨコナテ,甕部:ナテ	やや粗	並	にぶい黄橙	
101	021-06	土師器 台付甕	A地区 e13	SZ55	底径 7.8	2/12強	外:ハケム,ヨコナテ 内:台部:オサエ,ナテ,ヨコナテ,甕部:ナテ	粗	並	にぶい橙	内:煤付着
102	023-02	土師器 台付甕	A地区 e13	SZ55	底径 5.6	底部完存	外:ハケム 内:台部:オサエ,ナテ,甕部:工具ナテ	粗	並	にぶい黄橙	
103	022-08	土師器 台付甕	A地区 e13	SZ55	底径 8.4	4/12	外:ハケム,ヨコナテ 内:オサエ,ナテ,ヨコナテ	粗	並	淡橙	表面摩滅 砂粒充填
104	030-01	土師器 手焙形	A地区 e13	SZ55	突帯径 22.0	突帯1/12	外:ハケム,突帯貼付,ナテ,刺突 内:オサエ,ハケム	粗	並	灰白	
105	029-04	土師器 高杯	A地区 e13	SZ55 東	口径 24.0	3/12	外:カキ,ヨコナテ 内:カキ,ヨコナテ	やや密	並	にぶい橙	
106	024-04	土師器 高杯	A地区 e13	SZ55	口径 20.0	2/12	外:ハケム,ヨコナテ,カキ,櫛描直線文 内:杯部:ハケム,ヨコナテ,カキ,脚部:シホリ痕,ナテ	やや粗	並	にぶい橙、 にぶい黄橙	透し穴3方向
107	018-01	土師器 高杯	A地区 e13	SZ55	口径 17.8	3/12	外:ヨコナテ,カキ 内:ヨコナテ,カキ	やや密	並	浅黄橙、 暗灰	外:黒斑有
108	029-02	土師器 高杯	A地区 e13 東	SZ55	口径 18.0	8/12	外:カキ,ヨコナテ 内:ナテ,カキ,ヨコナテ	やや密	並	にぶい橙	
109	029-01	土師器 高杯	A地区 e13	SZ55	口径 20.6	3/12	外:カキ,ヨコナテ,刺突(貝殻) 内:ナテ,カキ,ヨコナテ	やや密	並	にぶい橙、 橙	
110	025-02	土師器 高杯	A地区 e13	SZ55	脚基部径 5.0	脚基部 完存	外:カキ,櫛描直線文 内:シホリ痕,オサエ,ナテ	やや密	並	にぶい橙	透し穴1段目1方向、 2段目3方向
111	032-02	土師器 高杯	A地区 e13	SZ55	脚基部径 3.6	脚基部 完存	外:カキ,櫛描直線文 内:杯部:カキ,脚部:シホリ痕,ナテ,ハケム	やや密	並	橙	透し穴1段目2方向?(1ヶ所残) 2段目3方向
112	025-05	土師器 高杯	A地区 e13	SZ55	底径 10.2	2/12	外:カキ 内:杯部:カキ,脚部:ナテ,ハケム,ヨコナテ	やや密	並	灰白、 にぶい黄橙	透し穴3方向
113	025-03	土師器 高杯	A地区 e13	SZ55	底径 9.1	6/12	外:ヨコナテ,カキ 内:ハケム,ヨコナテ,シホリ痕	やや粗	並	にぶい橙	透し穴3方向
114	024-01	土師器 高杯	A地区 e13	SZ55	底径 9.5	脚部完存	外:ハケム,櫛描直線文,ヨコナテ 内:カスリ,ヨコナテ	やや密	並	にぶい橙、 にぶい黄橙	外:黒斑有 透し穴3方向
115	024-02	土師器 高杯	A地区 e13	SZ55	底径 7.4	3/12	外:ハケム,カキ,ヨコナテ 内:シホリ痕,ハケム,ヨコナテ	やや密	並	浅黄橙、 にぶい橙	外:黒斑有 透し穴3方向
116	024-03	土師器 高杯	A地区 e13	SZ55	底径 9.6	脚部完存	外:ハケム,カキ,ヨコナテ 内:ナテ,ハケム,ヨコナテ	やや粗	並	橙	透し穴4方向
117	032-03	土師器 高杯	A地区 e13	SZ55	脚基部径 3.2	脚基部 完存	外:ハケム,カキ,櫛描直線文 内:杯部:カキ,脚部:シホリ痕,ナテ	やや粗	並	にぶい黄橙	透し穴3方向
118	025-01	土師器 高杯	A地区 e13	SZ55	脚基部径 4.1	脚基部 完存	外:カキ,櫛描直線文 内:杯部:カキ,脚部:シホリ痕,工具ナテ	やや粗	並	灰黄	透し穴1段目1方向、 2段目3方向
119	031-02	土師器 高杯	A地区 e13	SZ55	脚基部径 3.6	脚基部 完存	外:ハケム,カキ,櫛描直線文 内:杯部:カキ,脚部:シホリ痕,ハケム	やや密	並	にぶい橙、 にぶい赤褐	外:内:赤色顔料 外:煤付着
120	032-04	土師器 高杯	A地区 e13	SZ55	脚基部径 4.0	脚基部 完存	外:カキ 内:シホリ痕,ナテ	やや粗	並	にぶい黄橙	透し穴1段目1方向、 2段目3方向
121	032-01	土師器 高杯	A地区 e13	SZ55	脚基部径 4.4	脚基部 完存	外:カキ 内:杯部:カキ,脚部:シホリ痕,ハケム	粗	並	にぶい黄橙	透し穴1段目4方向、 2段目3方向?(1ヶ所残)
122	030-05	土師器 高杯	A地区 e13	SZ55	脚基部径 4.2	脚基部 完存	外:カキ 内:杯部:カキ,ヨコナテ,脚部:ナテ	やや粗	並	褐灰、 にぶい橙	
123	030-02	土師器 高杯	A地区 e13	SZ55	底径 15.4	底部完存	外:カキ,ヨコナテ 内:ナテ,ヨコナテ	やや密	並	浅黄橙、 にぶい橙	外:内:剥離の為調整不明瞭
124	024-05	土師器 高杯	A地区 e13	SZ55	脚基部径 4.7	脚基部 完存	外:ナテ 内:杯部:工具ナテ,脚部:ハケム,ナテ	やや粗	並	にぶい黄橙	
125	023-06	土師器 高杯	A地区 e13 西	SZ55	脚基部径 3.0	脚基部 完存	外:ナテ,カキ 内:ナテ	やや密	並	にぶい黄橙	
126	031-04	土師器 高杯	A地区 e13	SZ55	脚基部径 3.0	脚基部 完存	外:オサエ,ナテ,ヨコナテ 内:シホリ痕,オサエ,ヨコナテ	粗	並	にぶい黄橙	
127	024-06	土師器 高杯	A地区 e13	SZ55	底径 11.3	6/12	外:ナテ,ヨコナテ 内:シホリ痕,ナテ,ヨコナテ	粗	並	浅黄橙	外:剥離の為調整不明瞭
128	006-01	土師器 器台	A地区 e13	SZ55 No.1	底径 12.7	3/12	外:カキ,ヨコナテ,櫛描直線文1条,5条,穿孔 内:オサエ,ナテ	粗	並	にぶい橙	穿孔3段,6方向
129	025-06	土師器 器台	A地区 e13	SZ55	口径 11.1	6/12	外:カキ	粗	並	にぶい橙	外:内:磨耗の為調整不明瞭 透し穴4方向
130	027-02	土師器 鉢	A地区 e13	SZ55	底径 16.0	2/12強	内:オサエ,ナテ,ハケム	粗	並	橙	外:剥離の為調整不明
131	007-03	土師器 壺	A地区 e13	SZ55	底径 3.0	底部完存	外:ナテ,ハケム 内:オサエ,ナテ,ハケム	やや密	並	にぶい黄橙	
132	007-02	土師器 壺	A地区 e13 No.3	SZ55	底径 3.6	底部完存	外:オサエ,ナテ,カキ 内:オサエ,ナテ	やや粗	並	にぶい黄橙	

第7表 出土遺物観察表③

報告番号	Rno.	器種等	小地区	遺構名	計測値 (cm)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
133	007-04	土師器 甕	A地区 e13	SZ55	口径 6.6 器高 5.9	4/12	外:オサエ、ナテ、ハケム 内:オサエ、ナテ	やや粗	並	外:黄灰 内:褐	外:底部黒斑有
134	027-05	土師器 高杯	A地区 e13	SZ55	底径 5.6	3/12	外:ナテ、ヨコナテ、横線 内:オサエ、ヨコナテ	粗	並	灰黄	ミヅユア
135	031-01	弥生土器 壺	A地区 e13	調査区 外南溝	底径 6.0	9/12	外:ミカキ、ナテ 内:工具ナテ	やや密	並	にぶい橙	外:黒斑有
136	015-04	土師器 壺	A地区 e13	調査区 外南溝	口径 15.6	3/12	外:ハケム、ヨコナテ、刺突 内:オサエ、ナテ、ハケム、ミカキ、ヨコナテ	やや密	並	にぶい黄橙	
137	038-04	土師器 壺	A地区 b3	包含層	口径 16.8	1/12	外:ナテ、ヨコナテ、刺突(板) 内:ヨコナテ、ミカキ	やや密	並	橙、明赤褐	外:内:赤彩
138	007-01	土師器 壺	A地区 e13	調査区 外南溝	頸部径 5.9	底部完存	内:オサエ、ナテ	やや密	並	にぶい黄橙	外:内:表面摩滅の為調整不明 外:煤付着
139	020-04	土師器 台付甕	A地区 e13	調査区 外南溝	口径 13.0	2/12	外:ハケム、ヨコナテ 内:オサエ、ナテ、ヨコナテ	やや粗	並	灰白、灰	
140	019-05	土師器 台付甕	A地区 e13	調査区 外南溝	口径 14.8	1/12強	外:ハケム、ヨコナテ 内:オサエ、ナテ、ヨコナテ	やや粗	並	灰白	
141	022-02	土師器 台付甕	A地区 e13	調査区 外南溝	底径 7.4	6/12	外:ハケム、ヨコナテ 内:オサエ、ナテ、ヨコナテ	粗	並	浅黄橙	
142	021-07	土師器 台付甕	A地区 e13	調査区 外南溝	底径 7.0	台部完存	外:ハケム、ヨコナテ 内:オサエ、ナテ、ヨコナテ	粗	並	にぶい黄橙	砂粒充填
143	021-03	土師器 台付甕	A地区 e13	調査区 外南溝	脚上部径 5.0	脚上部 完存	外:ハケム 内:台部:オサエ、ナテ、甕部:ケスリ	やや粗	並	にぶい黄橙	台部内:黒変
144	023-01	土師器 台付甕	A地区 e13	調査区 外南溝	底径 13.1	4/12	外:ハケム、ナテ、ヨコナテ 内:台部:オサエ、ナテ、ヨコナテ、甕部:工具ナテ	粗	並	にぶい黄橙	
145	027-06	土師器 器台	A地区 e13	調査区 外南溝	底径 11.0	6/12	内:ヨコナテ	やや粗	並	にぶい橙	外:内:剥離の為調整不明
146	025-04	土師器 高杯	A地区 e13	調査区 外南溝	底径 12.7	3/12	外:ハケム、ヨコナテ 内:シホリ痕、ヨコナテ	やや密	並	橙	外:内:剥離の為調整不明 透し穴3方向
147	032-06	土師器 高杯	A地区 e13	調査区 外南溝	脚基部径 3.2	脚基部 完存	外:シホリ 内:杯部:ミカキ、脚部:シホリ痕、工具ナテ	やや密	並	橙	
148	031-03	土師器 高杯	A地区 e13	調査区 外南溝	脚基部径 3.0	脚基部 完存	内:ナテ、ハケム	粗	並	淡赤橙	外:磨耗の為調整不明
149	006-02	土師器 蓋	A地区 e13	包含層	摘み径 2.6	ほぼ完存	外:オサエ、ナテ 内:ナテ	粗	並	灰白	
150	006-03	陶器 皿	A地区	包含層	口径 7.9 器高 1.5	ほぼ完存	外:ロコナテ、底部系切 内:ロコナテ、ナテ	やや密	良	灰白	内:自然釉 歪み有、尾張第9型式
151	007-05	陶器 小皿	A地区 b3	包含層	底径 5.8	底部完存	外:ロコナテ、ロコケスリ、削出高台 内:ロコナテ	密	良	釉:灰オリブ 素地:灰	灰釉 内:煤付着
152	047-04	土師器 皿	B地区 e9	SD62	口径 12.5 器高 2.3	2/12強	外:オサエ、ナテ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや粗	並	にぶい黄橙	中北勢系
153	053-04	土師器 鍋	B地区 b2	SD66	口径 32.0	1/12弱	外:ハケム、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや密	並	にぶい黄橙	南伊勢系
154	052-02	土師器 羽釜	B地区 b2	SD66	口径 27.3	1/12	外:鏝部貼付、ナテ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ、オサエ	やや粗	並	橙	中北勢系 穿孔1つ残、外:鏝部下煤付着
155	004-01	土師器 皿	B地区 c2	SD57	口径 9.8 器高 2.0	6/12	外:オサエ、ナテ、ヨコナテ 内:ナテ	やや粗	並	にぶい橙	
156	004-02	土師器 皿	B地区 c2	SD57	口径 10.5 器高 2.1	6/12	外:オサエ、ナテ、ヨコナテ 内:ナテ	やや密	並	にぶい橙	
157	047-03	土師器 皿	B地区 c2	SD57	口径 9.4 器高 1.8	3/12	外:オサエ、ナテ 内:ナテ	粗	並	浅黄橙	中北勢系
158	053-05	土師器 皿	B地区 b2	SD57	口径 10.0 器高 2.0	4/12	外:オサエ、ナテ 内:ナテ	やや密	並	にぶい黄橙	中北勢系
159	047-02	土師器 皿	B地区 c2	SD57	口径 12.6	3/12	外:オサエ、ナテ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや粗	並	浅黄橙	中北勢系
160	047-01	土師器 皿	B地区 c2	SD57	口径 13.9	4/12	外:オサエ、ナテ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや粗	並	にぶい橙	中北勢系
161	004-03	土師器 皿	B地区 c3	SD57 No.1	口径 12.4 ~13.4 器高 1.6 ~3.1	ほぼ完存	外:オサエ、ナテ、ヨコナテ 内:ナテ	やや密	並	にぶい橙、 灰黄褐	内:煤付着 歪み大
162	004-04	土師器 皿	B地区 b2	SD57	口径 13.0 器高 3.3	4/12	外:オサエ、ナテ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ、ケスリ	やや密	並	灰白	表面剥離の為調整不明瞭
163	035-02	土師器 鍋	B地区 c2	SD57	口径 31.3	1/12強	外:ハケム、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや密	並	浅黄橙、 にぶい黄橙	南伊勢系 外:口縁部煤付着
164	038-01	土師器 鍋	B地区 c3	SD57	口径 32.7	3/12	外:ハケム、オサエ、ヨコナテ 内:ナテ、ケスリ、ヨコナテ	密	並	にぶい黄橙 灰黄褐	南伊勢系 外:煤付着
165	034-05	土師器 羽釜	B地区 c2	SD57	—	—	外:鏝部貼付、ナテ、ヨコナテ 内:工具ナテ、ヨコナテ	やや粗	並	灰白	南伊勢系
166	034-02	土師器 羽釜	B地区 b2	SD57	口径 17.1	2/12強	外:ナテ、鏝部貼付、ヨコナテ 内:オサエ、ナテ、ヨコナテ	やや密	並	褐灰、灰褐	中北勢系 外:鏝部下煤付着、穴2ヶ所残
167	046-01	土師器 羽釜	B地区 c2	SD57	口径 25.1	2/12弱	外:オサエ、ハケム、鏝部貼付、ケスリ、ヨコナテ 内:ハケム、ナテ、ヨコナテ	やや粗	並	橙	中北勢系 外:鏝部下煤付着
168	046-02	土師器 羽釜	B地区 c2	SD57	口径 23.5	2/12弱	外:ハケム、鏝部貼付、ケスリ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや粗	並	にぶい橙	中北勢系 外:鏝部下煤付着
169	034-03	土師器 羽釜	B地区 c2	SD57	口径 19.9	2/12弱	外:ハケム、鏝部貼付、ナテ、ヨコナテ 内:工具ナテ、ヨコナテ	やや密	並	褐灰、 にぶい褐	中北勢系 外:鏝部下煤付着
170	045-01	土師器 羽釜	B地区 b2	SD57	口径 26.0	6/12	外:ナテ、鏝部貼付、ケスリ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	粗	並	橙	中北勢系 穿孔3ヶ所残
171	049-03	土師器 羽釜	B地区 b2	SD57	口径 29.8	2/12	外:ハケム、鏝部貼付、ヨコナテ 内:オサエ、工具ナテ、ヨコナテ	やや粗	並	浅黄橙	外:鏝部下煤付着
172	051-02	陶器 椀	B地区 c2	SD57	底径 6.8	底部完存	外:ロコナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロコナテ	やや密	並	灰白	内:自然釉 尾張第5型式

第8表 出土遺物観察表④

報告番号	Rno.	器種等	小地区	遺構名	計測値 (cm)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
173	005-02	陶器丸皿	B地区 b2	SD57	口径 11.1 器高 2.3	6/12	外:ロウナテ、ロウケスリ、削出高台内:ロウナテ	やや密	良	釉:灰白 素地:灰白	灰釉、底部露胎 登窯第3小期
174	045-03	陶器丸皿	B地区 c3	SD57	口径 12.6 器高 2.1	2/12	外:ロウナテ、削出高台内:ロウナテ	やや密	良	釉:灰白 素地:灰白	灰釉、底部墨書 登窯第2小期
175	005-03	陶器丸皿	B地区 c2	SD57	口径 11.8 器高 2.5	6/12	外:ロウナテ、ロウケスリ、削出高台内:ロウナテ	やや粗	良	釉:灰白 素地:灰白	灰釉、底部重焼痕 登窯第2小期
176	037-01	磁器	B地区 c2	SD57	口径 8.5 器高 2.0	底部3/12	外:ロウナテ、ロウケスリ、ケスリ内:ロウナテ	密	良	釉:灰白 素地:灰白	えぐり高台 内:重焼痕
177	047-06	陶器天目茶碗	B地区 b2	SD57	口径 12.4	2/12	外:ロウナテ、ロウケスリ内:ロウナテ	やや密	良	釉:褐、黒 素地:灰白	鉄釉 大窯第4段階前半
178	053-01	陶器鉢	B地区 b2	SD57	口径 26.0 器高 7.8	1/12弱	外:ロウナテ、三足貼付、ナテ内:ロウナテ	やや密	並	にぶい橙	常滑産赤焼 焼成前穿孔口縁部煤付着
179	047-07	陶器加工円板	B地区 c3	SD57	直径 4.7 重さ 33.8g	—	—	密	良	釉:灰白 素地:灰白	灰釉、丸板を加工 登窯第3～4小期
180	043-04	土師器皿	B地区 e9	SD60	口径 9.0 器高 2.0	3/12	外:オサエ、ナテ、ヨナテ内:ナテ、ヨナテ	やや密	並	浅黄橙	南伊勢系 南伊勢系
181	042-02	土師器鍋	B地区 e9	SD60	口径 26.0	1/12強	外:オサエ、ハケム、ケスリ、ヨナテ内:オサエ、ナテ、ケスリ、ヨナテ	やや密	並	灰白、 にぶい黄橙	南伊勢系 外:煤付着
182	042-01	土師器羽釜	B地区 e9	SD60	口径 23.8	2/12弱	外:ハケム、鑊部貼付、ナテ、ヨナテ内:ナテ、ヨナテ	やや密	並	浅黄橙、 灰白	南伊勢系 外:口縁部・外:鑊部下煤付着
183	044-07	陶器輪壳皿	B地区 d7	SD60	底径 5.6	5/12	外:ロウナテ、底部糸切、貼付高台内:ロウナテ、スタンブ	やや密	並	釉:灰白 素地:灰白	釉 登窯第2小期
184	044-05	陶器反皿	B地区 e7	SD60	口径 14.0 器高 3.3	2/12弱	外:ロウナテ、削出高台内:ロウナテ	やや密	並	釉:淡黄 素地:灰白	灰釉、登窯第3～4小期 内:重焼痕
185	002-02	陶器反皿	B地区 e8	SD60	口径 10.7 器高 2.1	6/12	外:ロウナテ、ロウケスリ、削出高台内:ロウナテ	やや密	良	釉:黄灰 素地:灰白	登窯第2小期
186	044-03	陶器丸皿	B地区 e8	SD60	口径 12.0 器高 2.1	2/12弱	外:ロウナテ、ロウケスリ、削出高台内:ロウナテ	やや粗	並	釉:淡黄 素地:灰白	釉 登窯第2小期
187	044-02	陶器丸皿	B地区 d7	SD60	口径 11.6 器高 2.3	2/12	外:ロウナテ、ロウケスリ、削出高台内:ロウナテ	やや密	並	釉:灰白 素地:灰白	灰釉 登窯第2小期
188	044-01	陶器丸皿	B地区 e6	SD60	口径 12.0 器高 2.1	2/12	外:ロウナテ、ロウケスリ、削出高台内:ロウナテ	やや密	並	釉:灰白 素地:灰白	灰釉 登窯第3小期
189	044-06	陶器丸皿	B地区 e7	SD60	口径 12.0 器高 2.4	2/12強	外:ロウナテ、削出高台内:ロウナテ	やや密	並	釉:灰白 素地:灰白	灰釉、登窯第2小期 内:重焼痕
190	048-04	陶器盤	B地区 e7	SD60	底径 8.8	9/12	外:貼付高台、ナテ内:ロウナテ	粗	並	浅黄、淡黄	釉 登窯第2～3小期
191	037-06	陶器輪壳皿	B地区 e7	SD60	底径 5.6	4/12	外:ロウケスリ内:ロウナテ	やや密	良	釉:浅黄 素地:灰白	灰釉、登窯第3小期 内:重焼痕
192	002-01	陶器小皿	B地区 e7	SD60	口径 13.4 器高 3.1	6/12	外:ロウナテ、削出高台内:ロウナテ	密	良	釉:灰白 素地:灰白	肥前系 内:重焼痕
193	037-05	陶器天目茶碗	B地区 e7	SD60	口径 11.2	1/12弱	外:ロウナテ、ロウケスリ内:ロウナテ	密	良	釉:黒褐、にぶい 褐 素地:灰白	鉄釉2度塗り 大窯第2段階
194	037-04	陶器丸碗	B地区 e6	SD60	底径 10.3	ほぼ完存	外:ロウケスリ内:ロウナテ	やや密	良	釉:黒褐 素地:灰白	鉄釉 登窯第3～4小期
195	049-01	陶器鉢	B地区 d7	SD60	口径 28.0	2/12弱	外:ロウナテ内:ロウナテ	密	良	釉:灰黄、褐 素地:灰白	灰釉、登窯第3～4小期 鉄釉で絵を描く
196	042-05	陶器小壺	B地区 e6	SD60	口径 4.6	完存	外:ロウナテ内:ロウナテ	やや密	並	釉:灰オリーブ 素地:灰	灰釉 古瀬戸後ⅢかⅣ古期
197	049-02	陶器壺	B地区 e6	SD60	口径 10.6	4/12	外:ロウナテ内:ロウナテ	やや密	良	灰赤	常滑産
198	048-05	陶器德利	B地区 e6	SD60	底径 7.3	8/12	外:ロウナテ、ケスリ内:ロウナテ	やや密	並	釉:褐、黒 素地:灰白	鉄釉2度塗り、内:煤付着 登窯第2小期
199	048-02	陶器壺	B地区 e6	SD60	底径 10.8	9/12	外:ナテ、ケスリ内:ナテ	やや密	並	赤褐、 にぶい橙	常滑産
200	054-04	陶器鉢	B地区 e6	SD60	(底径 14.8)	2/12弱	外:ロウナテ、ロウケスリ、貼付高台、ナテ内:ロウナテ	やや密	良	黄灰	尾張?第6型式
201	037-07	陶器鉢	B地区 e7	SD60	底径 約13.0	2/12弱	外:ロウナテ、ロウケスリ、貼付高台、ナテ内:ロウナテ	やや粗	良	灰白	内:自然釉 尾張第6型式
202	048-03	陶器鉢	B地区 e8	SD60	口径 17.4 器高 6.3	3/12	外:ナテ、ヨナテ内:ナテ	やや密	並	赤橙	常滑産 外:被熱、煤付着
203	054-03	陶器鉢	B地区 e7	SD60	口径 17.8 器高 5.9	底部3/12	外:オサエ、工具ナテ、ロウケスリ、底部未調整内:ロウナテ、ナテ	やや粗	良	にぶい赤褐 にぶい黄橙、褐 灰	常滑産 外:煤付着
204	054-02	陶器壺	B地区 d7, e6	SD60	底径 17.4	6/12	外:オサエ、ナテ、底部未調整内:ロウナテ	やや密	並	橙、 にぶい橙	常滑産
205	033-02	陶器練鉢	B地区 e7	SD60	口径 36.1	2/12	外:オサエ、ナテ、ヨナテ内:工具ナテ、ヨナテ	やや密	並	褐灰	内:使用により磨耗
206	033-01	陶器練鉢	B地区 e7	SD60	口径 36.0	3/12	外:オサエ、ナテ、ヨナテ内:ナテ、ヨナテ	やや密	並	灰赤、 にぶい橙、橙	常滑産 外:煤付着
207	054-01	陶器練鉢	B地区 e7	SD60	口径 35.6	4/12	外:オサエ、ナテ、ケスリ、ヨナテ内:ヨナテ	やや密	良	にぶい橙、 にぶい褐	常滑産 内:使用により剥離
208	049-04	陶器鉢	B地区 e6	SD60	口径 21.4 器高 7.4	2/12	外:ナテ、足貼付、ヨナテ内:ナテ	やや密	良	灰褐、 淡赤橙	外:煤付着
209	048-01	陶器鉢	B地区 e6	SD60	口径 21.0 器高 6.5	4/12	外:工具ナテ、ヨナテ、足貼付、ナテ内:工具ナテ、ナテ、ヨナテ	やや密	並	にぶい橙、 橙	常滑産赤焼 外:底部煤多く付着
210	048-06	陶器鉢	B地区 e6	SD60	—	—	外:ナテ、オサエ内:ナテ、オサエ	粗	並	橙	
211	033-03	陶器鉢	B地区 e7	SD60	口径 33.7	3/12	外:ナテ、ヨナテ内:オサエ、ナテ、ヨナテ	やや密	並	灰褐、 にぶい橙	常滑産
212	055-01	陶器鉢	B地区 e7	SD60	口径 32.8	2/12	外:ロウナテ、工具ナテ、底部未調整内:ロウナテ	やや粗	良	にぶい橙、 にぶい黄橙	常滑産

第9表 出土遺物観察表⑤

報告番号	Rno.	器種等	小地区	遺構名	計測値 (cm)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
213	047-08	陶器加工円板	B地区 c3	SD60	直径 3.9 重さ 20.1g	—	—	密	良	釉:灰褐 素地:灰	常滑産(甕?)加工
214	036-02	瓦軒丸瓦	B地区 e7	SD60	—	—	瓦当面:ナテ 裏:ケスリ	やや密	並	灰	
215	036-01	瓦丸瓦	B地区 e6	SD60	—	—	外:ケスリ、ナテ 内:布目痕、ナテ、ケスリ	やや密	並	灰白、灰	
217	053-06	土師器皿	B地区 d4	SK56	口径 14.0	2/12弱	外:オサエ、ヨコナテ 内:ヨコナテ	やや密	並	にぶい橙	中北勢系
218	004-08	犬形土製品	B地区 d4	SK56	器高 3.8 長さ 5.6	ほぼ完存	オサエ、ナテ、目は刺突	やや密	並	灰黄、 灰黄褐	前足を欠く
219	056-01	土師器羽釜	B地区 b2	SK65 下層	口径 25.1	1/12強	外:鐫部貼付、ナテ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや粗	並	浅黄橙、 にぶい黄橙	中北勢系 外:鐫部下煤付着、穿孔2ヶ所残
220	034-01	土師器羽釜	B地区 b2	SK65 下層	口径 22.2	2/12弱	外:ハケム、鐫部貼付、ナテ、ヨコナテ 内:ハケム、ヨコナテ	やや密	並	浅黄橙	中北勢系 外:鐫部下煤付着、穴1ヶ所残
221	052-03	土師器羽釜	B地区 b2	SK65 下層	口径 26.6	1/12	外:オサエ、ナテ、ハケム、鐫部貼付、ナテ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや密	並	にぶい橙、 灰褐	中北勢系 外:鐫部下煤付着
222	004-06	陶器椀	B地区 b2	SK65 No.6	高台径 6.7	4/12	外:ロコナテ、底部糸切、貼付高台、ナテ 内:ロコナテ	やや粗	良	灰白	自然釉付着 濯美第5型式
223	051-01	陶器椀	B地区 b2	SK65 下層	底径 7.4	底部完存	外:ロコナテ、底部糸切、貼付高台、ナテ 内:ロコナテ	やや密	並	灰白	内:自然釉、重焼痕 尾張第5型式
224	005-05	陶器輪壳皿	B地区 b2	SK65 No.17	口径 12.3 器高 3.2	9/12弱	外:ロコナテ、ロコケスリ、削出高台 内:ロコナテ	やや粗	良	釉:黒褐、黒 素地:灰	内:柄鉄釉 登窯第3小期
225	005-04	陶器丸皿	B地区 b2	SK65	口径 10.9 器高 2.4	底部4/12強	外:ロコナテ、ロコケスリ、削出高台 内:ロコナテ	やや粗	良	釉:灰白 素地:灰白	灰釉、志野 登窯第2小期
226	005-07	陶器天目茶椀	B地区 b2	SK65 No.18	口径 11.6 器高 7.0	3/12	外:ロコナテ、ロコケスリ、削出高台 内:ロコナテ	やや粗	良	釉:黒褐、黒 素地:灰白、灰黄	鉄釉 登窯第1～2小期
227	005-06	陶器天目茶椀	B地区 b2	SK65 No.7	口径 11.4 器高 6.7	底部完存	外:ロコナテ、ロコケスリ、削出高台 内:ロコナテ	粗	良	釉:黒褐、褐、黒 素地:灰白	鉄釉 登窯第4小期
228	004-07	陶器天目茶椀	B地区 b2	SK65 No.10	口径 11.9	2/12弱	外:ロコナテ、ロコケスリ 内:ロコナテ	やや密	良	釉:黒褐 素地:灰白	鉄釉 登窯第2小期
229	005-01	陶器筒形香炉	B地区 b2	SK65 No.9	口径 14.8 器高 8.4	底部4/12強	外:ロコナテ、ロコケスリ、足貼付 内:ロコナテ	やや密	良	釉:浅黄、 灰オリフ 素地:灰白	灰釉、登窯第2～3小期 外:内:重焼痕、底部煤付着、 3足のうち2足残存
230	050-01	陶器甕	B地区 b2	SK65 下層	口径 42.0	1/12強	外:ロコナテ 内:ロコナテ	やや密	並	灰赤	外:内:自然釉 常滑産
231	053-02	陶器鉢	B地区 b2	SK65 No.16	—	—	外:ロコナテ、三足貼付、ナテ 内:ロコナテ	やや密	並	灰褐、 褐灰、橙	常滑産赤焼 外:底部煤付着
232	001-06	土師器皿	B地区 e9	SE68 No.1	口径 7.6 ～8.4 器高 0.8 ～1.5	ほぼ完存	外:オサエ 内:ナテ	やや密	良	外:灰白 内:にぶい黄橙	焼成後穿孔 歪み大
233	001-04	土師器皿	B地区 e9	SE68 No.13	口径 9.0 ～9.8 器高 2.6	完存	外:オサエ、ナテ 内:ナテ	やや粗	良	外:灰白 内:灰白	歪み大
234	001-05	土師器皿	B地区 e9	SE68	口径 9.5 器高 2.6	6/12	外:オサエ、ナテ 内:ナテ	やや密	良	外:灰白 内:灰白	歪み大
235	001-02	土師器皿	B地区 e9	SE68 No.14	口径 9.4 ～9.8 器高 2.7	完存	外:オサエ、ナテ 内:工具ナテ、ナテ	やや粗	良	外:浅黄 内:灰白、灰	内:黒斑 歪み大
236	001-01	土師器皿	B地区 e9	SE68 No.12	口径 9.0 ～9.6 器高 2.8	完存	外:オサエ、ナテ 内:工具ナテ、ナテ	やや粗	良	外:浅黄橙、 にぶい黄橙 内:灰白	内:黒斑 歪み大
237	001-03	土師器皿	B地区 e9	SE68 No.10	口径 9.2 ～9.6 器高 2.6	完存	外:オサエ、ナテ 内:工具ナテ、ナテ	やや密	良	外:浅黄橙、黄灰 内:灰黄	外:煤付着 内:黒斑 歪み大
238	003-01	土師器羽釜	B地区 e9	SE68	口径 26.5	1/12	外:鐫部貼付、ナテ、ヨコナテ 内:工具ナテ、ヨコナテ	やや密	良	灰白	南伊勢系 外:鐫部下煤付着
239	002-04	陶器椀	B地区 e9	SE68	—	—	外:底部糸切 内:ロコナテ	やや粗	やや良	灰白	尾張第8～9型式 底部墨書「大」
240	003-02	陶器椀	B地区 e9	SE68 No.8	口径 12.4	3/12	外:ロコナテ 内:ロコナテ	密	良	灰白	大畑大洞8～9型式並行
241	002-05	瓦質土器火鉢	B地区 e9	SE68	—	—	外:ロコナテ、突帯貼付、ナテ、面取り 内:ロコナテ	密	良	灰	
261	053-07	土師器皿	B地区 c3	SZ58	口径 8.7 器高 2.0	3/12	外:オサエ、ナテ、ヨコナテ 内:ナテ	やや密	並	灰白、 にぶい橙	中北勢系
262	002-03	土師器皿	B地区 c3	SZ58	口径 11.4	2/12強	外:オサエ、ナテ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや密	良	浅黄橙	内:口縁部煤付着
263	045-02	土師器羽釜	B地区 c3	SZ58 No.2	口径 24.4	3/12	外:ハケム、鐫部貼付、ケスリ、ヨコナテ 内:オサエ、ナテ、ケスリ、ヨコナテ	粗	並	にぶい黄橙	南伊勢系 外:煤付着
264	044-08	陶器椀	B地区 c3	SZ58	—	—	外:ロコナテ、底部糸切、貼付高台、ナテ 内:ロコナテ	やや粗	並	灰白	底部墨書 尾張第6型式
265	050-02	陶器播鉢	B地区 c3	SZ58	—	—	外:ロコナテ 内:ロコナテ、櫛目	やや密	並	釉:灰赤 素地:にぶい黄橙	鉄釉 瀬戸産
266	044-09	須臾器高杯	B地区 e5	Pit7	脚基部径 2.6	脚基部 4/12	ロコナテ	やや密	並	灰白、暗灰	
267	043-05	土師器皿	B地区 d3	Pit9	口径 8.3 器高 1.6	3/12	外:オサエ、ナテ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや密	並	灰白	中北勢系
268	043-06	土師器皿	B地区 d5	Pit2	口径 8.1 器高 1.6	3/12	外:オサエ、ナテ 内:ナテ	やや密	並	灰白	
269	037-02	土師器皿	B地区 d5	Pit6	口径 8.8 器高 1.6	2/12	外:オサエ 内:ナテ	密	並	灰白	中北勢系

第10表 出土遺物観察表⑥

報告番号	Rno.	器種等	小地区	遺構名	計測値 (cm)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
270	043-07	土師器 皿	B地区 d3	Pit8	口径 7.6	4/12	外:オサエ、ナテ 内:ナテ	やや密	並	灰白	中北勢系
271	043-02	土師器 皿	B地区 d3	Pit15	口径 9.4 器高 2.2	ほぼ完存	外:オサエ、ナテ 内:ナテ	やや粗	並	灰白、灰	
272	037-03	土師器 皿	B地区 d4	Pit3	口径 10.4 器高 1.9	2/12弱	外:オサエ、ヨコナテ 内:ナテ	やや密	並	灰白	中北勢系
273	042-03	土師器 羽釜	B地区 d3	Pit2	—	—	外:ハケム、鏝部貼付、ナテ、ヨコナテ 内:ハケム、ヨコナテ	やや密	並	橙、にぶい褐	中北勢系 外:鏝部下煤付着
274	042-04	土師器 羽釜	B地区 d3	Pit12	—	—	外:鏝部貼付、ナテ、ヨコナテ 内:ハケム、ヨコナテ	やや密	並	橙、灰褐	中北勢系 外:鏝部下煤付着
275	043-01	土師器 壺	B地区 d7	SD60	口径 16.4	2/12強	外:ハケム、ナテ、ヨコナテ、波状文、円形浮文 内:ナテ、ヨコナテ、刺突	やや粗	並	橙、灰白	外:内:摩滅の為調整不明瞭
276	052-01	土師器 壺	B地区 b2	SD57	口径 18.0	3/12	外:ハケム、ヨコナテ 内:ハケム、ナテ、ヨコナテ	やや粗	並	浅黄橙	
277	004-05	弥生土器 高杯	B地区 b2	SD57	底径 9.6	2/12弱	外:襷描直線文4本×7段、刺突、ヨコナテ、穿孔 内:ナテ、カキ	やや粗	並	にぶい橙、 にぶい黄橙	穿孔4箇所残存 外:内:朱彩
278	047-05	須恵器 杯身	B地区 c3	SD57	—	—	外:ウロナテ、ウロケスリ 内:ウロナテ、ナテ	密	良	灰	
279	035-03	土師器 鍋	B地区 b2	包含層	口径 28.6	2/12弱	外:ハケム、ヨコナテ 内:工具ナテ、ヨコナテ	やや密	並	にぶい橙、 にぶい黄橙	南伊勢系 外:口縁部煤付着
280	035-04	土師器 鍋	B地区 b2	包含層	口径 34.0	1/12強	外:ナテ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや密	並	にぶい褐、 橙、灰赤	南伊勢系 外:煤付着
281	053-03	土師器 羽釜	B地区 b2	包含層	口径 26.4	1/12	外:ハケム、鏝部貼付、ナテ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや密	並	灰白	南伊勢系 外:鏝部下煤付着
282	034-04	土師器 羽釜	B地区 b2	包含層	口径 23.8	2/12	外:ハケム、鏝部貼付、ナテ、ヨコナテ 内:工具ナテ、ヨコナテ	やや密	並	灰白	中北勢系 外:鏝部下煤付着
283	052-04	土師器 羽釜	B地区 c2	包含層	口径 27.8	1/12	外:ハケム、鏝部貼付、ナテ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや密	並	灰褐、 にぶい黄橙	中北勢系 鏝部歪み大
284	051-06	陶器 皿	B地区 b2	包含層	口径 8.6 器高 1.9	4/12	外:ウロナテ、底部系切 内:ウロナテ	やや密	並	灰白	尾張産
285	051-03	陶器 椀	B地区 b2	包含層	底径 5.7	6/12	外:ウロナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ウロナテ	やや粗	並	灰白、灰	尾張第6型式、転用硯か 内:炭付着
286	051-05	陶器 椀	B地区 b2	包含層	底径 7.2	3/12	外:ウロナテ、底部系切 内:ウロナテ、ナテ	やや密	並	灰白	尾張第7型式 高台剥離
287	044-04	陶器 丸皿	B地区 b2	包含層	口径 11.0 器高 2.1	4/12	外:ウロナテ、削出高台 内:ウロナテ	やや粗	並	釉:灰白 素地:灰白	灰釉、志野、登窯第2小期 外:内:重焼痕
288	051-04	陶器 片口鉢	B地区 b2	包含層	底径 16.0	2/12弱	外:ウロケスリ、貼付高台、ナテ 内:ウロナテ	やや密	並	灰白	尾張第5型式
289	050-03	陶器 播鉢	B地区 b2	包含層	—	—	外:ウロナテ 内:ウロナテ、櫛目	やや粗	並	灰白、 にぶい黄橙	信楽産
291	070-02	土師器 壺	C地区 a5	SD74	口径 11.8 器高 20.4	6/12	外:ナテ、刺突(貝殻) 内:ナテ、ヨコナテ、ハケム	やや粗	並	橙、 にぶい黄橙	剥離の為調整不明
292	064-07	弥生土器 壺	C地区 a5	SD74	底径 9.0	3/12	—	粗	並	橙、 にぶい黄橙	摩滅の為調整不明
293	064-05	土師器 高杯	C地区 a5	SD74	脚基部径 3.0	脚基部完存	外:横線	粗	並	橙	摩滅の為調整不明
294	081-04	土師器 壺	C地区 a1	SD107	底径 4.0	6/12	外:カキ、ナテ 内:ナテ	やや密	並	橙	表面風化調整不明瞭
295	082-05	土師器 手炙形	C地区 b1	SD107	—	—	外:カキ、突帯貼付、ナテ、刺突 内:ナテ	やや密	並	にぶい黄橙 褐灰	
296	064-02	土師器 皿	C地区 a1	SD110	口径 11.4	3/12	外:オサエ、ナテ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや粗	並	橙	
297	074-02	陶器 小皿	C地区 b6	SD88	底径 7.1	2/12	外:ウロナテ、削出高台 内:ウロナテ	密	並	釉:灰白 素地:灰白	灰釉、登窯第2～3小期 外:底部墨書
298	075-01	陶器 壺	C地区 b6	SD88	口径 49.1	2/12弱	ウロナテ	やや粗	並	橙、灰褐、 褐灰	SK113と接合
299	085-06	陶器 椀皿	C地区 b11	SD92	口径 10.4 器高 2.2	4/12	外:ウロナテ、ウロケスリ、削出高台 内:ウロナテ	やや密	良	釉:褐 素地:灰白	鉄釉 大窯第3段階前半
300	085-04	陶器 小皿	C地区 a9	SD95	口径 11.4 器高 2.2	3/12	外:ウロナテ、ウロケスリ、削出高台 内:ウロナテ	密	良	釉:灰白 素地:灰白	灰釉 登窯第1～2小期
301	085-03	陶器 小皿	C地区 a9	SD95	口径 11.1 器高 2.1	3/12	外:ウロナテ、ウロケスリ、削出高台 内:ウロナテ	やや密	良	釉:灰白、褐 素地:灰白	灰釉、志野、鉄釉で絵を描く 登窯第2小期
302	084-03	土師器 鍋	C地区 b6	SD86	口径 27.0	1/12	外:ナテ、ケスリ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや密	並	橙	南伊勢系 摩滅の為調整不明
303	083-05	陶器 皿	C地区 b6	SD86	底径 3.8	9/12	外:ウロナテ、底部系切 内:ウロナテ、ナテ	やや密	良	灰白	尾張第5型式
304	083-06	陶器 椀	C地区 b6	SD86	底径 7.6	5/12	外:ウロナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ウロナテ	やや密	良	灰白	渥美第6型式
305	083-08	陶器 椀	C地区 c6	SD86	底径 8.2	3/12	外:ウロナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ウロナテ	やや密	良	灰白	尾張第6型式 転用硯か
306	085-05	陶器 反皿	C地区 b6	SD86	口径 14.0	2/12強	外:ウロナテ、ウロケスリ 内:ウロナテ	やや密	良	釉:灰白、黒褐 素地:灰白	灰釉、鉄釉で絵を描く 登窯第1～2小期
307	063-05	陶器 天目茶椀	C地区 c6	SD86	口径 11.0	1/12弱	外:ウロナテ 内:ウロナテ	やや密	良	釉:黄褐、黒褐 素地:灰白	鉄釉 登窯第5～6小期
308	084-01	陶器 片口鉢	C地区 c6	SD86	(底径 14.8)	2/12	外:ウロナテ、貼付高台、ナテ 内:ウロナテ	粗	良	灰白	尾張第6～7型式
309	062-01	陶器 鉢	C地区 b6	SD86	口径 25.1 器高 6.3	2/12弱	外:ナテ、三足貼付、ナテ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや粗	並	にぶい橙	
310	063-07	陶器 椀	C地区 a4	SD76	底径 6.3	3/12	外:底部系切、貼付高台、ナテ 内:ウロナテ	やや粗	良	灰白	尾張第6型式 外:底部墨書
311	065-05	陶器 椀	C地区 a4	SD76	底径 8.3	3/12	外:ウロナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ウロナテ	やや密	良	灰白	尾張第5型式

第11表 出土遺物観察表⑦

報告番号	Rno.	器種等	小地区	遺構名	計測値(cm)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
312	063-02	青磁椀	C地区 b6	SD76	底径 4.4	9/12	外:ロウナテ、削出高台 内:ロウナテ	密	良	釉:灰リーフ 素地:灰白	
313	063-01	陶器丸椀	C地区 b6	SD76	口径 11.6	2/12弱	外:ロウナテ 内:ロウナテ	密	良	釉:灰白 素地:灰白	灰釉、志野 登窯第1～2小期
314	063-03	陶器德利	C地区 b6	SD76	底径 7.1	4/12	外:ロウナテ、ロウナテ 内:ロウナテ	密	良	灰白	大窯第2～3段階
315	063-04	陶器壺	C地区 b6	SD76	口径 12.3	2/12弱	外:ロウナテ 内:ロウナテ	やや密	良	褐灰、褐、灰褐	
316	083-03	陶器椀	C地区 a6	SD78	(底径 5.8)	ほぼ完存	外:ロウナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ	やや密	良	灰白	尾張第7型式 高台剥離
317	085-02	陶器内壳皿	C地区 a6	SD78	口径 9.9 器高 2.3	2/12弱	外:ロウナテ、ロウナテ、削出高台 内:ロウナテ	密	良	釉:灰リーフ 素地:灰白	灰釉、大窯第3段階後半 外:底部重焼痕 内:見込み露胎
318	080-02	陶器鉢	C地区 a6	SD78	底径 12.4	6/12	外:ロウナテ、削出高台 内:ロウナテ	粗	並	釉:淡黄 素地:灰白	黄瀬戸 登窯第3～4小期
319	085-07	陶器天目茶椀	C地区 a6	SD78	口径 10.7	2/12弱	外:ロウナテ、ロウナテ 内:ロウナテ	密	良	釉:黒褐 素地:灰白	鉄釉、鉛釉、光沢強い 登窯第2小期
320	080-01	陶器甕	C地区 a6	SD78	口径 34.0	2/12強	外:ロウナテ 内:オサエ、ナテ、ロウナテ	粗	良	にぶい赤褐	口縁部自然釉
321	058-02	陶器鉢	C地区 c6	SD78	口径 17.2 器高 6.1	口縁部若干	外:ロウナテ、三足貼付、ナテ 内:ロウナテ	やや粗	並	橙、赤灰 にぶい赤褐	常滑産赤焼
322	058-01	陶器鉢	C地区 c6	SD78	口径 23.6 器高 6.8	底部6/12	外:ロウナテ、足貼付、ナテ 内:ロウナテ	やや粗	並	橙、暗赤褐	常滑産赤焼
323	064-06	陶器壺	C地区 a5	SD75	底径 9.0	3/12	外:ナテ 内:ナテ	やや密	良	にぶい赤褐 にぶい橙	常滑産
324	085-08	陶器椀	C地区 a7	SD114	口径 13.2	1/12強	外:ロウナテ 内:ロウナテ	密	良	釉:にぶい黄 素地:灰黄	灰釉 信楽産
325	061-05	土師器壺	C地区 b3	SK111南	底径 4.4	底部完存	外:ガキ、底部未調整 内:不明	粗	並	橙	内:剥離の為調整不明
326	062-05	土師器皿	C地区 a3	SK115	口径 9.4	4/12	外:ナテ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや密	並	にぶい橙	中北勢系
327	064-04	土師器皿	C地区 a3	SK115	口径 10.0	2/12弱	外:オサエ、ナテ、ヨコナテ 内:工具ナテ、ヨコナテ	密	並	灰白	南伊勢系
328	060-06	陶器椀	C地区 a3	SK115	底径 6.8	8/12	外:ロウナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ	密	良	灰白	渥美第5型式
329	065-03	陶器椀	C地区 a2	SK115	底径 7.0	4/12	外:ロウナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ、ナテ	やや密	良	灰白	尾張第6型式
330	065-02	陶器椀	C地区 a3	SK115	底径 6.9	底部完存	外:ロウナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ	やや粗	良	灰白	尾張第6型式
331	060-05	陶器椀	C地区 a3	SK115	底径 8.2	4/12	外:ロウナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ	やや密	良	灰白	尾張第6型式
332	083-07	陶器椀	C地区 c6	SK91	底径 7.2	4/12	外:ロウナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ、ナテ	やや密	良	灰白	渥美第6型式
333	066-05	陶器皿	C地区 a1	SK70	口径 8.2 器高 2.0	完存	外:ロウナテ、底部系切 内:ロウナテ	やや密	並	灰白	口縁部自然釉 渥美?第6型式
334	067-03	白磁椀	C地区 a1	SK70	—	—	ロウナテ	密	良	釉:灰白 素地:灰白	
335	068-03	土師器皿	C地区 a2	SK109	口径 8.9 器高 1.5	6/12	外:ロウナテ、底部系切 内:ロウナテ	やや密	並	灰白	口土師器
336	083-01	陶器皿	C地区 a3	SK109	口径 8.2 器高 2.0	4/12	外:ロウナテ、底部系切 内:ロウナテ、ナテ	やや密	良	灰白	尾張第6型式
337	056-02	土師器壺	C地区 a3	SK109	口径 23.2	1/12強	外:オサエ、ナテ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや粗	並	浅黄橙、 にぶい黄橙	南伊勢系 外:口縁部煤付着
338	067-01	陶器甕	C地区 b6	SK113	—	—	ロウナテ	やや密	並	褐灰、灰褐、 にぶい橙	常滑産
339	067-04	土師器鍋	C地区 a6	SK72	—	—	外:ヨコナテ 内:ヨコナテ	やや密	並	浅黄橙、 にぶい黄橙	南伊勢系
340	067-02	陶器皿	C地区 a6	SK72	口径 7.8 器高 2.0	4/12	外:ロウナテ、底部系切 内:ロウナテ	やや密	並	灰白	外:内:自然釉 尾張第5型式
341	066-06	陶器天目茶椀	C地区 a6	SK72	口径 11.0	1/12弱	外:ロウナテ、ロウナテ 内:ロウナテ	やや密	並	釉:黒 素地:灰白	鉄釉 登窯第5小期
342	059-01	磁器椀	C地区 a6	SK72	底径 4.7	6/12	外:ロウナテ、削出高台 内:ロウナテ	密	並	釉:オリーブ褐、灰白 素地:灰白	肥前系 内:重焼痕
343	059-04	陶器皿	C地区 b8	SK106	口径 12.2 器高 2.4	1/12弱	外:ロウナテ、削出高台 内:ロウナテ	やや密	並	釉:灰白 素地:灰白	鉄絵皿 登窯第2小期
344	085-01	陶器鉢	C地区 b8	SK106	口径 9.6 器高 5.9	1/12弱	外:ロウナテ、工具ナテ 内:ロウナテ、オサエ、ナテ	密	良	にぶい 赤褐、橙	常滑産赤焼 外:底部煤付着
345	084-05	陶器鉢	C地区 a9	SK98	口径 23.6 器高 7.3	1/12強	外:ロウナテ、工具ナテ、脚貼付、ナテ 内:ロウナテ、オサエ、ナテ	密	良	にぶい赤褐	
346	074-01	陶器椀	C地区 a2	SX84 No.1	口径 16.8 ~17.2 器高 5.7	完存	外:ロウナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ	やや粗	並	灰白	内:自然釉 渥美第5型式
347	066-02	陶器椀	C地区 a4	SX73 No.2	口径 14.3 器高 5.3	底部完存	外:ロウナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ、ナテ	やや密	並	灰白、灰	尾張第6型式 内:煤付着
348	066-04	陶器椀	C地区 a4	SX73 No.3	底径 7.4	底部完存	外:ロウナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ、ナテ	やや密	並	灰白	渥美第5型式 内:使用により磨耗
349	066-03	陶器椀	C地区 a4	SX73 No.4	底径 7.5	底部完存	外:ロウナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ、ナテ	やや密	やや不良	灰白	渥美第5型式
350	066-01	陶器椀	C地区 a4	SX73 No.1	口径 15.7 器高 5.5	4/12	外:ロウナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ、ナテ	やや密	やや不良	灰黄、灰白	尾張第5型式
351	064-01	土師器皿	C地区 b4	SE71	口径 9.4 器高 1.8	3/12	外:オサエ、ナテ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	密	良	にぶい黄橙 灰黄褐	中北勢系

第12表 出土遺物観察表⑧

報告番号	Rno.	器種等	小地区	遺構名	計測値 (cm)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
352	083-02	陶器 皿	C地区 a4	SE71	口径 8.8 器高 2.6	2/12弱	外:ロウナテ、底部糸切 内:ロウナテ、ナテ	密	良	灰白	渥美第5型式
353	063-06	陶器 皿	C地区 b4	SE71	口径 7.8 器高 2.1	3/12	外:ロウナテ、底部糸切 内:ロウナテ、ナテ	やや 密	良	灰白	渥美?第5型式 外:底部墨書
354	065-01	陶器 椀	C地区	SE71	口径 16.7 器高 5.6	2/12	外:ロウナテ、底部糸切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ	やや 密	やや 良	灰白	内:使用により磨耗大 外:煤付着、尾張第5型式
355	083-04	陶器 椀	C地区 b4	SE71	口径 15.8 器高 5.7	底部4/12	外:ロウナテ、底部糸切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ	やや 粗	良	灰白	渥美第5型式
356	058-03	陶器 椀	C地区 b4	SE71	底径 7.0	9/12	外:ロウナテ、底部糸切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ	やや 密	並	灰白	渥美第5型式 外:底部墨書
357	058-04	陶器 椀	C地区 b4	SE71	底径 7.4	2/12	外:ロウナテ、底部糸切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ	やや 密	並	灰白	渥美第5型式 外:底部墨書
358	057-02	陶器 椀	C地区 b4	SE71	底径 7.8	6/12	外:ロウナテ、底部糸切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ	やや 粗	やや 不良	灰白	尾張第6型式
359	057-04	陶器 椀	C地区 a4	SE71	底径 8.6	2/12弱	外:ロウナテ、底部糸切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ	やや 密	並	灰白	尾張第6型式 転用現か
360	065-04	陶器 椀	C地区 b4	SE71	底径 7.4	3/12	外:ロウナテ、底部糸切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ	やや 密	良	黄灰	尾張第6型式 外:内:自然釉 煤付着 内:重焼痕
361	059-02	青磁 皿	C地区 a4	SE71	(底径 6.0)	1/12	外:ロウナテ、削出高台 内:ロウナテ	密	並	釉:灰白 素地:灰白	内面のみ施釉
375	064-08	土師器 羽釜	C地区 a10	SE116	—	—	コナテ、ナテ	粗	並	にぶい黄橙	
376	075-05	土師器 壺	C地区 a1	SD117 下層	—	—	外:ミカキ、櫛描直線文、コナテ 内:ミカキ、コナテ、刺突	やや 粗	並	橙、浅黄橙	
377	074-03	弥生土器 甕	C地区 b2	SD118 下層	—	—	外:ナテ、半裁竹管横線、コナテ、刺突(貝殻) 内:ハケメ、コナテ	やや 粗	並	橙	
378	074-05	土師器 高杯	C地区 b2	SD118 下層	脚基部径 4.0	脚基部 完存	外:ハケメ、ミカキ、櫛描直線文 内:杯部:ミカキ、脚部:ナテ、ハケメ	やや 粗	やや 不良	橙、浅黄橙	透し3方向
379	074-04	土師器 壺	C地区 b2	SD118 下層	口径 4.6 器高 5.1	底部完存	外:ナテ 内:ナテ	やや 密	並	浅黄橙	外:黒斑有 ミチユア
380	075-03	土師器 壺	C地区 b3	SD120 下層	底径 6.4	底部完存	外:オサエ、ナテ 内:ナテ	やや 粗	並	橙、浅黄橙	外:黒斑有
381	076-01	土師器 高杯	C地区 b3	SD120 下層	底径 9.0	2/12弱	外:ミカキ、櫛描直線文、コナテ 内:ナテ、コナテ	やや 密	並	にぶい橙、 橙、浅黄橙	4個組み4方向透し、透し穴は 内外両方からあけられ、貫通し ないものも有
382	075-04	土師器 壺	C地区 c1	SD165 下層	口径 15.0	2/12	コナテ	やや 密	並	にぶい橙	
383	076-02	土師器 高杯	C地区 c1	SD165 下層	脚基部径 4.0	脚基部 完存	外:ミカキ、櫛描直線文 内:オサエ、ナテ	やや 粗	並	橙、淡黄	
384	076-03	土師器 高杯	C地区 c1	SD165 下層	脚基部径 3.2	脚基部 完存	外:櫛描直線文、ミカキ 内:ナテ	やや 粗	並	にぶい橙、 浅黄橙	透し3方向
385	072-02	土師器 壺	C地区 a2	SD119 下層	口径 15.3	3/12	外:コナテ、刺突(板) 内:ハケメ、コナテ	やや 粗	並	浅黄橙	
386	072-04	土師器 壺	C地区 a2	SD119 下層	口径 16.1	2/12弱	外:コナテ、刺突 内:コナテ	粗	並	にぶい黄橙	
387	071-01	土師器 壺	C地区 a2	SD119 下層	口径 16.2	口縁部 完存	外:ハケメ、コナテ 内:ナテ、コナテ	粗	並	にぶい黄橙	内:剥離の為調整不明
388	073-04	土師器 壺	C地区 a2	SD119 下層	口径 14.0	2/12弱	外:ハケメ、ミカキ、コナテ、棒状浮文、竹管文 内:ミカキ、コナテ	密	並	にぶい橙	
389	072-05	土師器 甕	C地区 a2	SD119 下層	—	—	外:ハケメ、コナテ、刺突 内:ハケメ、コナテ	やや 粗	並	にぶい橙	
390	072-03	弥生土器 甕	C地区 a2	SD119 下層	—	—	外:ハケメ、ナテ、竹管文、刺突 内:コナテ	粗	並	にぶい黄橙	
391	071-05	土師器 壺	C地区 a2	SD119 下層	底径 5.0	底部2/12	外:ミカキ、ナテ 内:ハケメ	やや 粗	並	にぶい橙	
392	071-03	土師器 壺	C地区 a2	SD119 下層	底径 6.3	4/12	外:ナテ 内:ハケメ	粗	並	にぶい黄橙	
393	071-04	土師器 壺	C地区 a2	SD119 下層	底径 6.4	4/12	外:ハケメ、ナテ、底部未調整 内:ハケメ	やや 良	並	にぶい橙	
394	073-05	土師器 壺	C地区 a2	SD119 下層	底径 7.0	3/12	外:オサエ、ナテ 内:ハケメ	やや 粗	並	にぶい黄橙 掲灰	
395	071-02	土師器 壺	C地区 a2	SD119 下層	底径 5.8	6/12	外:ハケメ、ナテ 内:工具ナテ	やや 粗	並	橙	
396	073-06	土師器 台付甕	C地区 a2	SD119 下層	底径 8.6	3/12	外:ハケメ、コナテ 内:オサエ、ナテ、コナテ	粗	並	にぶい黄橙	
397	072-01	土師器 台付甕	C地区 a2	SD119 下層	口径 18.3	2/12弱	外:ハケメ、コナテ 内:ハケメ、ナテ、コナテ	粗	並	浅黄橙	外:煤付着
398	075-02	土師器 高杯	C地区 a2	SD119 下層	口径 20.0	1/12強	外:コナテ、ミカキ 内:コナテ、ミカキ	やや 密	並	にぶい橙、 浅黄橙	
399	072-06	土師器 高杯	C地区 a2	SD119 下層	—	—	外:ミカキ、コナテ 内:コナテ、ミカキ	やや 密	並	橙	
400	076-04	土師器 高杯	C地区 a2	SD119 下層	—	—	外:コナテ、ミカキ 内:ミカキ、コナテ	やや 粗	並	浅黄橙	外:黒斑有
401	071-07	土師器 高杯	C地区 a2	SD119 下層	脚基部径 3.0	脚基部 完存	外:ミカキ、櫛描直線文 内:シボリ痕、ナテ	粗	並	橙	透し穴3方向
402	071-06	土師器 高杯	C地区 a2	SD119 下層	脚基部径 3.6	脚基部 完存	外:櫛描直線文、刺突(貝殻)、櫛描直線文 内:杯部:ミカキ、脚部:ナテ	粗	並	にぶい橙	透し穴3方向
403	073-03	陶器 皿	C地区 b3	SD119	口径 7.8 器高 1.6	4/12	外:ロウナテ、底部糸切 内:ロウナテ	やや 粗	良	灰白	尾張第7型式
404	061-06	土師器 壺	C地区 b3 下層	Pit7	口径 8.6	2/12強	外:オサエ、ハケメ、コナテ 内:オサエ、ハケメ、コナテ	粗	並	橙	

第13表 出土遺物観察表⑨

報告番号	Rno.	器種等	小地区	遺構名	計測値 (cm)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
405	062-02	土師器 台付甕	C地区	Pit7	口径 14.8	2/12弱	外:ハケム、ヨコナテ、刺突 内:ハケム、ヨコナテ	やや粗	並	にぶい黄橙	
406	061-04	土師器 台付甕	C地区	Pit2	底径 7.5	底部6/12	外:ナテ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや粗	並	橙	
407	062-04	土師器 皿	C地区	Pit4	口径 9.5 器高 1.8	3/12	外:オサエ、ナテ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	粗	並	橙	中北勢系
408	062-03	土師器 羽釜	C地区	Pit5	—	—	外:ハケム、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	粗	並	灰白	
409	061-02	陶器 皿	C地区	Pit1	口径 9.0 器高 1.6	2/12	外:ロコナテ、底部系切 内:ロコナテ	やや密	良	灰白	内:自然釉 尾張第6型式
410	060-02	陶器 椀	C地区	Pit1	底径 7.3	底部完存	外:ロコナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロコナテ	やや密	並	灰白	渥美第5型式
411	061-01	陶器 椀	C地区	Pit2	底径 7.5	3/12	外:ロコナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロコナテ	やや密	並	灰白	内:自然釉 尾張第6型式
412	060-04	陶器 椀	C地区	Pit3	口径 14.4 器高 5.3	2/12強	外:ロコナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロコナテ	やや密	並	灰白	尾張第6型式
413	060-01	陶器 椀	C地区	Pit1	口径 16.6 器高 5.6	底部完存	外:ロコナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロコナテ	密	良	灰白	a9・Pit3と接合 渥美第5型式
414	060-03	陶器 椀	C地区	Pit9	口径 14.3	2/12強	外:ロコナテ 内:ロコナテ	やや密	良	灰白	内:自然釉 尾張第6型式
415	061-03	青磁 椀	C地区	Pit11	口径 14.8	1/12	外:ロコナテ 内:ロコナテ	密	良	釉にぶい黄 素地:灰白	
416	084-04	土師器 壺	C地区	SD84	—	—	外:ヨコナテ、刺突 内:ヨコナテ	粗	並	灰白、 灰黄褐	
417	067-05	土師器 台付甕	C地区	SK70	口径 16.0	2/12強	外:ハケム、ヨコナテ、刺突 内:ハケム、ヨコナテ	やや粗	並	灰白	
418	067-06	土師器 台付甕	C地区	包含層	口径 20.0	1/12強	外:ヨコナテ、刺突 内:ハケム、ヨコナテ	やや密	並	灰白、 灰黄褐	外:口縁部煤付着
419	070-01	土師器 甕	C地区	包含層	口径 13.8	ほぼ完存	外:ハケム、ナテ、ヨコナテ、刺突 内:工具ナテ、ヨコナテ	やや密	並	灰黄褐、 浅黄橙	
420	079-07	土師器 甕	C地区	包含層	口径 18.0	1/12弱	外:ハケム、ヨコナテ 内:ハケム、工具ナテ、ヨコナテ	やや密	並	にぶい橙	
421	082-02	土師器 甕	C地区	包含層	口径 13.6	2/12弱	外:ハケム、ヨコナテ 内:ナテ、ハケム、ヨコナテ	やや密	並	にぶい黄橙	
422	067-07	弥生土器 壺	C地区	SK109	口径 9.5	1/12	外:ハケム、ヨコナテ 内:ハケム、ヨコナテ、工具ナテ	やや密	並	にぶい橙	
423	079-05	土師器 甕	C地区	包含層	底径 3.6	底部完存	外:ハケム、ナテ 内:ハケム、ナテ	やや密	並	灰黄褐、 にぶい黄橙	外:煤付着
424	081-07	土師器 甕	C地区	包含層	底径 3.8	底部完存	外:ハケム、ナテ 内:オサエ、工具ナテ	密	並	浅黄橙	外:黒斑有
425	064-03	弥生土器 壺	C地区	SD110	底径 6.8	3/12	外:オサエ、ナテ 内:ナテ	粗	並	橙、灰黄褐、灰	内:炭化物付着
426	084-02	土師器 壺	C地区	SK109	底径 4.7	底部完存	外:ナテ、ケスリ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや密	並	橙	
427	069-04	土師器 壺	C地区	包含層	底径 5.3	底部完存	外:ハケム、ナテ 内:ナテ	粗	並	灰白、浅黄橙	
428	068-01	土師器 壺	C地区	SK70	底径 5.6	底部完存	外:オサエ、ナテ 内:ハケム	やや密	並	にぶい黄橙 黄灰	外:底部黒斑有
429	068-02	土師器 壺	C地区	SK70	底径 4.5	底部完存	外:ハケム、ナテ 内:ハケム	やや密	並	にぶい黄橙	外:底部黒斑有
430	069-02	土師器 甕	C地区	包含層	底径 7.3	ほぼ完存	外:ナテ 内:ハケム	粗	並	にぶい橙 にぶい黄橙	内:底部炭化物付着
431	081-05	土師器 壺	C地区	包含層	底径 4.2	底部完存	外:オサエ、ミカキ、ナテ 内:ナテ、ミカキ	密	良	橙	
432	056-03	土師器 甕	C地区	包含層	—	—	外:ハケム 内:ナテ	粗	並	明赤褐	
433	065-06	土師器 甕	C地区	包含層	—	—	ミカキ、ナテ、穿孔	やや密	並	浅黄橙	
434	068-04	土師器 高杯	C地区	包含層	底径 6.0	4/12	外:ハケム、ミカキ、ヨコナテ 内:杯部:ミカキ、脚部:ナテ、ヨコナテ、シホリ痕	やや密	並	にぶい橙	
435	069-03	土師器 高杯	C地区	包含層	脚基部径 4.0	脚基部 10/12	外:ハケム、ナテ 内:シホリ痕、ハケム	やや密	並	橙、にぶい橙	透し穴2段2ヶ所残
436	068-06	土師器 高杯	C地区	包含層	脚基部径 4.0	脚基部 完存	外:描直線文、刺突(貝殻) 内:ナテ	やや密	並	黄灰	
437	068-07	土師器 高杯	C地区	包含層	脚基部径 3.6	脚基部 完存	外:ミカキ、描直線文 内:シホリ痕、ナテ	やや密	並	浅黄橙、褐灰	透し穴3方向
438	068-05	土師器 高杯	C地区	包含層	脚基部径 4.0	脚基部 6/12	外:ミカキ、描直線文 内:シホリ痕	やや密	並	橙、にぶい橙	透し穴1ヶ所残
439	081-06	土師器 高杯	C地区	包含層	脚基部径 3.0	脚基部 7/12	外:描直線文 内:シホリ痕、ハケム	やや密	並	橙、浅黄橙	外:剥離、 透し3方向
440	068-08	土師器 高杯	C地区	包含層	脚基部径 3.6	脚基部 完存	外:ミカキ、描直線文 内:杯部:ハケム、ミカキ、脚部:シホリ痕、工具ナテ	やや密	並	にぶい橙、橙	透し穴3方向
441	056-04	土師器 高杯	C地区	包含層	脚基部径 2.8	脚基部 完存	外:ミカキ、描直線文 内:杯部:ナテ、脚部:シホリ痕、ハケム	やや密	並	橙、浅黄橙	3方透し
442	057-05	須恵器 高杯	C地区	SK70	—	—	外:ロコナテ 内:ロコナテ	やや密	並	灰白	長脚2段透し、2方向
443	056-05	土師器 皿	C地区	包含層	口径 8.9 器高 2.1	2/12	外:ロコナテ、底部系切 内:ロコナテ	やや密	並	にぶい橙	ロコ土師器
444	079-02	土師器 皿	C地区	包含層	口径 9.2 器高 2.2	10/12	外:ロコナテ、底部系切 内:ロコナテ	やや密	並	にぶい橙	ロコ土師器
445	079-04	土師器 皿	C地区	包含層	口径 9.2 器高 1.8	2/12強	外:ロコナテ、底部系切 内:ロコナテ	やや密	並	にぶい橙	ロコ土師器

第14表 出土遺物観察表⑩

報告番号	Rno.	器種等	小地区	遺構名	計測値 (cm)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
446	056-06	土師器 皿	C地区 a4	包含層	口径 9.0 器高 1.9	底部6/12	外:ロウテ、底部系切 内:ロウテ	やや 密	並	にぶい黄橙	ロウ土師器
447	079-03	土師器 皿	C地区 a4	包含層	口径 9.2 器高 1.8	4/12	外:ロウテ、底部系切 内:ロウテ	やや 密	並	にぶい橙	ロウ土師器
448	081-03	土師器 皿	C地区	包含層	口径 12.7 器高 2.1	11/12弱	外:オサエ、ナテ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや 粗	並	浅黄橙	
449	082-01	土師器 羽釜	C地区 a3	包含層	口径 22.0	2/12弱	外:ナテ、錫部貼付、ナテ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや 密	並	にぶい橙	中北勢系
450	078-03	陶器 皿	C地区 c3	包含層	口径 8.7 器高 1.7	2/12弱	外:ロウテ、底部系切 内:ロウテ	やや 密	並	灰白	内:自然釉 尾張第7~8型式
451	077-01	陶器 椀	C地区 a5	包含層	口径 16.1 器高 5.3	5/12	外:ロウテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロウテ	やや 密	並	灰白	渥美第5型式、内:自然釉 内:使用により磨耗
452	077-02	陶器 椀	C地区 a5	包含層	口径 15.3 器高 5.4	底部完存	外:ロウテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロウテ	やや 密	並	灰黄、黄灰	尾張第6型式
453	081-02	陶器 椀	C地区 a3	包含層	底径 7.7	底部完存	外:ロウテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロウテ	密	良	灰白、灰黄	渥美第5型式
454	078-02	陶器 椀	C地区 a2	包含層	底径 6.8	6/12	外:ロウテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロウテ	やや 密	並	灰白	内:自然釉 尾張第6型式
455	081-01	陶器 椀	C地区 a3	包含層	底径 7.4	底部完存	外:ロウテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロウテ	やや 密	並	灰白	内:自然釉 尾張第5~6型式
456	077-04	陶器 椀	C地区 a2	包含層	底径 6.9	9/12	外:ロウテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロウテ	やや 密	並	灰白	尾張第5型式 内:自然釉、重焼痕
457	078-01	陶器 椀	C地区 a5	包含層	底径 8.1	3/12	外:ロウテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロウテ	やや 密	並	灰黄	渥美第5型式
458	077-03	陶器 椀	C地区 a1	包含層	底径 7.0	底部完存	外:ロウテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロウテ	やや 密	並	灰白	尾張第5型式 内:自然釉
459	077-07	陶器 椀	C地区 a8	包含層	底径 8.0	4/12	外:ロウテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロウテ	やや 密	並	灰白	尾張第6型式
460	077-05	陶器 椀	C地区 a5	包含層	底径 6.7	3/12	外:ロウテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロウテ	やや 粗	並	灰黄	尾張第6型式
461	057-03	陶器 椀	C地区 c2	包含層	底径 6.2 ~7.0	底部完存	外:ロウテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロウテ	やや 粗	並	灰白	尾張第6型式
462	077-06	陶器 椀	C地区 a5	包含層	底径 7.8	4/12	外:ロウテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロウテ	やや 粗	並	灰黄、黄灰	尾張第6型式
463	073-02	陶器 椀	C地区 b2	包含層	口径 14.9 器高 5.1	3/12	外:ロウテ、底部系切 内:ロウテ、ナテ	やや 粗	やや 不良	灰白	尾張第7型式 高台剥離
464	070-03	陶器 椀	C地区 b3	包含層	—	—	外:底部系切 内:ロウテ	粗	並	灰黄	尾張第6~7型式 墨書
465	057-01	陶器 鉢	C地区 c5	包含層	(底径 13.4)	1/12	外:ロウテ、ケズリ、貼付高台、ナテ 内:ロウテ	やや 粗	並	灰白	尾張第5~6型式
466	073-01	陶器 鉢	C地区 a1	包含層	口径 28.1 器高 12.2	底部 1/12弱	外:ロウテ、ロウテスリ、貼付高台、ナテ 内:ロウテ	やや 密	良	灰白	外:内:口縁部自然釉 尾張第6型式
467	082-03	陶器 皿	C地区 b4	包含層	底径 6.0	4/12	外:削出高台 内:ロウテ	密	並	釉:黒、黒褐 素地:灰黄、灰黄褐	鉄釉 登窯第2小期?
468	059-05	磁器 皿	C地区 a5	包含層	口径 13.5 器高 2.0	1/12強	外:ロウテ、削出高台 内:ロウテ	密	良	釉:明緑灰 素地:灰白	瀬戸美濃産染付
469	078-04	陶器 鉢	C地区 c4	包含層	口径 25.0	1/12強	ロウテ	密	良	釉:灰白 素地:灰白	鉄絵鉢 登窯第2~3小期
470	078-06	青磁 椀	C地区 b1	包含層	底径 5.6	6/12	外:削出高台	密	良	釉:オリブ灰 素地:灰黄、灰白	釉付けがけ、底部露胎
471	059-03	磁器 椀	C地区 b7	包含層	口径 9.4 器高 5.2	2/12弱	外:ロウテ、削出高台 内:ロウテ	密	並	灰白	江戸中~後期 瀬戸産染付
472	078-05	白磁 椀	C地区 a4	包含層	口径 18.5	2/12弱	—	密	良	釉:灰白 素地:灰白	
473	082-04	土師器 土鉢	C地区 b1	包含層	長さ 4.6 幅 2.2 重さ 19.3g	—	—	密	並	浅黄橙、淡黄	
476	090-05	土師器 皿	D地区 e4	SD121	口径 7.6 器高 1.0	4/12	外:オサエ、ナテ 内:オサエ、ナテ	やや 密	並	浅黄橙	
477	090-06	土師器 皿	D地区 d4	SD121	口径 7.5 器高 1.0~ 1.6	6/12	外:オサエ、ナテ 内:オサエ、ナテ	やや 密	並	灰白	壺み大
478	094-06	土師器 皿	D地区	SD121 暗褐	口径 8.1 器高 1.4	8/12	外:オサエ、ナテ 内:オサエ、ナテ	やや 密	並	灰白	
479	094-04	土師器 皿	D地区	SD121 暗褐	口径 7.4 器高 1.4	ほぼ完存	外:オサエ、ナテ 内:オサエ、ナテ	やや 密	並	灰白	
480	094-02	土師器 皿	D地区	SD121 暗褐	口径 7.3 器高 1.7	9/12	外:オサエ、ナテ 内:オサエ、ナテ	やや 密	並	にぶい黄橙	
481	090-03	土師器 皿	D地区	SD121	口径 7.5 器高 1.4	8/12	外:オサエ、ナテ 内:オサエ、ナテ	やや 密	並	浅黄橙	
482	094-07	土師器 皿	D地区	SD121 暗褐	口径 7.5 器高 0.8	7/12弱	外:オサエ、ナテ 内:オサエ、ナテ	やや 粗	並	灰白	
483	106-04	土師器 皿	D地区	SD121 暗黄灰	口径 7.4 器高 1.5	6/12	外:オサエ、ナテ 内:オサエ、ナテ	やや 粗	並	浅黄橙	
484	094-05	土師器 皿	D地区	SD121 No.2 暗褐	口径 7.6 器高 1.3	ほぼ完存	外:オサエ、ナテ 内:オサエ、ナテ	やや 粗	並	浅黄橙	
485	094-03	土師器 皿	D地区	SD121 暗褐	口径 7.3 器高 1.2	10/12	外:オサエ、ナテ 内:オサエ、ナテ	やや 密	並	浅黄橙	
486	106-05	土師器 皿	D地区	SD121 暗黄灰	口径 8.1 器高 1.0	10/12弱	外:オサエ、ナテ 内:オサエ、ナテ	やや 粗	並	浅黄橙	灯明皿

第15表 出土遺物観察表①

報告番号	Rno.	器種等	小地区	遺構名	計測値 (cm)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
487	099-03	土師器 皿	D地区 f4	SD121 暗青灰	口径 8.0 器高 0.9	4/12	外:オサエ、ナテ 内:オサエ、ナテ	やや 密	並	浅黄橙	
488	106-03	土師器 皿	D地区 e4	SD121 暗黄灰	口径 12.4 器高 2.1	6/12	外:オサエ、ナテ 内:オサエ、ナテ	やや 粗	並	灰白	
489	099-02	土師器 皿	D地区 f4	SD121 暗青灰	口径 11.8 ~12.1 器高 2.8	ほぼ完存	外:オサエ、ナテ、ヨコナテ 内:オサエ、ナテ、ヨコナテ	密	並	浅黄橙	
490	094-08	土師器 皿	D地区 c4	SD121 暗褐	口径 11.6 器高 1.9	2/12強	外:オサエ、ナテ 内:オサエ、ナテ	やや 粗	並	灰白	
491	102-01	土師器 皿	D地区 f4	SD121 No.4 黒灰	口径 10.0 器高 2.8	6/12	外:オサエ、ナテ、ミカキ 内:オサエ、ナテ、ミカキ	やや 密	並	灰白	
492	094-01	土師器 皿	D地区 f4	SD121 No.3 暗褐	口径 11.0 器高 3.1	2/12	外:オサエ、ナテ 内:オサエ、ナテ	やや 粗	並	浅黄橙	表面剥離の為調整不明瞭
493	099-01	土師器 鍋	D地区 f4	SD121 暗青灰	口径 23.2	2/12	外:ナテ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや 粗	並	外:灰黄褐 内:にぶい黄橙	外:煤付着
494	105-01	土師器 鍋	D地区 e4	SD121 暗黄灰	口径 28.4	3/12	外:ハケメ、オサエ、ナテ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	粗	並	にぶい黄橙	南伊勢系 外:煤付着
495	092-02	土師器 鍋	D地区 f3	SD121 暗褐	口径 28.5	1/12強	外:オサエ、ヨコナテ 内:オサエ、ヨコナテ	粗	並	浅黄橙	南伊勢系 外:煤付着
496	093-01	土師器 鍋	D地区 c4	SD121 暗褐	口径 28.2	2/12弱	外:オサエ、ヨコナテ、ハケメ 内:オサエ、ヨコナテ	やや 粗	並	にぶい黄橙	南伊勢系 外:煤付着
497	105-02	土師器 鍋	D地区 f4	SD121	口径 27.9	2/12強	外:ハケメ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	粗	並	にぶい黄橙	南伊勢系 外:煤付着
498	104-01	土師器 鍋	D地区 f4	SD121 No.5	口径 23.3	9/12	外:カスリ、ハケメ、ヨコナテ 内:オサエ、ナテ、ヨコナテ	やや 粗	並	にぶい黄橙 浅黄橙	南伊勢系 外:煤付着
499	090-01	土師器 鍋	D地区 f4	SD121	口径 28.5	2/12強	外:オサエ、ナテ、ハケメ、ヘラクスリ、ヨコナテ 内:オサエ、ナテ、ヨコナテ	やや 密	並	外:浅黄橙 内:灰黄褐	外:煤付着
500	092-01	土師器 羽釜	D地区 e4	SD121 No.1 暗褐	口径 35.0	2/12	外:ハケメ、鏝部貼付、ナテ、ヨコナテ 内:オサエ、ナテ、ヨコナテ	やや 粗	並	浅黄橙	南伊勢系 外:内:煤付着
501	101-03	陶器 皿	D地区 f4	SD121 黒灰	口径 7.6 器高 1.4	ほぼ完存	外:ウロナテ、底部系切 内:ウロナテ	やや 密	並	灰白、 明褐灰	尾張第7~8型式
502	103-06	陶器 皿	D地区 e4	SD121 No.2 暗黄灰	底径 5.2 器高 2.2	5/12	外:ウロナテ、底部系切 内:ウロナテ	やや 粗	並	灰白	渥美第5型式
503	103-02	陶器 椀	D地区 e4	SD121 暗黄灰	口径 15.0	3/12	外:ウロナテ 内:ウロナテ	やや 粗	並	灰白	尾張第6型式 504と同一固体
504	098-03	陶器 椀	D地区 f4	SD121 No.8	口径 15.1 器高 5.6	6/12	外:ウロナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ウロナテ	やや 密	並	灰白	尾張第6型式、内:スス付着 503と同一固体
505	096-02	陶器 椀	D地区 c4	SD121 暗褐	口径 14.1	2/12強	外:ウロナテ 内:ウロナテ	やや 粗	良	灰白	尾張第6型式
506	089-01	陶器 椀	D地区 d4	SD121	底径 8.3	10/12弱	外:ウロナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ウロナテ、ナテ	やや 密	並	灰白	渥美第5型式
507	096-04	陶器 椀	D地区 d4	SD121 暗褐	底径 6.8	底部完存	外:ウロナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ウロナテ	やや 粗	良	灰白	尾張第5型式
508	103-04	陶器 椀	D地区 c4	SD121 暗黄灰	口径 15.0 器高 4.9	2/12弱	外:ウロナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ウロナテ、ナテ	やや 粗	並	灰白	尾張第6型式
509	103-03	陶器 椀	D地区 c4	SD121 No.1 暗黄灰	底径 7.2	底部6/12	外:ウロナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ウロナテ、ナテ	やや 粗	並	灰白	尾張第6型式 内:煤付着
510	103-05	陶器 椀	D地区 c4	SD121 暗黄灰	(底径 7.2)	底部 ほぼ完存	外:ウロナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ウロナテ	やや 粗	並	灰白	渥美第5型式 高台端部欠損
511	109-06	陶器 椀	D地区 f3	SD121	底径 5.8	底部2/12 強	外:ウロナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ウロナテ	やや 粗	並	にぶい黄橙	尾張第7型式 内:煤付着
512	089-03	陶器 椀	D地区 d4	SD121	口径 14.0 器高 5.2	2/12弱	外:ウロナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ウロナテ、ナテ	やや 密	並	灰白	尾張第6型式
513	096-05	陶器 椀	D地区 f4	SD121 黒灰	底径 6.1	底部完存	外:ウロナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ウロナテ	やや 粗	良	灰白	尾張第6型式
514	103-01	陶器 椀	D地区 e4	SD121 No.1 暗黄灰	口径 14.0 器高 5.1	6/12	外:ウロナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ウロナテ	粗	並	灰白	尾張第6型式
515	096-01	陶器 椀	D地区 c4	SD121 暗褐	口径 15.1 器高 6.0	底部完存	外:ウロナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ウロナテ、ナテ	粗	良	灰白	尾張第6型式
516	096-03	陶器 椀	D地区 c4	SD121 暗褐	底径 7.6	底部完存	外:ウロナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ウロナテ	やや 密	良	灰白	尾張第5型式
517	089-04	陶器 椀	D地区 d4	SD121	底径 5.7	底部完存	外:ウロナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ウロナテ	やや 密	良	灰白	尾張第7型式 内:重焼痕有
518	086-04	陶器 椀	D地区 e4	SD121	底径 6.6	6/12	外:ウロナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ウロナテ、ナテ	粗	並	灰白	尾張第6型式 外:底部墨書
519	087-07	陶器 椀	D地区 c4	SD121	底径 7.2	4/12	外:ウロナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ウロナテ	密	並	灰白	渥美第6型式、外:底部墨書 墨書分類表A7
520	086-02	陶器 椀	D地区 d4	SD121	底径 6.0	底部 ほぼ完存	外:ウロナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ウロナテ、ナテ	やや 密	並	灰白	尾張第6型式、外:底部墨書 内:煤付着
521	087-02	陶器 椀	D地区 e4	SD121 暗黄灰	底径 5.4	底部完存	外:ウロナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ウロナテ	粗	並	灰白	尾張第6型式 外:底部墨書
522	087-01	陶器 椀	D地区 c4	SD121 暗黄灰	底径 7.0	2/12弱	外:ウロナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ウロナテ	やや 粗	並	灰白	尾張第6型式 外:底部墨書
523	088-02	陶器 椀	D地区 f4	SD121 暗青灰	底径 5.2	6/12	外:ウロナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ウロナテ	やや 密	並	灰白	尾張第7型式 外:底部墨書
524	087-04	陶器 椀	D地区 d4	SD121 暗褐	底径 5.2	底部 ほぼ完存	外:ウロナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ウロナテ	やや 密	並	灰白	尾張第7型式 外:底部墨書

第16表 出土遺物観察表⑫

報告番号	Rno.	器種等	小地区	遺構名	計測値 (cm)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
525	086-03	陶器 椀	D地区 e4	SD121 暗褐	底径 6.2	6/12	外:ロウナテ、底部糸切、貼付高台 内:ロウナテ、ナテ	やや粗	並	灰白	尾張第7型式 外:底部墨書
526	086-01	陶器 椀	D地区 e4	SD121 暗黄灰	底径 6.1	底部完存	外:ロウナテ、底部糸切、貼付高台 内:ロウナテ	粗	並	灰白	尾張第6型式、外:底部墨書 内:煤付着、墨書分類表A7
527	088-03	陶器 椀	D地区 e4	SD121 暗黄灰	(底径 5.0)	底部 ほぼ完存	外:ロウナテ、底部糸切 内:ロウナテ	粗	並	灰白	尾張第7型式、高台剥離 外:底部墨書
528	088-01	陶器 椀	D地区 c4	SD121 暗黄灰	底径 5.6	4/12	外:ロウナテ、底部糸切 内:ロウナテ	粗	並	灰白	尾張第7~8型式 外:底部墨書
529	087-08	陶器 椀	D地区 d4	SD121 暗褐	底径 6.6	3/12	外:ロウナテ、底部糸切 内:ロウナテ	粗	並	灰白	尾張第8型式 外:底部墨書
530	087-05	陶器 椀	D地区 c4	SD121 暗褐	底径 6.8	3/12	外:ロウナテ、底部糸切 内:ロウナテ、ナテ	やや密	並	灰白	尾張第7~8型式 外:底部墨書
531	109-05	陶器 椀	D地区 f4	SD121 暗青灰	—	—	外:底部糸切 内:ロウナテ	やや粗	並	灰白	外:内:底部墨書 尾張第7型式?
532	087-06	陶器 椀	D地区 c4	SD121	—	—	外:ロウナテ 内:ロウナテ	やや密	並	灰白	尾張第6~7型式 外:底部墨書
533	095-01	陶器 甕	D地区 e4	SD121 暗褐	口径 39.0	2/12強	外:ロウナテ、タキ 内:ロウナテ	密	並	釉:灰褐 素地:黄灰	常滑産
534	096-06	青磁 椀	D地区 f4	SD121 黒灰	底径 5.0	底部4/12	外:ロウナテ、削出高台 内:ロウナテ	密	良	釉:オリーブ灰 素地:灰	
535	088-05	青磁 椀	D地区 e4	SD121 暗褐	口径 17.7	1/12強	外:ロウナテ 内:ロウナテ	密	良	釉:明オリーブ灰 素地:灰白	
536	093-02	陶器 天目茶椀	D地区 f4	SD121 暗褐	口径 13.0	3/12	外:ロウナテ、ロウケスリ 内:ロウナテ	密	良	釉:黒 素地:にぶい褐	登窯第2小期?
537	098-02	陶器 壺	D地区 f4	SD121 No.7	底径 9.0	10/12	外:ロウナテ 内:ロウナテ	やや粗	並	灰白	
538	090-02	土師器 鍋	D地区 f4	SD121	口径 8.5	2/12弱	外:オサエ、ナテ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや密	並	外:灰黄褐 内:褐灰	ミニチュア
539	090-04	土師器 鍋	D地区 c4	SD121	口径 9.8	2/12	外:オサエ、ヨコナテ、ナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや密	並	外:灰黄褐 内:灰白	ミニチュア
540	102-04	土錘	D地区 d4	SD121 黄灰	最大長 4.2 重さ 11.6g	ほぼ完存	—	やや密	並	灰白、灰	
547	115-03	土師器 皿	D地区 g4	SD129 黒灰	口径 7.3 器高 1.3	8/12	外:オサエ、ナテ 内:オサエ、ナテ、工具ナテ	やや密	並	灰白	
548	113-02	土師器 甕	D地区 g4	SD129	口径 22.0	2/12弱	外:オサエ、ナテ、ヨコナテ 内:工具ナテ、ヨコナテ	やや密	並	灰白、 褐灰	南伊勢系
549	134-01	土師器 鍋	D地区 g4	SD129	口径 23.3	ほぼ完存	外:ケスリ、ハケメ、ヨコナテ 内:オサエ、ナテ、ヨコナテ	やや粗	並	にぶい黄橙	南伊勢系 外:煤付着
550	113-01	土師器 羽釜	D地区 g5	SD129 暗褐	口径 17.2	6/12	外:ナテ、ハケメ、鏝部貼付、ヨコナテ 内:工具ナテ、ヨコナテ	やや密	並	にぶい黄橙	中北勢系
551	113-03	土師器 羽釜	D地区 g5	SD129	口径 28.2	2/12弱	外:ハケメ、鏝部貼付、ナテ、ヨコナテ 内:工具ナテ、ヨコナテ	やや密	並	灰白、浅黄橙	中北勢系
552	099-04	陶器 皿	D地区 g4	SD129	口径 8.3 器高 2.0	完存	外:ロウナテ、底部糸切 内:ロウナテ	やや密	並	灰白	渥美?第6型式
553	115-02	陶器 皿	D地区 g4	SD129 No.6	口径 8.6 器高 1.8	8/12	外:ロウナテ、底部糸切 内:ロウナテ	やや密	並	灰白	尾張第6型式 外:自然釉
554	111-05	陶器 皿	D地区 g4	SD129 黒灰	底径 4.8 器高 2.2	底部完存	外:ロウナテ、底部糸切 内:ロウナテ	やや密	並	灰白	渥美第6型式 外:自然釉
555	111-06	陶器 皿	D地区 g2	SD129 暗青灰	口径 8.6 器高 1.4	4/12	外:ロウナテ、底部糸切 内:ロウナテ	やや密	並	灰白	渥美第6型式
556	098-04	陶器 椀	D地区 g4	SD129 暗青灰	口径 15.6 器高 5.6	3/12	外:ロウナテ、底部糸切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ	やや密	並	灰白	渥美第6型式 内:煤付着
557	111-03	陶器 椀	D地区 g4	SD129 暗青灰	底径 5.0 ~7.5 器高 5.0	底部完存	外:ロウナテ、底部糸切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ	やや粗	並	灰白	歪み大 渥美第6型式
558	111-02	陶器 椀	D地区 g4	SD129 黒灰	口径 15.8 器高 5.3	ほぼ完存	外:ロウナテ、底部糸切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ、ナテ	やや密	並	灰白	尾張第5型式 内:自然釉
559	114-03	陶器 椀	D地区 g4	SD129 No.13	底径 7.7	底部完存	外:ロウナテ、底部糸切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ	粗	並	灰白	渥美第6型式
560	114-02	陶器 椀	D地区 g4	SD129 No.35	底径 7.5	底部完存	外:ロウナテ、底部糸切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ	やや密	並	灰白	渥美第6型式
561	111-04	陶器 椀	D地区 g2	SD129 暗褐	底径 7.4 ~7.7	底部 ほぼ完存	外:ロウナテ、底部糸切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ	やや密	並	灰白	渥美第6型式 内:自然釉
562	112-01	陶器 椀	D地区 g3	SD129	底径 6.8	底部 ほぼ完存	外:ロウナテ、底部糸切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ	やや密	並	灰白	尾張第5型式
563	132-03	陶器 椀	D地区 東壁 土層 No.1	包含層	底径 6.9	底部完存	外:ロウナテ、底部糸切、貼付高台 内:ロウナテ	やや密	並	灰白	尾張第6型式 ミカウ痕
564	114-01	陶器 椀	D地区 g4	SD129 No.26	底径 7.4	底部完存	外:ロウナテ、底部糸切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ	やや密	並	灰白	渥美第6型式
565	114-05	陶器 椀	D地区 g4	SD129 No.19	底径 6.4 ~6.8 器高 4.9	底部完存	外:ロウナテ、底部糸切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ、ナテ	やや粗	並	灰白	歪み大 尾張第6型式
566	132-07	陶器 椀	D地区	SD129	底径 7.3	底部6/12	外:ロウナテ、底部糸切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ	やや密	並	灰白	尾張第6型式
567	101-02	陶器 椀	D地区 g4	SD129 褐	底径 7.9	底部完存	外:ロウナテ、底部糸切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ、ナテ	やや密	並	灰白	尾張第6型式
568	114-06	陶器 椀	D地区 g4	SD129	底径 8.2 器高 5.7	底部4/12	外:ロウナテ、底部糸切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ	やや密	並	灰白	尾張第6型式 内:自然釉、煤付着
569	114-04	陶器 椀	D地区 g4	SD129 No.40	口径 13.8 器高 5.2	3/12	外:ロウナテ、底部糸切、貼付高台、ナテ 内:ロウナテ、ナテ	やや粗	並	灰白	尾張第7型式

第17表 出土遺物観察表(13)

報告番号	Rno.	器種等	小地区	遺構名	計測値 (cm)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
570	099-05	陶器 椀	D地区 g4	SD129 暗青灰	口径 12.2 器高 4.5	3/12	外:ロウナテ、 内:ロウナテ、 底部系切	やや 粗	並	灰白	尾張第8型式
571	112-06	陶器 椀	D地区 f4	SD129	口径 14.8 器高 4.6	2/12強	外:ロウナテ、 内:ロウナテ、 底部系切	やや 粗	並	灰白	尾張第6型式、 高台剥離 内:自然釉
572	108-05	陶器 椀	D地区 g2	SD129 暗褐	底径 8.0	底部4/12	外:ロウナテ、 内:ロウナテ、 底部系切、貼付高台、ナテ	やや 粗	並	灰白	尾張第6型式 外:底部墨書
573	087-03	陶器 椀	D地区 g2	SD129 黄灰	底径 7.2	底部6/12	外:ロウナテ、 内:ロウナテ、 底部系切、貼付高台、ナテ	やや 密	並	灰白	尾張第6型式 外:底部墨書
574	109-03	陶器 椀	D地区 g4	SD129	(底径 7.4)	底部3/12	外:ロウナテ、 内:ロウナテ、 底部系切、貼付高台、ナテ	やや 密	並	灰白	渥美第6型式、 内:自然釉 高台剥離
575	109-04	陶器 椀	D地区 g4	SD129 暗青灰	底径 7.0	底部3/12	外:ロウナテ、 内:ロウナテ、 底部系切、貼付高台、ナテ	やや 粗	並	灰白	尾張第6型式 外:底部墨書
576	108-03	陶器 椀	D地区 g4	SD129 黒灰	底径 7.0	底部3/12	外:ロウナテ、 内:ロウナテ、 底部系切、貼付高台、ナテ	やや 粗	並	灰白	尾張第6型式 外:底部墨書
577	109-02	陶器 椀	D地区 g5	SD129	(底径 6.4)	底部6/12	外:ロウナテ、 内:ロウナテ、 底部系切、貼付高台、ナテ	やや 粗	並	灰白	尾張第6型式、 外:底部墨書 高台剥離
578	107-03	陶器 椀	D地区 g2	SD129	底径 5.4	底部9/12	外:ロウナテ、 内:ロウナテ、 底部系切、貼付高台、ナテ	やや 粗	並	灰白	尾張第6型式 外:底部墨書
579	086-05	陶器 椀	D地区 g4	SD129 暗青灰	底径 6.6	6/12	外:ロウナテ、 内:ロウナテ、 底部系切、貼付高台、ナテ	粗	並	灰白	尾張第6型式 外:底部墨書
580	109-01	陶器 椀	D地区 g4	SD129 No.2	口径 12.7 ~13.0 器高 5.2	8/12	外:ロウナテ、 内:ロウナテ、 底部系切、貼付高台、ナテ	やや 粗	並	灰白	尾張第7型式 内:自然釉、 煤付着 外:底部墨書
581	108-01	陶器 椀	D地区 g5	SD129	口径 15.1 器高 5.5	10/12弱	外:ロウナテ、 内:ロウナテ、 底部系切、貼付高台、ナテ	やや 密	並	灰白	尾張第6型式、 外:自然釉 外:底部墨書
582	108-02	陶器 椀	D地区 g2	SD129 黒灰	(底径 7.2)	3/12	外:ロウナテ、 内:ロウナテ、 底部系切、貼付高台、ナテ	やや 粗	並	灰白	尾張第7型式、 外:底部墨書 高台剥離
583	108-04	陶器 椀	D地区 g4	SD129 No.16	口径 13.6 器高 5.0	3/12	外:ロウナテ、 内:ロウナテ、 底部系切	やや 粗	並	灰白	尾張第7型式、 外:底部墨書 内:煤付着
584	132-01	陶器 鉢	D地区	SD129	底径 15.3	底部 2/12強	外:ロウナテ、 内:ロウナテ、 底部系切、貼付高台、ナテ	粗	並	灰白	尾張第6型式
585	111-01	陶器 鉢	D地区 f4、g4	SD129 暗褐 暗青灰	口径 29.0 器高 6.3	2/12	外:ロウナテ、 内:ロウナテ、 底部系切、貼付高台、ナテ	やや 粗	並	灰白	尾張第6型式
586	113-05	陶器 甕	D地区 g4	SD129 黒灰	—	—	ロウナテ	やや 密	並	褐灰、 灰褐	常滑産
587	113-04	陶器 甕	D地区 g4	SD129 No.38	口径 22.2	1/12	外:ロウナテ、 内:ロウナテ、 オサエ	やや 密	並	にぶい 赤褐	常滑産 内:自然釉
588	122-02	陶器 甕	D地区 g4	SD129	口径 29.0	2/12	ロウナテ	やや 粗	並	赤褐	常滑産 外:自然釉
589	101-01	陶器 甕	D地区 g4	SD129	口径 27.7	2/12強	外:ロウナテ、 内:ロウナテ	やや 密	並	灰赤、 褐灰	常滑産
592	119-07	土師器 皿	D地区 c2	SK128	口径 7.0 器高 1.1	ほぼ完存	オサエ、ナテ	やや 粗	並	灰白	
593	119-04	土師器 皿	D地区 c2	SK128	口径 7.3 器高 1.2	4/12	オサエ、ナテ	やや 粗	並	灰白	
594	119-08	土師器 皿	D地区 c2	SK128	口径 7.7 器高 1.1	6/12	オサエ、ナテ	やや 粗	並	浅黄橙	
595	119-03	土師器 皿	D地区 c2	SK128 西	口径 7.1 ~7.6 器高 0.8	9/12	オサエ、ナテ	やや 粗	並	浅黄橙	歪み大
596	119-06	土師器 皿	D地区 c2	SK128 西	口径 7.0 器高 1.2	ほぼ完存	オサエ、ナテ	やや 粗	並	浅黄橙	
597	118-04	土師器 皿	D地区 c2	SK128 No.9	口径 9.2 ~10.2 器高 2.6	ほぼ完存	外:オサエ、ナテ 内:オサエ、ナテ	粗	並	浅黄橙	外:素地 接合痕 歪み大
598	118-02	土師器 皿	D地区 c2	SK128 No.8	口径 9.5 器高 2.4	9/12	外:オサエ、ナテ 内:オサエ、ナテ	粗	並	灰白	
599	118-01	土師器 皿	D地区 c2	SK128 No.16	口径 9.1 ~10.6 器高 2.4	ほぼ完存	外:オサエ、ナテ 内:オサエ、ナテ	粗	並	灰白	歪み大
600	119-02	土師器 皿	D地区 c3	SK128	口径 10.0 器高 2.6	3/12	オサエ、ナテ	やや 粗	並	灰白	
601	118-06	土師器 皿	D地区 c2	SK128 No.12	口径 10.0 器高 2.3	9/12	オサエ、ナテ	やや 粗	並	浅黄橙	
602	118-05	土師器 皿	D地区 c2	SK128 No.17	口径 8.8 ~9.8 器高 2.6	ほぼ完存	外:オサエ、ナテ 内:オサエ、ナテ	やや 粗	並	浅黄橙	歪み大
603	119-01	土師器 皿	D地区 c2	SK128 南	口径 9.2 ~10.2 器高 2.1	3/12	オサエ、ナテ	やや 粗	並	灰白	歪み大
604	118-03	土師器 皿	D地区 d2	SK128 南	口径 11.2 器高 2.2	3/12	外:オサエ、ナテ 内:オサエ、ナテ	やや 粗	並	灰白	
605	117-02	土師器 鍋	D地区 c2	SK128 南	口径 29.7	2/12	外:ヨコナテ 内:ヨコナテ	やや 粗	並	浅黄橙	南伊勢系 外:煤付着
606	117-03	土師器 鍋	D地区 c2	SK128	口径 29.9	2/12弱	外:オサエ、ナテ、 内:オサエ、ナテ、 ヨコナテ	粗	並	にぶい 黄橙	南伊勢系
607	116-01	土師器 鍋	D地区 d2	SK128 No.3 No.5	口径 28.5	ほぼ完存	外:ハケム、 内:工具ナテ、 ヨコナテ	やや 粗	並	浅黄橙	南伊勢系 外:煤付着
608	121-01	土師器 鍋	D地区 c2	SK128 No.11,14	口径 21.0	2/12	外:ハケム、 内:工具ナテ、 ヨコナテ	やや 密	並	灰黄褐	南伊勢系 外:煤付着

第18表 出土遺物観察表⑭

報告番号	Rno.	器種等	小地区	遺構名	計測値 (cm)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
609	117-01	土師器 鍋	D地区 d2	SK128 No.4	口径 33.6	2/12	外:ハケム、ヨコナテ 内:オサエ、ナテ、ヨコナテ	粗	並	浅黄橙	南伊勢系 外:煤付着
610	120-01	土師器 羽釜	D地区 c2	SK128 No.13	口径 27.0	4/12	外:ハケム、鐙部貼付、ナテ、ヨコナテ 内:工具ナテ、ヨコナテ	やや密	並	浅黄橙、 灰黄褐	南伊勢系 外:鐙部下煤付着
611	120-02	土師器 羽釜	D地区 d2	SK128 No.2	口径 22.0	4/12	外:カスリ、ハケム、鐙部貼付、ナテ、ヨコナテ 内:カスリ、工具ナテ、ヨコナテ	やや密	並	浅黄橙、 灰白	南伊勢系 外:鐙部下煤付着
612	116-02	土師器 羽釜	D地区 c2	SK128 No.1	口径 26.2	2/12弱	外:オサエ、ハケム、鐙部貼付、ナテ、ヨコナテ 内:オサエ、ナテ、ヨコナテ	粗	並	浅黄橙	南伊勢系 外:鐙部下煤付着
613	123-02	陶器 椀	D地区 c2	SK128	底径 7.7	底部完存	外:ロコナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロコナテ	やや密	並	灰白 高台:灰	渥美第5型式
614	122-04	陶器 椀	D地区 c2	SK128	底径 5.8	底部 2/12弱	外:ロコナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロコナテ、ナテ	やや密	並	灰白	尾張第7型式 外:底部墨書
615	123-05	陶器 緑釉小皿	D地区 c2	SK128	底径 5.0 器高 2.6	底部完存	外:ロコナテ、底部系切 内:ロコナテ	やや密	並	釉:暗褐 素地:灰白	鉄釉 古瀬戸後Ⅲ期
616	123-06	陶器 折縁小皿	D地区 c2	SK128	底径 4.2 器高 2.3	底部完存	外:ロコナテ、底部系切 内:ロコナテ	やや密	並	釉:浅黄 素地:にぶい黄橙	古瀬戸後Ⅲ期
617	122-03	白磁 三筋壺	D地区 c2	SK128	口径 13.2	2/12強	ロコナテ	密	良	釉:灰白 素地:灰白	
618	098-01	陶器 壺	D地区 c2、f4	SD121 SK128 No.6	底径 8.7 ~9.0	底部完存	外:ロコナテ 内:ロコナテ	やや粗	並	灰白、褐灰	外:自然釉
619	124-02	陶器 甕	D地区 d2	SK128	—	—	外:ロコナテ 内:オサエ、ロコナテ	やや密	並	灰赤、灰褐	常滑産
620	124-04	陶器 甕	D地区 d2	SK128	—	—	ロコナテ	やや密	並	にぶい 赤褐、褐灰	常滑産
621	124-01	陶器 甕	D地区 c2	SK128	—	—	外:ロコナテ、押印文 内:オサエ、ロコナテ	やや密	並	にぶい褐、 にぶい赤褐	常滑産
622	122-01	陶器 甕	D地区 c2	SK128	口径 30.7	2/12弱	ロコナテ	やや粗	並	赤灰、灰褐	常滑産 外:自然釉
624	129-01 129-02	土師器 甕	D地区 b7	SD148	口径 10.8 底径 3.4	口縁部 2/12弱 底部完存	外:カスリ、ヨコナテ 内:工具ナテ、ナテ、ヨコナテ	やや密	並	灰褐、淡赤橙、 浅黄橙	同一固体として実測
625	129-07	陶器 皿	D地区 c4	SD136	口径 9.0 器高 2.7	3/12	外:ロコナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロコナテ	やや密	並	灰白	尾張第4型式 内:自然釉
626	129-06	陶器 皿	D地区 c5	SD134	底径 3.5 器高 2.3	底部完存	外:ロコナテ、底部系切 内:ロコナテ	やや密	並	灰白	渥美第5型式 内:自然釉
627	129-04	陶器 椀	D地区 f5	SD137	底径 6.8	底部4/12	外:ロコナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロコナテ	やや密	並	灰白	渥美第5型式
628	129-03	陶器 甕	D地区 c2	SD127	—	—	ロコナテ	やや密	並	褐灰、灰赤	常滑産
629	127-06	土師器 台付甕	D地区 c3	SK139	底径 8.6	底部3/12	外:ハケム、ヨコナテ 内:オサエ、ナテ	やや粗	並	にぶい褐	
630	128-02	土師器 皿	D地区 c5	SK135	口径 11.7 器高 2.4	3/12	外:オサエ、ナテ 内:オサエ、ナテ	やや粗	並	浅黄橙、 淡橙	
631	128-04	土師器 皿	D地区 f5	SK150 暗褐	口径 8.6 器高 2.1	4/12	外:オサエ、ナテ 内:オサエ、ナテ	やや密	並	灰白	
632	128-01	土師器 羽釜	D地区 f5	SK150	口径 29.8	2/12弱	外:ハケム、鐙部貼付、ナテ、ヨコナテ 内:ヨコナテ	粗	並	浅黄橙	南伊勢系 外:鐙部下煤付着
633	123-04	陶器 皿	D地区 e5	SX125	口径 8.0 器高 1.7	ほぼ完存	外:ロコナテ、底部系切 内:ロコナテ	やや粗	並	灰白	渥美?第6型式
634	123-01	陶器 椀	D地区 e5	SX125 No.1	口径 16.1 ~16.8 器高 5.4	10/12弱	外:ロコナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロコナテ	やや粗	並	灰白	渥美第6型式 歪み大
635	125-05	土師器 皿	D地区 f6	SX152	口径 9.1 器高 1.2	4/12	外:オサエ、ヨコナテ 内:オサエ、ヨコナテ	やや密	並	にぶい黄橙	
636	125-03	陶器 皿	D地区 f6	SX152 No.5	口径 8.4 器高 2.1	7/12	外:ロコナテ、底部系切 内:ロコナテ	やや密	並	灰白	尾張第6型式 外:自然釉
637	125-02	陶器 椀	D地区 f6	SX152 No.2	口径 16.0 器高 5.5	6/12	外:ロコナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロコナテ	やや密	並	灰白	渥美第5型式
638	125-01	陶器 椀	D地区 f6	SX152 No.3	口径 16.0 ~16.7 器高 5.5	9/12	外:ロコナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロコナテ	やや密	並	灰白	渥美第5型式 歪み大
640	128-05	土師器 皿	D地区 c4	SX154	口径 7.0 器高 0.7	3/12	外:オサエ、ナテ 内:オサエ、ナテ	やや粗	並	浅黄橙	
641	125-04	土師器 皿	D地区 c4	SX154 No.2	口径 7.0 ~7.5 器高 1.5	完存	外:オサエ、ナテ 内:オサエ、工具ナテ、ナテ	やや密	並	浅黄橙、 灰白	歪み大
642	128-03	土師器 皿	D地区 c4	SX154	口径 11.4 器高 2.3	3/12	外:オサエ、ナテ 内:オサエ、ナテ	やや粗	並	灰白	
643	126-01	土師器 鍋	D地区 c4	SX154 No.1	口径 24.0 ~25.0 器高 14.1	完存	外:カスリ、ハケム、ヨコナテ 内:カスリ、工具ナテ、ヨコナテ	やや密	並	浅黄橙	南伊勢系 外:煤付着、体部2ヶ所 焼成後穿孔
644	125-06	土師器 鍋	D地区 c4	SX154	口径 32.0	1/12	外:ナテ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや密	並	にぶい黄橙 灰黄褐	南伊勢系
645	127-04	陶器 皿	D地区 f2	SE126 No.1	底径 4.7 器高 1.8	底部 ほぼ完存	外:ロコナテ、底部系切 内:ロコナテ、ナテ	やや粗	並	灰白	尾張第6型式
646	127-05	陶器 皿	D地区 f3	SE126	口径 8.2 器高 1.8	3/12	外:ロコナテ、底部系切 内:ロコナテ	やや粗	並	灰白	尾張第7型式、外:内:自然釉
647	127-03	陶器 椀	D地区 f2	SE126 暗褐	底径 7.2	3/12	外:ロコナテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロコナテ	やや粗	並	灰白	渥美第5型式
648	127-02	陶器 椀	D地区 f2	SE126	口径 14.2 器高 6.0	4/12	外:ロコナテ、底部系切 内:ロコナテ、ナテ	粗	並	灰白	尾張第9型式 外:底部墨書

第19表 出土遺物観察表⑮

報告番号	Rno.	器種等	小地区	遺構名	計測値 (cm)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
649	127-01	陶器鉢	D地区 f2	SE126 No.2	底径 14.7	底部3/12	外:叻ロテ、ロウケ入り、底部未調整 内:ロウロテ	やや粗	並	灰	尾張第5~6型式
650	128-06	土師器土鉢	D地区 f2	SE126	最大長 6.1 重さ 35.7g	—	—	やや粗	並	にぶい黄橙 黒褐	
653	130-06	陶器椀	D地区 e4	Pit7	底径 7.6	底部4/12	外:叻ロテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロウロテ	やや密	並	灰白	渥美第5~6型式 内:墨痕か
654	130-04	陶器椀	D地区 e4	Pit10	底径 7.0	底部6/12	外:叻ロテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロウロテ	やや密	並	灰白	渥美第6型式
655	130-05	陶器椀	D地区 f3	Pit7	底径 6.2	底部4/12	外:叻ロテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロウロテ	やや密	並	灰白	渥美第6型式 内:墨痕か
656	130-01	陶器鉢	D地区 f3	Pit1	底径 18.4	底部 3/12	外:ナテ、ロウロテ 内:ロウロテ	やや粗	並	灰赤、 にぶい赤褐	常滑産
657	107-01	土師器壺	D地区 g2	包含層	口径 16.6	4/12	外:ナテ、刺突(櫛) 内:ナテ、刺突(櫛)	やや粗	並	浅黄橙	
658	106-01	土師器壺	D地区 d4	包含層	口径 24.0	6/12	外:ヨコ、ナテ、刺突 内:ヨコ、ナテ、ハケメ	粗	並	にぶい黄橙	
659	106-02	土師器壺	D地区 c4	包含層	口径 33.0	口縁部 1/12強	外:ヨコ、ナテ、刺突、貼付円形浮文、シガキ 内:直線文、波状文、簾状文	やや粗	並	にぶい橙	
660	100-01	土師器壺	D地区 c4	包含層	口径 14.0	10/12	外:ヨコナテ、ハケメ、竹管文、刺突、櫛描直線文、 シガキ 内:ヨコナテ、ハケメ、ナテ	やや粗	並	橙、 にぶい橙	
661	135-01	土師器壺	D地区 c4	包含層	口径 16.4	ほぼ完存	外:ハケメ、シガキ、櫛描直線文、波状文、ヨコナテ、 刺突 内:ハケメ、オサエ、ナテ、シガキ、ヨコナテ	やや粗	並	橙	
662	097-03	土師器壺	D地区 d4	包含層	—	—	外:ナテ、櫛描文、波状文	粗	並	にぶい黄橙	
663	131-05	土師器壺	D地区 f3	包含層	—	—	外:ハケメ 内:ナテ、オサエ	やや粗	並	橙	天地不明
664	130-03	土師器壺	D地区 c2	包含層	—	—	外:沈線、刺突 内:ナテ	やや粗	並	にぶい橙	外:赤彩
665	102-02	土師器壺	D地区 d4	包含層	底径 3.1 ~3.4	底部完存	外:オサエ、ナテ、シガキ 内:オサエ、ナテ、シガキ	やや密	並	にぶい橙	
666	105-04	土師器台付甕	D地区 d4	包含層	底径 10.6	底部2/12	外:ハケメ、ヨコナテ 内:台部:工具ナテ、ヨコナテ、甕部:工具ナテ	粗	並	にぶい橙	
667	095-02	土師器台付甕	D地区 c4	包含層	最大幅 13.0	体部4/12	外:ハケメ、刺突 内:ナテ、ハケメ	やや粗	並	灰黄褐	
668	100-03	土師器鉢	D地区 c4	包含層	口径 14.4	1/12	外:ヨコナテ、ハケメ、シガキ 内:ヨコナテ、シガキ	やや密	並	橙	
669	100-02	土師器高杯	D地区 d4	包含層	口径 20.0	1/12	外:ヨコナテ、シガキ 内:ヨコナテ、シガキ	やや密	並	橙、 にぶい黄橙	
670	128-07	土師器高杯	D地区 f2	包含層	脚基部径 5.0	脚基部 3/12	外:シガキ、半截竹管文、刺突 内:ナテ	やや粗	並	橙	
671	107-02	土師器高杯	D地区 g5	包含層	脚基部径 4.0	脚基部 完存	外:シガキ 内:ハケメ、オサエ	やや粗	並	灰白、灰褐	
672	089-05	土師器高杯	D地区 d4	包含層	脚基部径 4.2	脚基部 完存	外:ナテ、ヘラシガキ、櫛描横線文 内:ナテ	やや密	並	にぶい橙	3方透し
673	089-06	土師器高杯	D地区 d4	包含層	脚基部径 5.0	脚基部 完存	外:ナテ、ヘラシガキ、櫛描横線文 内:シホリ痕	やや粗	並	にぶい橙	
674	102-03	土師器高杯	D地区 d4	包含層	脚基部径 4.2	脚基部 完存	外:シガキ、櫛描直線文 内:工具ナテ	やや粗	並	にぶい黄橙	
675	095-04	土師器高杯	D地区 d4	包含層	脚基部径 3.2	脚基部 完存	外:ナテ、ヘラシガキ、3方向透かし 内:ナテ、シホリ痕	やや粗	並	にぶい橙	
676	131-03	土師器鍋	D地区 g5	包含層	口径 27.0	2/12弱	外:ハケメ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや密	並	灰白	外:煤付着
677	131-02	土師器羽釜	D地区 g2	包含層	口径 24.3	1/12強	外:ハケメ、鏝部貼付、ナテ、ヨコナテ 内:オサエ、ナテ、ヨコナテ	やや粗	並	浅黄橙	南伊勢系 外:鏝部下煤付着
678	131-01	土師器羽釜	D地区 c3	包含層	口径 23.4	2/12	外:ハケメ、鏝部貼付、ナテ、ヨコナテ 内:工具ナテ、ヨコナテ	やや粗	並	灰白	南伊勢系 外:鏝部下煤付着
679	133-01	陶器椀	D地区 d5	包含層	底径 6.5	底部 5/12弱	外:ロウロテ、底部系切、貼付高台、ナテ 内:ロウロテ	やや密	並	灰白	尾張第6型式 外:底部墨書
680	133-06	陶器甕	D地区 e4	包含層	—	—	外:ロウロテ、押印文 内:ロウロテ	やや粗	並	にぶい橙	常滑産(花押) 外:体部に押印文
681	132-06	陶器平椀	D地区 c3	包含層	口径 15.4 器高 5.9	1/12	外:ロウロテ、貼付高台 内:ロウロテ	やや密	並	釉:浅黄 素地:灰白	古瀬戸後Ⅱ期
682	132-04	陶器天目茶椀	D地区 c2	包含層	底径 4.7	底部完存	外:ロウロテ、削出高台 内:ロウロテ	やや密	並	釉:黒 素地:灰白	鉄釉、古瀬戸後Ⅱ期 683と同一の可能性あり
683	132-05	陶器天目茶椀	D地区 c4	包含層	口径 13.0	3/12	外:ロウロテ 内:ロウロテ	密	並	釉:赤黒 素地:灰白	鉄釉、古瀬戸後Ⅱ期 682と同一の可能性あり
684	069-01	土師器壺	試掘 261	褐粗砂溝	口径 12.0 器高 22.2	2/12	外:ハケメ、ナテ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや密	並	浅黄橙、 淡橙	外:剥離の為調整不明瞭
685	010-04	土師器台付甕	試掘 261	褐色粗砂溝	底径 8.1	3/12	外:ハケメ、ナテ 内:甕部:ナテ、台部:オサエ、ナテ、ヨコナテ	やや粗	並	灰白、灰	
686	010-03	土師器高杯	試掘 261	褐色粗砂溝	底径 6.0	2/12	外:シガキ、穿孔 内:杯部:ナテ、脚部:工具ナテ、ヨコナテ	やや粗	並	にぶい橙	透し3方向、1箇所完存
687	011-02	須恵器杯	試掘 287	包含層	口径 15.9 器高 3.8	底部3/12	外:ロウロテ、貼付高台 内:ロウロテ	やや密	並	灰	
688	011-04	土師器皿	試掘 252	炭混土坑	口径 11.2 器高 2.1	4/12	外:オサエ、ナテ、ヨコナテ 内:ナテ、ヨコナテ	やや密	並	灰白	南伊勢系
689	011-03	陶器加工円板	試掘 300	灰シルト	重さ 44.4			やや粗	並	浅黄橙	

第20表 出土遺物観察表⑬

報告番号	Rno.	名称	小地区	遺構名	計測値 (cm)	特記事項	報告番号	Rno.	名称	小地区	遺構名	計測値 (cm)	特記事項
4	009-02	曲物 底板	A地区 b3	SE54 No.28	残存長 18.6 残存幅 4.3 最大厚 0.9	側面に木釘穴7箇所残	260	005-01	曲物	B地区 e9	SE68	径 50.5 器高 42.3	外面、内面の一部横方向に「スリ」、下部に10箇所穿孔
5	002-03	楔	A地区 b3	SE54 No.14	残存長 23.8 残存幅 3.6		290	037-09	石器 砥石	B地区 e5	包含層	残存長 7.1 幅 4.1 厚さ 1.2	2面使用
6	001-03	楔	A地区 b3	SE54 No.20	残存長 21.4 残存幅 4.0		362	009-01	しゃもじ	C地区 b4	SE71	長さ 25.9 残幅 7.2 厚さ 0.7	「スリ」調整後縁を面取り
7	001-01	楔	A地区 b3	SE54 No.11	残存長 20.5 残存幅 3.8		363	011-02	井戸枠 部材	C地区	SE71 No.2	長さ 22.0 幅 7.3 厚さ 4.9	方形に加工した後、両端を削る。
8	001-02	楔	A地区 b3	SE54 No.10	残存長 21.3 残存幅 3.3		364	011-01	井戸枠 部材	C地区	SE71 No.1	長さ 25.7 幅 7.5 厚さ 4.8	方形に加工した後、両端を削る。
9	002-01	楔	A地区 b3	SE54 No.17	残存長 21.0 残存幅 4.0		365	007-03	井戸枠 部材	C地区 b4	SE71 曲物枠内	長さ 37.3 幅 13.2 厚さ 2.5	
10	002-02	楔	A地区 b3	SE54 No.16	残存長 18.5 残存幅 4.0		366	007-02	井戸枠 部材	C地区 b4	SE71 北西支柱	残存長 25.5 幅 6.9 厚さ 4.8	
11	004-01	曲物	A地区 a2	SE54	径 約57.0 器高 37.5		367	006-04	井戸枠 部材	C地区 b4	SE71 南西支柱	残存長 47.9 幅 6.6 厚さ 5.1	先端部つぶれる(打ったときのものか)、臍穴
12	003-01	結桶	A地区 a2	SE54	器高 約39.0 口径 約42.0 底径 約36.0	10枚の板材を使用。外側の痕跡が3段見られる。底部には底板を固定したと考えられる。木釘痕跡が6箇所見られ、井戸に転用したものと思われる。	368	006-03	井戸枠 部材	C地区 b4	SE71 北東支柱	残存長 47.9 幅 6.5 厚さ 5.3	先端部つぶれる(打ったときのものか)、臍穴
35	040-01	石製品 五輪塔	A地区 a6	包含層 西壁	最大幅 22.3 最大厚 17.6 重さ 12.0kg	花崗岩	369	007-01	井戸枠 部材	C地区 b4	SE71 西北棧	残存長 26.5 幅 10.6 厚さ 5.7	
36	041-01	石製品 五輪塔	A地区 b6	SZ51	最大幅 21.0 最大厚 13.6 重さ 5.6kg	砂岩	370	006-01	井戸枠 部材	C地区 b4	SE71 南側横棧	残存長 88.1 幅 9.0 厚さ 5.5	臍
216	003-04	石器 磨製石斧	B地区 e7	SD60	残存長 8.8 幅 6.7 最大厚 3.1	ハイアロクスタイト	371	006-02	井戸枠 部材	C地区 b4	SE71 東側横棧	残存長 64.7 幅 10.8 厚さ 5.5	臍穴
242	016-03	井戸枠 部材	B地区 e9	SE68 No.44	残存長 49.5 径 約5.3	杭 先端を加工 棧と重なる部分を平らに削る	372	008-01	曲物	C地区 b4	SE71	径 17.4 器高 8.6	変形、小型品で1枚もの
243	017-03	井戸枠 部材	B地区 e9	SE68 No.48	残存長 60.8 径 7.3	杭 先端を加工 棧に重なる部分3箇所を削る	373	026-01	曲物	C地区 b4	SE71	残存器高 26.0 口径 49.2	
244	018-05	井戸枠 部材	B地区 e9	SE68 No.26	長さ 66.3 幅 4.6 厚さ 2.4	棧 両端に穿孔	374	027-01	曲物	C地区 b4	SE71	残存長 22.0 口径 約46.0	
245	018-03	井戸枠 部材	B地区 e9	SE68 No.32	長さ 66.0 幅 4.8 厚さ 2.9	棧 両端に穿孔	474	079-01	石器 磨石	C地区 a2	包含層	長さ 9.2 幅 7.4 重さ 553g	赤色顔料付着
246	018-02	井戸枠 部材	B地区 e9	SE68 No.60	長さ 65.0 幅 4.0 厚さ 2.4	棧 両端に穿孔	475	003-03	石器 磨製石斧	C地区	包含層	残存長 5.1 幅 6.8 最大厚 2.5	側面も石斧として使用している可能性有
247	018-04	井戸枠 部材	B地区 e9	SE68 No.59	長さ 64.8 幅 4.7 厚さ 2.0	棧 両端に穿孔	541	101-04	石製品 砥石	D地区 f4	SD121 黄灰	残存長 6.5 幅 3.2 厚さ 4.2	
248	017-02	井戸枠 部材	B地区 e9	SE68 No.15	残存長 50.3 幅 4.3 厚さ 2.5	板状 先端を加工	542	097-02	石製品 砥石?	D地区 d4	SD121 暗褐色	残存長 8.0 幅 3.3 厚さ 0.9	
249	018-01	井戸枠 部材	B地区 e9	SE68 No.49	残存長 70.2 幅 6.3 厚さ 2.6	棧	543	097-01	石製品 砥石	D地区 d4	SD121 暗褐色	残存長 11.5 幅 8.8 厚さ 4.0	
250	017-01	井戸枠 部材	B地区 e9	SE68 No.39	残存長 58.5 最大径 4.2	杭 先端を加工	544	139-01	石製品 石鏃	D地区 d4	SD121	残存長 3.5 幅 2.1 厚さ 0.7 重さ 4.3g	
251	016-02	井戸枠 部材	B地区 e9	SE68 No.61	残存長 35.4 径 5.2	杭 先端を加工 表皮残る	545	139-02	石製品	D地区 c4	SD121 暗黄灰	残存長 8.6 残存幅 4.2 残存厚 1.4 重さ 53.5g	
252	012-01	井戸枠 部材	B地区 e9	SE68 No.64	残存長 28.2	先端を方形に削り加工	546	139-03	石製品 硯	D地区 d4	SD121 下層	残存長 10.1 残存幅 6.8 残存厚 1.3 重さ 127.0g	
253	016-01	井戸枠 部材	B地区 e9	SE68 No.34	残存長 48.7 幅 9.6 厚さ 3.0	先端を加工	590	138-01	鉄製品 鉄滓	D地区 g2	SD129 黄灰	重量 76.0g	
254	014-01	井戸枠 部材	B地区 e9	SE68 No.55	残存長 39.1 幅 11.1 厚さ 0.8		591	138-02	鉄製品 鉄滓	D地区 f4	SD129	重量 127.9g	
255	014-02	井戸枠 部材	B地区 e9	SE68 No.50	残存長 34.9 幅 11.4 厚さ 0.6		623	137-02	鉄製品 鍋	D地区 d2	SK128	口径 約27.2	残存度1/12弱のため 口径不明瞭
256	013-01	井戸枠 部材	B地区 e9	SE68 No.25	残存長 23.4 幅 26.5 厚さ 1.1		639	137-01	鉄製品 刀子	D地区 f6	SX152 No.1	残存長 30.8	
257	139-01	漆椀	B地区 e9	SE68 No.9	残存底径 7.6 底部最大厚 0.9		651	024-01	曲物	D地区 f2	SE126	残存器高 14.7 径 30.0	下部に2個×6ヶ所の穿孔 曲物下段上部 652と同一個体と思われる
258	015-02	曲物 底板	B地区 e9	SE68 No.16	径 約20.0 厚さ 0.7		652	023-01	曲物	D地区 f2	SE126	残存器高 11.8 径 30.0	下部に2個×3ヶ所の穿孔 曲物下段下部 651と同一個体と思われる
259	015-01	曲物 底板	B地区 e9	SE68 No.11	径 約20.0 厚さ 0.8	木釘の痕跡と思われる孔が3箇所見られる。							

第21表 出土木製品・石製品・鉄製品観察表

## VIII 結 語

### 1 遺構の変遷について

里前遺跡内では、過去に2度の発掘調査が行なわれている。1次調査では、多数の井戸や溝等を確認し、2次調査では井戸や墓等を確認し、集落が営まれている様子が窺えた。これらの遺構について、2度の調査結果を踏まえたうえで里前遺跡の時期毎の様相について述べていきたい。

#### (1) I期(弥生時代後期～古墳時代前期)(第46図)

①時期 川崎志乃氏の編年による島貫Ⅱ～Ⅲ期の時期。

##### ②遺構

**溝・流路** 1次調査では、南半部南端5層から遺物を確認している。2次調査では、A地区でSD51・SZ55、C地区でSD74・107・117・118・119・120・165、D地区でSD148を確認した。SD74・119は方形周溝墓の可能性ある。この時期のほとんどの遺構はC地区に集中する。

**土坑** 土坑はC地区で検出したSK111の1基のみである。

③遺物の分布 I期以前は、1次調査・2次調査C地区から弥生時代前期の甕が出土しており、遺構は認められないものの当地周辺で生活が始まった時期と思われる。I期は、多数の遺物と溝・流路しか確認しておらず、発掘調査区内には居住域は存在しない。しかし、方形周溝墓の可能性ある溝を確認しているため、墓域は存在したと思われる。そしてI期以降II期までの間、遺構は確認できない。ただし、1次調査の南半部南端・30列東西トレンチ、範囲確認調査坑261・287から台付甕・須恵器等が出土し、生活は営まれ続けたと推察される。

#### (2) II期(平安時代末～鎌倉時代)(第47図)

①時期 藤澤良祐氏の編年による山茶碗第3型式から第8型式までの時期。伊藤裕偉氏の南伊勢系土師器鍋の編年では、仮(A)段階～第2段階の時期。1次調査遺構変遷のI期にあたる。

##### ②遺構

**溝・流路** A地区でSD51、C地区でSD76・78・86、

D地区でSD121・129・134・135・136・137を確認した。1次調査では、SD7・18を確認した。

特にSD129はN30°Eと表層条里方向と一致し、坪界にあたる可能性が高い。

**土坑** C地区でSK70・91・109・115を、D地区でSK135を、1次調査ではSK4・10・23を確認した。

**中世墓** C地区でSX73・84、D地区でSX125・152・154を確認した。

**井戸** A地区でSE54、C地区でSE71、D地区でSE126の3基を確認した。1次調査では、SE3・5・6・16・17・24・25の7基を確認した。

③まとめ 建物は確認できなかったものの、井戸が見られ、調査区内に集落が営まれていたのは確実である。また、墓が作られているのはこの時期だけである。井戸は1次調査区では集中してみられたが、2次調査区では散在的である。集落域は、1次調査区に集中し、他は散在していたと想定できる。そして表層条里方向に沿った溝が施工されるのはこの時期であり、遺跡内で画期が見られる時期といえる。

#### (3) III期(室町時代～戦国時代)(第48図)

①時期 藤澤良祐氏の編年による古瀬戸後期末～大窯の時期。伊藤裕偉氏の南伊勢系土師器鍋の編年による第3段階～第4段階の時期。1次調査遺構変遷のII期にあたる。

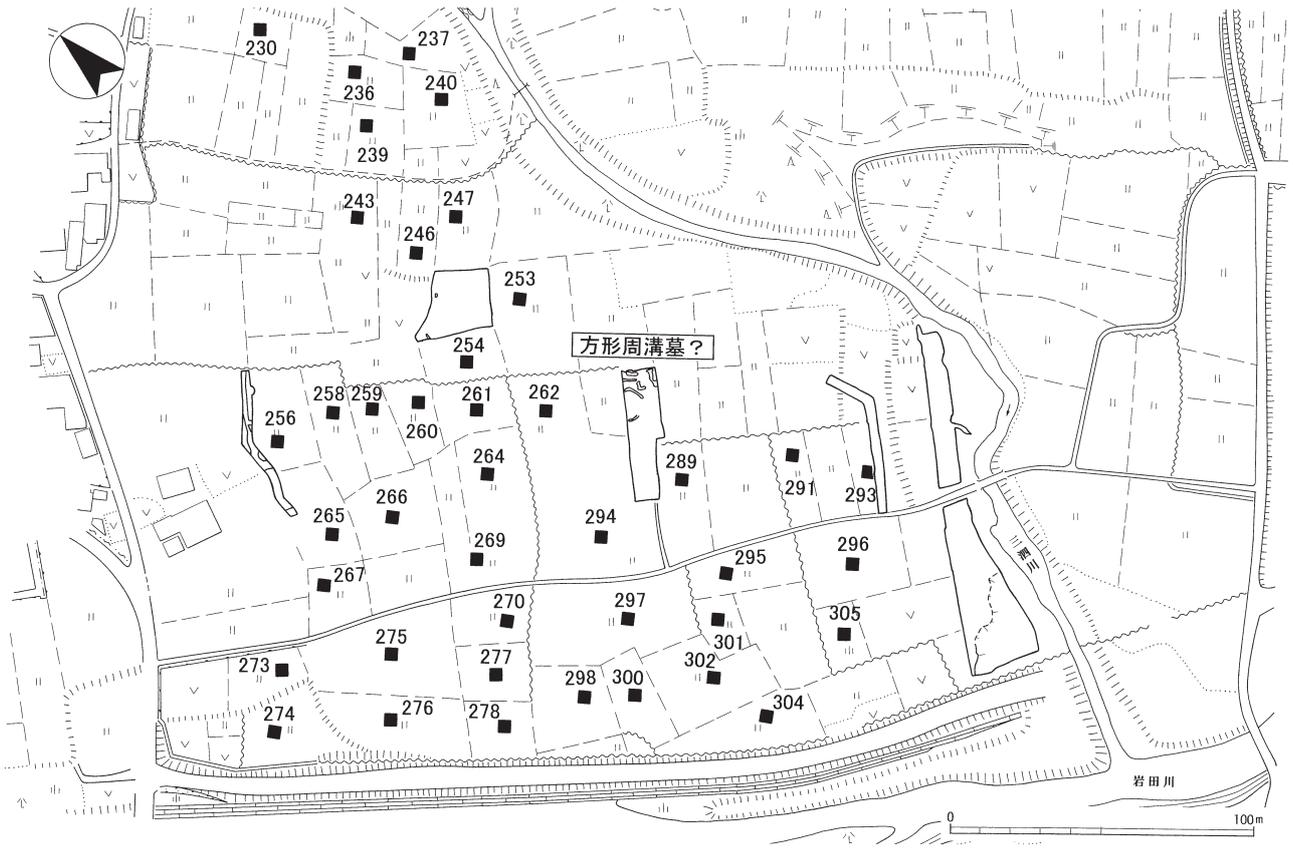
##### ②遺構

**溝・流路** A地区でSD51、B地区でSD57・60・62・66、SZ58、C地区でSD75・76・78・86・88・92・110、D地区でSD121・127・129を確認した。

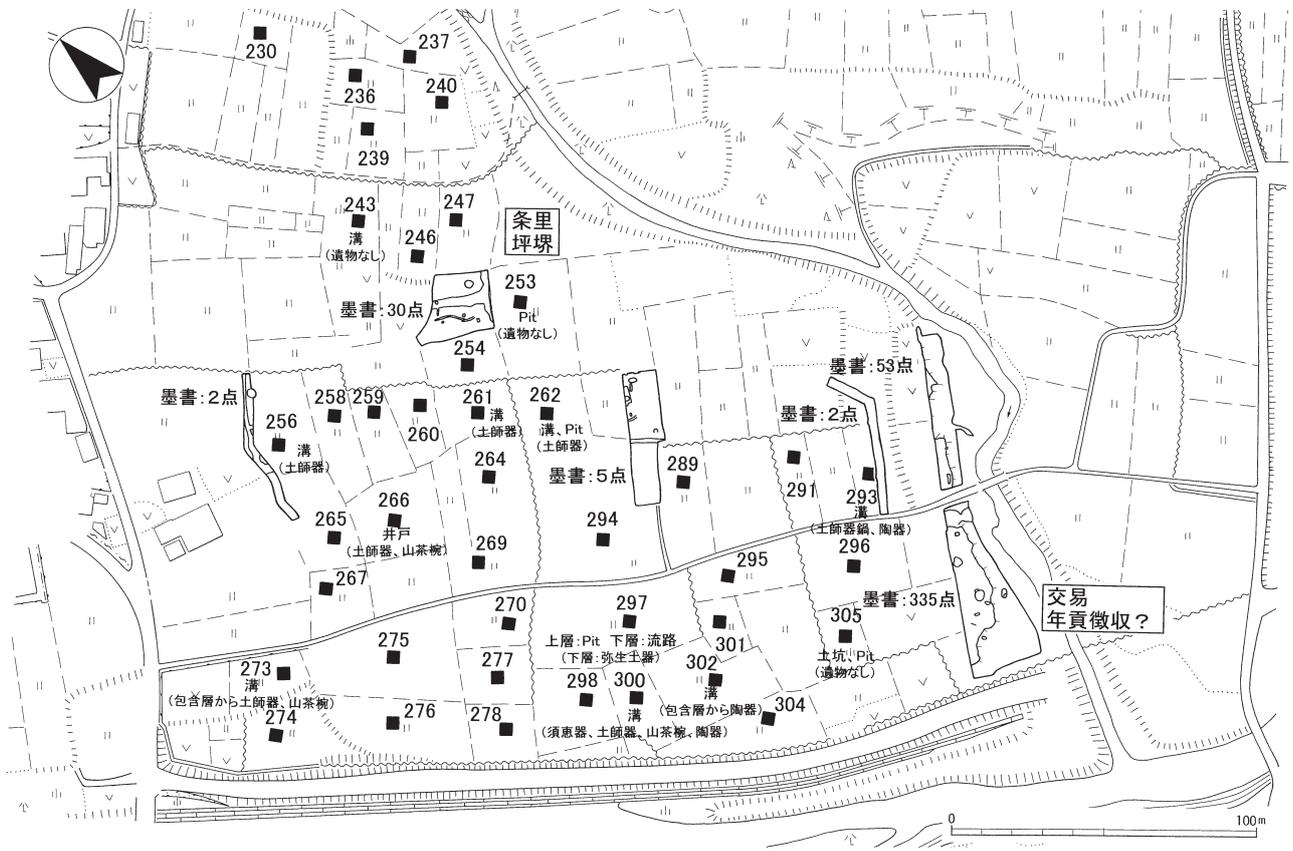
SD57・66・78は現畦畔に沿うような方向に延びており、この時期に基本的な地割が造られたようである。

**土坑** B地区でSK56、C地区でSK113、D地区でSK128・150を確認した。1次調査では、SK12の1基のみ確認した。

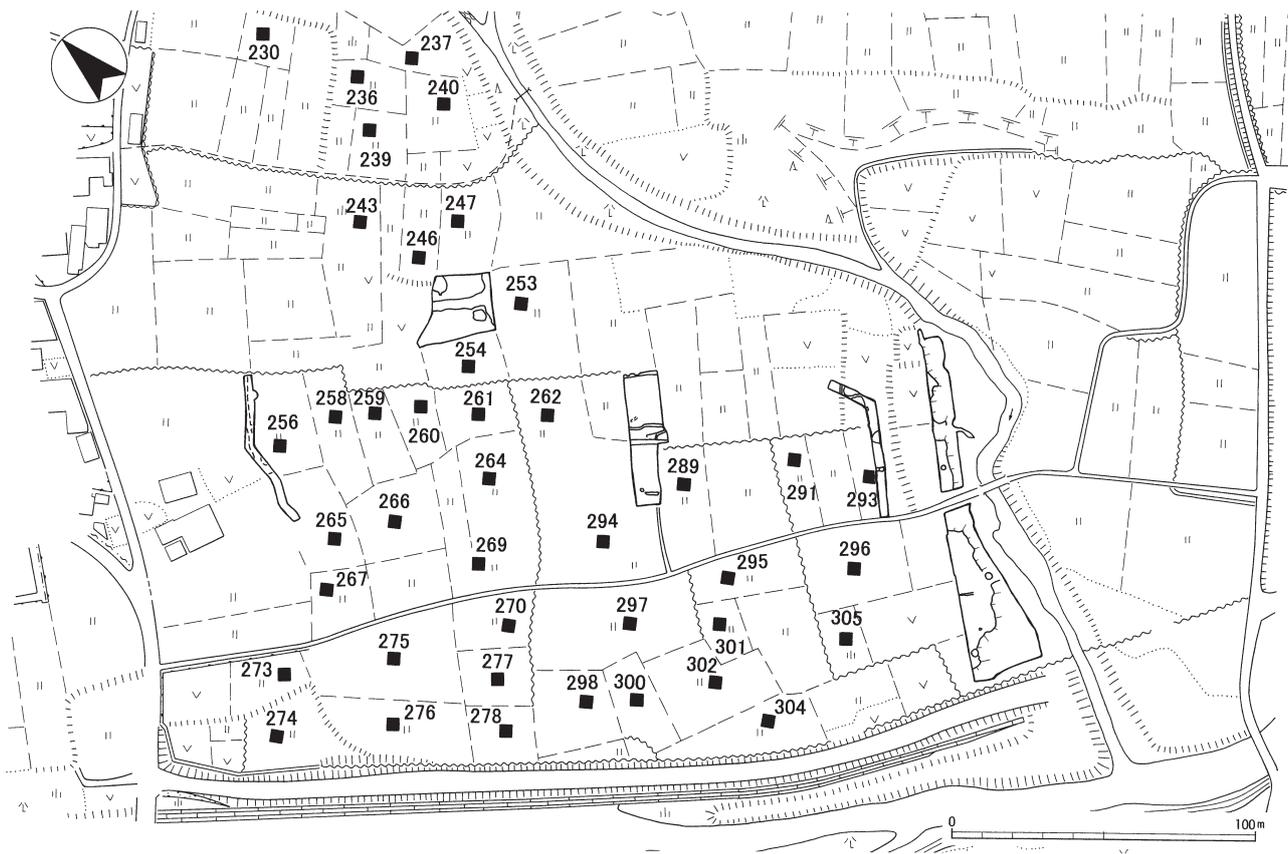
**井戸** B地区でSE68、C地区でSE116の2基を確認した。1次調査では、SE2・11・14・19の4基



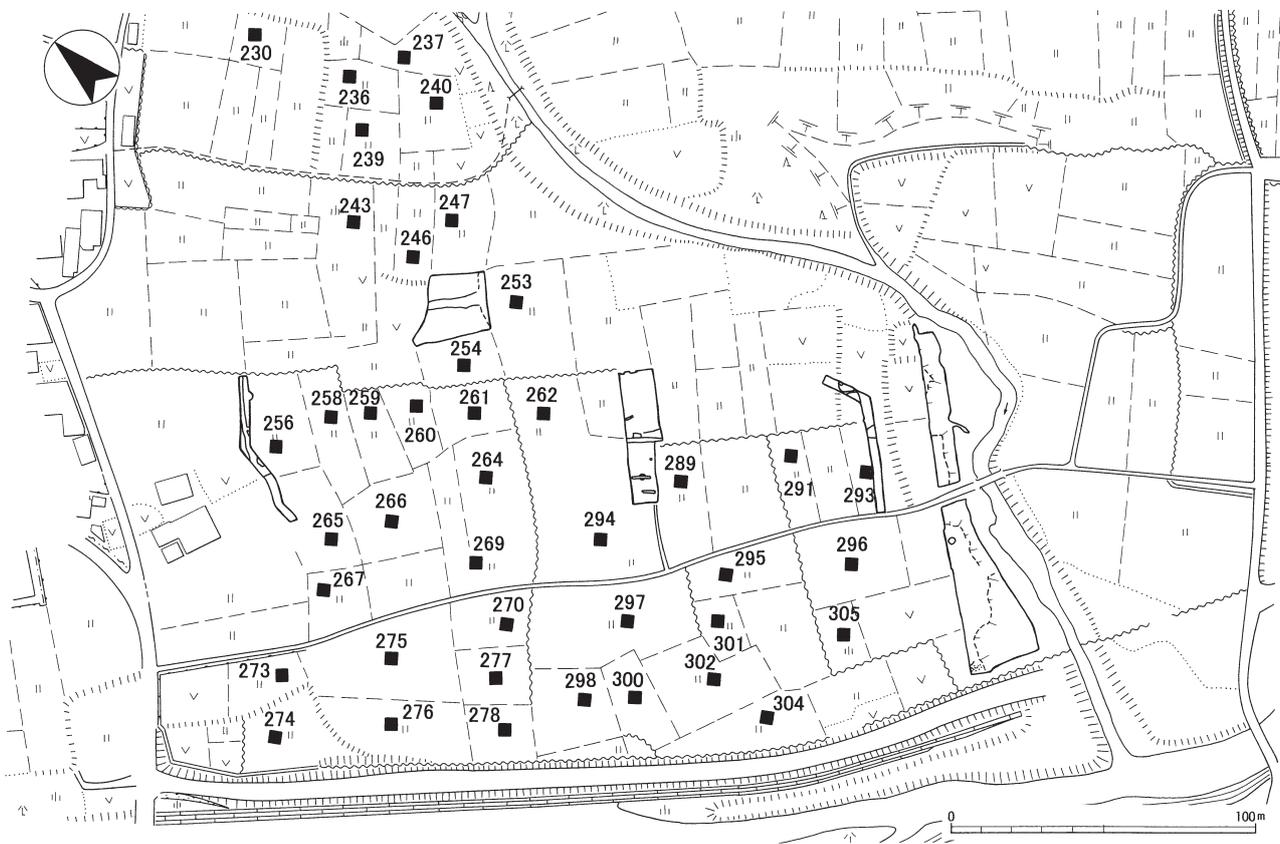
第46図 第I期遺構変遷図 (1 : 2,500)



第47図 第II期遺構変遷図 (範囲確認調査結果含む) (1 : 2,500)



第48図 第III期遺構変遷図 (1 : 2,500)



第49図 第IV期遺構変遷図 (1 : 2,500)

確認した。

③まとめ 墓は見られなくなり、井戸は三泗川に近い遺跡の東側（1次調査、B・C地区）では作られるものの数は減り、西側では全く見られなくなる。基幹的な溝はⅡ期から継続して使用される。

#### (4) Ⅳ期（江戸時代）（第49図）

①時期 藤澤良祐氏の編年による登窯第1小期～第6小期までの時期。1次調査遺構変遷のⅡ期にあたる。1次調査ではⅡ期を一時期として取り扱っているが、ここではⅢ・Ⅳ期に分けて取り扱う。

#### ②遺構

溝・流路 A地区でSD51、B地区でSD57・60、SZ58、C地区でSD76・78・86・92・95・114、D地区SD121を確認した。

前時期と同様にSD57・78が現畦畔沿いに延び、引き続きSD60も使用されている。また、SD121と一部重複するSD129もⅣ期まで使用されていた可能性がある。

土坑 B地区でSK65、C地区でSK72・98・106を確認した。1次調査はSK1、1基のみ確認した。

井戸 1次調査でSE9の1基のみ確認している。

柱穴 1次調査南半部南端上層遺構で建物は建たないものの多数の柱穴を確認した。

③まとめ 井戸は1基のみである。B・C・D地区の土坑や溝、1次調査の上層で多数の柱穴が確認されており、最も新しい遺物である（307）が登窯第

5～6小期（18世紀～18世紀中頃）であり、その頃までは居住域であったと思われる。

#### (5) 全体のまとめ

里前遺跡の時期毎の様相を見ていくと、弥生時代前期から当遺跡周辺で生活が営まれ始めたことがわかる。Ⅰ期になっても調査区内に居住域は存在せず、Ⅰ期は集落のはずれにあたると思われる。Ⅱ期になると居住域が散在的に広がりを見せ、表層条里方向に一致する溝が作られる。少なくともこの時期以前に遺跡内の条里が施工されたと言える。また土器の出土点数も最も多く、遺跡内で画期となる時期である。Ⅲ期になると、集落は遺跡東側に偏りを見せ、Ⅳ期でも同様の様相を見せる。井戸は17世紀後半で廃絶するものの、土坑や溝は18世紀中頃までは確認できるため、その頃までは集落が営まれていたと考えられる。

また、地元での聞き取りでは、近世のいつ頃かには大水（洪水）が来て、犠牲者がでたため元屋敷（D地区付近と思われる）付近に五輪塔を建て、その後集落が現在の野田集落の方へ移動したと言う伝承もある。

今回の調査成果でも、18世紀中頃迄は集落が存続したものの、それ以後、調査地内では集落は営まれないという結果がでていいる。これは、上記の伝承とも一致する部分があり、地元伝承を考古学的に裏付けされたと言える。（酒井）

## 2 絵画土器について

里前遺跡から絵画らしい線刻のある土器が1点出土した。その土器は、4本の線を跳ね上げたように表現し、かつ3本の線で弓状に半弧を描く表現をしている。それは龍を線刻した絵画土器である可能性が高い。

龍を線刻した絵画土器の三重県内出土例は、原田恵理子氏が絵画・記号土器の集成<sup>6)</sup>で六大A遺跡から1点、堀町遺跡から1点を報告している。そして、絵画土器の出土事例から「Ⅰ期（山中併行期）に出現・盛行する。その後、Ⅲ期（廻間Ⅲ式併行期以降）まで残存する」また、「出土する遺跡は、かなり限定される」と指摘している。その後、六大A遺跡の報告書<sup>8)</sup>において穂積裕昌氏が4点（龍が崩れた可能

性のもの1点含む）の報告と龍と蛇線刻土器を中心に絵画・記号土器とその系譜について報告している。

また、龍の絵画土器について、岩本貴氏は全国的な集成<sup>9)</sup>を試みている。これによると、全国の出土例の約半数が奈良・大阪に集中し、これ以外滋賀・愛知・静岡に各1例、岡山に2例、福岡・宮崎に1例ある。そして、岩本氏の分類によると、頭部またはこれを意識した表現が認められるものを1類、1類を祖型として頭部表現が欠落したものを2類としている。また2類は、突起の発達が少ない胴部との区別が明瞭な2a類と、突起の長大化が進み、胴部と突起の大きさの区別が不明瞭な2b類に細分している。3類は、2類を祖型として胴部や突起を線によって

表現したもの。3類も2a類を祖型とし胴部の意識が明瞭な3a類と、2b類を祖型とし胴部意識が薄れ、突起の長大化が見られる3b類に細分している。4類は、1～3類の範疇外のものを一括している。そして龍の絵画に特徴的な事は、原画に近い物から簡略化が進み、形骸化したものが近畿から他地域に伝わったと指摘している。

では、近畿と東海の間地域である三重県内の出土事例も同じような変遷を辿るのか、岩本氏の分類を基に検討していきたい。

(1) 龍の形態と時期について (第50図)

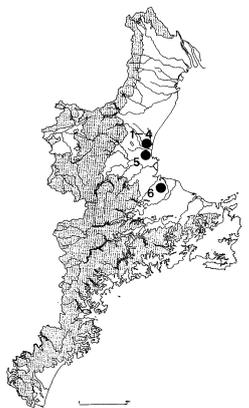
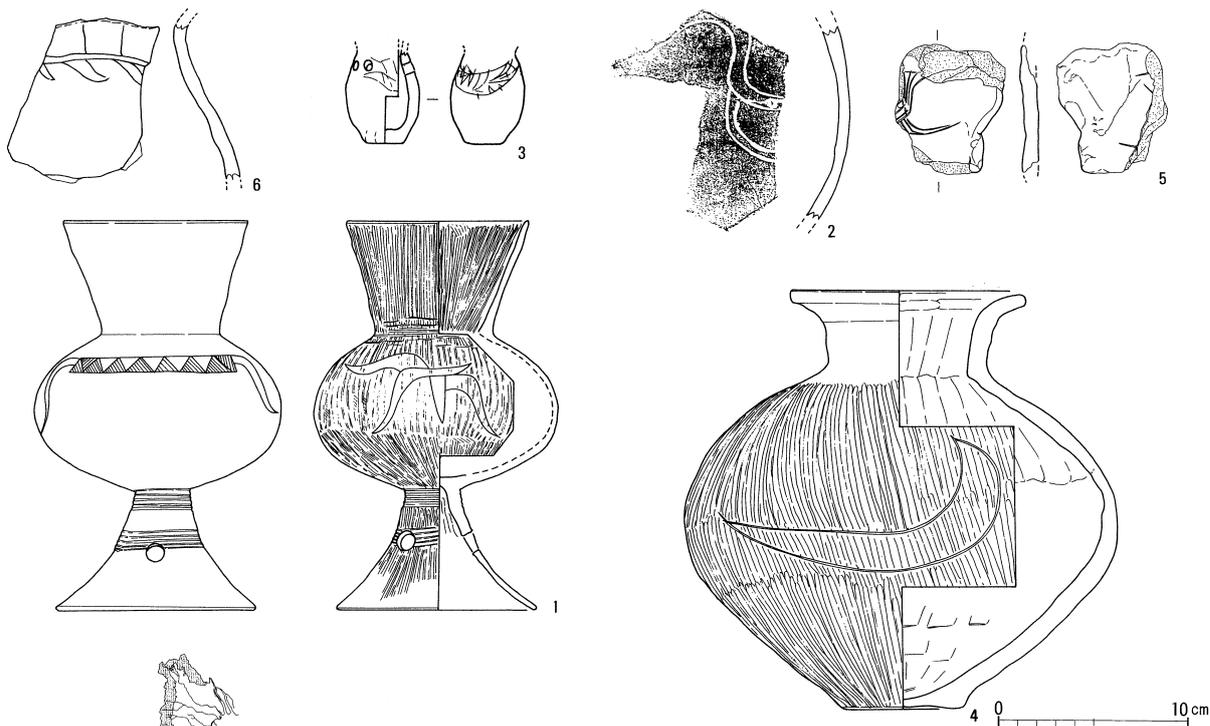
初めに、線刻の形態を見ていきたい。

六大A遺跡出土の龍は、①明確な頭部表現を欠き、崩れた龍と推定されるもの。脚付長頸壺の胴部に線

刻を施し、岩本分類の2b類に該当する。②形状が崩れ、突起を線表現化するもの。壺の胴部に線刻を施し、胴部と突起部と思われる線刻の大きさが不明瞭であり、2b類と思われる。③三日月状の沈線枠内に斜沈線を充填して上部に羽状のものを線刻したものと鋸歯文を充填したもので、龍の図案を線刻したもの。ミニチュア土器に線刻を施している。④広口壺の胴部に横長の三日月形の線刻を施し、龍が崩れた可能性があるものである。

里前遺跡出土の龍は、表面に胴部と突起を複数の線で表現し、裏面にも線表現が見られる。1本線で龍を表現していないため3類ではなく2類であろう。

堀町遺跡出土の龍は、壺の体部に蛇行する胴部にコブ状の突起の表現が見られる。一部分のため分類



遺跡名	所在地	器種	遺構	参考文献
1 六大A遺跡	津市大里窪田町字花村	脚付壺	SD1 土器群 1(Ⅲb層)	『一般国道23号中勢道路(8工区)建設事業に伴う六大A遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 2002年
2 六大A遺跡	津市大里窪田町字花村	壺	SD1 土器群 11(Ⅲb層)	『一般国道23号中勢道路(8工区)建設事業に伴う六大A遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 2002年
3 六大A遺跡	津市大里窪田町字花村	ミニチュア土器	SD1 土器群 45(Ⅲb層)	『一般国道23号中勢道路(8工区)建設事業に伴う六大A遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 2002年
4 六大A遺跡	津市大里窪田町字花村	広口壺	SD1 Ⅲb層	『一般国道23号中勢道路(8工区)建設事業に伴う六大A遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 2002年
5 里前遺跡	津市野田字里前	—	SZ55	
6 堀町遺跡	松阪市朝田町字堀町他	壺	SZ399	『一般国道42号松阪・多気バイパス建設地内埋蔵文化財発掘調査報告VII 堀町遺跡』三重県埋蔵文化財センター 2000年

第50図 絵画土器実測図・位置図・一覧表 (1:4)

は不明だか、恐らく2類と思われる。

次に同一遺構内の共伴する土器から絵画土器の時期を見ていく。

六大A遺跡は、SD1出土で、弥生時代後期から古墳時代の大溝であるため共伴する土器の時期幅は広い。土器群毎で見ると、おおよそ山中式から欠山式の時期に当たる。また、脚付壺は山中式であると思われる。

里前遺跡は、SZ55出土で、1点のみ山中式の高杯が出土しているものの、出土土器の大部分は欠山式であり、欠山式或いはやや下の時期のものであると思われる。

堀町遺跡は、SZ399出土で、遺跡自体の存続は山中式までであり、この土器も山中式併行期のものであろう。

## (2) まとめ

以上のように、龍の絵画土器は県内で6例出土している。

岩本氏の集成によると、龍の絵画土器の分布は奈良・大阪に集中し、次いで岡山に多い。今回の事例では、奈良・大阪に集中するものの、6例の東の三重と5例の西の岡山と出土例が多い事が注目される。

## 3 鉄製煮沸具について

中世の煮沸具には、土師器製、石製、鉄製のものがあるが、このうち中世鉄製煮沸具は三重県内でわずか9点余りしか出土していない<sup>(40)</sup>(第51図)。その種類は、鍋が岩出地区内遺跡群<sup>(41)</sup>から3点、多気遺跡群<sup>(42)</sup>から2点、斎宮跡から1点の計7点、鍋の弦と考えられるものが三宅西条城跡<sup>(43)</sup>から1点、羽釜と思われるものが阿形遺跡<sup>(44)</sup>から1点である。残存状態は、残存度が良くて口縁部で1/5程である。

まず鉄製の煮沸具が確認されている5遺跡について概観する。岩出地区遺跡群は、伊勢神宮の祭主、大中臣氏の居館に関わる遺跡である。多気遺跡群は、北畠氏の拠点<sup>(45)</sup>が置かれた遺跡である。斎宮跡や阿形遺跡は、数多くの掘立柱建物が確認された大規模な集落遺跡である。というようにいずれも大規模な中世集落や城館が営まれていた性格の遺跡である。里前遺跡でも多数の墨書土器が出土し、川崎志乃氏は「年貢集配に関する遺跡」としている。このような

そして、龍の絵画土器が出土する遺跡はいずれも永続的大規模集落が営まれた、それぞれの地域を代表するような遺跡が多く見られる。里前遺跡では、現在のところ、同時期の遺構は僅かで大規模な集落とは言えない。しかし、里前遺跡の龍の線刻が出土したSZ55は環濠の可能性があり、津市野田では、野田銅鐸(突線紐式三遠式銅鐸)が出土し、地理的に近い神戸から神戸銅鐸も出土している。これらに隣接することから、付近に大規模な集落が存在する可能性が高い。

また岩本氏は、龍の絵画土器は畿内で出現したと指摘し、県内の絵画土器の出現時期について、原田氏は山中併行期と指摘している。今回の検討で、県内の出土事例では初現期の頭部を意識した表現を持つ龍は見当たらなかった。そして、龍の分類はすべて岩本分類2類の時期に相当し、その前後関係は、共伴する土器から堀町遺跡出土龍が最も古く、次いで六大A遺跡、里前遺跡という結果を得た。以上の事から県内の龍の絵画土器出現時期は、概ね山中式併行期に当たり、欠山式併行期或いはやや下の時期まで存在すると思われる。(酒井)

遺跡では、鉄製の煮沸具が用いられていたことは確実である。

しかし、鉄製の煮沸具の使用は、上記の大集落や城館などで限定的に行われていたと断定できるであろうか。土師器類が大量生産によるものであり、耐久性の低さから多量に消費されているのに対し、鉄製煮沸具は破損しても修繕可能であり、再利用されるため、廃棄されるものが絶対的に少ないこと。その形状から口縁部や鏝部、弦が出土しないと認識されにくいことなどが、確認例を少なくしているのかもしれない。

また、本来出土しているにもかかわらず、発掘調査報告書作成中の遺物選別時に、調査担当者の不見識により一瞥すらされずに打ち捨てられているものがある可能性がある。鉄製煮沸具に関して一定の意識のある特定の調査担当者がかかわった遺跡で、鉄製煮沸具が多く出土していることも気になることで

ある。

発掘調査によって遺跡から遺構が発見され遺物が

出土し、過去の人々が生活した痕跡を還元していくためにも、注意を喚起したい。(酒井)

## 4 中世前期の墨書土器について

今回の調査では41点の墨書土器を確認した。1次調査では390点もの墨書土器を確認し、里前遺跡からは多量の墨書土器が出土している。各地区での出土点数は第47図の通りである。では、1次調査と2次調査でその様相が異なるのかどうかを報告書掲載遺物から探っていきたい。

### (1) 墨書土器の出土数・場所・種類

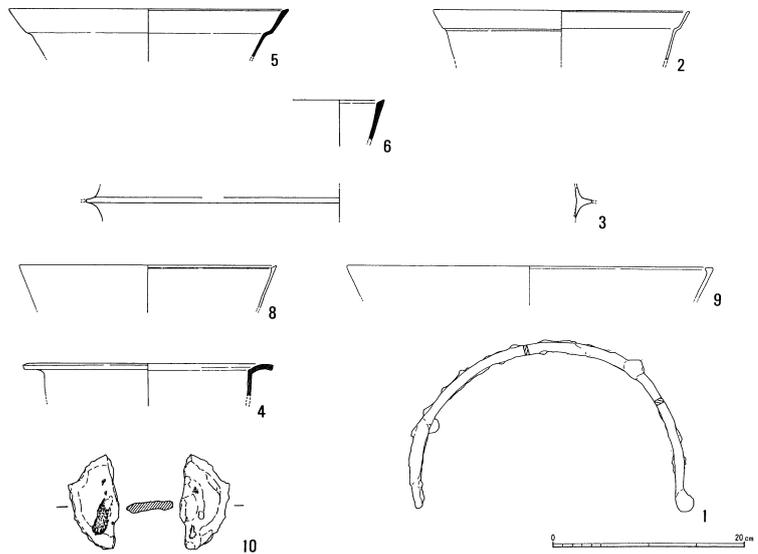
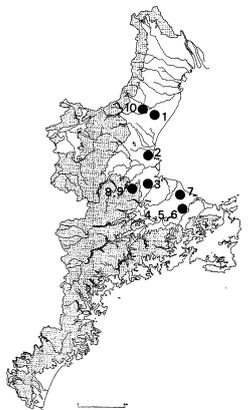
1次調査では、中世前期の墨書土器が388点出土している。北半部からは21種類53点、南半部からは85種類335点で、南半部(南端)に集中する。

その種類は、年貢に関する語句「米」、「加」、「寺」、「大」等の文字、ドーマン、記号等92種類にもものぼる(第22表)。中でもドーマン、円形・直線を呈するものが多く見られる。そして、各種類の墨書土器(ここでは4点以上を差す)は北半部と南半部の両

方から出土するのに対して、川崎志乃氏の墨書分類表(第22表)A2「政所」、E3「ㄨ」、K7「ㄨ」は南半部南壁寄りから、K2「ㄗ」は北半部からのみ出土している。1次調査では、遺跡の東側にあたる三泗川沿いから最も多く墨書土器が出土し、その出土数・場所は陶器の出土数に応じている。

2次調査では、中世前期の墨書土器が38点出土している。A地区から2種類2点、B地区2種類2点、C地区3種類5点、D地区18種類30点、D地区SD121・129に集中する。

その種類は、文字、ドーマン等、判読不可能な個体を含めて約20種類である。種類は文字が多く、A4「上」、A7「よね」、A13「大」や「米」、「𠄎」、「丁」が見られる。また、ドーマンのC4「𠄎」や直線を呈するものG1「|」、その他のK9「𠄎」も見



遺跡名	所在地	遺構	時期	器種	残存度	参考文献
1 三宅西条城跡	鈴鹿市三宅町	—	—	鍋の弦	ほぼ完形	『三宅西条城跡発掘調査報告』三重県教育委員会 1983年
2 里前遺跡	津市野田字里前	SK128	—	鍋	1/12	—
3 阿形遺跡	松阪市阿形町	SK74	16世紀前半	羽釜	—	『ヒキタ廃寺・打田遺跡・阿形遺跡ほか』三重県埋蔵文化財センター 1992年
4 蚊山遺跡所り垣地区(岩出遺跡群)	度会郡玉城町岩出字所り垣・塚名	SK32	時期未詳	鍋	1/5	『近畿自動車道(勢和～伊勢)埋蔵文化財発掘調査報告—第4分冊—』三重県埋蔵文化財センター 1992年
5 岩出遺跡群ケカノ辻・角垣内地区	度会郡玉城町岩出字ケカノ辻・角垣内左郡・蚊山	SE337	14世紀後半～15世紀	鍋	1/8	『岩出地区内遺跡群発掘調査報告—度会郡玉城町所在、ケカノ辻・角垣内左郡・蚊山地区の調査』三重県埋蔵文化財センター 1996年
6 岩出遺跡群ケカノ辻・角垣内地区	度会郡玉城町岩出字ケカノ辻・角垣内左郡・蚊山	SZ409	15世紀～16世紀	鍋	口縁部片	『岩出地区内遺跡群発掘調査報告—度会郡玉城町所在、ケカノ辻・角垣内左郡・蚊山地区の調査』三重県埋蔵文化財センター 1996年
7 斎宮跡(第100次)	多気郡明和町	—	—	鍋	—	斎宮歴史博物館柴山圭子氏のご教示による。
8 多気遺跡群	一志郡美杉村上多気字土井沖	SD128	16世紀後半～17世紀	鍋	—	『多気遺跡群発掘調査報告—一志郡美杉村上多気所在—』三重県埋蔵文化財センター 1993年
9 多気遺跡群	一志郡美杉村上多気字土井沖	裸群下黒褐色土	16世紀後半～17世紀	鍋	—	『多気遺跡群発掘調査報告—一志郡美杉村上多気所在—』三重県埋蔵文化財センター 1993年
10 小野遺跡	亀山市小野町	—	—	鍋か?	—	『亀山市文化財調査速報』VOL. 11 亀山市教育委員会 1997年

第51図 鉄煮煮沸用具測図・位置図・一覧表(1:8)

られる。数量的には「元」、K9「元」、C4「十」が多い。

また、1次・2次調査で共通する墨書土器に関しては、A7「よね」は1次で4点、2次で1点、K9「元」は1次で1点、2次で3点（元が同一文字ならば10点）と出土場所によって点数が異なるのでその様相は場所によって異なっている事が窺えよう。

(2) まとめ

里前遺跡で墨書土器が出土した場所・点数は、1次調査では南半部南端に集中し、2次調査ではD地区に集中する。

1次調査で墨書土器の出土点数が多いのは、川崎氏が指摘しているようにこの場所で年貢集配に関わる作業が行なわれただけでなく、河川を輸送経路として物流の役割を担っていたためである。そのため、河川の合流点である1次調査区は圧倒的に出土点数が多くなり、いわば、遺跡内の中核の場であったと言える。

次いで出土点数が多いD地区は、1次調査と共通する墨書土器が出土しているだけでなく、硯や用途は不明なものの内面に煤の付着した山茶碗の出土と共通する遺物が確認でき、1次調査区に類似した集落内のもう一つの核という事ができる。

まず、D地区の表層条里地割の坪塚にあたる溝(SD129)からは墨書土器が多く出土することが注目できる。坪塚に関しては、1次調査区で墨書土器が集中する地点も坪塚に面しており、里前遺跡では墨書土器は坪塚から多く出土するという傾向がある。

また、D地区SD121・129からは鉄滓が出土しており、近辺で鍛冶が行なわれていた可能性が考えられる。そして、D地区周辺には「元屋敷」の地名が残っている。

更に、地形から見ると、D地区は微高地であり、遺跡の東側を流れる三泗川は安濃川と岩田川を結び、字里前の西隣の字浜垣内は洪水が起こると最初に浸水する地区といい、D地区のすぐ北に三泗川が流れていた可能性が高く、北側は旧河道と考えられる。これらのことから、旧河道に近いD地区も1次調査区ほどではないが、三泗川を利用した輸送経路として物流の役割を担っていた可能性が考えられる。

以上のことから、里前遺跡は1次調査区が中核の場であるもののすべてが1次調査区に集中するのではなく、D地区のようにそれに準じたような場所が存在する、いわば、多元的構造を持った場所（遺跡）であったと言える。（酒井）

分類	墨書	数量	分類	墨書	数量	分類	墨書	数量	分類	墨書	数量			
A1	寺	2	C2	卅	2	E7	𠂇	1	G5	𠂇	1	K5	𠂇	1
A2	𠂇	3	C3	卍	1	E8	𠂇	1	G6	𠂇	12	K6	𠂇	2
A3	𠂇	1	C4	卍	4	E9	𠂇	3	G7	𠂇	17	K7	𠂇	8
A4	上	3	C5	卍	2	E10	𠂇	6	H1	𠂇	2	K8	𠂇	1
A5	𠂇	1	D1	𠂇	13	E11	𠂇	8	H2	𠂇	1	K9	𠂇	1
A6	𠂇	1	D2	𠂇	1	E12	𠂇	1	H3	𠂇	1	K10	𠂇	4
A7	𠂇	4	D3	𠂇	6	E13	𠂇	12	H4	𠂇	1	K11	𠂇	1
A8	𠂇	1	D4	𠂇	4	E14	𠂇	1	H5	𠂇	1	K12	𠂇	1
A9	𠂇	1	D5	𠂇	1	E15	𠂇	1	I1	𠂇	1	K13	𠂇	1
A10	𠂇	1	D6	𠂇	6	E16	𠂇	1	I2	𠂇	1	K14	𠂇	1
A11	𠂇	1	D7	𠂇	1	E17	𠂇	1	I3	𠂇	2	K15	𠂇	1
A12	𠂇	1	D8	𠂇	2	F1	𠂇	2	J1	𠂇	1	K16	𠂇	1
A13	𠂇	20	D9	𠂇	1	F2	𠂇	1	J2	𠂇	1	K17	𠂇	1
A14	𠂇	2	E1	𠂇	2	F3	𠂇	3	J3	𠂇	1	K18	𠂇	1
A15	𠂇	1	E2	𠂇	25	F4	𠂇	1	J4	𠂇	1	K19	𠂇	1
A16	𠂇	1	E3	𠂇	5	G1	𠂇	7	K1	𠂇	8	K20	𠂇	3
B1	𠂇	2	E4	𠂇	3	G2	𠂇	1	K2	𠂇	1			4
B2	𠂇	2	E5	𠂇	1	G3	𠂇	34	K3	𠂇	1			1
C1	卍	11	E6	𠂇	3	G4	𠂇	1	K4	𠂇	2			2

第22表 里前遺跡墨書分類表

墨書	数量	里前遺跡分類	墨書	数量	里前遺跡分類	墨書	数量	里前遺跡分類
𠂇	1	A4	𠂇	2	C4	𠂇	1	G1
24			353			581		
𠂇	1	A7	𠂇	1	D?	𠂇	1	
526			522			578		
𠂇	1	A13	𠂇	1	F	𠂇	1	
239			577			579		
𠂇	1		𠂇	3	K9	𠂇	1	
521			523			648		
𠂇	2		𠂇	7	K9?	𠂇	1	
574			580			679		

第23表 墨書分類表

[註]

- (1) 水谷豊『惣作遺跡発掘調査報告』(三重県埋蔵文化財センター、2002年)
- (2) 関口精一『津市地名辞典』(八雲書店、1995年)
- (3) 伊藤久嗣ほか『納所遺跡発掘調査報告』(三重県埋蔵文化財センター、1980年)
- (4) 吉村利男『上村遺跡発掘調査報告』(津市教育委員会、1972年)
- (5) 倉田直純・増田安生ほか「森山東遺跡」(『一般国道23号中勢道路(9工区)道路建設事業に伴う松ノ木遺跡・森山東遺跡・太田遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター、1993年)
- (6) 竹内英昭「松ノ木遺跡」(『一般国道23号中勢道路(9工区)道路建設事業に伴う松ノ木遺跡・森山東遺跡・太田遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター、1993年)
- (7) 池端清行・水橋公恵「替田遺跡(第1次)」(『一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報IX』三重県埋蔵文化財センター、1997年)  
水橋公恵・筒井昭仁・西村美幸「替田遺跡(第2次)」(『一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報X』三重県埋蔵文化財センター、1998年)
- (8) 池端清行・西村美幸「式ノ坪遺跡」(『一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報X』三重県埋蔵文化財センター、1998年)
- (9) 米山浩之・宮田勝功ほか『一般国道23号中勢道路(10工区)建設事業に伴う蔵田遺跡発掘調査報告』(三重県埋蔵文化財センター、1999年)
- (10) 谷本鋭次「津市河辺町・亀井遺跡」(『昭和47年度県営圃場整備事業埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会、1973年)
- (11) 池端清行(『一般国道23号中勢道路(9工区)道路建設事業に伴う長遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター、2000年)
- (12) 中村光司・穂積裕昌「山籠遺跡」(『一般国道23号中勢道路建設事業に伴う大古曾遺跡・山籠遺跡・宮ノ前遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター、1995年)
- (13) 田中秀和『大城遺跡発掘調査報告書』(安濃町教育委員会、1998年)
- (14) 山田猛「前田遺跡」(『昭和57年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会、1988年)
- (15) 伊藤久嗣「大ヶ瀬遺跡」(『近畿自動車道埋蔵文化財調査報告I』三重県教育委員会、日本道路公団名古屋支社、1973年)
- (16) 谷本鋭次『高松弥生墳丘墓発掘調査報告』(津市教育委員会、1970年)
- (17) 小玉道明ほか『坂本山古墳群・坂本山中世墓群』(津市教育委員会、1970年)
- (18) 米山浩之『一般国道23号中世道路建設事業に伴う位田遺跡発掘調査報告』(三重県埋蔵文化財センター、1999年)
- (19) 伊藤秋男ほか『平田古墳群』(安濃町遺跡調査会、1987年)
- (20) 岡田登「伊勢國市村駅所在地考」(『皇學館論叢』第13巻第16号、1980年)
- (21) 中村信裕「安芸郡安濃町 浄土寺南遺跡」(『昭和55年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会、1981年)
- (22) 早川裕己「安芸郡安濃町 浄土寺米買遺跡」(『昭和56年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会、1982年)
- (23) 仲見秀雄「奄芸・安濃・一志の条里制」(仲見秀雄・谷岡武雄編『伊勢湾岸地域の古代条里制』東京堂出版、1979年)
- (24) 柴山圭子ほか『神戸遺跡(第2次)・替田遺跡(第3次)発掘調査報告』(三重県埋蔵文化財センター、2001年)
- (25) 川崎志乃『一般国道23号中勢道路(10工区)建設事業に伴う里前遺跡発掘調査報告』(三重県埋蔵文化財センター、2002年)
- (26) 山皿・山茶碗については、全点にわたり愛知学院大学藤澤良祐氏に実見の上、ご教示を得た。以下山皿・山茶碗は藤澤良祐氏の編年により記述する。藤澤良祐「山茶碗研究の現状と課題」(『研究紀要』第3号、三重県埋蔵文化財センター、1994年)
- (27) 登窯製品については、全点にわたり愛知学院大学藤澤良祐氏に実見の上、ご教示を得た。以下登窯製品は藤澤良祐氏の編年により記述する。藤澤良祐『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要VI』(瀬戸市歴史民俗資料館、1987年)、藤澤良祐『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要VII』

- (瀬戸市歴史民俗資料館、1988年)、藤澤良祐『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅶ』(瀬戸市歴史民俗資料館、1989年)
- ②8 川崎志乃「古墳時代前期の雲出島貫遺跡」(『嶋抜Ⅲ』三重県埋蔵文化財センター、2001年)
- ②9 土師器皿については、全点にわたり川崎志乃氏に実見の上、ご教示を得た。以下土師器皿は川崎志乃氏の分類により記述する。川崎志乃『一般国道23号線中勢道路(10工区)建設事業に伴う里前遺跡発掘調査報告』(三重県埋蔵文化財センター、2002年)
- ③0 以下常滑製品の甕は中野晴久氏の編年により記述する。『常滑焼と中世社会』(小学館、1995年)
- ③1 古瀬戸製品については、全点にわたり愛知学院大学藤澤良祐氏に実見の上、ご教示を得た。以下古瀬戸製品は藤澤良祐氏の編年により記述する。藤澤良祐「瀬戸古窯址郡Ⅱ-古瀬戸後期様式の編年-」(『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅹ』瀬戸市歴史民俗資料館、1991年)
- ③2 以下南伊勢系土師器鍋・羽釜は伊藤裕偉氏の編年により記述する。伊藤裕偉「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」(『Mie history』vol. 1、三重歴史文化研究会、1990年)
- ③3 以下中北勢系土師器羽釜は伊藤裕偉氏の編年により記述する。伊藤裕偉「中世後期の中北勢系土師器群に関する覚書」(『研究紀要』第8号、三重県埋蔵文化財センター、1999年)
- ③4 大窯製品については、全点にわたり愛知学院大学藤澤良祐氏に実見の上、ご教示を得た。以下大窯製品は藤澤良祐氏の編年により記述する。藤澤良祐『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅴ』(瀬戸市歴史民俗資料館、1986年)
- ③5 山田猛「下郡遺跡群出土の播鉢」(『Mie history』vol. 1、三重歴史文化研究会、1990年)
- ③6 三重県教育委員会山田猛氏からご教示を得た。
- ③7 原田恵理子「三重県下出土の絵画・記号土器」『研究紀要』第8号(三重県埋蔵文化財センター、1999年)
- ③8 穂積裕昌『一般国道23号中勢道路(8工区)建設事業に伴う六大A遺跡発掘調査報告』(三重県埋蔵文化財センター、2002年)
- ③9 岩本貴「角江遺跡出土の絵画土器2-竜の絵画を中心に-」(『考古学論集東海之路-平野吾郎先生還暦記念-』、『東海之路』刊行会、2002年)
- ④0 記述の出土例以外に『第32回特別展図録古代建物のまつり-階にみられる人々の祈り-』(静岡市立登呂博物館、2004年)にて、高賀遺跡竜文土器と報告されているが、羽を広げた水鳥とした発掘調査報告書(穂積裕昌「高賀遺跡」『平成2年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告-第3分冊-』)の所見に従った。
- ④1 小濱学『一般国道42号松阪・多気バイパス建設地内埋蔵文化財発掘調査報告 堀町遺跡』(三重県埋蔵文化財センター、2000年)
- ④2 伊藤裕偉氏の伊勢の鉄製煮沸具編年をもとに出土遺跡を加筆した。伊藤裕偉「伊勢の中世煮沸用土器から東海を見る」(『第4回東海考古学フォーラム 鍋と甕そのデザイン』、東海考古学フォーラム 尾張大会実行委員会、1996年)
- ④3 稲本賢治『近畿自動車道(勢和~伊勢)埋蔵文化財発掘調査報告-第4分冊-』(三重県埋蔵文化財センター、1992年)  
伊藤裕偉『岩出地区内遺跡群発掘調査報告-一度会郡玉城町所在、ケカノ辻・角垣内左郡・蚊山地区の調査』(三重県埋蔵文化財センター、1996年)
- ④4 伊藤裕偉『多気遺跡群発掘調査報告-一志郡美杉村上多気所在-』(三重県埋蔵文化財センター、1993年)
- ④5 斎宮歴史博物館柴山圭子氏からご教示を得た。
- ④6 本堂弘之『三宅西条城跡発掘調査報告』(三重県教育委員会、1983年)
- ④7 石川隆郎他『ヒキタ廃寺・打田遺跡・阿形遺跡ほか』(三重県埋蔵文化財センター、1992年)
- ④8 墨書土器の数量は、報告書掲載遺物から算出した。ただし、詳細な出土場所がわからない表土除去、範囲確認坑は除いた。

写 真 图 版





A地区調査区全景 南から



B地区調査区全景 北から

図版 2



C地区下層調査区全景 北から



SE71遺物出土状況 東から



D地区調査区全景 北から



SX152遺物出土状況 南から

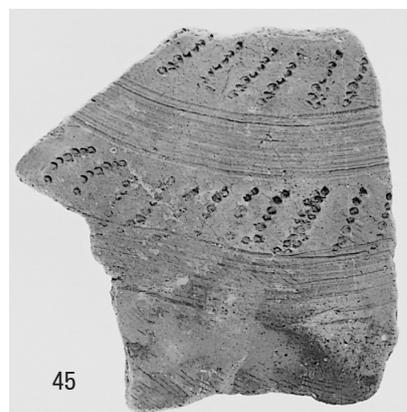
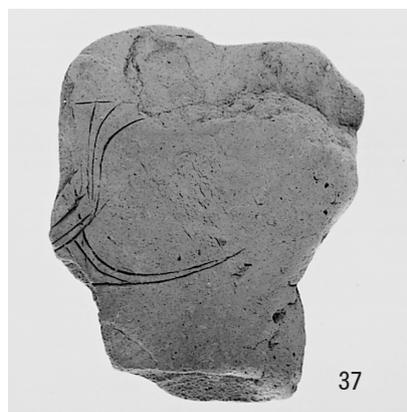
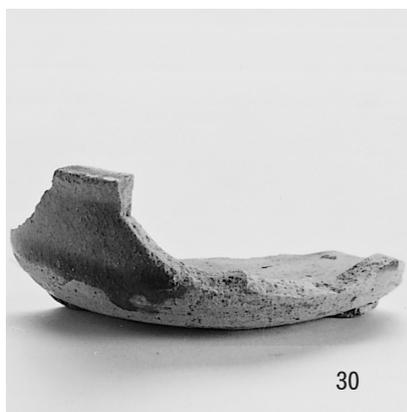
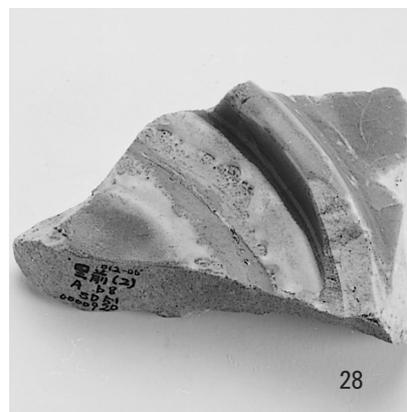
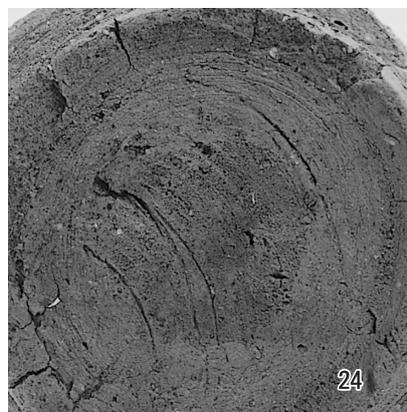
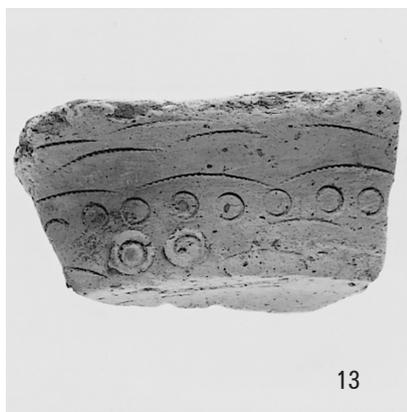
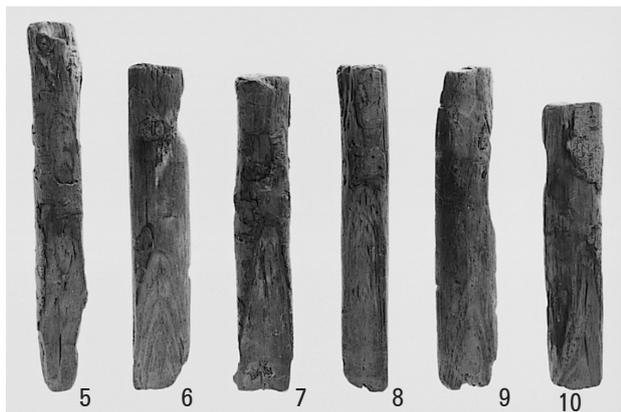
図版 4



SE126遺物出土状況

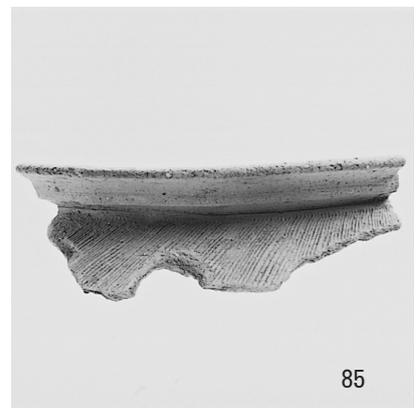
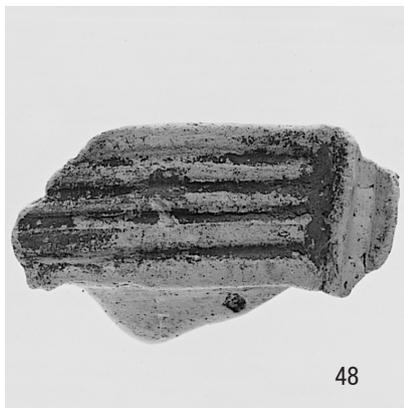


SE126断面 東から

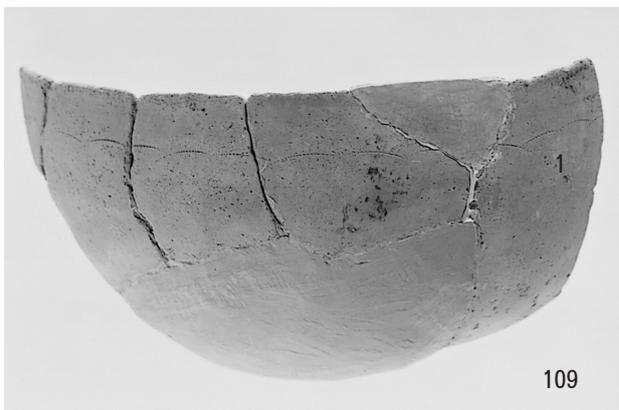


A地区出土遺物

图版 6

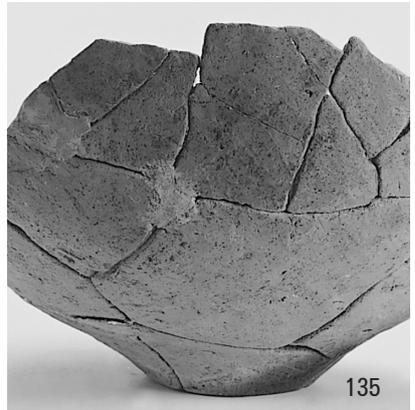
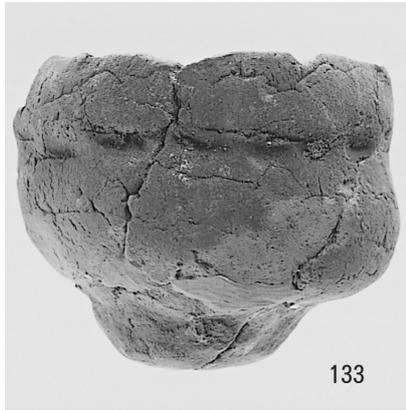
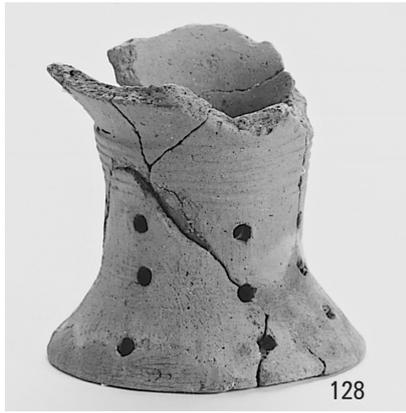


A地区出土遺物

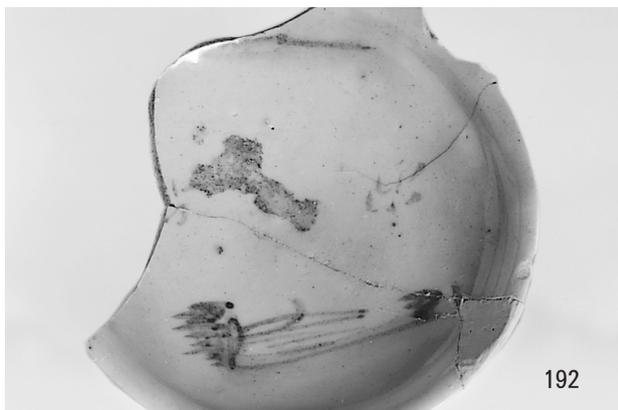


A地区出土遺物

图版 8

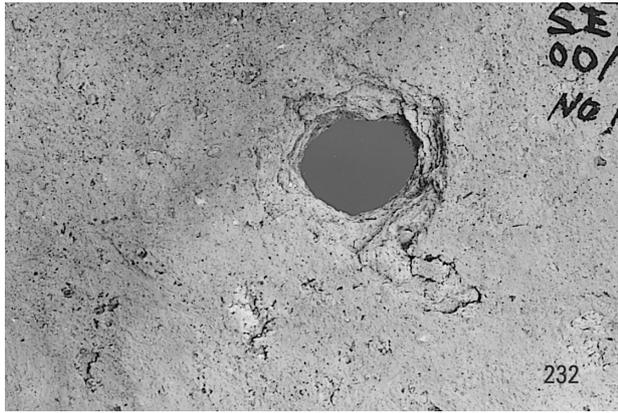


A·B地区出土遺物

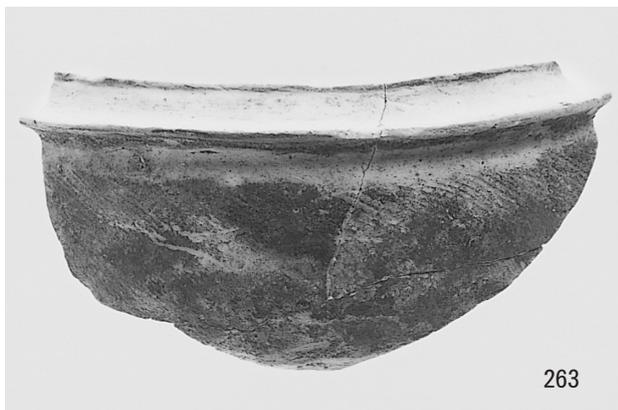
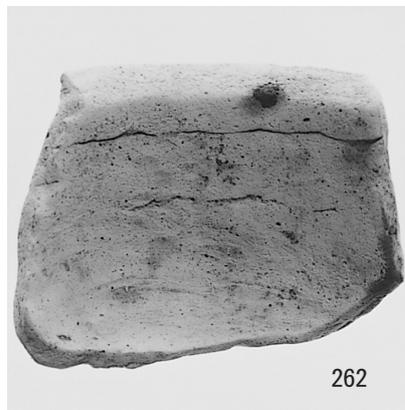
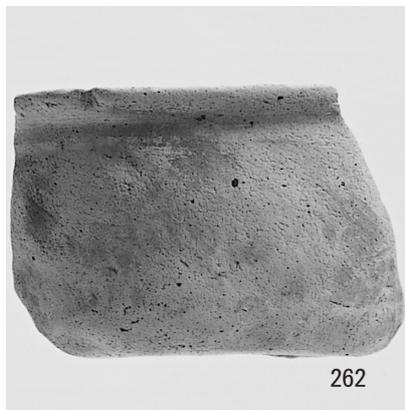
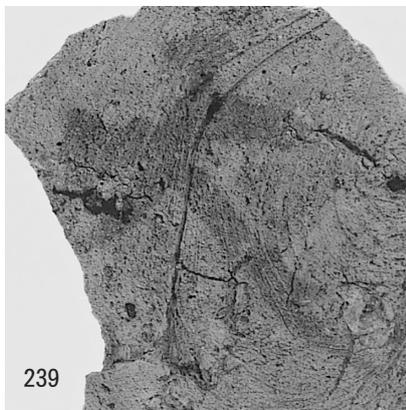
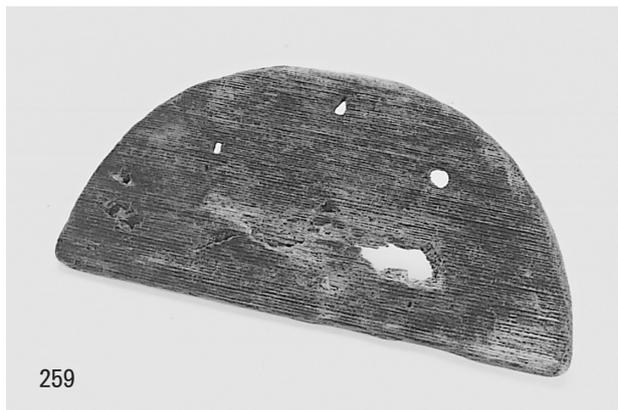


B地区出土遺物

图版10

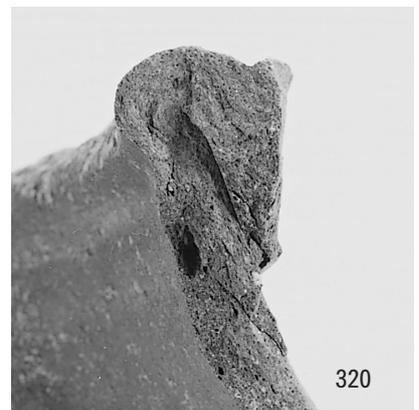
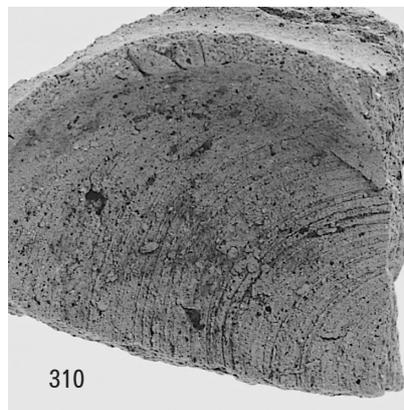
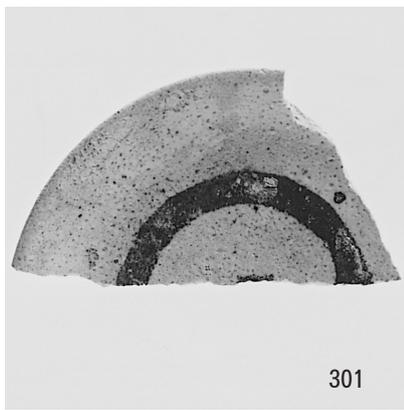
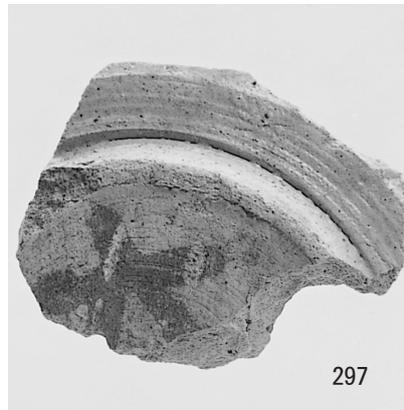
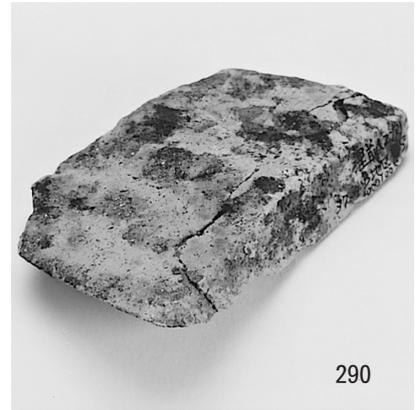
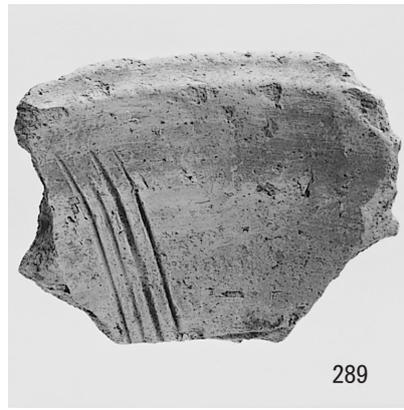


B地区出土遺物

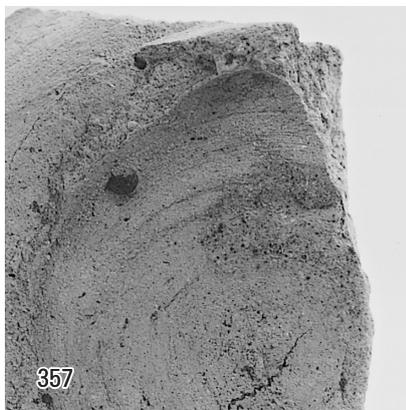
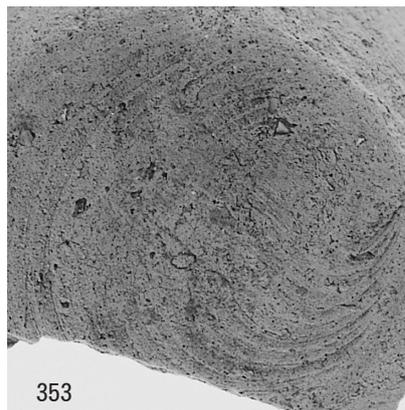


B地区出土遺物

图版12

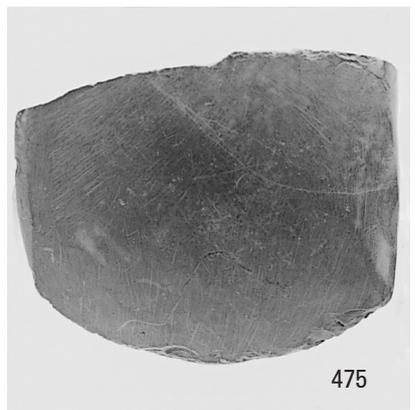
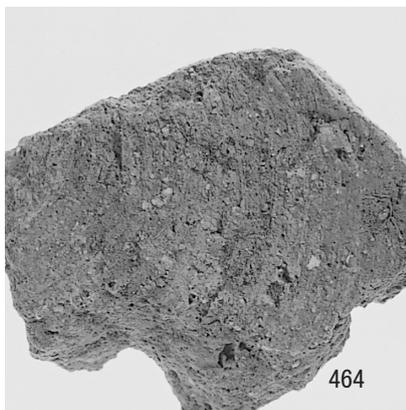


B·C地区出土遗物



C地区出土遺物

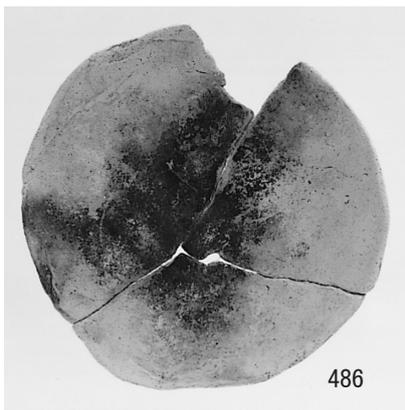
图版14



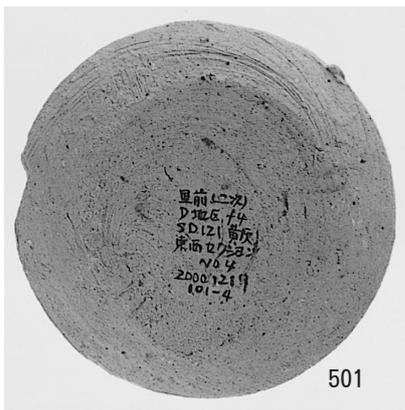
C地区出土遺物



485



486



501



489



491



498



500



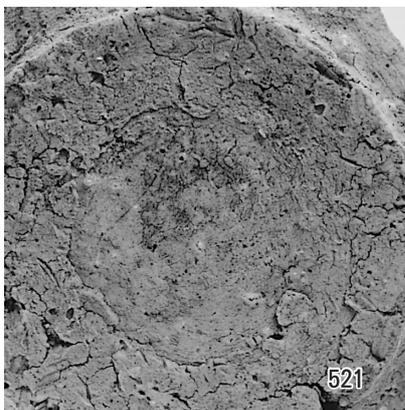
504



518



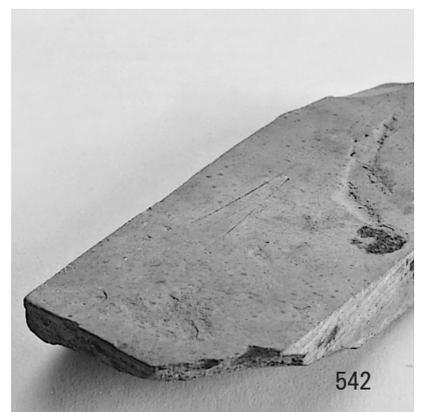
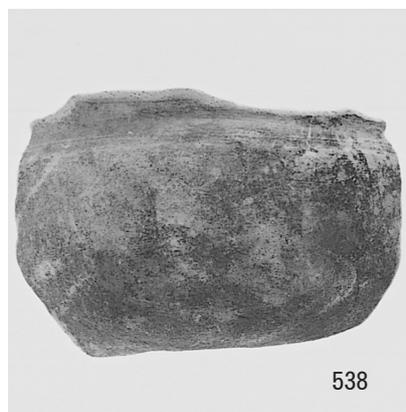
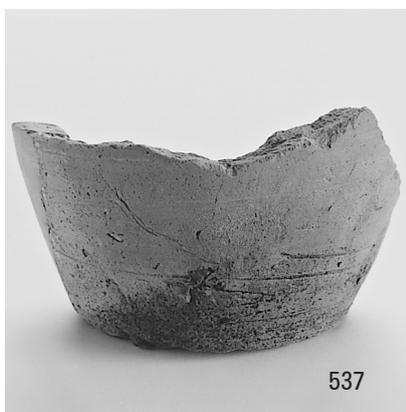
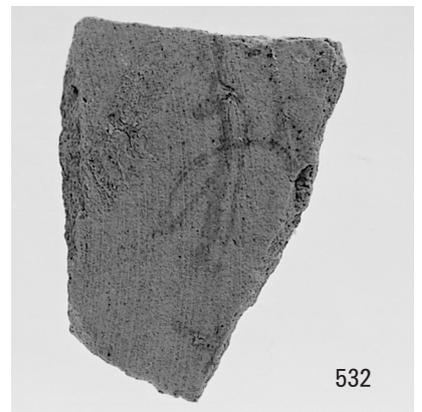
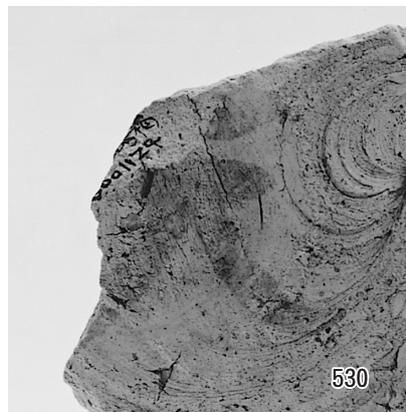
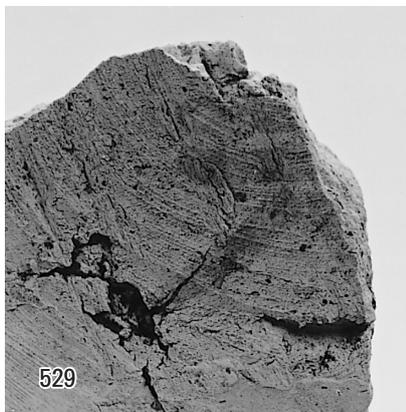
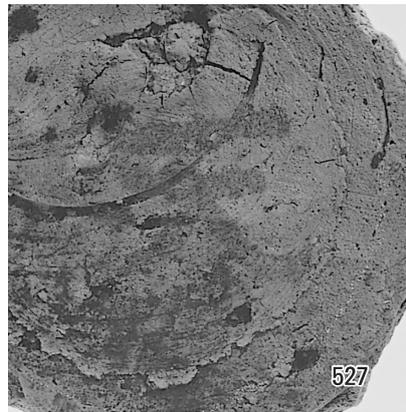
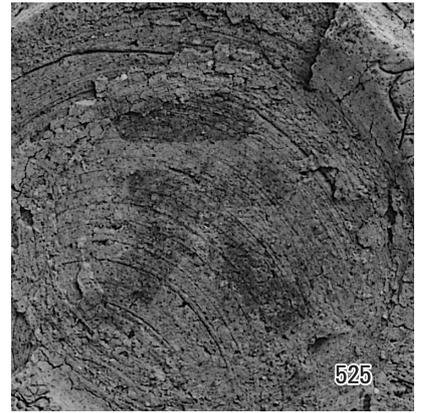
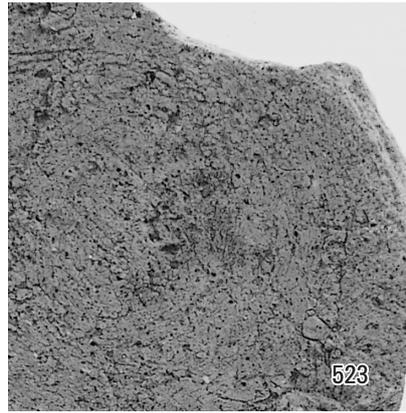
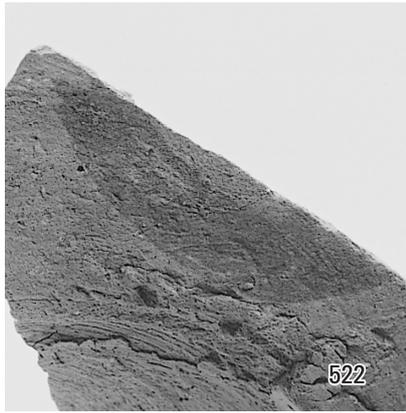
519



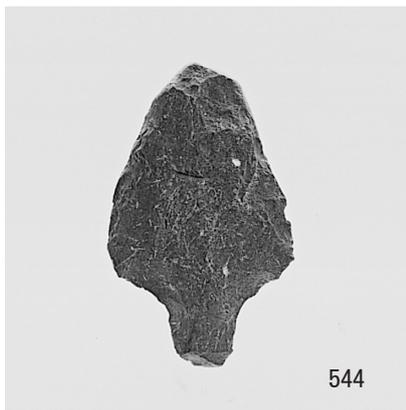
521

D地区出土遺物

图版16



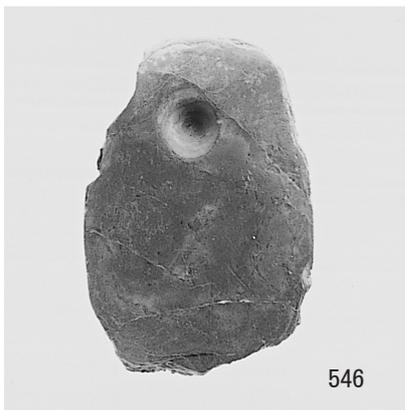
D地区出土遺物



544



545



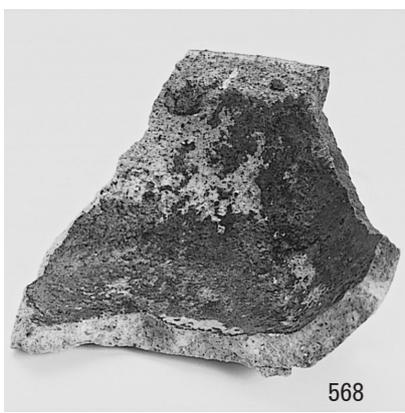
546



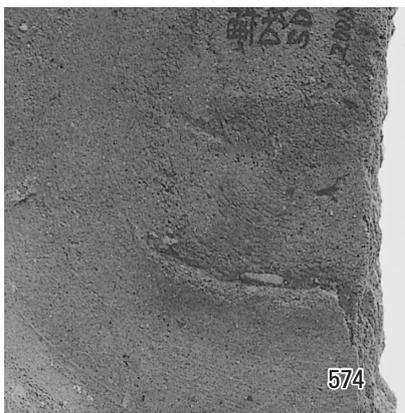
552



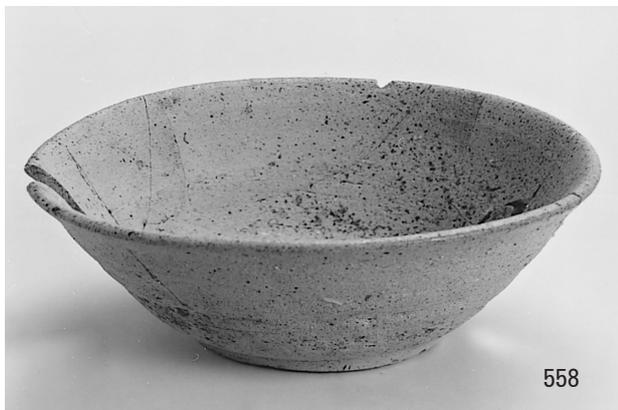
554



568



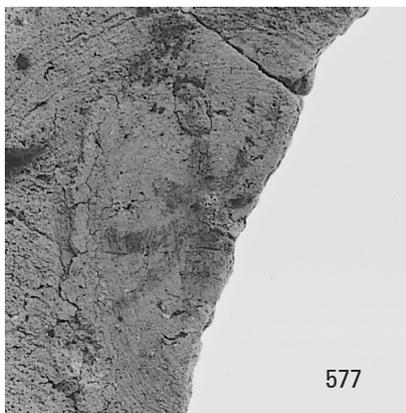
574



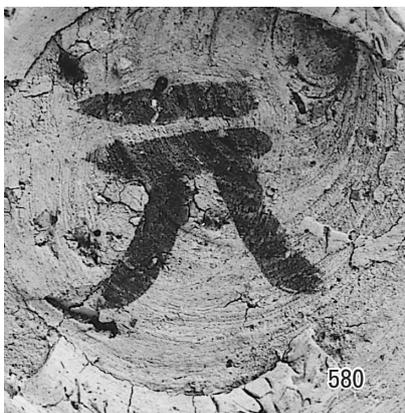
558



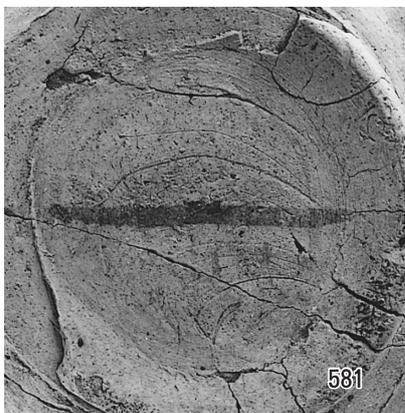
565



577



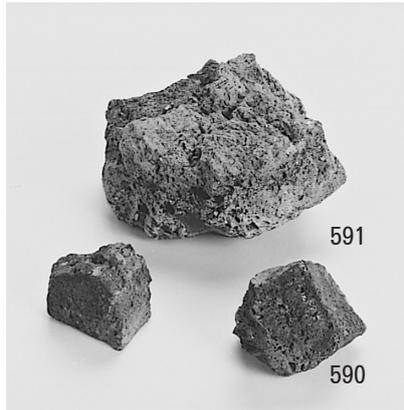
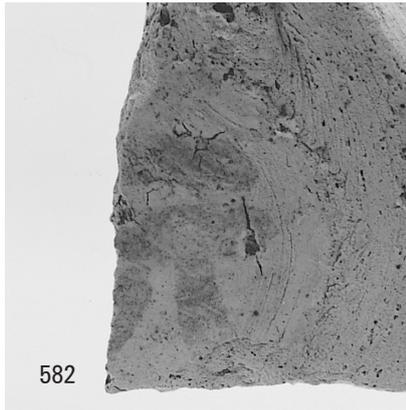
580



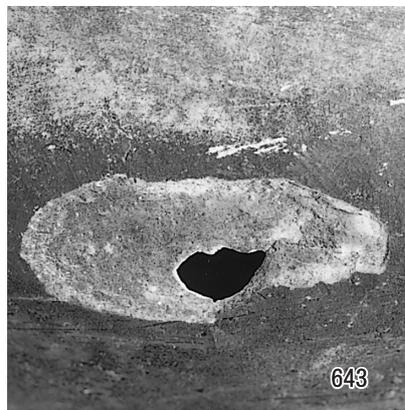
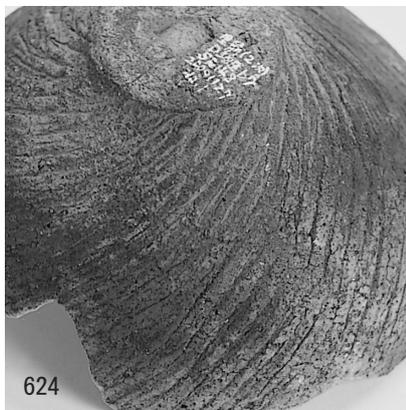
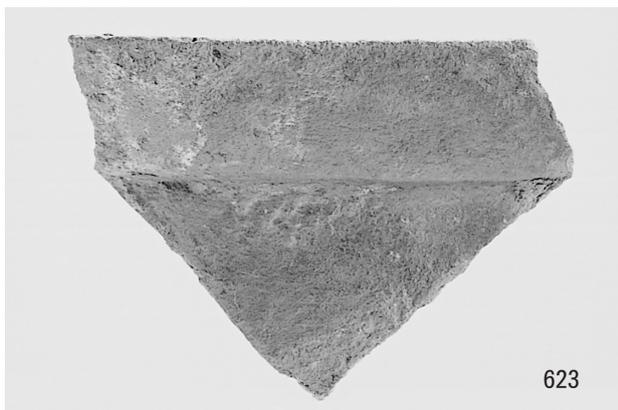
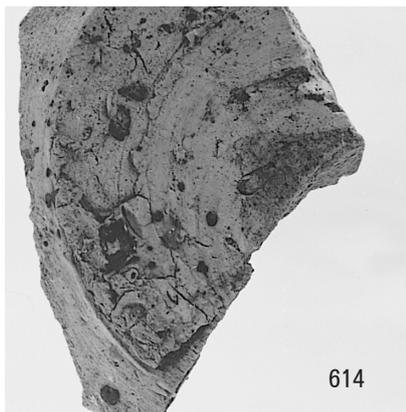
581

D地区出土遺物

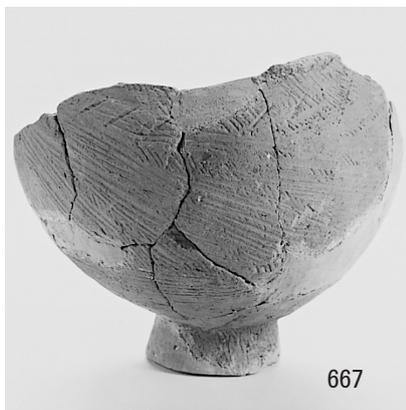
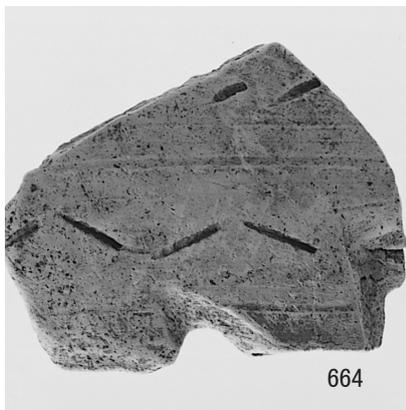
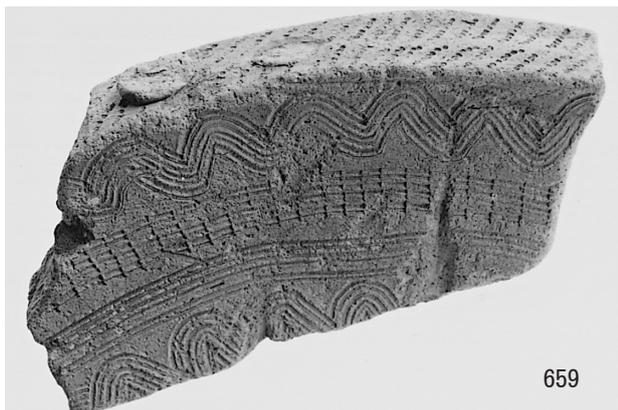
图版18



D地区出土遺物



D地区出土遺物



D地区・範囲確認調査出土遺物

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	さとまえいせき（だいにじ）はくつちょうさほうこく							
書名	里前遺跡（第2次）発掘調査報告							
副書名								
巻次								
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	254							
編著者名	（執筆）水谷豊・酒井巳紀子 （遺物写真）田中久生 （編集）竹田憲治							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503番地 TEL 0596-52-1732							
発行年月日	2005年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さとまえいせき 里前遺跡	みえけんつし のだあざさとまえ 三重県津市 野田字里前	24201	761	136° 29' 30"	34° 42' 49"	20000612 ) 20001228	1300m <sup>2</sup>	県営ほ場整備事業
里前遺跡	集落跡	弥生～江戸		井戸・溝など		土師器・陶器・磁器		
要約	<p>里前遺跡は、三重県津市野田字里前に所在する古墳時代～江戸時代の遺跡である。平成10年に中勢道路建設事業に伴って第1次調査が行われ、多量の陶器・墨書土器が出土している。</p> <p>第2次調査では、弥生時代後期～古墳時代前期と鎌倉時代～江戸時代の遺構を確認した。</p> <p>弥生時代後期～古墳時代前期は、方形周溝墓や環壕的な可能性を持つ溝を確認し、「龍」の絵画土器や古式土師器が出土した。</p> <p>鎌倉時代は、墓や井戸を確認し、墓には刀子や陶器等が埋納され、井戸からは漆椀・曲物・桶等が出土した。出土遺物は陶器が多く、墨書土器が出土していることに注目され、第1・2次調査の成果から、年貢集配に関わる作業が行われていただけでなく、河川を輸送経路として物資流通の役割を担っていたと考えられる。</p> <p>江戸時代は、井戸が減少するものの、引き続き集落が営まれる。出土遺物は、瀬戸美濃産陶器を中心に18世紀中頃までであり、この頃まで当遺跡内に集落が営まれていたと考えられる。</p>							

---

---

三重県埋蔵文化財調査報告254

里前遺跡（第2次）発掘調査報告

～三重県津市野田所在～

2005（平成17）年3月

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター

印刷 伊藤印刷株式会社

---

---